

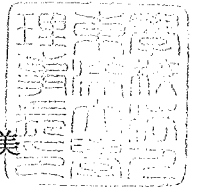
別記様式第 1 号の 2

東洋大学 文学部第 1 部東洋思想文化学科
文学部第 2 部東洋思想文化学科設置届出書

平成 24 年 4 月 27 日

文部科学大臣 殿

学校法人 東洋大学
理事長 長島 忠美



このたび、東洋大学文学部第 1 部東洋思想文化学科及び文学部第 2 部東洋思想文化学科を設置することについて、学校教育法第 4 条第 2 項の規定により、別紙書類を添えて届け出ます。

なお、届出の上は、確実に届出に係る計画を履行します。

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部・学科の設置							
フリガナ設置者		ガッコウホウジン トウヨウダイガク 学校法人 東洋大学							
フリガナ大学の名称		トウヨウダイガク 東洋大学 [Toyo University]							
大学本部の位置		東京都文京区白山五丁目28番20号							
大学の目的		創立者井上円了博士の建学の精神に基づき、東洋学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めるとともに、人格の陶冶と情操の涵養とに努め、国家及び世界の文化向上に貢献しうる有為の人材を養成することを目的とする。							
新設学部等の目的		【文学部 第1部 東洋思想文化学科】 東洋の思想と文化、ならびにそれを理解するのに役立つ語学、宗教学等に関する基礎的な知識。東洋に特有の価値観を深く理解し、新しい文化を築こうとする柔軟な思考力。自らが直面する様々な問題に対して、独自の視点から分析と考察を行ない、自分の見解を論理的に表現し、また、それに基づいて実践することのできる能力。これらを持つ人材の育成を行う。 【文学部 第2部 東洋思想文化学科】 東洋の思想と文化、ならびにそれを理解するのに役立つ語学、宗教学等に関する基礎的な知識。東洋に特有の価値観を深く理解し、新しい文化を築こうとする柔軟な思考力。自らが直面する様々な問題に対して、独自の視点から分析と考察を行ない、自分の見解を論理的に表現し、また、それに基づいて実践することのできる能力。これらを持つ人材の育成を行う。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次	所在地	
	文学部 第1部 [Faculty of Literature]	年	人	年次 人	人		年 月 第 年次		
	東洋思想文化学科 [Department of Eastern Philosophy and Culture]	4	100	—	400	学士(文学)	平成25年4月 第1年次	東京都文京区白山 五丁目28番20号	
	文学部 第2部 [Faculty of Literature]								
	東洋思想文化学科 [Department of Eastern Philosophy and Culture]	4	30	—	120	学士(文学)	平成25年4月 第1年次	同上	
	計		130	—	520				
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、名称の変更 等)		・学部学科の設置 食環境科学部 食環境科学科 (120) 食環境科学部 健康栄養学科 (100) ・入学定員の変更 文学部 第1部 哲学科 [定員増] (50) 理工学部 都市環境デザイン学科 [定員増] (20) ・学生募集の停止 文学部 第1部 インド哲学科 (△ 50) 文学部 第1部 中国哲学文学科 (△ 40) 生命科学部 食環境科学科 (△100) 文学部 第2部 インド哲学科 (△ 30)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	文学部 第1部 東洋思想文化学科	406科目	90科目	31科目	527科目	124単位			
	文学部 第2部 東洋思想文化学科	322科目	71科目	21科目	414科目	124単位			

教員組織の概要	学 部 等 の 名 称			専任教員等					兼 任 教 員 等
				教授	准教授	講師	助教	計	
	新 規 分								
既 設 分	文学部 第1部	東洋思想文化学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	47 (47)
	文学部 第2部	東洋思想文化学科	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		計	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	47 (47)
	文学部 第1部	哲学科	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	8 (10)	0 (0)	26 (26)
		日本文学文化学科	12 (12)	5 (5)	1 (1)	0 (1)	18 (19)	0 (0)	92 (92)
		英米文学科	6 (6)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	25 (25)
		英語コミュニケーション学科	6 (6)	1 (1)	4 (4)	0 (1)	11 (12)	0 (0)	23 (23)
		史学科	9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	10 (11)	0 (0)	41 (41)
		教育学科	10 (10)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	52 (52)
	経済学部 第1部	経済学科	11 (11)	7 (7)	1 (1)	0 (1)	19 (20)	0 (0)	45 (45)
		国際経済学科	12 (12)	6 (6)	3 (3)	0 (1)	21 (22)	0 (0)	14 (14)
		総合政策学科	14 (14)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	22 (22)
	経営学部 第1部	経営学科	11 (11)	9 (9)	7 (7)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	40 (40)
		マーケティング学科	10 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (1)	14 (15)	0 (0)	3 (3)
		会計ファイナンス学科	8 (8)	10 (10)	1 (0)	0 (0)	19 (18)	0 (0)	10 (10)
	法学部 第1部	法律学科	11 (10)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	23 (22)	0 (0)	33 (33)
		企業法学科	15 (15)	8 (8)	2 (2)	0 (1)	25 (26)	0 (0)	22 (22)
	社会学部 第1部	社会学科	8 (9)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	12 (13)	0 (0)	33 (33)
		社会文化システム学科	11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (1)	13 (14)	0 (0)	22 (22)
		メディアコミュニケーション学科	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	27 (27)
		社会心理学科	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	23 (23)
		社会福祉学科	7 (7)	0 (0)	4 (4)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	33 (33)
	理工学部	機械工学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	21 (21)
		生体医工学科	11 (11)	4 (4)	2 (2)	0 (2)	17 (19)	0 (0)	27 (27)
		電気電子情報工学科	10 (10)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	25 (25)
		応用化学科	11 (11)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	19 (19)
		都市環境デザイン学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	23 (23)
		建築学科	7 (7)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	42 (42)
	国際地域学部	国際地域学科	22 (22)	4 (4)	3 (3)	0 (1)	29 (30)	0 (0)	46 (46)
		国際観光学科	12 (12)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	28 (28)
	生命科学部	生命科学科	10 (10)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	24 (24)
		応用生物科学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (1)	12 (13)	0 (0)	0 (0)

	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼 任 教 員 等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
教員組織の概要	新設分	ライフデザイン学部 生活支援学科	14 (14)	6 (6)	3 (3)	6 (6)	29 (29)	0 (0)	48 (48)
		健康スポーツ学科	12 (12)	4 (4)	1 (1)	0 (2)	17 (19)	0 (0)	45 (45)
		人間環境デザイン学科	9 (9)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	3 (3)	54 (54)
		総合情報学部 総合情報学科	18 (21)	10 (10)	2 (2)	0 (2)	30 (35)	0 (0)	38 (38)
		食環境科学部 食環境科学科	11 (11)	5 (4)	0 (0)	0 (0)	16 (15)	0 (0)	13 (12)
		健康栄養学科	6 (4)	6 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (7)	0 (0)	3 (3)
		文学部 第2部 日本文学文化学科	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		教育学科	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		経済学部 第2部 経済学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
		経営学部 第2部 経営学科	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
		法学部 第2部 法律学科	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
		社会学部 第2部 社会学科	3 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		社会福祉学科	3 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		計	382 (383)	170 (166)	59 (58)	8 (26)	619 (633)	3 (3)	1,042 (1,041)
		合 計	389 (390)	174 (170)	59 (58)	8 (26)	630 (644)	3 (3)	1,089 (1,088)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		326 人 (326)		117 人 (117)		443 人 (443)		
	技 術 職 員		0 (0)		61 (61)		61 (61)		
	図 書 館 専 門 職 員		31 (31)		10 (10)		41 (41)		
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		9 (9)		9 (9)		
	計		357 (357)		197 (197)		554 (554)		

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		大学全体			
	校 舎 敷 地		290,971.80㎡	0㎡	0㎡	290,971.80㎡					
	運 動 場 用 地		474,091.74㎡	0㎡	0㎡	474,091.74㎡					
	小 計		0㎡	0㎡	0㎡	0㎡					
	そ の 他		0㎡	0㎡	0㎡	0㎡					
	合 計		765,063.54㎡	0㎡	0㎡	765,063.54㎡					
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		大学全体			
			234,827.43㎡ (234,827.43㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	234,827.43㎡ (234,827.43㎡)					
教室等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
	267室		86室	477室	39室 (補助職員50人)	7室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称			室 数					
			文学部 第1部 東洋思想文化学科 文学部 第2部 東洋思想文化学科			12 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 ・ 図書 1,431,570冊 〔186,104冊〕 ・ 学術雑誌 19,004種 〔5,672種〕 ・ 電子ジャーナル 51,084種 〔50,345種〕 ・ 視聴覚資料 35,706点		
	文学部 第1部 東洋思想文化学科		2,373 〔475〕	0	0	0	0	0			
	文学部 第2部 東洋思想文化学科		(1,752 〔475〕)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
	計		2,373 〔475〕 (1,752 〔475〕)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
図書館			面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
			17,154.34 m ²		2,601席		1,807,150冊				
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
			24,950.01 m ²		野球場、サッカー場		テニスコート 等				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等		532千円	532千円	532千円	532千円				
		共 同 研 究 費 等		55,000千円	55,000千円	55,000千円	55,000千円				
		図 書 購 入 費	0千円	980千円	2,038千円	3,182千円	4,417千円				
		設 備 購 入 費	0千円	344千円	351千円	357千円	364千円				
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次				
		1,150千円	900千円	900千円	900千円						
	学生納付金以外の維持方法の概要				手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。						

既設大学等の状況	大 学 の 名 称	東洋大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
	大学院 修士・博士前期課程 文学研究科 哲学専攻	年	人	年次 人	人		倍		
		2	5	—	10	修士(文学)	1.30	昭和27年度	東京都文京区白山 五丁目28番20号
	インド哲学仏教学専攻	2	4	—	8	修士(文学)	1.25	昭和27年度	同上
	国文学専攻	2	10	—	20	修士(文学)	0.70	昭和27年度	同上
	中国哲学専攻	2	4	—	8	修士(文学)	0.75	昭和29年度	同上
	英文学専攻	2	5	—	10	修士(文学)	0.50	昭和31年度	同上
	史学専攻	2	6	—	12	修士(文学)	0.74	昭和42年度	同上
	教育学専攻	2	20	—	40	修士(教育学)	0.20	平成6年度	同上
	英語コミュニケーション専攻	2	10	—	20	修士 (英語コミュニケーション)	0.50	平成16年度	同上
	社会学研究科 社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会学)	0.60	昭和34年度	同上
	社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士 (社会福祉学)	—	昭和41年度	同上
	福祉社会システム専攻	2	—	—	—	修士(社会学)	—	平成8年度	同上
	社会心理学専攻	2	12	—	24	修士 (社会心理学)	0.41	平成16年度	同上
	法学研究科 私法学専攻	2	10	—	20	修士(法学)	0.95	昭和39年度	同上
	公法学専攻	2	10	—	20	修士(法学)	0.95	昭和51年度	同上
	経営学研究科 経営学専攻	2	10	—	20	修士(経営学)	1.70	昭和47年度	同上
	ビジネス・会計 ファイナンス専攻	2	20	—	40	修士(経営学)	0.60	平成18年度	同上
	マーケティング専攻	2	10	—	20	修士 (マーケティング)	1.20	平成22年度	同上
	工学研究科 機能システム専攻	2	24	—	48	修士(工学)	0.97	平成17年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地
	バイオ・応用化学専攻	2	20	—	40	修士(工学)	0.52	平成17年度	同上
	環境・デザイン専攻	2	18	—	36	修士(工学)	1.02	平成17年度	同上
	情報システム専攻	2	23	—	46	修士(工学)	0.75	平成17年度	同上
	経済学研究科 経済学専攻	2	10	—	20	修士(経済学)	0.75	昭和51年度	東京都文京区白山 五丁目28番20号
	公民連携専攻	2	30	—	60	修士(経済学)	0.64	平成18年度	東京都文京区白山 五丁目28番20号 東京都千代田区 大手町2丁目2番1号
	国際地域学研究科 国際地域学専攻	2	15	—	30	修士 (国際地域学)	0.70	平成13年度	東京都文京区白山 2丁目36番5号
	国際観光学専攻	2	10	—	20	修士 (国際観光学)	0.60	平成17年度	同上
	生命科学研究科 生命科学専攻	2	15	—	30	修士 (生命科学)	1.56	平成13年度	群馬県邑楽郡板倉 町泉野1丁目1番1号
	福祉社会デザイン研究科 社会福祉学専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学)又 は修士(ソーシャル ワーク)	0.50	平成18年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号
	福祉社会システム専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学)又 は修士(社会学)	0.40	平成18年度	同上
	ヒューマンデザイン専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学)又 は修士(健康デザイ ン学)	0.50	平成18年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号
	人間環境デザイン専攻	2	10	—	20	修士(人間環 境デザイン学)	1.00	平成21年度	同上
	学際・融合科学研究科 バイオ・ナノイェン融合専攻	2	12	—	24	修士(バイオ・ナ ノイェン融合)	0.45	平成23年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地

平成18年4月から
学生募集停止

平成18年4月から
学生募集停止

	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
既 設 大 学 等 の 状 況	大学院 博士後期課程 文学研究科 哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	昭和43年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	平成18年4月から 学生募集停止
	インド哲学仏教学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	昭和29年度	同上	
	国文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	1.10	昭和29年度	同上	
	中国哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	平成11年度	同上	
	英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.44	昭和39年度	同上	
	史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	平成11年度	同上	
	教育学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	0.33	平成11年度	同上	
	英語コミュニケーション専攻	3	5	—	15	博士 (英語コミュニケーション)	0.13	平成19年度	同上	
	社会学研究科 社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.88	昭和34年度	同上	
	社会心理学専攻	3	5	—	15	博士 (社会心理学)	0.13	平成18年度	同上	
	社会福祉学専攻	3	—	—	—	博士 (社会福祉学)	—	昭和53年度	同上	
	法学研究科 私法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.13	昭和41年度	同上	
	公法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.33	平成12年度	同上	
	経営学研究科 経営学専攻	3	5	—	15	博士(経営学)	0.26	平成11年度	同上	
	ビジネス・会計 ファイナンス専攻	3	5	—	15	博士(経営学)または 博士(会計・ファイ ナンス)	0.40	平成22年度	同上	
	マーケティング専攻	3	3	—	3	博士 (マーケティング)	0.00	平成24年度	同上	
	工学研究科 機能システム専攻	3	6	—	18	博士(工学)	0.27	平成17年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	
	バイオ・応用化学専攻	3	6	—	18	博士(工学)	0.11	平成17年度	同上	
	環境・デザイン専攻	3	6	—	18	博士(工学)	0.00	平成17年度	同上	
	情報システム専攻	3	6	—	18	博士(工学)	0.05	平成17年度	同上	
	経済学研究科 経済学専攻	3	3	—	9	博士(経済学)	0.44	昭和53年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	国際地域学研究科 国際地域学専攻	3	5	—	15	博士 (国際地域学)	0.40	平成15年度	東京都文京区白山 2丁目36番5号	
	国際観光学専攻	3	3	—	6	博士 (国際観光学)	0.66	平成23年度	同上	
	生命科学研究科 生命科学専攻	3	4	—	12	博士 (生命科学)	0.41	平成15年度	群馬県邑楽郡板倉 町泉野1丁目1番1号	
	福祉社会デザイン研究科 社会福祉学専攻	3	5	—	15	博士(社会福祉学)又 は博士(ソーシャルワ ーク)	1.00	平成18年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	ヒューマンデザイン専攻	3	5	—	15	博士(社会福祉学)又 は博士(健康デザイ ン学)	0.46	平成18年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	
	人間環境デザイン専攻	3	4	—	12	博士 (人間環境デザイン学)	0.00	平成21年度	同上	
	学際・融合科学研究科 バイオ・ナノ・IT融合専攻	3	4	—	12	博士(バイオ・ナノ IT融合)	1.25	平成19年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	
	専門職大学院 法務研究科 法務専攻(法科大学院)	3	40	—	120	法務博士 (専門職)	0.21	平成16年度	東京都文京区白山 2丁目36番5号	

	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
既設大学等の 状況	文学部 第1部 哲学科	4	50	—	200	学士(文学)	1.23	昭和24年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	インド哲学科	4	50	—	200	学士(文学)	1.24	昭和24年度	同上	
	中国哲学文学科	4	40	—	160	学士(文学)	1.22	昭和24年度	同上	
	日本文学文化学科	4	190	—	760	学士(文学)	1.23	平成12年度	同上	
	英米文学科	4	120	—	480	学士(文学)	1.17	昭和24年度	同上	
	英語コミュニケーション学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.22	平成12年度	同上	
	史学科	4	110	—	440	学士(文学)	1.21	昭和24年度	同上	
	教育学科						1.13	昭和39年度	同上	
	人間発達専攻	4	60	—	240	学士(教育学)	1.24	平成20年度	同上	
	初等教育専攻	4	50	—	200	学士(教育学)	1.00	平成20年度	同上	
	経済学部 第1部 経済学科	4	230	—	920	学士(経済学)	1.16	昭和25年度	同上	
	国際経済学科	4	175	—	700	学士(経済学)	1.19	平成12年度	同上	
	総合政策学科	4	170	—	680	学士(経済学)	1.18	平成20年度	同上	
	経営学部 第1部 経営学科	4	310	—	1240	学士(経営学)	1.22	昭和41年度	同上	
	マーケティング学科	4	150	—	600	学士(経営学)	1.20	昭和41年度	同上	
	会計ファイナンス学科	4	210	—	840	学士(経営学)	1.23	平成18年度	同上	
	法学部 第1部 法律学科	4	250	—	1000	学士(法学)	1.19	昭和31年度	同上	
	企業法学科	4	250	—	1000	学士(法学)	1.20	昭和40年度	同上	
	社会学部 第1部 社会学科	4	110	—	440	学士(社会学)	1.17	昭和34年度	同上	
	社会文化システム学科	4	110	—	440	学士(社会学)	1.23	平成12年度	同上	
	メディアコミュニケーション学科	4	110	—	440	学士(社会学)	1.21	平成12年度	同上	
	社会心理学科	4	110	—	440	学士(社会学)	1.23	平成12年度	同上	
	社会福祉学科	4	110	—	440	学士(社会学)	1.20	平成4年度	同上	
	理工学部 機械工学科	4	150	—	600	学士(理工学)	1.18	昭和36年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	
	生体医工学科	4	100	—	400	学士(理工学)	1.22	平成21年度	同上	
	電気電子情報工学科	4	110	—	440	学士(理工学)	1.23	昭和36年度	同上	
	応用化学科	4	120	—	480	学士(理工学)	1.25	昭和36年度	同上	
	都市環境デザイン学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.24	昭和37年度	同上	
	建築学科	4	140	—	560	学士(工学)	1.22	昭和37年度	同上	
	工学部 情報工学科	—	—	—	—	学士(工学)	—	昭和51年度	同上	平成21年4月から 学生募集停止
	コンピュータ工学科	—	—	—	—	学士(工学)	—	平成13年度	同上	平成21年4月から 学生募集停止
	機能ロボティクス学科	—	—	—	—	学士(工学)	—	平成17年度	同上	平成21年4月から 学生募集停止

	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
既設 大学等 の 状 況	国際地域学部 国際地域学科						1.11	平成9年度	東京都文京区白山 2丁目36番5号	
	国際地域専攻	4	180	—	540	学士 (国際地域学)	1.14	平成22年度	同上	
	地域総合専攻	4	110	—	330	学士 (国際地域学)	0.97	平成22年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	国際観光学科	4	200	—	800	学士 (国際観光学)	1.21	平成13年度	東京都文京区白山 2丁目36番5号	
	生命科学部 生命科学科	4	100	—	400	学士 (生命科学)	1.20	平成9年度	群馬県邑楽郡板倉 町泉野1丁目1番1号	
	応用生物科学科	4	100	—	400	学士 (生命科学)	1.20	平成21年度	同上	
	食環境科学科	4	100	—	400	学士 (生命科学)	1.21	平成21年度	同上	
	ライフデザイン学部 生活支援学科						1.10	平成17年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	
	生活支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	1.22	平成21年度	同上	
	子ども支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	0.99	平成21年度	同上	
	健康スポーツ学科	4	150	—	600	学士 (健康スポーツ学)	1.21	平成17年度	同上	
	人間環境デザイン学科	4	150	—	600	学士 (人間環境デザイン 学)	1.18	平成18年度	同上	
	総合情報学部 総合情報学科	4	260	—	1040	学士(情報学)	1.24	平成21年度	埼玉県川越市大字 鯨井字中野台2100番地	
	文学部 第2部 インド哲学科	4	30	—	130	学士(文学)	1.06	昭和31年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
	日本文学文化学科	4	80	—	340	学士(文学)	1.04	昭和27年度	同上	
	教育学科	4	40	—	170	学士(教育学)	1.00	昭和39年度	同上	
	経済学部 第2部 経済学科	4	150	—	610	学士(経済学)	1.07	昭和32年度	同上	
	経営学部 第2部 経営学科	4	110	—	450	学士(経営学)	1.04	昭和41年度	同上	
	法学部 第2部 法律学科	4	120	—	500	学士(法学)	1.01	昭和31年度	同上	
	社会学部 第2部 社会学科	4	130	—	520	学士(社会学)	1.01	昭和34年度	同上	
	社会福祉学科	4	45	3年次 10	230	学士(社会学)	0.83	平成13年度	同上	
	通信教育部 文学部 日本文学文化学科	4	1000	—	4000	学士(文学)	0.15	昭和39年度	同上	
	法学部 法律学科	4	1000	—	4000	学士(法学)	0.06	昭和41年度	同上	
附属施設の概要		特になし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(文学部第1部東洋思想文化学科)																	
科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	哲学A	1・2・3・4前		2		○								兼4	
			哲学B	1・2・3・4後		2		○								兼4	
			哲学史A	1・2・3・4前		2		○									兼3
			哲学史B	1・2・3・4後		2		○									兼3
			倫理学基礎論A	1・2・3・4前		2		○									兼1
			倫理学基礎論B	1・2・3・4後		2		○									兼1
			応用倫理学A	1・2・3・4前		2		○									兼1
			応用倫理学B	1・2・3・4後		2		○									兼1
			科学思想史A	1・2・3・4前		2		○									兼1
			科学思想史B	1・2・3・4後		2		○									兼1
			美術史A	1・2・3・4前		2		○									兼1
			美術史B	1・2・3・4後		2		○									兼1
			音楽学A	1・2・3・4前		2		○									兼1
			音楽学B	1・2・3・4後		2		○									兼1
			宗教学ⅠA	1・2・3・4前		2		○									兼2
			宗教学ⅠB	1・2・3・4後		2		○									兼2
			宗教学ⅡA	1・2・3・4前		2		○									兼1
			宗教学ⅡB	1・2・3・4後		2		○									兼1
			地球倫理A	1・2・3・4前		2		○									兼1
			地球倫理B	1・2・3・4後		2		○									兼1
			地域文化研究ⅠA	1・2・3・4前		2		○									兼2
			地域文化研究ⅠB	1・2・3・4後		2		○									兼2
			地域文化研究ⅡA	1・2・3・4前		2		○									兼1
			地域文化研究ⅡB	1・2・3・4後		2		○									兼1
			地域文化研究ⅢA	1・2・3・4前		2		○									兼1
			地域文化研究ⅢB	1・2・3・4後		2		○									兼1
			論理学A	1・2・3・4前		2		○									兼1
			論理学B	1・2・3・4後		2		○									兼1
	小計（28科目）			—	0	56	0	—			0	0	0	0	0	兼19	
	自然・環境・生命		自然の数理A	1・2・3・4前		2		○								兼2	
			自然の数理B	1・2・3・4後		2		○								兼2	
			生活と物理A	1・2・3・4前		2		○								兼2	
			生活と物理B	1・2・3・4後		2		○								兼2	
			エネルギーの科学A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
			エネルギーの科学B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
			物質の科学A	1・2・3・4前		2		○								兼2	
			物質の科学B	1・2・3・4後		2		○								兼2	
			環境の科学A	1・2・3・4前		2		○								兼2	
			環境の科学B	1・2・3・4後		2		○								兼2	
			地球の科学A	1・2・3・4前		2		○								兼4	
			地球の科学B	1・2・3・4後		2		○								兼4	
			生物学A	1・2・3・4前		2		○								兼2	
			生物学B	1・2・3・4後		2		○								兼2	
			天文学A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
			天文学B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
			自然科学概論A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
			自然科学概論B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
			自然誌A	1・2・3・4前		2		○								兼1	
			自然誌B	1・2・3・4後		2		○								兼1	
			物理学実験講義A	1・2・3・4前		2					○						兼1
			物理学実験講義B	1・2・3・4後		2					○						兼1
			生物学実験講義A	1・2・3・4前		2					○						兼1
			生物学実験講義B	1・2・3・4後		2					○						兼1
			化学実験講義A	1・2・3・4前		2					○						兼1
			化学実験講義B	1・2・3・4後		2					○						兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通総合科目	自然・環境・生命	地球科学実習講義A	1・2・3・4前	2				○						兼1
		地球科学実習講義B	1・2・3・4後	2				○						兼1
		数理・情報実習講義A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		数理・情報実習講義B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		天文学実習講義A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		天文学実習講義B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		日本事情ⅠA	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本事情ⅠB	1・2・3・4後	2		○								兼1
		自然科学演習A	2・3・4前	2			○							兼4
		自然科学演習B	2・3・4後	2			○							兼4
		小計（36科目）	—	0	72	0	—		0	0	0	0	0	兼17
	歴史・文化	国際教育論A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		国際教育論B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		多文化共生論A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		多文化共生論B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		百人一首の文化史A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		百人一首の文化史B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		日本の昔話A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本の昔話B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		日本文学文化と風土A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本文学文化と風土B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		日本の詩歌A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本の詩歌B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		西欧文学A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		西欧文学B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		現代日本文学A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		現代日本文学B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		地域史（日本）A	1・2・3・4前	2		○								兼2
		地域史（日本）B	1・2・3・4後	2		○								兼2
		地域史（東洋）A	1・2・3・4前	2		○								兼2
		地域史（東洋）B	1・2・3・4後	2		○								兼2
		地域史（西洋）A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		地域史（西洋）B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		歴史の諸問題A	1・2・3・4前	2		○								兼6
		歴史の諸問題B	1・2・3・4後	2		○								兼6
		日本事情ⅡA	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本事情ⅡB	1・2・3・4後	2		○								兼1
		小計（26科目）	—	0	52	0	—		0	0	0	0	0	兼21
	現代・社会	経済学A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		経済学B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		統計学A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		統計学B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		法学A	1・2・3・4前	2		○								兼3
		法学B	1・2・3・4後	2		○								兼3
		日本国憲法	1・2・3・4前後	2		○								兼2
		政治学A	1・2・3・4前	2		○								兼3
		政治学B	1・2・3・4後	2		○								兼3
		社会学A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		社会学B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		人類学A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		人類学B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		地理学A	1・2・3・4前	2		○								兼4
		地理学B	1・2・3・4後	2		○								兼4
		国際比較論A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		国際比較論B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		心理学A	1・2・3・4前	2		○								兼4
		心理学B	1・2・3・4後	2		○								兼5
		ベーシック・マーケティング	1・2・3・4前	2		○								兼1
		流通入門	1・2・3・4後	2		○								兼1
		基礎会計学	1・2・3・4前	2		○								兼1
		企業会計	1・2・3・4後	2		○								兼1
		日本事情ⅢA	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本事情ⅢB	1・2・3・4後	2		○								兼1
		小計（25科目）	—	0	50	0	—		0	0	0	0	0	兼27

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通総合科目	スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技ⅠA	1・2・3・4前	1				○						兼1
		スポーツ健康科学実技ⅠB	1・2・3・4後	1				○						兼1
		スポーツ健康科学実技ⅡA	1・2・3・4前	1				○						兼1
		スポーツ健康科学実技ⅡB	1・2・3・4後	1				○						兼1
		スポーツ健康科学実技ⅢA	1・2・3・4前	1				○						兼1
		スポーツ健康科学実技ⅢB	1・2・3・4後	1				○						兼1
		スポーツ健康科学講義Ⅰ	1・2・3・4前	2		○								兼1
		スポーツ健康科学講義ⅡA	1・2・3・4前	2		○								兼1
		スポーツ健康科学講義ⅡB	1・2・3・4後	2		○								兼1
		スポーツ健康科学演習Ⅰ	1・2・3・4前	2			○							兼1
		小計（10科目）	—	0	14	0	—	—	0	0	0	0	0	兼6
	情報教育	コンピュータ・リテラシー	1・2・3・4後	2		○								兼1
		情報化社会と人間	1・2・3・4後	2		○								兼1
		情報倫理	1・2・3・4前	2		○								兼1
		小計（3科目）	—	0	6	0	—	—	0	0	0	0	0	兼3
	教養科目	総合	総合ⅠA	1・2・3・4前	2		○		1					
			総合ⅠB	1・2・3・4後	2		○		1					
			総合ⅡA	1・2・3・4前	2		○							兼1
			総合ⅡB	1・2・3・4後	2		○							兼1
			総合ⅢA	1・2・3・4前	2		○							兼1
			総合ⅢB	1・2・3・4後	2		○							兼1
			総合ⅣA	1・2・3・4前	2		○							兼1
			総合ⅣB	1・2・3・4後	2		○							兼1
			総合ⅤA	1・2・3・4前	2		○							兼1
			総合ⅤB	1・2・3・4後	2		○							兼1
			総合ⅥA	1・2・3・4前	2		○							兼1
			総合ⅥB	1・2・3・4後	2		○							兼1
			総合ⅦA	1・2・3・4前	2		○							兼1
			総合ⅦB	1・2・3・4後	2		○							兼1
			総合ⅧA	1・2・3・4前	2		○		1					
			総合ⅧB	1・2・3・4後	2		○		1					
			総合ⅨA	1・2・3・4前	2		○							兼1
			総合ⅨB	1・2・3・4後	2		○							兼1
			全学総合ⅠA	1・2・3・4前	2		○							兼1
			全学総合ⅠB	1・2・3・4後	2		○							兼1
			全学総合ⅡA	1・2・3・4前	2		○							兼1
			全学総合ⅡB	1・2・3・4後	2		○							兼1
		小計（22科目）	—	0	44	0	—	—	2	0	0	0	0	兼9
	社会人基礎力科目	社会人基礎力入門講義	1前	2		○								兼1
		社会人基礎力実践講義	1後	2		○								兼1
		キャリアデベロップメント論A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		キャリアデベロップメント論B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		企業のしくみ	1・2・3・4前	2		○								兼1
		企業家論	1・2・3・4前	2		○								兼1
		社会貢献活動入門	1・2・3・4後	2		○								兼1
		公務員論	1・2・3・4前	2		○								兼1
		小計（8科目）	—	0	16	0	—	—	0	0	0	0	0	兼6
	留学支援科目	英語科目別	Special Corse in Advanced TOEFL Ⅰ	1・2・3・4後	4		○							兼1
			Special Corse in Advanced TOEFL Ⅱ	1・2・3・4前	4		○							兼1
			小計（2科目）	—	0	8	0	—	0	0	0	0	0	兼1
		日本語科目	Integrated Japanese Ⅰ	1・2・3・4後	5		○							兼8
			Integrated Japanese Ⅱ	1・2・3・4前	5		○							兼8
			Japanese Reading and Composition Ⅰ	1・2・3・4後	2		○							兼4
			Japanese Reading and Composition Ⅱ	1・2・3・4前	2		○							兼4
			Kanji Literacy Ⅰ	1・2・3・4後	1		○							兼2
			Kanji Literacy Ⅱ	1・2・3・4前	2		○							兼2
			Project Work Ⅰ	1・2・3・4後	1		○							兼3
			Project Work Ⅱ	1・2・3・4前	1		○							兼3
			Japanese Listening Comprehension Ⅰ	1・2・3・4後	1		○							兼2
			Japanese Listening Comprehension Ⅱ	1・2・3・4前	1		○							兼2
			Japanese Culture Ⅰ	1・2・3・4後	1		○							兼1
			Japanese Culture Ⅱ	1・2・3・4前	1		○							兼1
			小計（12科目）	—	0	23	0	—	0	0	0	0	0	兼11

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
文学部 共通科目	文学部教育	伝統文化講座	1・2・3・4後	2		○								兼1
		東洋大学・井上門了研究	1・2・3・4前	2		○								兼1
		情報処理演習A	1・2・3・4前	1			○							兼1
		情報処理演習B	1・2・3・4後	1			○							兼1
		小計（4科目）	—	0	6	0	—	—	0	0	0	0	0	兼3
	文学部基礎専門科目	論理学概論	1前後	4		○								兼1
		哲学基礎概説	1前後	4		○								兼1
		比較思想	2前後	4		○								兼1
		哲学と科学	2・3・4前後	4		○								兼1
		応用倫理学特論	2・3・4前後	4		○								兼1
		哲学と宗教思想	2・3・4前後	4		○								兼1
		英語圏文学文化と日本A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		英語圏文学文化と日本B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		ドイツ語圏文学文化と日本A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		ドイツ語圏文学文化と日本B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		フランス語圏文学文化と日本A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		フランス語圏文学文化と日本B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		中国文学文化と日本A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		中国文学文化と日本B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		日本の伝統行事A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本の伝統行事B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		日本の伝統芸能A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本の伝統芸能B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		比較文学文化概説A	1・2前	2		○								兼1
		比較文学文化概説B	1・2後	2		○								兼1
		韓国文化事情A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		韓国文化事情B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		児童文学A	2・3・4前	2		○								兼1
		児童文学B	2・3・4後	2		○								兼1
		英文学特講Ⅰ	2・3前後	4		○								兼1
		英文学特講Ⅱ	2・3前後	4		○								兼1
		英文学特講Ⅲ	2・3前後	4		○								兼1
		米文学特講Ⅰ	2・3前後	4		○								兼1
		米文学特講Ⅱ	2・3前後	4		○								兼1
		イギリスの文化と思想	3・4前後	4		○								兼1
		アメリカの文化と思想	3・4前後	4		○								兼1
		日本史概説	1前後	4		○								兼1
		西洋史概説	1前後	4		○								兼1
		生涯学習概論Ⅰ	1・2前	2		○								兼1
		生涯学習概論Ⅱ	1・2・3・4後	2		○								兼1
		特別支援教育概論Ⅰ	1・2前	2		○								兼1
		特別支援教育概論Ⅱ	1・2・3後	2		○								兼1
		家族心理学	1・2・3・4前	2		○								兼1
		女性問題と学習	1・2・3・4後	2		○								兼1
		家庭教育論	1・2・3・4後	2		○								兼1
		児童文化研究	1・2・3・4後	2		○								兼1
		言語・非言語コミュニケーションA	1・2・3・4前	2		○								兼1
		言語・非言語コミュニケーションB	1・2・3・4後	2		○								兼1
		言語論A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		言語論B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		比較文化論A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		比較文化論B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		小計（47科目）	—	0	124	0	—	—	0	0	0	0	0	兼32
国際コミュニケーション科目	英語	検定英語	1・2・3・4前後	4			○							兼1
		Practical Writing	1・2・3・4前後	2			○							兼1
		Communicative English A	1・2・3・4前	2			○							兼1
		Communicative English B	1・2・3・4後	2			○							兼1
		英語ⅠA	1前後	2			○							兼5
		英語ⅠB	1前後	2			○							兼5
		英語ⅡA	2前後	2			○							兼5
		英語ⅡB	2前後	2			○							兼5
		英語ⅢA	3・4前後	2			○							兼1
		英語ⅢB	3・4前後	2			○							兼1
		小計（10科目）	—	4	18	0	—	—	0	0	0	0	0	兼20

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
文学部 共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅠA	1前後	2		○							兼3
			ドイツ語ⅠB	1前後	2		○							兼3
			ドイツ語ⅡA	2前後	2		○							兼2
			ドイツ語ⅡB	2前後	2		○							兼3
			ドイツ語ⅢA	3・4前後	2		○							兼1 隔年開講
			ドイツ語ⅢB	3・4前後	2		○							兼1 隔年開講
			小計（6科目）	—	0	12	0	—	0	0	0	0	0	兼10
		フランス語	フランス語ⅠA	1前後	2		○							兼3
			フランス語ⅠB	1前後	2		○							兼3
			フランス語ⅡA	2前後	2		○							兼1
			フランス語ⅡB	2前後	2		○							兼2
			フランス語ⅢA	3・4前後	2		○							兼1 隔年開講
			フランス語ⅢB	3・4前後	2		○							兼1 隔年開講
			小計（6科目）	—	0	12	0	—	0	0	0	0	0	兼7
		中国語	中国語ⅠA	1前後	2		○							兼3
			中国語ⅠB	1前後	2		○							兼3
			中国語ⅡA	2前後	2		○							兼2
			中国語ⅡB	2前後	2		○							兼2
			中国語ⅢA	3・4前後	2		○							兼1 隔年開講
			中国語ⅢB	3・4前後	2		○							兼1 隔年開講
			小計（6科目）	—	0	12	0	—	0	0	0	0	0	兼9
		日本語（留学生用）	日本語ⅠA A	1前	1		○							兼1
			日本語ⅠA B	1後	1		○							兼1
			日本語ⅠB A	1前	1		○							兼1
			日本語ⅠB B	1後	1		○							兼1
			日本語と日本社会A	2前	2		○							兼1
			日本語と日本社会B	2後	2		○							兼1
			日本語と日本文化A	2前	2		○							兼1
			日本語と日本文化B	2後	2		○							兼1
			小計（8科目）	—	0	12	0	—	0	0	0	0	0	兼4
	諸資格関連科目	教育基礎論Ⅰ	1前	2		○								兼2
		教育基礎論Ⅱ	1後	2		○								兼2
		図書館概論	1・2・3・4前	2		○								兼1
		情報サービス論	1・2・3・4後	2		○								兼1
		児童サービス論	1・2・3・4後	2		○								兼1
		図書・図書館史	1・2・3・4後	2		○								兼1
		図書館制度・経営論	1・2・3・4後	2		○								兼1
		図書館サービス概論	1・2・3・4前	2		○								兼1
		情報サービス演習A	1・2・3・4前	1			○							兼1
		情報サービス演習B	1・2・3・4後	1			○							兼1
		図書館情報資源概論	1・2・3・4後	2		○								兼1
		図書館情報資源特論	1・2・3・4前	2		○								兼1
		情報資源組織論	1・2・3・4前	2		○								兼1
		情報資源組織演習A	1・2・3・4前	1			○							兼2
		情報資源組織演習B	1・2・3・4後	1			○							兼2
		図書館情報技術論	1・2・3・4前	2		○								兼1
		学習指導と学校図書館	1・2・3・4後	2		○								兼1
		読書と豊かな人間性	1・2・3・4前	2		○								兼1
		学校経営と学校図書館	1・2・3・4後	2		○								兼1
		情報メディアの活用	1・2・3・4後	2		○								兼1
		学校図書館メディアの構成	1・2・3・4前	2		○								兼1
		視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)	1・2・3・4後	2		○								兼1
		社会教育計画論Ⅰ	1・2・3・4前	2		○								兼1
		社会教育計画論Ⅱ	1・2・3・4後	2		○								兼1
		博物館概論	1後	2		○								兼1
		博物館資料論	2・3・4前後	2		○								兼1
		博物館展示論	2前後	2		○								兼1
		博物館経営論	2前	2		○								兼1
		博物館資料保存論	3・4後	2		○								兼1
		博物館教育論	2・3・4前	2		○								兼1
		博物館情報・メディア論	1・2・3・4後	2		○								兼1
		博物館実習Ⅰ	3前後	2				○						兼1
		博物館実習Ⅱ	4前	1				○						兼1
		小計（33科目）	—	0	61	0	—	—	0	0	0	0	0	兼18

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
文学部 共通科目	キャリア教育	インターンシップ	1・2・3・4前後		2				○							兼1	
		ボランティア活動	1・2・3・4前後		2				○							兼1	
		キャリア支援Ⅰ	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		キャリア支援Ⅱ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		教員養成講座Ⅰ	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		教員養成講座Ⅱ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		小計（6科目）	—	0	12	0	—		0	0	0	0	0	兼4			
専門科目	必修科目	東洋思想文化への誘いA	1前	2			○			3	2					兼2	オムニバス
		東洋思想文化への誘いB	1後	2			○			4	2					兼5	オムニバス
		レポート・論文制作の技法	1前	2			○				1						
		東洋思想文化演習Ⅰ	2前後	2				○		6	2						
		東洋思想文化演習Ⅱ	3前後	2				○		5	3						
		卒論指導	4前後	2				○		6	3					兼2	
		卒業論文	4前後	6				○		6	3					兼2	
	小計（7科目）	—	18	0	0	—		6	3	0	0	0	兼2				
	選択科目	宗教をめぐる諸問題A	1・2・3・4前	2			○			3	1					兼4	オムニバス
		宗教をめぐる諸問題B	1・2・3・4後	2			○			2	1					兼5	オムニバス
		宗教学概論A	1・2・3・4前	2			○									兼1	
		宗教学概論B	1・2・3・4後	2			○									兼1	
		東洋の身体論	1・2・3・4前	2			○			3	1					兼8	隔年開講
		近代化と東洋	1・2・3・4後	2			○			3	1					兼7	隔年開講
		韓国文化事情A	1・2・3・4前	2			○									兼1	
		韓国文化事情B	1・2・3・4後	2			○									兼1	
		中国文学文化と日本A	1・2・3・4前	2			○									兼1	
		中国文学文化と日本B	1・2・3・4後	2			○									兼1	
		比較文学文化概説A	1・2・3・4前	2			○									兼1	
		比較文学文化概説B	1・2・3・4後	2			○									兼1	
		日本文学文化概説A	1・2・3・4前	2			○									兼2	
		日本文学文化概説B	1・2・3・4後	2			○									兼2	
		古文書学Ⅰ	1・2・3・4前	4			○									兼1	
		キリスト教概論	1・2・3・4前	2			○									兼1	
		イスラーム概論	1・2・3・4後	2			○									兼1	
		インド現代思想	1・2・3・4前	2			○									兼1	隔年開講
		現代のインド	1・2・3・4後	2			○									兼1	隔年開講
		仏教と社会福祉	1・2・3・4前	2			○									兼1	隔年開講
		現代に生きる仏教	1・2・3・4後	2			○									兼1	隔年開講
		中国学研究法A	1・2・3・4前	2			○									兼1	
		中国学研究法B	1・2・3・4後	2			○									兼1	
		漢文訓読法	1・2・3・4後	2			○					1				兼1	
		心理学概論A	1・2・3・4前	2			○									兼1	
		心理学概論B	1・2・3・4後	2			○									兼1	
		写経	1・2・3・4前	2			○									兼1	※実習
		ヨーガ	1・2・3・4前	2			○									兼1	※実習
		坐禅	1・2・3・4前	2			○									兼1	※実習
		仏教の芸能	1・2・3・4後	2			○			1						兼1	※実習
		インド舞踊	1・2・3・4後	2			○									兼1	※実習
		日本の宗教を歩く	1・2・3・4前	2					○			1					集中※講義
		基礎中国語A	1前	1				○								兼1	
		基礎中国語B	1後	1				○								兼1	
		書道ⅠA	1前	1					○							兼1	
		書道ⅠB	1後	1					○							兼1	
		書道史A	1前	2				○								兼1	
		書道史B	1後	2				○								兼1	
		サンスクリット語ⅠA	2・3・4前	1					○				1				
		サンスクリット語ⅠB	2・3・4後	1					○				1				
		パーリ語A	2・3・4前	1					○				1				
		パーリ語B	2・3・4後	1					○				1				
		ヒンディー語A	2・3・4前	1					○		1						
		ヒンディー語B	2・3・4後	1					○		1						
		チベット語A	2・3・4前	1					○		1						
		チベット語B	2・3・4後	1					○		1						
		仏教漢文A	2・3・4前	1					○							兼1	
		仏教漢文B	2・3・4後	1					○							兼1	
		中国語ⅣA	2・3・4前	1					○							兼1	
		中国語ⅣB	2・3・4後	1					○							兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	選択科目	中国語ⅤA		1			○							兼1
		中国語ⅤB		1			○							兼1
		中国語ⅥA		1			○							兼1
		中国語ⅥB		1			○							兼1
		中国語ⅦA		1			○							兼1
		中国語ⅦB		1			○							兼1
		中国語学演習A		1			○							兼1
		中国語学演習B		1			○							兼1
		韓国語A		1			○							兼1
		韓国語B		1			○							兼1
		インド思想特講ⅠA		2		○				1				隔年開講
		インド思想特講ⅠB		2		○								兼1 隔年開講
		インド思想特講ⅡA		2		○								兼1 隔年開講
		インド思想特講ⅡB		2		○								兼1 隔年開講
		インド思想特講ⅢA		2		○								兼1 隔年開講
		インド思想特講ⅢB		2		○								兼1 隔年開講
		インド思想特講ⅣA		2		○								兼1 隔年開講
		インド思想特講ⅣB		2		○								兼1 隔年開講
		仏教思想特講ⅠA		2		○			1					隔年開講
		仏教思想特講ⅠB		2		○								兼1 隔年開講
		仏教思想特講ⅡA		2		○								兼1 隔年開講
		仏教思想特講ⅡB		2		○								兼1 隔年開講
		仏教思想特講ⅢA		2		○				1				隔年開講
		仏教思想特講ⅢB		2		○								兼1 隔年開講
		仏教思想特講ⅣA		2		○								兼1 隔年開講
		仏教思想特講ⅣB		2		○								兼1 隔年開講
		中国哲学特講ⅠA		2		○			1					
		中国哲学特講ⅠB		2		○			1					
		中国哲学特講ⅡA		2		○								兼1
		中国哲学特講ⅡB		2		○								兼1
		中国文学特講ⅠA		2		○			1					
		中国文学特講ⅠB		2		○			1					
		中国文学特講ⅡA		2		○								兼1
		中国文学特講ⅡB		2		○								兼1
		東洋芸術文化特講ⅠA		2		○								兼1 隔年開講
		東洋芸術文化特講ⅠB		2		○								兼1 隔年開講
		東洋芸術文化特講ⅡA		2		○								兼1 隔年開講
		東洋芸術文化特講ⅡB		2		○								兼1 隔年開講
		東洋芸術文化特講ⅢA		2		○								兼1 隔年開講
		東洋芸術文化特講ⅢB		2		○								兼1 隔年開講
		東洋芸術文化特講ⅣA		2		○			1					隔年開講
		東洋芸術文化特講ⅣB		2		○			1					隔年開講
		東西交渉文化史A		2		○								兼1 隔年開講
		東西交渉文化史B		2		○								兼1 隔年開講
		インド文化概論A		2		○								兼1
		インド文化概論B		2		○								兼1
		インド・仏教の美術A		2		○			1					
		インド・仏教の美術B		2		○			1					
		インド思想史A		2		○								兼1
		インド思想史B		2		○								兼1
		インド古典思想概論A		2		○								兼1
		インド古典思想概論B		2		○								兼1
		ヒンドゥー教概論A		2		○			1					
		ヒンドゥー教概論B		2		○			1					
		インド仏教史A		2		○				1				
		インド仏教史B		2		○				1				
		仏教思想概論A		2		○			1					
		仏教思想概論B		2		○			1					
		中国仏教史A		2		○								兼1
		中国仏教史B		2		○								兼1
		日本仏教史A		2		○								兼2
		日本仏教史B		2		○								兼2
		東南アジア仏教史		2		○								兼1 隔年開講
		チベット仏教史		2		○			1					隔年開講
		韓国仏教史		2		○								兼1 隔年開講

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	選択科目	中国学概論A		2		○			1					
		中国学概論B		2		○			1					
		中国史概説A		2		○								兼1
		中国史概説B		2		○								兼1
		中国文献学A		2		○				1				
		中国文献学B		2		○				1				
		中国文字学A		2		○								兼1
		中国文字学B		2		○								兼1
		中国文化史A		2		○								兼1
		中国文化史B		2		○								兼1
		中国の美術A		2		○								兼1
		中国の美術B		2		○								兼1
		中国哲学史A		2		○			1					
		中国哲学史B		2		○			1					
		中国文学史A		2		○			1					
		中国文学史B		2		○			1					
		中国現代文学史A		2		○								兼1
		中国現代文学史B		2		○								兼1
		中国哲学講読A		1		○			1					
		中国哲学講読B		1		○			1					
		中国文学講読A		1		○				1				
		中国文学講読B		1		○				1				
		日本漢学A		2		○								兼1
		日本漢学B		2		○								兼1
		日本の美術A		2		○								兼1
		日本の美術B		2		○								兼1
		神道史A		2		○								隔年開講
		神道史B		2		○								隔年開講
		近世日本思想A		2		○								隔年開講
		近世日本思想B		2		○								隔年開講
		比較宗教A		2		○								兼1
		比較宗教B		2		○								兼1
		宗教社会学A		2		○								兼1
		宗教社会学B		2		○								兼1
		日本民俗学A		2		○								兼1
		日本民俗学B		2		○								兼1
		書道ⅡA		1				○						兼1
		書道ⅡB		1				○						兼1
		書道ⅢA		1				○						兼1
		書道ⅢB		1				○						兼1
		海外文化研修Ⅰ		2				○	1					集中※講義
		海外文化研修Ⅱ		2				○						集中※講義
		サンスクリット語ⅡA		1			○		1					
		サンスクリット語ⅡB		1			○		1					
		哲学概論		4		○								兼1
		倫理学概論		4		○								兼1
		書論A		2		○								兼1
		書論B		2		○								兼1
		書道ⅣA		1				○						兼1
		書道ⅣB		1				○						兼1
		創作書道A		1				○						兼1
		創作書道B		1				○						兼1
		日本史A		2		○								兼2
		日本史B		2		○								兼2
		外国史A		2		○								兼2
		外国史B		2		○								兼2
		地誌学A		2		○								兼3
		地誌学B		2		○								兼3
		自然地理学A		2		○								兼2
		自然地理学B		2		○								兼2
		人文地理学A		2		○								兼3
		人文地理学B		2		○								兼3
		日本語概説A		2		○								兼1
		日本語概説B		2		○								兼1

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	選択科目	古代日本文学史A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		古代日本文学史B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		中世日本文学史A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		中世日本文学史B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		近世日本文学史A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		近世日本文学史B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		近現代日本文学史A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		近現代日本文学史B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		作家作品研究（上代）A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		作家作品研究（上代）B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		作家作品研究（中古）A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		作家作品研究（中古）B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		作家作品研究（中世）A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		作家作品研究（中世）B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		作家作品研究（近世）A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		作家作品研究（近世）B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		作家作品研究（近現代）A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		作家作品研究（近現代）B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		教職国語（古典）A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		教職国語（古典）B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		教職国語（現代文）A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		教職国語（現代文）B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		日本語史A	2・3・4前		2		○								兼1
		日本語史B	2・3・4後		2		○								兼1
		古典文法A	2・3・4前		2		○								兼1
		古典文法B	2・3・4後		2		○								兼1
		現代語文法A	2・3・4前		2		○								兼1
		現代語文法B	2・3・4後		2		○								兼1
		国際法A	2前		2		○								兼1
		国際法B	2後		2		○								兼1
		政治学原論A	2前		2		○								兼1
		政治学原論B	2後		2		○								兼1
		国語科教育論	2前		2		○								兼1
		社会科教育論	2前		2		○								兼2
		国語科指導法Ⅰ	3前		2		○								兼1
		国語科指導法Ⅱ	3後		2		○								兼1
		書道科指導法Ⅰ	3前		2		○								兼1
		書道科指導法Ⅱ	3後		2		○								兼1
		社会・地歴指導法Ⅰ	3前		2		○								兼2
		社会・地歴指導法Ⅱ	3後		2		○								兼2
		社会・公民指導法Ⅰ	3前		2		○								兼3
		社会・公民指導法Ⅱ	3後		2		○								兼3
		教職実践演習（中・高）	4前		2			○							兼1
		小計（222科目）		—	0	410	0	—			6	3	0	0	0
合計（527科目）		—	22	1020	0	—			6	3	0	0	0	276	—
学位又は称号		学士（文学）		学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修科目22単位、専門科目の選択科目から56単位以上、共通総合科目の教養科目・社会人基礎力科目から合計16単位以上、文学部共通科目から16単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部第2部東洋思想文化学科)															
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通総合科目	哲学・思想	哲学A	1・2・3・4前		2		○								兼2
		哲学B	1・2・3・4後		2		○								兼2
		哲学史A	1・2・3・4前		2		○								兼2
		哲学史B	1・2・3・4後		2		○								兼2
		倫理学A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		倫理学B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		芸術学A	1・2・3・4前		2		○								兼2
		芸術学B	1・2・3・4後		2		○								兼2
		宗教学ⅠA	1・2・3・4前		2		○								兼1
		宗教学ⅠB	1・2・3・4後		2		○								兼1
		宗教学ⅡA	1・2・3・4前		2		○			1					
		宗教学ⅡB	1・2・3・4後		2		○			1					
		東洋思想A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		東洋思想B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		地域文化研究A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		地域文化研究B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		小計（16科目）		—	0	32	0	—			1	0	0	0	0
	自然・環境・生命	自然の数理A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		自然の数理B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		生活と物理A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		生活と物理B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		エネルギーの科学A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		エネルギーの科学B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		物質の科学A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		物質の科学B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		環境の科学A	1・2・3・4前		2		○								兼3
		環境の科学B	1・2・3・4後		2		○								兼3
		地球の科学A	1・2・3・4前		2		○								兼3
		地球の科学B	1・2・3・4後		2		○								兼3
		生物学A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		生物学B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		天文学A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		天文学B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		自然科学概論A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		自然科学概論B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		自然誌A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		自然誌B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		生物学実験講義A	1・2・3・4前		2					○					兼1
		生物学実験講義B	1・2・3・4後		2					○					兼1
		化学実験講義A	1・2・3・4前		2					○					兼1
		化学実験講義B	1・2・3・4後		2					○					兼1
		数理・情報実習講義A	1・2・3・4前		2		○								隔年開講
		数理・情報実習講義B	1・2・3・4後		2		○								隔年開講
		小計（26科目）		—	0	52	0	—			0	0	0	0	0
	歴史・文化	百人一首の文化史A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		百人一首の文化史B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		日本の昔話A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		日本の昔話B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		日本文学文化と風土A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		日本文学文化と風土B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		日本の詩歌A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		日本の詩歌B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		西欧文学A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		西欧文学B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		現代日本文学A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		現代日本文学B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		地域史A	1・2・3・4前		2		○								兼1
		地域史B	1・2・3・4後		2		○								兼1
		歴史の諸問題A	1・2・3・4前		2		○								兼2
		歴史の諸問題B	1・2・3・4後		2		○								兼2
		小計（16科目）		—	0	32	0	—			0	0	0	0	0

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通総合科目	現代・社会	経済学A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		経済学B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		法学	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本国憲法	1・2・3・4前	2		○								兼1
		政治学A	1・2・3・4前	2		○								兼2
		政治学B	1・2・3・4後	2		○								兼2
		社会学A	1・2・3・4前	2		○								兼2
		社会学B	1・2・3・4後	2		○								兼2
		人類学A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		人類学B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		地理学A	1・2・3・4前	2		○								兼2
		地理学B	1・2・3・4後	2		○								兼2
		心理学A	1・2・3・4前	2		○								兼3
		心理学B	1・2・3・4後	2		○								兼3
		旅と言語	1・2・3・4前	2		○								兼1
		観光の歴史	1・2・3・4前	2		○								兼1
		小計 (16科目)	—	0	32	0	—		0	0	0	0	0	兼15
	スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技A	1・2・3・4前	1				○						兼1
		スポーツ健康科学実技B	1・2・3・4前後	1				○						兼1
		スポーツ健康科学講義I	1・2・3・4前	2		○								兼1
		スポーツ健康科学講義II A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		スポーツ健康科学講義II B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		小計 (5科目)	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼3
	情報教育	コンピュータ・リテラシA	1・2・3・4前	2		○								兼1
		コンピュータ・リテラシB	1・2・3・4後	2		○								兼1
		情報化社会と人間	1・2・3・4前	2		○								兼1
		小計 (3科目)	—	0	6	0	—		0	0	0	0	0	兼2
	総合	総合I A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		総合I B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		総合II A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		総合II B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		総合III A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		総合III B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		総合IV A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		総合IV B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		総合V A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		総合V B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		総合VI A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		総合VI B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		総合VII A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		総合VII B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		全学総合I A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		全学総合I B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		全学総合II A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		全学総合II B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		小計 (18科目)	—	0	36	0	—		0	0	0	0	0	兼9
	社会人基礎力科目	社会人基礎力入門講義	1前	2		○								兼1
		社会人基礎力実践講義	1後	2		○								兼1
		キャリアデベロップメント論	1・2・3・4前	2		○								兼1
		社会貢献活動入門	1・2・3・4後	2		○								兼1
		公務員論	1・2・3・4前	2		○								兼1
		小計 (5科目)	—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	兼4
	援学支 教育特別 科目	Special Corse in Advanced TOEFL I	1・2・3・4前後	4			○							兼1
		Special Corse in Advanced TOEFL II	1・2・3・4前後	4			○							兼1
		小計 (2科目)	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼1
文学部 共通科目	文学部 教育	情報処理演習A	1・2・3・4前	1			○							兼1
		情報処理演習B	1・2・3・4後	1			○							兼1
		伝統文化講座	1・2・3・4後	2		○								兼1
		東洋大学・井上円了研究	1・2・3・4前	2		○								兼1
		小計 (4科目)	—	0	6	0	—		0	0	0	0	0	兼3

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
文学部 共通科目	文学部 基礎専門科目	比較文学文化概説A	1・2前	2		○								兼1
		比較文学文化概説B	1・2後	2		○								兼1
		英語圏文学文化と日本A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		英語圏文学文化と日本B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		ドイツ語圏文学文化と日本A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		ドイツ語圏文学文化と日本B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		フランス語圏文学文化と日本A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		フランス語圏文学文化と日本B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		中国文学文化と日本A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		中国文学文化と日本B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		日本の伝統行事A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本の伝統行事B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		韓国文化事情A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		韓国文化事情B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		児童文学A	2・3・4前	2		○								兼1
		児童文学B	2・3・4後	2		○								兼1
		生涯学習概論Ⅰ	1・2前	2		○								兼1
		生涯学習概論Ⅱ	1・2・3・4後	2		○								兼1
		特別支援教育概論Ⅰ	1・2前	2		○								兼1
		特別支援教育概論Ⅱ	1・2・3・4後	2		○								兼1
		家族心理学	1・2・3・4前	2		○								兼1
		女性問題と学習	1・2・3・4後	2		○								兼1
		家庭教育論	1・2・3・4後	2		○								兼1
		児童文化研究	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本の伝統芸能A	1・2・3・4前	2		○								兼1
		日本の伝統芸能B	1・2・3・4後	2		○								兼1
		小計 (26科目)	—	0	52	0	—	—	0	0	0	0	0	兼15
	国際コミュニケーション科目	英語	英語ⅠA A	1前	1		○							兼4
			英語ⅠA B	1後	1		○							兼4
			英語ⅠB A	1前	1		○							兼2
			英語ⅠB B	1後	1		○							兼2
			英語ⅡA A	2前	1		○							兼2
			英語ⅡA B	2後	1		○							兼2
			英語ⅡB A	2前	1		○							兼1
			英語ⅡB B	2後	1		○							兼1
			小計 (8科目)	—	0	8	0	—	0	0	0	0	0	兼5
		ドイツ語	ドイツ語ⅠA A	1前	1		○							兼2
			ドイツ語ⅠA B	1後	1		○							兼2
			ドイツ語ⅠB A	1前	1		○							兼1
			ドイツ語ⅠB B	1後	1		○							兼1
			ドイツ語ⅡA A	2前	1		○							兼1 隔年開講
			ドイツ語ⅡA B	2後	1		○							兼1 隔年開講
			ドイツ語ⅡB A	2前	1		○							兼1
			ドイツ語ⅡB B	2後	1		○							兼1
			小計 (8科目)	—	0	8	0	—	0	0	0	0	0	兼4
		フランス語	フランス語ⅠA A	1前	1		○							兼1
			フランス語ⅠA B	1後	1		○							兼1
			フランス語ⅠB A	1前	1		○							兼1
			フランス語ⅠB B	1後	1		○							兼1
			フランス語ⅡA A	2前	1		○							兼1 隔年開講
			フランス語ⅡA B	2後	1		○							兼1 隔年開講
			フランス語ⅡB A	2前	1		○							兼1
			フランス語ⅡB B	2後	1		○							兼1
			小計 (8科目)	—	0	8	0	—	0	0	0	0	0	兼1
		中国語	中国語ⅠA A	1前	1		○							兼2
			中国語ⅠA B	1後	1		○							兼2
			中国語ⅠB A	1前	1		○							兼1
			中国語ⅠB B	1後	1		○							兼1
			中国語ⅡA A	2前	1		○							兼1
			中国語ⅡA B	2後	1		○							兼1
			中国語ⅡB A	2前	1		○							兼1
			中国語ⅡB B	2後	1		○							兼1
			小計 (8科目)	—	0	8	0	—	0	0	0	0	0	兼3

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
文学部 共通科目	諸資格関連科目	教育基礎論Ⅰ	1前		2		○								兼2		
		教育基礎論Ⅱ	1後		2		○								兼2		
		図書館概論	1・2・3・4前		2		○										兼1
		情報サービス論	1・2・3・4後		2		○										兼1
		児童サービス論	1・2・3・4後		2		○										兼1
		図書・図書館史	1・2・3・4前		2		○										兼1
		図書館制度・経営論	1・2・3・4後		2		○										兼1
		図書館サービス概論	1・2・3・4前		2		○										兼1
		情報サービス演習A	1・2・3・4前		1			○									兼1
		情報サービス演習B	1・2・3・4後		1			○									兼1
		図書館情報資源概論	1・2・3・4後		2		○										兼1
		図書館情報資源特論	1・2・3・4前		2		○										兼1
		情報資源組織論	1・2・3・4前		2		○										兼1
		情報資源組織演習A	1・2・3・4前		1			○									兼1
		情報資源組織演習B	1・2・3・4後		1			○									兼1
		図書館情報技術論	1・2・3・4後		2		○										兼1
		学習指導と学校図書館	1・2・3・4後		2		○										兼1
		読書と豊かな人間性	1・2・3・4前		2		○										兼1
		学校経営と学校図書館	1・2・3・4前		2		○										兼1
		情報メディアの活用	1・2・3・4後		2		○										兼1
	学校図書館メディアの構成	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	社会教育計画論Ⅰ	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	社会教育計画論Ⅱ	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	小計(24科目)		—	0	44	0	—			0	0	0	0	0	兼13		
	キャリア教育	インターンシップ	1・2・3・4前後		2				○							兼1	
		ボランティア活動	1・2・3・4前後		2				○							兼1	
		キャリア支援Ⅰ	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		キャリア支援Ⅱ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		教員養成講座Ⅰ	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		教員養成講座Ⅱ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		小計(6科目)		—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼4	
専門科目	必修科目	東洋思想文化への誘いA	1前	2		○			1						兼5	オムニバス オムニバス	
		東洋思想文化への誘いB	1後	2		○									兼5		
		レポート・論文制作の技法	1前	2		○									兼1		
		東洋思想文化演習Ⅰ	2前後	2			○			1					兼5		
		東洋思想文化演習Ⅱ	3前後	2			○			1					兼5		
		卒論指導	4前後	2			○		1	1					兼9		
		卒業論文	4前後	6			○		1	1					兼9		
		小計(7科目)		—	18	0	0	—			1	1	0	0	0		兼9
	選択科目	宗教をめぐる諸問題A	1・2・3・4前		2		○			1					兼6	オムニバス オムニバス オムニバス 隔年開講 オムニバス 隔年開講	
		宗教をめぐる諸問題B	1・2・3・4後		2		○								兼8		
		宗教学概論A	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		宗教学概論B	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		東洋の身体論	1・2・3・4前		2		○			1					兼11		
		近代化と東洋	1・2・3・4後		2		○			1					兼10		
		韓国文化事情A	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		韓国文化事情B	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		中国文学文化と日本A	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		中国文学文化と日本B	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		比較文学文化概説A	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		比較文学文化概説B	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		日本文学文化概説A	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		日本文学文化概説B	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		古文書学Ⅰ	1・2・3・4前		4		○								兼1		
		キリスト教概論	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		イスラーム概論	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		インド現代思想	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		現代のインド	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		仏教と社会福祉	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		現代に生きる仏教	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		中国学研究法A	1・2・3・4前		2		○				1						
		中国学研究法B	1・2・3・4後		2		○				1						
		漢文訓読法	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		哲学概論A	1・2・3・4前		2		○								兼1		
		哲学概論B	1・2・3・4後		2		○								兼1		
		倫理学概論A	1・2・3・4前		2		○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	選択科目	倫理学概論B		2		○								兼1
		心理学概論A		2		○								兼1
		心理学概論B		2		○								兼1
		写経		2		○								兼1 ※実習
		ヨーガ		2		○								兼1 ※実習
		坐禅		2		○								兼1 ※実習
		仏教の芸能		2		○								兼1 ※実習
		インド舞踊		2		○								兼1 ※実習
		日本の宗教を歩く		2				○						兼1 集中※講義
		基礎中国語A	1前	1			○			1				
		基礎中国語B	1後	1			○			1				
		書道ⅠA	1前	1				○						兼1
		書道ⅠB	1後	1				○						兼1
		書道史A	1前	2		○								兼1
		書道史B	1後	2		○								兼1
		サンスクリット語ⅠA	2・3・4前	1			○							兼1
		サンスクリット語ⅠB	2・3・4後	1			○							兼1
		パーリ語A	2・3・4前	1			○							兼1
		パーリ語B	2・3・4後	1			○							兼1
		ヒンディー語A	2・3・4前	1			○							兼1
		ヒンディー語B	2・3・4後	1			○							兼1
		チベット語A	2・3・4前	1			○							兼1
		チベット語B	2・3・4後	1			○							兼1
		仏教漢文A	2・3・4前	1			○		1					
		仏教漢文B	2・3・4後	1			○		1					
		中国語ⅣA	2・3・4前	1			○							兼2 隔年開講
		中国語ⅣB	2・3・4後	1			○							兼2 隔年開講
		中国語ⅤA	2・3・4前	1			○							兼1 隔年開講
		中国語ⅤB	2・3・4後	1			○							兼1 隔年開講
		中国語ⅥA	2・3・4前	1			○							兼2 隔年開講
		中国語ⅥB	2・3・4後	1			○							兼2 隔年開講
		中国語ⅦA	2・3・4前	1			○							兼1 隔年開講
		中国語ⅦB	2・3・4後	1			○							兼1 隔年開講
		中国語学演習A	2・3・4前	1			○							兼1 隔年開講
		中国語学演習B	2・3・4後	1			○							兼1 隔年開講
		韓国語A	2・3・4前	1			○							兼1
		韓国語B	2・3・4後	1			○							兼1
		インド思想特講ⅠA	2・3・4前	2		○								兼1 隔年開講
		インド思想特講ⅠB	2・3・4後	2		○								兼1 隔年開講
		インド思想特講ⅡA	2・3・4前	2		○								兼1 隔年開講
		インド思想特講ⅡB	2・3・4後	2		○								兼1 隔年開講
		仏教思想特講ⅠA	2・3・4前	2		○								兼1 隔年開講
		仏教思想特講ⅠB	2・3・4後	2		○								兼1 隔年開講
		仏教思想特講ⅡA	2・3・4前	2		○			1					兼1 隔年開講
		仏教思想特講ⅡB	2・3・4後	2		○								兼1 隔年開講
		中国哲学特講ⅠA	2・3・4前	2		○								兼1 隔年開講
		中国哲学特講ⅠB	2・3・4後	2		○								兼1 隔年開講
		中国文学特講ⅠA	2・3・4前	2		○								兼1 隔年開講
		中国文学特講ⅠB	2・3・4後	2		○								兼1 隔年開講
		東洋芸術文化特講ⅠA	2・3・4前	2		○								兼1 隔年開講
		東洋芸術文化特講ⅠB	2・3・4後	2		○								兼1 隔年開講
		東洋芸術文化特講ⅡA	2・3・4前	2		○								兼1 隔年開講
		東洋芸術文化特講ⅡB	2・3・4後	2		○								兼1 隔年開講
		東西交渉文化史A	2・3・4前	2		○								兼1 隔年開講
		東西交渉文化史B	2・3・4後	2		○								兼1 隔年開講
		インド文化概論A	2・3・4前	2		○								兼1
		インド文化概論B	2・3・4後	2		○								兼1
		インド・仏教の美術A	2・3・4前	2		○								兼1
		インド・仏教の美術B	2・3・4後	2		○								兼1
		インド思想史A	2・3・4前	2		○								兼1
		インド思想史B	2・3・4後	2		○								兼1
		インド古典思想概論A	2・3・4前	2		○								兼1
		インド古典思想概論B	2・3・4後	2		○								兼1
		ヒンドゥー教概論A	2・3・4前	2		○								兼1
		ヒンドゥー教概論B	2・3・4後	2		○								兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	選択科目	インド仏教史A		2		○			1 1					兼1
		インド仏教史B		2		○								兼1
		仏教思想概論A		2		○								兼1
		仏教思想概論B		2		○								兼1
		中国仏教史A		2		○								
		中国仏教史B		2		○								
		日本仏教史A		2		○								兼1
		日本仏教史B		2		○								兼1
		東南アジア仏教史		2		○								兼1 隔年開講
		チベット仏教史		2		○								兼1 隔年開講
		韓国仏教史		2		○								兼1 隔年開講
		中国学概論A		2		○								兼1
		中国学概論B		2		○								兼1
		中国史概論A		2		○								兼1 隔年開講
		中国史概論B		2		○								兼1 隔年開講
		中国文献学A		2		○								兼1 隔年開講
		中国文献学B		2		○								兼1 隔年開講
		中国文字学A		2		○								兼1 隔年開講
		中国文字学B		2		○								兼1 隔年開講
		中国文化史A		2		○								兼1 隔年開講
		中国文化史B		2		○								兼1 隔年開講
		中国の美術A		2		○								兼1
		中国の美術B		2		○								兼1
		中国哲学史A		2		○								兼1
		中国哲学史B		2		○								兼1
		中国文学史A		2		○								兼1
		中国文学史B		2		○								兼1
		中国現代文学史A		2		○								兼1 隔年開講
		中国現代文学史B		2		○								兼1 隔年開講
		中国哲学講読A		1		○								兼1 隔年開講
		中国哲学講読B		1		○								兼1 隔年開講
		中国文学講読A		1		○								兼1 隔年開講
		中国文学講読B		1		○								兼1 隔年開講
		日本漢学A		2		○								兼1 隔年開講
		日本漢学B		2		○								兼1 隔年開講
		日本の美術A		2		○								兼1
		日本の美術B		2		○								兼1
		神道史A		2		○								兼1 隔年開講
		神道史B		2		○								兼1 隔年開講
		近世日本思想A		2		○								兼1 隔年開講
		近世日本思想B		2		○								兼1 隔年開講
		比較宗教A		2		○								兼1
		比較宗教B		2		○								兼1
		宗教社会学A		2		○								兼1
		宗教社会学B		2		○								兼1
		日本民俗学A		2		○								兼1
		日本民俗学B		2		○								兼1
		書道ⅡA		1				○						兼1
		書道ⅡB		1				○						兼1
		書道ⅢA		1				○						兼1
		書道ⅢB		1				○						兼1
		海外文化研修Ⅰ		2				○						兼1 集中※講義
		海外文化研修Ⅱ		2				○	1					兼1 集中※講義
		サンスクリット語ⅡA		1			○							兼1
		サンスクリット語ⅡB		1			○							兼1
		書論A		2		○								兼1
		書論B		2		○								兼1
		書道ⅣA		1				○						兼1
		書道ⅣB		1				○						兼1
		創作書道A		1				○						兼1
		創作書道B		1				○						兼1
		日本史A		2		○								兼2
		日本史B		2		○								兼2
		外国史A		2		○								兼2
		外国史B		2		○								兼2
		地誌学A		2		○								兼1

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	選択科目	地誌学B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		自然地理学A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		自然地理学B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		人文地理学A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		人文地理学B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		日本語概説A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		日本語概説B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		古代日本文学史A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		古代日本文学史B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		中世日本文学史A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		中世日本文学史B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		近世日本文学史A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		近世日本文学史B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		近現代日本文学史A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		近現代日本文学史B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		作家作品研究（上代）A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		作家作品研究（上代）B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		作家作品研究（中古）A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		作家作品研究（中古）B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		作家作品研究（中世）A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		作家作品研究（中世）B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		作家作品研究（近世）A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		作家作品研究（近世）B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		作家作品研究（近現代）A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		作家作品研究（近現代）B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		教職国語（古典）A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		教職国語（古典）B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		教職国語（現代文）A	1・2・3・4前		2		○									兼1
		教職国語（現代文）B	1・2・3・4後		2		○									兼1
		日本語史A	2・3・4前		2		○									兼1
		日本語史B	2・3・4後		2		○									兼1
		古典文法A	2・3・4前		2		○									兼1
		古典文法B	2・3・4後		2		○									兼1
		現代語文法A	2・3・4前		2		○									兼1
		現代語文法B	2・3・4後		2		○									兼1
		国際法A	2前		2		○									兼1
		国際法B	2後		2		○									兼1
		政治学原論A	2前		2		○									兼1
		政治学原論B	2後		2		○									兼1
		国語科教育論	2前		2		○									兼1
		社会科教育論	2前		2		○									兼2
		国語科指導法Ⅰ	3前		2		○									兼1
		国語科指導法Ⅱ	3後		2		○									兼1
		書道科指導法Ⅰ	3前		2		○									兼1
		書道科指導法Ⅱ	3後		2		○									兼1
		社会・地歴指導法Ⅰ	3前		2		○									兼1
		社会・地歴指導法Ⅱ	3後		2		○									兼1
		社会・公民指導法Ⅰ	3前		2		○									兼2
		社会・公民指導法Ⅱ	3後		2		○									兼2
		教職実践演習（中・高）	4前		2			○								兼1
		小計（208科目）		—	0	378	0	—			1	1	0	0	0	兼86
合計（414科目）		—	18	740	0	—			1	1	0	0	0	兼189	—	
学位又は称号		学士（文学）		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
必修科目18単位、専門科目の選択科目から56単位以上、共通総合科目の教養科目・社会人基礎力科目から合計16単位以上、文学部共通科目から16単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間））								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要				
(文学部第1部東洋思想文化学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 総合 科目	教養 科目	哲学・ 思想 哲学A	西洋哲学を中心にしながら、古今東西の哲学思想の根本的議論や主題を概括して、混迷する現代社会に生きる我々の人生の指針や問題解決の思索の仕方を学ぶのが目標である。主に、存在論・認識論・一元論と多元論・有神論と無神論・個別と普遍・理性主義・実存思想・生命論・人間学・真善美などの真理観・学問分類法・宗教論・身体論・歴史哲学などをとおして、個別の哲学論争や根本問題を取り上げて、議論の所在や要点を理解するとともに、人文科学・社会科学・自然科学などの位置づけや関連なども併せて学ぶ。	
共通 総合 科目	教養 科目	哲学・ 思想 哲学B	西洋哲学を中心にしながら、古今東西の哲学思想の根本的議論や主題を概括して、混迷する現代社会に生きる我々の人生の指針や問題解決の思索の仕方を学ぶのが目標である。主に、存在論・認識論・一元論と多元論・有神論と無神論・個別と普遍・理性主義・実存思想・生命論・人間学・真善美などの真理観・学問分類法・宗教論・身体論・歴史哲学などをとおして、とりわけ現代社会の諸問題などを取り上げて、如何にして哲学思想の知識を応用して、実践的に問題を解決するために役立つかを考察し、学問の人生における意義を探究する。	
共通 総合 科目	教養 科目	哲学・ 思想 哲学史A	西洋哲学史を中心に、主として神話思想・古代ギリシア・古代ローマ・古代ヘブル思想・キリスト教中世・近現代哲学の流れに沿って、哲学思想の潮流を概観するのが目標である。とりわけ、ギリシア神話・エレア学派・ソクラテスやプラトンやアリストテレスやプロティノス、キケロ・ポエティウス・マルクス＝アウレリウス、旧新約聖書思想やアウグスチヌスなどを取り上げて、西洋哲学の根幹となった哲学的思索を考察し、併せてこうした哲学的思索の政治的社会的背景や、後の時代に与えた影響を探究する。	
共通 総合 科目	教養 科目	哲学・ 思想 哲学史B	西洋哲学史を中心に、主として神話思想・古代ギリシア・古代ローマ・古代ヘブル思想・キリスト教中世・近現代哲学の流れに沿って、哲学思想の潮流を概観するのが目標である。とりわけ、アンセルムス・トマス＝アキナス・オッカム、デカルト・スピノザ・ロック・カント・ヘーゲル、キルケゴール・ニーチェ・フロイト・フッサール・ハイデガー・サルトル・ヤスパース・ハーバーマスなどを取り上げて、西洋哲学の根幹となった哲学的思索を考察し、西田幾多郎などの日本の哲学思想や東洋の哲学思想との関連も併せて探究する。	
共通 総合 科目	教養 科目	哲学・ 思想 倫理学基礎論A	社会存在としての人間の本質を理解すると同時に行動の善悪の規範がどのように規定され実践されているのかを主として考察するのが、目標である。内容は、西洋の古代倫理思想史において展開された「実践論の系譜」をめぐる理論的反省と倫理的自覚の意義について考える。その際に、理論と実践・知識と知恵・知と幸福・幸福と徳、といった古代ギリシアの倫理思想の根本的な主題を取り上げる。また、習俗と倫理・礼儀と流行・法律と道徳・黄金律と互酬性について取り上げ、人間の共同の種々なる在り方に関して理解を深める。	
共通 総合 科目	教養 科目	哲学・ 思想 倫理学基礎論B	文化論・文明論的な立場から西洋倫理思想史と東洋倫理思想史を比較検討し、それぞれの特質を明らかにするとともに、宗教論的考察も取り入れて人生の意義をいかに見出すべきか考えるのが目標である。西洋近代倫理思想史の「自由論の系譜」を探り、人間の真なる共同の在り方について考える。また、個人と国家・人間と自然・技術と社会・自己と他者といった主題を取り上げる。現代倫理学の諸問題としては、情報と倫理・環境と倫理・生命と倫理・企業と倫理・技術と倫理について取り上げる。	
共通 総合 科目	教養 科目	哲学・ 思想 応用倫理学A	現代社会における倫理的諸問題を、とりわけ生命倫理学・環境倫理学・経営倫理学などの観点から多角的に考察してそうした問題の諸要因を歴史的に論及すると同時に、理論的に検討するのが目標である。有意味性体系論は、狭義には文化人類学に属するが、現在では福祉人類学といったように、応用されている。有意味性体系（文化価値・世界観・宗教観）論の通時的・共時的・発生的考察法、ならびに補助学としてフィールドワーク論と哲学的人間学を併せて学び、倫理的諸問題に対する学問的見方を身につけていく。	
共通 総合 科目	教養 科目	哲学・ 思想 応用倫理学B	環境破壊・企業の独占的行為・家庭崩壊・医療ミス・若年層の犯罪など現代社会がかかえる深刻な諸問題に対して、個々の事例でとくに応用倫理学がいかに応え、また、問題解決していくかを提示しかつ検討するのが目標である。哲学的人間学およびフィールドワーク手法を用いて、現代における倫理の諸問題の実態を様々な位相から取り上げて、福祉（幸福）とは一体何を意味するのか、それはどのように見出すべきであり、また如何にして実現可能か、考えてみる。そのさい中心になるのは、ケア思想である。	
共通 総合 科目	教養 科目	哲学・ 思想 科学思想史A	「17世紀科学革命」を中心とした科学思想史の歴史的展開を理解して、自らの日常的態度のうちに根付いている近代科学的思考の前提に気づくことが目標である。「現代」とはいかなる時代かという反省に立って、「17世紀科学革命」について、古代ギリシア以来のアリストテレスの世界観からデカルトやガリレイに代表される機械論的自然観への変転について考えながら、「17世紀科学革命」の構造やその意義について考察していく。また、科学の背景となっている哲学や芸術について考察をおこなう。	
共通 総合 科目	教養 科目	哲学・ 思想 科学思想史B	現代科学・哲学・精神分析における「経験」について理解することで、自己をめぐる思索や感情や身体感覚について内省を深めることが目標である。「経験」についての諸問題をふまえながら、精神分析の臨床現場における患者と分析家の体験を事例的に取り上げて、問題の所在を考察し、さらに現象学やフロイト・ラカンなどをとおして、超越論的经验・無意識・自我・転移と逆転移について具体的に学んでいく。こうした作業をととして現代における実践知や「経験」の意義を探究する。	
共通 総合 科目	教養 科目	哲学・ 思想 美術史A	西洋美術の流れを概観し、とりわけ古代ギリシャからバロックまでを扱い、それらの主題と表現がどのように変化していったか、美術は何を表わそうとしてきたのか、どのような意味を有していたのかを考える。そして、西洋美術の代表的主題・作品について基礎知識・美醜を超えた物の見方などを修得する。具体的には、ギリシャ美術・ローマ美術・初期キリスト教美術・中世美術・ルネッサンス・ダ＝ヴィンチ・北方ルネッサンス・バロック美術といった仕方で概観していく。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	美術史B	西洋美術の流れを概観し、とりわけ17世紀から20世紀までを扱い、それらの主題と表現がどのように変化していったか理解するとともに、美術は何を表わそうとしてきたのか、どのような意味を有していたのかを考える。西洋美術の代表的主題や作品について知識や美観をこえた物の見方を修得する。具体的には、17世紀の美術とくに静物画・18世紀の美術とくにワトー・19世紀の美術とくに印象派やゴッホ・20世紀の美術とくにセザンヌやピカソやクレーなどをおして、学んでいく。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	音楽学A	西洋音楽の歴史とそれを産み出した社会や文化について洞察を深めるのが目標である。17-20世紀とくにフランス音楽を、その歴史的発展を社会や文化の発展と併行するかたちでたどっていく。また、楽器の変化なども検証していく。フランスバロック音楽や宮廷音楽、主な音楽家としてはベルリオーズ・ドビュッシー・ラヴェル・サティ・メシアンなどを取り上げて、こうした音楽が出現するにいたった文化的社会的要因や、こうした音楽を生み出す社会や文化の本質についても理解する。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	音楽学B	20世紀クラシック音楽を、同時代の社会や文化との関係から考察していく。現代音楽ではさまざまな国で革命的なアイディアや作曲技法が考案され、それまでとはまったく違う前衛的な響きが次々と生み出された。とりわけ20世紀前衛クラシック作曲家を考察し、バロック時代の音楽作品をめぐる現代的解釈をつづじて現代音楽とバロック音楽との共通性などについても、併せて考えていく。また、楽器製作や楽器構造などについても社会や文化との関係から考察する。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	宗教学ⅠA	世界三大宗教である仏教・キリスト教・イスラム教や東西の宗教伝統を概括することによって、人間存在の営みにとってきわめて深い意義を有する宗教の本質を習得して、基礎知識を身につけることが目標である。宗教の範囲は、歴史的にも内容的にも広く深いため、講義においては三大宗教やユダヤ教や神道などの民族宗教ならびに宗教民俗に焦点を当てて、個別の宗教宗派について正確に理解するとともに、公教的視点のみならず秘教的視点も取り上げて、解説をおこなっていく。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	宗教学ⅠB	世界の諸宗教や宗教諸民俗が我々日本文化と如何に関連しているかを学ぶことによって、異文化に属する宗教や民俗をより深く理解し受容することが目標である。比較宗教学の方法を用いて、東西宗教の共通項を探るとともに、無宗教と呼ばれる現代社会のただなかで、我々が気づかない仕方でも宗教的価値観や世界観ならびに宗教伝統が如何に今なお厳然と息づいているかを具体的に考察することによって、宗教的価値観の意義や日本的宗教観について内省していく。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	宗教学ⅡA	宗教に関する基本的な概念・現象、世界の諸宗教の現状、宗教団体の現代における意味、現代日本人の宗教意識と宗教行動、情報化や都市化などの社会現象と宗教との関わりなどを理解できるようにすることを目標とする。具体的には、「宗教の起源と定義」、「祈り・儀礼・祭り・修行の意義」、「天国と地獄」、「死後の世界」、「シャーマニズム」、「聖地と巡礼」、「現代会における宗教の在り方」等のテーマを取りあげて詳論する。授業は主に講義形式で行う。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	宗教学ⅡB	宗教に関する基本的な概念・現象、世界の諸宗教の現状、宗教団体の現代における意味、現代日本人の宗教意識と宗教行動、情報化や都市化などの社会現象と宗教との関わりなどを理解できるようにすることを目標とする。具体的には、「現代日本人の宗教意識と宗教行動」、「若者と宗教との関わり」、「宗教団体の分類」、「カルト宗教」、「宗教団体と宗教法人」、「宗教団体の公共性」、「企業と宗教」、「都市化・情報化と宗教」、「宗教の必要性」等のテーマを取りあげて詳論する。授業は主に講義形式で行う。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	地球倫理A	地球倫理で言う「地球」とは、人間の住む社会全体としての「世界」と、物質と生命の全てからなる「自然」とを同時に含むものであるが、いま、その世界と自然が危機にさらされている。「地球倫理A」では、地球が直面している危機の状況を理解し、危機を脱出するために必要とされる倫理とは何かを模索し、その倫理が現実にも有効なものかどうかを検討する。地球環境と倫理を自身の問題として考え、必要あるいは有用な基本的知識と観点を学んだ上で各々の立場で議論できる力を養うことが主たるねらいである。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	地球倫理B	現在、人類文明体系は自然生命体系に対して問題を引き起こし、双方が破局の危機に陥っている。「地球倫理B」では、資源枯渇、環境破壊、生物種絶滅、人口爆発、気候変動、戦争・テロ等の諸問題を取り上げ、それらの実態や原因について議論するとともに、その解決の方途を、地球上に存在する一切が調和・共生するための地球倫理に求めていく。当事者意識をもって地球的問題群と向き合う姿勢を育み、意識的な情報収集や思索を促し、行動の転換へとつなげていくことを目指す。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	地域文化研究ⅠA	アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大大陸に接する地域や小アジア地域など、様々な文化・文明圏や大陸の境界域、さらに、そうした境界にまたがる文化・文明圏についてとりわけ焦点を当てて、通常我々が慣れ親しんでいる地理観や世界観とは異なる生活世界が多々存在することを、歴史・文化・地理といった複合的な観点から有機的に説明することが主眼である。さらに、そうした地域に住む人々の政治・日々の食事・生活用具・学校教育・心象風景なども取り上げて、生活実感ができるかぎり理解できるようにする。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	地域文化研究ⅠB	アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大大陸に接する地域や小アジア地域など、様々な文化・文明圏や大陸の境界域、さらに、そうした境界にまたがる文化・文明圏についてとりわけ焦点を当てて、とりわけ、民族問題やアイデンティティ問題について、近現代史的視点から人々の営みや紛争の所在について検討する。また、国際政治情勢や様々な形態の戦争・国際的衝突・異文化理解において生起する齟齬の発生要因なども含めて検討して、具体的な地域や文化や国家を取り上げて考察していく。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	地域文化研究ⅡA	バルト海地域は、ハンザ商人の活動の舞台となった中世後期以後、地中海とならぶヨーロッパの重要な経済圏を形成し、周辺諸勢力はこの地域の覇権をめぐる対立抗争を繰り返してきた。しかしまた、諸勢力の平和的敵対的接触は、バルト海を沿岸諸地域の様々な文化の交流の場とし、独自の文化圏の形成を促すことにもなった。本講義では、中世以後のバルト海とその沿岸諸地域の歴史を追いながら、とすればヨーロッパの周辺部として従属的に取り扱われてきたこれらの地域が、ヨーロッパの成立と発展の中で有した独自の意義について考察する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	地域文化研究Ⅱ B	まず、中世後期から近代にいたるバルト海をめぐる歴史を、スウェーデン、ポーランド、ロシアなどの周辺諸勢力の動向に留意しながら概観する。ついで、近代ヨーロッパにおけるバルト海という観点から、19世紀までにこの地域をめぐる発生した諸問題のなかで適当と思われるテーマを選択し、個別的な考察を試みる。以下の3つの理解を到達目標とする。①中世後期の北ヨーロッパ諸地域における歴史的動向、②中世後期のバルト海を舞台とする人・物・情報の交流と交流がもたらした影響、③近世から近代の北ヨーロッパ諸地域における歴史的動向。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	地域文化研究Ⅲ A	日常の営みや文化にとって、きわめて重要な意味や役割を担ってきた宗教習俗にとりわけ焦点を当てて、ユーラシア・極東アジア・アフリカ・アメリカなどにおいて世界宗教や民族宗教などがどのように地域文化に根付いているのか、また、同一宗教が個々の地域文化によって如何なる違いがあるのか、さらに、同一宗教習俗が個々の地域文化によって如何に違ったかたちで理解されたり解釈されたりするのか、比較文化的視点をふまえて、具体的な事例を取り上げて説明していく。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	地域文化研究Ⅲ B	人間の日常の営みや文化にとって、きわめて重要な意味や役割を担ってきた宗教習俗にとりわけ焦点を当てて、ユーラシア・極東アジア・アフリカ・アメリカなどにおいて世界宗教や民族宗教などがどのように地域文化に根付いているのか、また、同一宗教が個々の地域文化によって如何なる違いがあるのかなど、比較文化的視点をふまえて、とりわけ民族衝突や宗教間の抗争や地域文化における迫害や差別の実態について、具体的な事例を取り上げて、衝突・抗争・迫害・差別などの複雑な要因を説明するとともに、解決策を検討する。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	論理学 A	伝統的形式論理学や現代論理学の初歩を習得するのが目標である。伝統的形式論理学や現代論理学における、概念・命題・推理、内包と外延、三段論法、否定と肯定、前件と後件、命題論理、真理値表、述語論理、ヴェン図、タブローによる論証方法など、取り上げる内容は少なくないが、これらを概括しつつ、実際に練習問題を解く作業をとおして、学問を営む者にとって不可欠である論理思考の実際を理解していくことによって、現代人としての合理的思考を身につけるとともに、論文を正確に記述できる能力を身につける。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	論理学 B	伝統的形式論理学や現代論理学の初歩を習得するのが目標である。伝統的形式論理学や現代論理学における、概念・命題・推理、内包と外延、三段論法、否定と肯定、前件と後件、命題論理、真理値表、述語論理、ヴェン図、タブローによる論証方法など、取り上げる内容は少なくないが、これらのうちとりわけ様相論理に焦点を当てて、人文科学・社会科学など広い分野において役立つ可能性・必然性・偶然性を基本要素とする様相論理を解説して、実際に練習問題を解き具体的事例を検討することによって、様相論理が身につくようにする。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	自然の数理 A	数学の体系を学ぶとともに、使える数学の習得を目指す。複数のコースが開講されるので、内容は解析学、線形代数学、数論など基本的な数学分野の多岐にわたる。高校数学の復習、確認も含め、数学の基本的な概念をきちんと勉強し、自分で論理的に問題を解く能力を養う。個々の内容としては、多項式の微分積分、ベクトル、行列の計算、整数論、群論、体論などを含む。講義を行い、それに付随し、練習問題、小テストなどを課して、学生自身が実習する機会をできるだけ多くとる。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	自然の数理 B	自然の数理Aで学んだ知識を前提として、公式の応用、具体的な数学問題の解法を学ぶ。各コースの内容としては、三角関数、指数・対数関数など初等関数の微分、積分、関数の展開、極値など、微分・積分の応用、行列、行列式の計算、逆行列の計算、線形変換、固有値問題、対角化、複素数論、幾何学などを含む。数学の体系を理解するとともに、数学を使えるようにする。練習問題、小テストなどを課して、学生自身が実習する機会をできるだけ多くとる。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	生活と物理 A	自然科学の基本的な考え方と、基礎的な知識を勉強する。21世紀に文明人として生活していくうえで必要とされる科学・技術について基本的な教養を身につける。古典物理学の復習とともに、近代科学技術の基礎となる量子力学、相対性理論などの基礎知識を勉強する。原子論を基礎として、その応用として発達してきた現代科学の成果を学ぶ。具体的な内容は、コースにより、光、電磁気、半導体、レーザー、超伝導、などとなる。講義を行うとともに、小テスト、レポートなどを課し、学生が積極的に学ぶ機会を多くする。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	生活と物理 B	自然科学の基本的な考え方を学び、自然科学のより深い理解を目指す。現代の科学技術に量子力学、相対性理論などがどのように応用されているのか理解を深める。原子、原子核の知識を学び、半導体、ダイオード、トランジスター、レーザーの原理と種類、その応用、放射光、超伝導の理論と高温超伝導体、放射線、エネルギーなどの内容を系統的に学ぶ。必要に応じ、波動、熱力学、電磁気学など古典物理学の講義も含める。小テスト、レポートなどを課し、学生が積極的に学ぶ機会を多くする。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	エネルギーの科学 A	大量のエネルギー消費は深刻な環境破壊を引き起こすため、省エネルギーが推奨されている。しかし、この先、人口の爆発的な増加とともに、エネルギー消費量はさらに増加していくことが予想されている。こうした現代社会を生きる我々は、エネルギーに関する基礎知識をもち、エネルギー利用の現状と未来をしっかりと見据える必要がある。この講義ではクリーンエネルギー、再生可能エネルギー、カーボンオフセット等の概念を科学的に理解し、エネルギー利用と地球環境問題のバランスを考えていくことを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	エネルギーの科学 B	我々人類は、近い将来に、環境に優しく、エネルギー需要を十分まかなえる恒久的なエネルギーを開発する必要がある。それまでは、地球環境を考えながら、現在あるエネルギーを有効利用していかなければならない。この講義では各種エネルギーの特長や問題点を科学的に理解し、エネルギーのベストミックス、廃エネルギーの有効利用や省エネルギーについて考えていくとともに、未来のエネルギー利用を予想していくことを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	物質の科学 A	本講義では、私たちが様々な化学物質からなる世界に生き、様々な化学物質を生み出し利用しているという物質社会に生きる現実認識のもと、日常生活に関連する物質とその科学的特性・機能、特性・機能発その仕組み・原理について理解する講義とする。理系の学生向けの講義とは異なり、物理・化学の基礎知識があまり無くとも理解可能なように、文系の学生に向けた構成、内容の講義とする。具体的には、物質世界の始まり、物質科学の基礎、味物質・食べ物科学、衣類・洗剤の科学、色々な金属とその特徴・役割について講義する。	

科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	物質の科学 B	本講義では、私たちが様々な化学物質からなる世界に生き、様々な化学物質を生み出し利用しているという物質社会に生きる現実認識のもと、日常生活に関連する物質とその科学的特性・機能、特性・機能発その仕組み・原理について理解する講義とする。理系の学生向けの講義とは異なり、物理・化学の基礎知識があまり無くとも理解可能なように、文系の学生に向けた構成、内容の講義とする。具体的には、色々な気体とその機能・役割、環境と物質、生命を司る物質と役割、毒物質について講義する。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	環境の科学 A	現代に生きる我々は地球環境問題という地球全体を巻き込んだ環境問題に直面している。かつて局地的であった環境汚染が地球全体に波及したからである。二酸化炭素の増加、オゾン層の破壊、酸性雨、ダイオキシン、環境ホルモンなどの問題である。一方、自動車の排気ガスからの浮遊粒子状物質、NO ₂ などによる大気汚染、水質汚濁、騒音などの私たちの身の回りの環境問題も依然として深刻である。この講義では、環境問題発生メカニズム、現状、対策等を論じ、持続可能な社会を築くための科学的な基礎知識を教授することを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	環境の科学 B	1990年代に入り、人類生存の危機とかかわって、いわゆる“地球環境問題”が、社会経済体制の違いをこえて広く地球規模で緊急に解決しなければならない大きな課題として浮かび上がってきた。二酸化炭素の増加、オゾン層の破壊、酸性雨、ダイオキシン、環境ホルモンなどの問題である。人口が67億を超えた今、地球はもはや無限に広くはないのである。そこで、この講義では、よく話題になる地球環境問題あれこれを、自然科学の目で解剖することを目的としている。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	地球の科学 A	文明の高度化や人口の増加に伴って深刻化する地球環境問題を正しく理解するために、様々な時空間スケールをもつ地球の諸現象を学び、科学リテラシー・環境リテラシーとしての地球観・宇宙観・自然観を修得することを目的とする。「地球の科学A」では、特に、宇宙の大規模構造や太陽形成の標準モデル、46億年におよぶ地球環境の進化の過程を概説し、地球上の生命の誕生と進化・絶滅・人類の誕生までの歴史を振り返る。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	地球の科学 B	文明の高度化や人口の増加に伴って深刻化する地球環境問題を正しく理解するために、様々な時空間スケールをもつ地球の諸現象を学び、科学リテラシー・環境リテラシーとしての地球観・宇宙観・自然観を修得することを目的とする。「地球の科学B」では、特に、地球環境問題や資源エネルギー問題について、地球システム学の観点から概説する。また、地震・津波・火山等の災害から身を守るための基礎知識として、火山や地震などの発生メカニズムと災害被害について理解をする。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	生物学 A	この講義の目的は、世界の植物群落の性質と分布を知り、その形成に関係した環境について知ること、さらに、その植物群落を利用してきた人々の関係について考察することを目的とする。この講義では、講義担当者がこれまでに歩いた世界の異なる地域を取り上げ、その植物群落とその発達を支えている環境について学び、そこに生活する人々の生活の実態について紹介する。皆さんは、世界の植物群落の全体的特徴を知ることと同時に、さらに情報を集めて自然理解を深めて欲しい。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	生物学 B	この講義では、日本の自然に関して植生管理学的な見方で解説し、日本の自然の実態と問題点を知ってもらい、その改善のための管理のあり方について考えてもらうことが目的である。この講義では、最初に植物群落に関する基本的な見方について説明し、次に、世界の中の日本の植物群落の性質を知ってもらう。その後は、日本の代表的な自然群落や二次的な植物群落に焦点を当て、そのもつ性質と現在置かれた状況を紹介し、植生管理のあり方について考えてもらう。皆さんも、日本の植物群落に関心を持ち、情報を集めて考えて欲しい。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	天文学 A	美しい星空や宇宙を科学的に理解し、さらに太陽や月そして夜空に輝く星たちの世界のさまざまな現象が地上の自然現象と同じ物理法則によって支配されていることを学ぶ。そして「宇宙における地球及び人類の位置」を的確に把握するために、その基礎となる、恒星から宇宙の地平線までの「膨張宇宙」を考え、さらに我々の身近かな太陽系の月と惑星について解説する。併せて、それらを理解するのに必要な物理学の基礎も講義する。その他に空の色・こよみ・月の満ち欠け・干支などを解説する。さらに、教員ごとに、①ケプラー・ニュートンの法則。②惑星・太陽系。③恒星のスペクトル、H _{II} 領域。恒星とは何か、恒星の一生。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	天文学 B	美しい星空や宇宙を科学的に理解し、さらに太陽や月そして夜空に輝く星たちの世界のさまざまな現象が地上の自然現象と同じ物理法則によって支配されていることを学ぶ。そして「宇宙における地球及び人類の位置」を的確に把握するために、その基礎となる、恒星から宇宙の地平線までの「膨張宇宙」を考え、さらに我々の身近かな太陽系の月と惑星について解説する。併せて、それらを理解するのに必要な物理学の基礎も講義する。その他に空の色・こよみ・月の満ち欠け・干支などを解説する。教員ごとに、①恒星から宇宙まで。②恒星の光と内部構造・進化。③恒星の誕生と終末。相対性理論と宇宙論、人類の宇宙観の変遷。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	自然科学概論 A	いろいろな自然現象を経験するときに、どうしてそのような現象が起こるのかという疑問を抱く。我々をとりまく身近な自然環境や自然現象と、地球や宇宙におけるさまざまな現象の共通点・相違点について物理的に考え、自然を総合的に理解することを目的とする。I. 自然環境としての地球。1. 地球と惑星の大気、水河、雲（フェーン現象）。2. コリオリの力3. 東京の地形、4. マントル対流と大陸移動。II. 身近な自然の諸法則。1. レーリー散乱2. 物体の色と温度。III. 星と宇宙における自然の原理。1. 地球の回転、地軸の傾き、歳差運動、2. 月とこよみ3. 五行説と干支、こよみ・方位・時刻・季節。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	自然科学概論 B	いろいろな自然現象を経験するときに、どうしてそのような現象が起こるのかという疑問を抱く。我々をとりまく身近な自然環境や自然現象と、地球や宇宙におけるさまざまな現象の共通点・相違点について物理的に考え、自然を総合的に理解することを目的とする。I. 自然環境としての地球。1. 地球と惑星の大気、水河、雲（フェーン現象）。2. コリオリの力3. 東京の地形、4. マントル対流と大陸移動。II. 身近な自然の諸法則。1. レーリー散乱2. 物体の色と温度。III. 星と宇宙における自然の原理。1. 地球の回転、地軸の傾き、歳差運動、2. 月とこよみ3. 五行説と干支、こよみ・方位・時刻・季節。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	自然誌 A	環境と生命・人間を対象として、環境の構成要素・構造・ダイナミクス、環境に存在する生命とその科学、環境と生命の相互作用、自然物とこれに係る文明・文化およびその背景にある科学、これらの時空間的変遷などの博物学的内容とその背景にある科学について講義する。具体的には、水の自然誌（水の科学、生命の条件、自然に於ける水の分布・形態・動態と変遷）、生命の自然誌（生命とはなにか、生命を司る物質、生命維持・存続の仕組み、自己と非自己の違い）などを講義する。	

科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	自然誌B	環境と生命・人間を対象として、環境の構成要素・構造・ダイナミクス、環境に存在する生命とその科学、環境と生命の相互作用、自然物とこれに係る文明・文化およびその背景にある科学、これらの時空間的変遷などの博物学的内容とその背景にある科学について講義する。具体的には、水の自然誌（自然が織りなす水の芸術、人工・天然物とその比較、文明と水、水の科学と文化・産業、資源としての水）、生物の自然誌（環境と生命の関わり合い、感覚と動物の反応、生得的行動と学習行動）などを講義する。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	物理学実験講義A	自然科学の基礎である実験を学ぶ。実験を通して、自然の法則と出現する現象との関係を理解する。物理学のうち力学・熱分野に関する簡単な実験を行い、実験の進め方や器具の扱い方、測定データの処理法、レポートの書き方などを学ぶ。測定データを適切に纏め、グラフに表し、科学的なレポートを書く練習を行う。測定の基礎、誤差・有効数字の考え方、レポートの書き方を講義し、重力加速度の測定、熱の仕事当量、固体の比熱の測定などのテーマで講義と実験を行い、レポートを提出させる。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	物理学実験講義B	自然科学の基礎である実験を学び、実験を通して、自然の法則と出現する現象との関係を理解する。物理学のうち電磁気学・波動・放射線に関する簡単な実験を行い、実験の進め方や器具の作成、測定データの処理法、レポートの書き方などを学ぶ。科学的なレポートを書き方を習得する。電磁気学、光学、量子力学の講義を行い、電気機器の磁場測定、音波の振動数の測定、ガラスと水の屈折率の測定、プランク定数の測定、霧箱の作成と放射線の観察などの実験を行う。レポートを提出させ、添削する。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	生物学実験講義A	本講義では、花の進化と生殖戦略について扱うこととする。特に、虫媒花の花色とその発現のメカニズムを中心に扱い、それを花の起源や構造についての知識を養いながら、最終的に、「色とその情報」の観点からアプローチし理解を深める。講義だけでなく、観察を行うほか、講義の後半では色素に関する実験を行うことにより、花と色素についての理解を促進する。このコースは生物学実験講義Bとセットで受講することを強くお勧めする。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	生物学実験講義B	本講義は、植物の生活と「光」との関係を理解することを目的とする。特に、講義の前半では、光とかかわりの深い、植物のもっている葉の構造や性質についての知識を習得することに重点を置く。その後、植物たちの生き残り戦略を、光争奪戦術の観点からの講義を行うとともに、実験を通じてその理解を深めていく。また、その際のデータ処理についても扱うこととする。このコースは生物学実験講義Aとセットで受講することを強くお勧めする。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	化学実験講義A	日常生活と関係深い物質や化学反応、学術的に特徴ある化学現象、社会で利用されている化学技術を対象に、実験・講義を通じてそれらの化学構造、特徴、仕組み、機能、役割を学習しながら化学の重要な基本を理解するとともに、化学に立脚する物の見方、考え方を養うことを目的とする。化学の知識や化学実験の経験がなくても理解できるような内容とする。具体的には、周期表、化学結合・反応の基礎、分子構造情報と模型作製、化学実験の基本と注意事項、未知試料の分析、食品の成分分析について実験・講義する。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	化学実験講義B	日常生活と関係深い物質や化学反応、学術的に特徴ある化学現象、社会で利用されている化学技術を対象に、実験・講義を通じてそれらの化学構造、特徴、仕組み、機能、役割を学習しながら化学の重要な基本を理解するとともに、化学に立脚する物の見方、考え方を養うことを目的とする。同時に、科学レポートの書き方について講義し、実験レポート作成により実践する。具体的には、繊維の合成、物質の蒸留・抽出、時空間連続反応、環境放射線測定、浸透圧について実験・講義する。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	地球科学実習講義A	私達の住む地球は今から46億年前に、宇宙空間に漂う塵や隕石が衝突・合体を繰り返すことで形成された。これらの物質はいつ、どのようにして作られたのであろうか。また、46億年におよぶダイナミックな地球の変動と進化の歴史は、地球上の岩石に記録されている。この授業では、講義と実習を通して、地球を構成している様々な岩石の成因や特徴を知ること、地球の歴史を知る方法を理解することを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	地球科学実習講義B	地球表層は厚さ約100kmに及ぶプレートに覆われ、そのプレートの相対運動によって、地震や火山といった地球上の諸現象は理解されている（プレートテクトニクス）。また近年、地球内部の構造をより詳しく観察することのできる技術（地球トモグラフィ）の進展により、プレートの運動と地球内部のダイナミクスの関連性が理解されるようになった（プレリウムテクトニクス）。この授業では、プレートの運動と地震との関連についての理解を深めるとともに、地表で得られた地質データをどのようにして地下の構造の推定へと結びつけて行くかを実習を通じて理解する。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	数理・情報実習講義A	プログラミングの講義と実習を行う。Cによるプログラムの作成、コンパイル、計算などを修得する。教室におけるコンピュータおよびプログラミングの講義と、PCを使っている実習を交互に行う。必要な数学は講義中に解説する。パソコンの前で学生自身がプログラミングを行なう。プログラミングに必要な文法を講義する。Aで学ぶ内容は、入出力命令、判断文、繰り返し命令、コンソール操作、配列などである。隔週に課題を課し、それに対応したプログラムを作成し、ソースコードを提出させる。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	数理・情報実習講義B	プログラミングの講義と実習を行う。Aで学んだ知識を前提として、Cによるプログラムの作成、コンパイル、計算などを修得する。教室におけるコンピュータおよびプログラミングの講義と、PCを使っている実習を交互に行う。必要な数学は講義中に解説する。パソコンの前で学生自身がプログラミングを行なう。Bで学ぶ内容は、関数、ポインタ、乱数などの数学処理、ファイル操作、シミュレーションなどである。隔週に課題を課し、それに対応したプログラムを提出させる。最後に1年分のプログラムを完成させる。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	天文学実習講義A	天文学と、やさしい数学の演習と講義を中心とする。天文学の他にも、数学の楽しさ、おもしろさ、有用性を味わってもらいたい。もう一度数学を初めから勉強してみようと思う人は、ぜひ受講することをお勧めする。[I] リメディアル数学：図形の面積／数の計算／やさしい幾何学（正多角形・星型）／グラフ（直線・放物線・分点関数）／不等式／複素数／複素平面（回転・円と直線・反転法）／円周率の計算／オイラーの公式（三角関数と指数関数）／源氏香・コイン詰め。時間が有れば、こよみと和算に進む。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	天文学実習講義B	天文学と、やさしい数学の演習と講義を中心とする。今までの天文学実習講義の内容に、和算と算額や、数学の易しい部分を大幅に追加した。天文学の他にも、数学の楽しさ、おもしろさ、有用性を味わってもらいたい。もう一度数学を初めから勉強してみようと思う人は、ぜひ受講することをお勧めする。[Ⅱ]月の満ち欠けと月齢：月の観察、旧暦・月齢 [Ⅲ] 惑星：合・衝・矩・最大離角、会合周期、火星の軌道 [Ⅳ] こよみ：暦年・ユリウス日、二十四節気・閏月・六曜、五行説と干支・干支年 [Ⅴ] 和算と算額：和算のやさしい問題。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	日本事情ⅠA	日本列島で暮らしていく上で、特に地球科学的ないくつかのトピックスについて紹介、解説する。具体的には日本の地理、天気、地震、火山、が中心となる。日本事情ⅠAでは自然科学の基礎的な部分を解説することで、日本の自然の地球科学的な背景を理解し、興味を持ってこれから学生生活を送れるようにする。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	日本事情ⅠB	日本列島で暮らしていく上で、特に地球科学的ないくつかのトピックスについて紹介、解説する。具体的には地質、資源、東京の変遷、が中心となる。日本事情ⅠBでは身近な文化にも触れることで、日本の自然の地球科学的な背景を理解し、興味を持ってこれから学生生活を送ることができるようにする。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	自然科学演習A	この科目は、文学部副専攻「自然の認識」コースのために開講されます。講義・演習の内容は、履修する学生と相談の上で、決定します。[目的] 副専攻の卒業研究に相当する科目です。[内容] 数学、物理、プログラミングなどの課題に取り組みます。課題の詳細に関しては学生と相談して決めます。[到達目標] 自然科学副専攻の卒業論文を作成する。基本的にA、Bを通して履修すること。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	自然科学演習B	この科目は、文学部副専攻「自然の認識」コースのために開講されます。講義・演習の内容は、履修する学生と相談の上で、決定します。[目的] 副専攻の卒業研究に相当する科目です。[内容] 数学、物理、プログラミングなどの課題に取り組みます。課題の詳細に関しては学生と相談して決めます。[到達目標] 自然科学副専攻の卒業論文を作成する。基本的にAを履修したものが対象である。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	国際教育論A	グローバル教育、地球市民教育、国際教育、また平和学等の現状とその問題点について講義する。「国際教育」の抱える諸問題に焦点を当て、今日の国際社会が直面する地球環境・開発・人権・平和等の問題解決の糸口にアプローチする手段を探る。世界の多様性、国際協力の潮流、インドに見る歴史的経過等も概観し、国際教育の本質に迫ることを主たる目的とする。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	国際教育論B	今日の国際教育が直面する諸問題を総括し、国際教育の理想像を構築することを主たる講義目的とする。経済学や教育学、社会学、また法学からの国際教育へのアプローチを含め、ピース・ビジネスやフィリピンに見る職業訓練等も概観し、学生みずからが国際教育に関する知見を広め、また認識や理解を深めることを主たる目標とする。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	多文化共生論A	授業では主として言語と文化の問題を中心に、現実の問題から過去を検証しつつ、多文化共生について考察する。世界では言語や文化の多様性が紛争の原因になることも多く、その一方で、コンピュータ言語として、単一の言語が世界を席捲していく傾向にある。市場原理に立てばマイナーな言語や文化は消滅の危機にさらされることにもなる。これらの問題について先行の研究に学びつつ、時には調査を行い、ディスカッションを通して多文化共生の可能性を探っていく。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	多文化共生論B	授業では主として言語と文化の問題を中心に、現実の問題から過去を検証しつつ、多文化共生について考察する。世界では言語や文化の多様性が紛争の原因になることも多く、その一方で、コンピュータ言語として、単一の言語が世界を席捲していく傾向にある。市場原理に立てばマイナーな言語や文化は消滅の危機にさらされることにもなる。これらの問題について先行の研究に学びつつ、時には調査を行い、ディスカッションを通して多文化共生の可能性を探っていく。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	百人一首の文化史A	『百人一首』の世界を（１）成立の背景（２）注釈と秘伝（３）享受と展開の３点から概観し多様性を味わう。具体的には（１）『百人一首』はどのように選ばれたのか（定家の日記『明月記』に記された「色紙」や、配列・入集歌の異なる『百人秀歌』の存在などを材料に成立事情や撰歌意識について考える。（２）『百人一首』成立後、注釈書は写本として特定の人々の間に伝えられたが江戸期には、秘伝をともなった注釈から公開される注釈へと変容する。（３）以上を踏まえ各歌の読解を通して『百人一首』とその文学文化を考察する。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	百人一首の文化史B	『百人一首』の世界を（１）成立の背景（２）注釈と秘伝（３）享受と展開の３点から概観し多様性を味わう。具体的には（１）『百人一首』はどのように選ばれたのか（定家の日記『明月記』に記された「色紙」や、配列・入集歌の異なる『百人秀歌』の存在などを材料に成立事情や撰歌意識について考える。（２）かるた、往来物などへ形態を変え、「異種百人一首」・「もじり百人一首」など新たな文学作品を生み出してゆく過程を学ぶ。（３）以上を踏まえ各歌の読解を通して『百人一首』とその文学文化を考察する。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本の昔話A	多くの人が、自身の育成過程で、昔話に触れた経験を持っている。しかし実は、そのほとんどは、作家によって子ども向けに作り変えられたものにすぎない。授業で扱う昔話とは、児童書や絵本、アニメなどになっているものではなく、それらの源にある、口承文芸（口から耳へと伝えられてきた文芸の総称）としての昔話である。授業では、上記の意味における昔話とはどのようなものなのか、どのように伝えられてきたのかということなどを取り上げ、昔話の外観的な特徴を理解することを目的とする。	

科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本の昔話 B	多くの人が、自身の育成過程で、昔話に触れた経験を持っている。しかし実は、そのほとんどは、作家によって子ども向けに作り変えられたものにすぎない。授業で扱う昔話とは、児童書や絵本、アニメなどになっているものではなく、それらの源にある、口承文芸（口から耳へと伝えられてきた文芸の総称）としての昔話である。授業では、動物昔話・本格昔話・笑話の構造と特徴、昔話の分布の状況、伝播者（広めた人々）などを取り上げ、昔話の内容について理解を深めることを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本文学文化と風土 A	日本はその独自の地形や風土、気象現象から、各時代の都市の変遷によって、特有の文化藝術を築き上げてきた。本講義では、わが国固有の風土や地理的条件を通して形成された文化や景観を、各地域ごとの文学や歴史、藝術作品から俯瞰し、日本特有の文化遺産や自然観、美意識を考察する。また、これらの風土文化論を通して、大学生として抑えておきたい一般常識や普遍的な教養、知識を発信する。授業では日本風土論についての概説を提示したうえで、日本の景観について歴史を考慮しつつ紹介していく。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本文学文化と風土 B	日本はその独自の地形や風土、気象現象から、各時代の都市の変遷によって、特有の文化藝術を築き上げてきた。本講義では、わが国固有の風土や地理的条件を通して形成された文化や景観を、各地域ごとの文学や歴史、藝術作品から俯瞰し、日本特有の文化遺産や自然観、美意識を考察する。また、これらの・風土文化論を通して、大学生として抑えておきたい一般常識や普遍的な教養、知識を発信する。授業では、文学作品を通して日本のさまざまな地方の景観を紹介しながら地方の風土文化の特徴を考えていく。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本の詩歌 A	近代日本の詩歌について講義をする。具体的には現在あたりまえとなっている口語自由詩が、どのような歴史のもとに成立し展開してきたかを考察する。明治15年の『新体詩抄』前後からはじめ、時代と発想の推移、さまざまな文芸思潮、社会運動、宗教などに触れながら、口語自由詩が本格的に展開される大正期までの歴史を概観してゆく。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本の詩歌 B	口語自由詩の完成者であり、現代詩の祖ともいわれる詩人萩原朔太郎に注目し、全体的な詩業を見渡し数多くの作品を紹介して、読解を行なう。理解を深めるためにその思想や特異な宗教観、言葉についての問題意識、表現方法などを紹介する。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	西欧文学 A	イギリス、フランス、ドイツ、あるいはアメリカといった欧米諸国からロシアなどに至るまで、西欧のさまざまな地域で書かれた多様な文学作品を広く紹介し、その魅力を探っていく一般教養的な科目である。対象となる時代も古代ギリシャから現代まで幅が広い。世界の文学作品を読むことの意義、全体的な問題意識を提示したのち、文学作品をひとつひとつ紹介しながら、そこにあらわれるテーマについて考えていく。世界の名作に親しむことを通じて、読書の楽しみや文学に対する興味を引き出し、幅広い教養を培うことをめざす。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	西欧文学 B	イギリス、フランス、ドイツ、あるいはアメリカといった欧米諸国からロシアなどに至るまで、西欧のさまざまな地域で書かれた多様な文学作品を広く紹介し、その魅力を探っていく一般教養的な科目である。対象となる時代も古代ギリシャから現代まで幅が広い。世界の名作となっている作品を取り上げて味わいながら読み、作品に現れたテーマや問題意識、文学表現上の魅力について考えていく。授業を通じて文学的な感性を養うと同時に、西欧の文化や歴史を日本との関係において理解し、批判的に考える力を養う。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	現代日本文学 A	主に2000年代に発表された文学作品等を取り上げて、特に、現代日本の小説等に表現された〈成長〉をめぐる諸問題について考える。小説において、人間の〈成長〉がどのように捉えられ、表現されているかを深く読み込むことで、その作家の問題意識、およびその社会・時代特有の問題系が浮かび上がってくる。とりわけ、いくつかの重要な小説作品は、〈成長〉のあり方に従って拾選されている過去の〈記憶〉の意義を提示しようとしている。そこに示されるであろうパラドキシカルな〈主体〉の姿を、合わせて確認していきたい。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	現代日本文学 B	主に2000年代に発表された文学作品等を取り上げて、特に、現代日本の小説等に表現された〈闘争〉をめぐる諸問題について考える。小説等において、人間の〈闘争〉がどのように捉えられ、表現されているかを深く読み込むことで、その作家の問題意識、およびその社会・時代特有の問題系が浮かび上がってくる。とりわけ、現代の多くの小説作品は、善悪の価値観が相対化されるなかでの〈闘争〉をめぐる、特にその主体性のあり方について鋭く問おうとしている。この観点から、現代日本文学に含まれる刺激的な一面に迫っていく。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	地域史（日本） A	（1）15世紀末以降のヨーロッパ諸国の東アジア進出の目的・実態を理解する。（2）イエズス会宣教師の宣教師したキリスト教の実態について理解を深める。（3）17世紀初頭に行われた、いわゆる「鎖国」の実態について、教科書・概説書で述べられるような通説の論拠を知り、その問題点を理解する。以上3つを到達目標とし、いわゆる「大航海時代」におけるヨーロッパとアジアとの関係について、高校の教科書にあるような通説や、キリスト教の伝来＝ヨーロッパの先進的文明の渡来といった「常識」のもつ問題点を理解してもらいたい。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	地域史（日本） B	（1）江戸時代の「鎖国」と呼ばれる状況の実態について、教科書・概説書で述べられているような通説の根拠を知り、その問題点を理解する。（2）資本主義化＝グローバル化の実態について、基礎知識を学び、「開国」との関係について理解する。（3）江戸時代の日本社会について、ヨーロッパ側記録を読み、通説では注目されていない側面に理解を深める。以上3つを到達目標とし、高校の教科書にあるような通説や、「開国」＝近代への進歩という「常識」の問題点を理解してもらいたい。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	地域史（東洋） A	中国古代～中世の歴史のながれを確認しつつ、軍事力、とりわけ騎兵が国家戦略に与えた影響についてを概観する。中国の歴代王朝は一定の版図を形作ると、周辺勢力との関係を構築するための対外政策に力点を置く必要があった。とりわけ、時期により北辺で強化する遊牧勢力は、しばしば大きな問題を引き起こした。中国王朝と遊牧勢力の関係を軍事面から捉えると、騎兵をめぐる攻防が浮かび上がる。遊牧勢力の軍隊で中核をなす騎兵部隊の存在は、中国王朝にどのような影響を与え、どのような対処を迫ったのかに焦点をしばり、中国を中心とした中華世界における騎兵戦の萌芽と発展の様相を追っていく。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	地域史（東洋）B	中国古代史の「ながれ」と中国の特質の形成を理解する。中国内陸部を初めて統一し、東アジア世界の形成に大きな役割をはたした秦・漢帝国は、どのような過程をへて成立したのだろうか。この講義は秦・漢帝国成立の歴史を対象とし、以下の2つを到達目標とする。1. 講義で取りあげる中国古代史上の重要事項の歴史的意義と、重要事実の相互の因果関係を理解する。2. 考古学上の幾多の新発見が、中国古代史の理解の深化に大きく寄与していることを把握する。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	地域史（西洋）A	第一次世界大戦終了時には、中・東欧の旧多民族帝国領内から、第二次世界大戦終了後にはアジア・アフリカの旧列強植民地から、次々と新たな国家が成立した。その際、国家形成のモデルとされたのは、近代西欧において成立した「国民国家（NationStates）」とその理念であった。本講義では、19世紀から20世紀初頭の中・東欧における多民族帝国の解体とその支配下におかれていた諸民族の民族運動、またこれらの民族による新国家建設と被支配民族同士の対立、などの考察を通じ、現代ヨーロッパにおける「国民国家」の理念と現実について検証する。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	地域史（西洋）B	世界諸地域の歴史と社会について、映画というメディアを手掛かりにして学ぶことをねらいとする。民族紛争、宗教対立、ナショナリズム、戦争、人種差別、性差別、全体主義、グローバル経済、格差社会といった近現代史を読み解く重要なキーワードを学びながら、歴史はもろろん、私たちの社会のありかたを問い直すことも目的とする。また、ふつうは文字で書かれたものをもとに過去を「歴史の事実」とするが、映像をもちいることで、歴史の物語られ方そのものを見つめなおすことも、この授業の大きな目的の一つである。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	歴史の諸問題A	日本中近世移行期（15～17世紀）は、今日まで続く日本の社会的基盤を形成した時代とされる。戦国・織豊時代は、このうちの主要な時期にあたる。本講義では、この戦国・織豊時代の社会を中世社会の慣習である自力救済とその抑止の変遷（戦争から平和へ）という観点からとらえ、それに基づく政治権力・地域社会集団の形成・展開を考えていくことを試みる。本講義では、自力救済の展開とその抑止、当該期社会の態様について、豊臣政権による刀狩りを含む「喧嘩停止」への過程からとらえ、上述の観点にせまることとしたい。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	歴史の諸問題B	この講義は諸君の教科書にあったように、過去に起きた諸事実を説明するものではない。「歴史とは何か」という問題を考えていくものである。したがって講義で扱われるのは、歴史の認識論とか歴史哲学と呼ばれるような問題となる。歴史には過去の実事を具体的に学ぶことと、なぜ過去を人間は知ることかを学ぶこととの2つのあり方があるが、この講義では後者の問題を取り扱う。とくに問題とするのは、これまでの歴史が、国家的なものを枠組みにしていたことや、近代的な枠組みにとらわれていたことへの批判という大変難しいテーマである。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本事情Ⅱ A	日本語をステップアップさせるために、敬語を学ぶ。敬語は日本を学ぶためにも、また人との関係性を円滑にするためにも非常に重要な言葉である。日本で、あるいは日本と関係する企業に就職を希望する留学生にはぜひ覚えてほしい言葉である。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本事情Ⅱ B	日本の近代化とその時代を生きた知識人の思索を辿ることにより、時代と精神について考える。本講義では、その近代知識と日本の土着的な感性により、新しい境地を生み出した大地の宗教詩人・宮沢賢治の作品から、その人生観・宗教観を読み取り、自己の人生観や社会観の思索を深め、関連する民話・説話を読むことで、日本人の思想や生活を学ぶ。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	経済学A	経済学における入門的理論と実践を同時に身につけることを目的とする。私たちの実生活と密接不可分の関係にある「経済」を、「経済学の考え方」を用いて理解を深めていく。具体的には「GDPとは何か説明できる」「基本的な景気循環理論を類別できる」「経済合理性を前提とした、個人・家計の消費行動や企業の投資行動を説明できる」「貨幣の役割や金融政策を説明できる」「貿易の利益や基礎的な為替レート決定理論を説明できる」「現実の主要な経済指標データに関して討議できる」ことを目指す。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	経済学B	「経済学A」に引き続き、経済学の理論の説明部分と現実の日本経済を理解するための制度的側面や経済指標のデータの解説部分のバランスをとり、経済学における入門的理論と実践を同時に身につけることを目的として講義をすすめる。具体的には「経済成長の基礎理論を説明できる」「生産性とは何かを説明できる」「労働供給と労働需要の決定について経済学的な説明ができる」「現実の主要な経済指標データに関して討議できる」ことを目指す。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	統計学A	一般に統計学は、記述統計と推測統計の2つの分野に分けることができる。記述統計は、データを整理してそこから有益な情報をとりだすための方法を示す。推測統計では、実際に観測されるデータという一部の情報から、本来存在するはずの(あるいは概念的に想定される)全体の状況を推測するための科学的の方法が示される。本講義は「見やすく解りやすい度数分布表やヒストグラムの描き方について理解を深める」「平均、分散、標準偏差について理解する」「標本と母集団の関係について習熟する」「統計的推測と仮説検定の手法を体得する」ことを目指す。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	統計学B	記述統計は、データを整理してそこから有益な情報をとりだすための方法を示す。推測統計では、実際に観測されるデータという一部の情報から、本来存在するはずの(あるいは概念的に想定される)全体の状況を推測するための科学的の方法が示される。本講義は「統計学A」に引き続き「見やすく解りやすい度数分布表やヒストグラムの描き方について理解を深める」「平均、分散、標準偏差について理解する」「標本と母集団の関係について習熟する」「統計的推測と仮説検定の手法を体得する」ことを目指す。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	法学A	人が、社会を作り、秩序を保った生活をしていくためには、ルールが必要である。道徳、宗教、そして法などである。法と道徳はともに人の心に訴えかけ、その行動のよりどころとなるものであるが、両者の違いは、その強制力の違いに現れることが多い。宗教は、厳しい教えを実践しなければならず、違反には制裁がなされることがあるが、それを信仰している者にしか、そのルールは及ばない。法は、すべての者にその遵守を求め、違反には制裁を辞さないという峻厳な一面を有するが、主権者国民の代表が、一定の形式に基づき、その時々過半数によって内容を決定するという柔軟性も備えている。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	現代・社会	法学B	法は、その規律の対象により、公法と私法に分けられる。公法は、国家对私人の関係を規律し、主として権力の問題を扱う。行政サービスを、大量・迅速に、国民全体にいきたらせるためには権力が必要であるが、個人の自由を国家により侵害から防御するという場合には、権力の抑制が重要になる。私法は、対等な私人間の関係を円滑なものとするためのルールである。基本となるのは、当事者の自由意思によって権利・義務の関係を形成し、その最終的な実現を国家権力が担保するということである。私的自治の原則を現代社会の特性にあわせていかに修正していくかが課題である。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	日本国憲法	憲法は国家の基礎となる法である。その特徴は「最高法規」であり、憲法に違反する法はたとえいかに正しい手続きによって定められても無効となる。そこで、憲法が、人として譲ることができない最低限度の権利として保障している人権は、たとえ国会の多数決によって定められた法律によっても侵害することができない。さらに憲法は、統治の仕組みについて定めている。国民に主権を認め、選挙により代表者を選出し、その代表者が国会を形成し、法律を定める。内閣は、抽象的な法律を現実に応用することにより行政を行い裁判所は、国会・内閣の作用を憲法・法律に照らして見直し・是正する機関である。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	政治学A	政治学の入門的講義を行なう。政治学分野の全体を概説的にAとBで二分して行なうので、併せて履修するのが望ましい。政治学Aでは、「伝統的政治学」と呼ばれる、古代から政治について考察がなされてきた分野が中心となる。政治権力の概念、政治の権力構造、政治的リーダーシップ（機能と類型）、政治思想とイデオロギー、デモクラシーの理論、近代国家の原理、議会制民主主義、政党と政党制（その類型）、压力団体と住民運動、選挙制度（多数代表制と比例代表制ほか）を扱う。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	政治学B	政治学の入門的講義を行なう。政治学分野の全体を概説的にAとBで二分して行なうので、併せて履修するのが望ましい。政治学Bでは、政治学の内、20世紀以降に発達してきた「現代政治学」と呼ばれる領域を中心とする。具体的には、政治意識とその形成（政治的社会化）、選挙での投票の行動様式、官僚制、大衆社会の政治、現代国家の特徴、日本の政治の特徴、国際政治（その実態と諸理論）、政治学の新しい諸理論、比較政治学の理論（諸外国の政治を比較しながら分析する枠組み）を扱う。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	社会学A	社会学は、政治学、経済学、法学などを含む社会科学の一つの分野で、社会の現象や仕組み、変化のメカニズム、歴史、文化、行為やコミュニケーションなど、さまざまな水準、アプローチで社会のありようを捉えようとする学問である。本科目では、社会学にはじめてふれる方を対象に、「家族」「都市と地域共同体」「メディア・情報化社会」「階層・格差」等の具体的で身近なトピックスにふれながら、社会学で何がわかるか、社会学ではどんな考え方・捉え方をするのか、といった社会学的視点を学ぶことを目的にしている。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	社会学B	社会学は、政治学、経済学、法学などを含む社会科学の一つの分野で、社会の現象や仕組み、変化のメカニズム、歴史、文化、行為やコミュニケーションなど、さまざまな水準、アプローチで社会のありようを捉えようとする学問である。本科目では、社会学Aに引き続き、「自我とコミュニケーション」「ジェンダー」「セクシャリティ」「多文化社会」「社会運動・市民社会・ボランティア」等の具体的で身近なトピックスにふれながら、社会学で何がわかるか、社会学ではどんな考え方・捉え方をするのか、といった社会学的視点を学ぶことを目的にしている。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	人類学A	「人類の歴史と文化」について講じる。2011年、世界人口は70億人の大台に達したと伝えられた。1950年には25億人程度だった。1万年前には500万人から1,000万人程度だったろうと推測されている。人口爆発した時代はいつから始まっている。人類の始まりから今まで、数百万年間はどんな過去であったろうか。本講では、人類に関する諸学の成果を参照し、また人類進化論的に狩猟採集、農耕、産業を大づかみに人類史をたどる。世界の人類について大きな視野を提示する。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	人類学B	「日本民族、日本文化の形成」について講じる。3.11後、世界中の国の人々から、これまでの歴史の中でこれほど日本への同情が集まったことはなかったであろう。その一方で日本のマンガ、アニメ、ファッションなどの最新の流行・作品から伝統文化まで強く関心を寄せている人々も少なくない。ところで、日本人はそうした人々に対して日本文化を全体として説明できるであろうか。各論は知っているけれど、日本の大枠については曖昧模範としたイメージしかない。そこで、本講では日本民族学、日本に関する社会人類学の初歩を手ほどきする。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	地理学A	本講義は、地理学の方法論（研究目的・視点・独自性）について、その概要を解説することを主眼にしている科目である。内容的には、1. 環境論に始まる近代地理学の歩みをヨーロッパを中心に学説史的に紹介する。2. 場所の経済的価値について説いている、いわゆる「立地論」（農業・工業・中心地・オフィス）を解説する。都市と農村の機能的・構造的な差異の実態と形成メカニズムを解説する。の3つを中心に考えている。最後に、これらを踏まえて、理論と現実の差異がなぜ生じているのか、その要因とより正確な現実の把握のために必要な視点について考察する。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	地理学B	本講義は、地理学の方法論（研究目的・視点・独自性）について、その概要を解説することを主眼にしている科目である。内容的には、1. 地理学の概念と方法についての解説、2. 立地論（農業・工業・中心地・オフィス）の解説、3. 経済的弱者の生活空間の特徴の把握、4. 人口移動のマクロ的把握と過疎地域における第3次産業を中心とした地域振興・町づくり策の現状把握、の4点を中心に考える。これらを踏まえ、地方経済の活性化を想定する国土軸・地域軸論および21世紀を展望した国土計画について解説し、現在の日本の地域構造を変えられるのか、その可能性について考える。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	国際比較論A	グローバルな発想あるいは国際的視野の必要性が、我が国の各分野で叫ばれて久しい。こうした発想や視野の形成は、容易ではないが、様々な視点から外国地域を検討し、その特徴を明らかにすることにより、対象地域とともに我が国そのものの理解が深まる。この講義では、国際比較論における視点とその意義についてロシアを具体論として展開する。ここでは地理学的方法に依拠しながらも、より柔軟な接近法によって、国土の自然環境、人口の基本的動向を主たる検討材料として、国際比較論の視点とその意義を学ぶ。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	国際比較論B	この講義では、国際比較論Aでとりあげた視点と方法に基づき、そこで試みた具体論を内容上さらに発展させ、深めるために、ロシアにおける民族、経済、社会に検討対象を広げる。テキストに沿って工業を指標としたソ連時代からロシアへという変化を軸に、そこで取り上げられている工業、都市、北方性、民族、人口、中核地域・周辺地域などについて、「発展」というトピックスや配布する資料などで内容や対象を拡大・補充しながら、その特徴の把握を目指す。最後に、それらを踏まえて国際比較論の視点についての総括をする。	

科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 総合 科目	教養 科目	現代・ 社会	心理学A	「こころ」についての関心は、最近ますます高まっている。その「こころ」を研究対象とした「心理学」とは、どのような研究領域なのだろうか。この授業では、「こころ」のさまざまな現象を科学的に解明しようとする心理学の営みについて解説し、心理学的なものの見方を紹介する。具体的には、心理学の代表的な各領域（心の進化、心の発達と支援、認知等）を取り上げ、検討する。そこでは、どのような「問い」があるのか、その「問い」について、心理学はどのような「方法」で取り組もうとしているのか、その結果、わかってきたことは何なのか、ということについて、解説する。	
共通 総合 科目	教養 科目	現代・ 社会	心理学B	本講義では、恋愛、失恋、離婚について心理学的（科学的）な視点からアプローチする。特に、失恋や離婚をメインとした講義を行う。本講義の目的は、さまざまな研究者たちが残してくれた遺産（研究成果）を、単純に理解することだけではなく、むしろ、その遺産に関心を持ち、自発的に調べ、学んでいくことにある。そのため、講義では、学生たちが自ら関心を示すことができるような数多くの、最新の知見を紹介する。心理学に関する知識が一切なくとも、理解することができるように説明する。	
共通 総合 科目	教養 科目	現代・ 社会	ベーシック・マーケティング	本講義では学生諸君の認知度の高い企業をケースに取り上げることで、マーケティングに関する体系および、企業の取組みが理解できるようになることを目指す。そこで、マーケティングという企業の視点から、消費者の既存の商品・サービスに対する不満やニーズの探り当て、消費者の満足度を高めるための製品開発やブランド付加、消費者が価値あるものと評価する妥当な価格設定、ターゲットとなる消費者の購入するルートへの有効な商品提供の方法、ターゲットとなる消費者へのアピール方法等について基礎的理解を目指す。	
共通 総合 科目	教養 科目	現代・ 社会	流通入門	本講義では、流通研究の基本的フレームワーク、流通機関における特徴並びに役割・機能に関して、身近な消費財をケースに解説する。学生諸君には、出来るだけ身近な食品や化粧品などを例示しながら、物財やサービスなどの無形財といった客体に関する理解を目指しさらに、生産から消費までの流通に関する、生産者、卸売業者、小売業者、消費者、及び関係機関などの主体および役割に関しての理解を目指す。また、消費財の流通類型毎の特性を理解し、類型毎の課題に関して、論理的に討議していきたい。	
共通 総合 科目	教養 科目	現代・ 社会	基礎会計学	本講義では、現代の会計学の全体像を概略的に講義する。具体的には、「会計の意義」、「財務会計と管理会計、および監査の意義」、「企業会計の仕組み」、「企業会計の理論構造」、「会計公準の意義・内容」、「会計原則の意義・内容」、「わが国の企業会計制度の特徴」、「資産の意義」、「資産の評価基準」、「当座資産の意義・特徴および評価方法」、「棚卸資産の意義・特徴および評価方法」、「有形固定資産の意義・特徴および評価方法」、「無形固定資産および投資その他の資産の意義・特徴および評価方法」を平易に解説していく。	
共通 総合 科目	教養 科目	現代・ 社会	企業会計	企業会計を考えたとき、その中心的な存在は、会計情報を伝達する財務諸表である。財務諸表は、企業外部の利害関係者に財政状態や経営成績、およびキャッシュ・フローの状態を報告する書類の総称であり、会計固有の手法に基づき作成される。また、企業以外の経済主体（学校や病院または公共部門など）の会計も、基本的に企業会計の手法に準じて行なわれている現状にある。本講座では、財務諸表の理論や計算技術構造を体系的になるべく平易に講義する。	
共通 総合 科目	教養 科目	現代・ 社会	日本事情ⅢA	本講義では日本経済が貿易を通じて経済大国化していく過程について概説すると同時に、グローバル化によってマイナスの影響を受けるとされている農牧業と農村地域の現状について紹介する。具体的には、生産額が大きく広い範囲に産地が分布する果樹（柑橘類）・牛肉（肉用牛飼養）・米の3部門について、その影響度と問題点および産地の対応策について解説する。また、大都市圏から離れた過疎化の進む山間部には、現在でもグローバル化の波はほとんど及んでいないが、このような地域ではどのような問題が存在するのか。グローバル化の中で変わる日本の中でも、主に地方・農村部に焦点を当てて、その現状と課題について紹介する。	
共通 総合 科目	教養 科目	現代・ 社会	日本事情ⅢB	経済大国・日本といわれて久しいが、国内には太平洋側、日本海側等に代表されるような経済的な地域格差が顕著として存在、拡大し続けている。このような地域構造的な2面性はいつ、どんな背景や要因で形成されてきたのか、現状を日本事情の1例として捉える。ここでは太平洋側と日本海側の差異に焦点を当てて現状と問題点を解説し、経済的後進性の残る日本海側ではどのような生活や文化、産業が営まれているのか。その地域的特性を活かした地域振興策を具体的な事例を挙げながら紹介し、これらの地域に共通する各種条件、および課題等を確認し、今後の発展の可能性について展望する。	
共通 総合 科目	教養 科目	スポー ツ・健 康	スポーツ健康科学実技ⅠA	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけていく。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、なかには授業として短期間で実施するものも含まれている。なお、「スポーツ健康科学実技ⅠA」は春学期開講の授業科目である。	
共通 総合 科目	教養 科目	スポー ツ・健 康	スポーツ健康科学実技ⅠB	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、初級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、なかには集中授業として短期間で実施するものも含まれている。なお、「スポーツ健康科学実技ⅠB」は秋学期開講の授業科目である。	
共通 総合 科目	教養 科目	スポー ツ・健 康	スポーツ健康科学実技ⅡA	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、中級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけていく。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、なかには集中授業として短期間で実施するものも含まれている。なお、「スポーツ健康科学実技ⅡA」は春学期開講の授業科目である。	
共通 総合 科目	教養 科目	スポー ツ・健 康	スポーツ健康科学実技ⅡB	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、中級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、なかには集中授業として短期間で実施するものも含まれている。なお、「スポーツ健康科学実技ⅡB」は秋学期開講の授業科目である。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技ⅢA	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、上級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、なかには集中授業として短期間で実施するものも含まれている。なお、「スポーツ健康科学実技ⅢA」は春学期開講の授業科目である。	
共通総合科目	教養科目	スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技ⅢB	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、上級レベルの技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なり、なかには集中授業として短期間で実施するものも含まれている。なお、「スポーツ健康科学実技ⅢB」は秋学期開講の授業科目である。	
共通総合科目	教養科目	スポーツ・健康	スポーツ健康科学講義Ⅰ	スポーツ健康科学分野に関する入門的講義を行う。主に、運動・スポーツの生理学的基礎理論の理解を踏まえて、生涯にわたっての運動・スポーツを取り入れた生活が、健康の保持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的、積極的な運動・スポーツ実践につながることを目的とする。また、現状の体力の把握や緊急時の対応などを学習することを通して、自他の健康への意識を高め、生涯の健康をより発展的に捉えられることも課題として位置づける。	
共通総合科目	教養科目	スポーツ・健康	スポーツ健康科学講義ⅡA	スポーツ健康科学分野に関して、専門的な内容に的を絞った講義を実施する。授業内で取り上げる内容は各担当教員の専門分野によって異なるが、現状では、バイオメカニクス、スポーツ文化論、スポーツ医学、スポーツ史、スポーツ人類学、公衆衛生学、運動生理学などの講義が設定されている。本授業科目では、当該専門分野を春秋で二分して行うため、年間を通して履修することが望ましい。なお、「スポーツ健康科学講義ⅡA」は、春学期の開講科目である。本講義では主に、健康管理・安全管理を中心に講義していく。	
共通総合科目	教養科目	スポーツ・健康	スポーツ健康科学講義ⅡB	スポーツ健康科学分野に関して、専門的な内容に的を絞った講義を実施する。授業内で取り上げる内容は各担当教員の専門分野によって異なるが、現状では、バイオメカニクス、スポーツ文化論、スポーツ医学、スポーツ史、スポーツ人類学、公衆衛生学、運動生理学などの講義が設定されている。本授業科目では、当該専門分野を春秋で二分して行うため、年間を通して履修することが望ましい。なお、「スポーツ健康科学講義ⅡB」は、秋学期の開講科目である。本講義では主に、生活習慣病や体づくり、トレーニング理論を中心に講義していく。	
共通総合科目	教養科目	スポーツ・健康	スポーツ健康科学演習Ⅰ	スポーツ健康科学分野に関して、演習形式で授業を展開する。主に、「スポーツ」という現象について受講生が各々の関心事に基づいてテーマを設定し、研究・発表・討論を行う。本授業を通して、スポーツの専門的な知識を習得すること、選択したテーマについて周到な準備を行い多角的な観点から報告ができること、他者の報告について批判的に討論できることが目的となる。複数のグループを編成し、グループごとにテーマを選定することが通例である。	
共通総合科目	教養科目	情報教育	コンピュータ・リテラシー	情報技術の普及は我々の情報活動を豊かにするものと考えられているが、一方でコンピュータ犯罪のような問題も発生している。それは、情報技術がもたらす効果や技術の限界、技術的な特性を理解しないままに、利便性や有意性のみに焦点を当てた結果と考えられる。本講では、情報技術に関する一般的な知見を得ると共に、人間の情報処理における情報技術の果たす役割について実習を通して経験する。また、今後の社会生活で必要になると考えられる情報技術と技術的動向、および技術評価方法についても解説する。	
共通総合科目	教養科目	情報教育	情報化社会と人間	コンピュータの普及とそのネットワークの接続によるいわゆる社会の情報化はこれまでの仕事や通信のあり方のみでなく社会生活や個人のあり方、ものの見方まで変化させようとしている。しかしながら、社会の情報化は唐突に生じた訳ではなく、人間社会の歴史の延長線上にあり、本講義では、その文脈での情報化社会の意味と現象を主体的に理解することによって、現状の問題把握・将来起こる問題への指摘ができることを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	情報教育	情報倫理	インターネットの普及により、さまざまな情報を携帯情報端末などから容易に入手できるようになった。このような利便性が向上する一方で、インターネット上では、個人情報悪用した犯罪も起きている。インターネット社会では、インターネットを利用する際に必要な知識や技術だけでなく、インターネット上で起こるトラブルや犯罪、さらにはそれらから身を守る法律なども知っておく必要がある。本講では、インターネット社会でどのようにして身を守り、生きて抜くべきかを、具体的な事例に基づきながら学ぶことで、インターネット社会の現況を理解しつつ、インターネット上での危機管理能力を醸成する。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅠA	現在、東洋大学では基幹研究の一つとして共生哲学の確立を目標とした活動を行っている。この授業は、その一環として東西の共生論を紹介して、共生哲学研究の諸問題を論ずる。特に自然との共生、民族の共生などを主なテーマとする。①東洋と西洋の共生論の相違を理解する②東洋と西洋の共生論を基盤とした新しい思考を見出す③共生論の持つ意義、あるいは影響などを説明できることを目標とする。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅠB	現在、東洋大学では基幹研究の一つとして共生哲学の確立を目標とした活動を行っている。この授業は、その一環として東西の共生論を紹介して、共生哲学研究の諸問題を論ずる。特に自然との共生、民族の共生などを主なテーマとするが、春学期とは異なる視点でとりあげる。①東洋と西洋の共生論の相違を理解する②東洋と西洋の共生論を基盤とした新しい思考を見出す③共生論の持つ意義、あるいは影響などを説明できることを目標とする。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅡA	東洋と西洋の近・現代詩を、テーマごとに互いに対比させながら読解する。文学作品の読解は、原文を自分自身の感性で読むことが大切であるので、出来るだけ多くの詩を朗読し味わうことを第一の目標とする。詩はまた日常生活から想を得た詩人の直観な心情の吐露から、現実を超えた宇宙的原理や絢爛たる夢想、あるいは難解な思想にいたるまで、人間の多様な情緒的・知的活動をはらんでいる。詩という材料をとおして、共感や抵抗感といった直接的な反応から出発し、私達自身の想像力の冒険、あるいは文学研究に至る、様々なレヴェルでの読み方を探っていきたい。「私の好きな歌」と称して参加者全員で発表し、ディスカッション等を行う。	

科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅡB	東洋と西洋の近・現代詩を、テーマごとに互いに対比させながら読解する。文学作品の読解は、原文を自分自身の感性で読むことが大切であるので、出来るだけ多くの詩を朗読し味わうことを第一の目標とする。詩はまた日常生活から想を得た詩人の直截な心情の吐露から、現実を超えた宇宙的原理や絢爛たる夢想、あるいは難解な思想にいたるまで、人間の多様な情緒的・知的活動をはらんでいる。詩という材料をとおして、共感や抵抗感といった直接的な反応から出発し、私達自身の想像力の冒険、あるいは文学研究に至る、様々なレベルでの読み方を探っていきたい。参加者で創作詩の発表等を行う。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅢA	2000年以上の歴史をもつ「哲学」とその「思考法」が、どのようにして現在の私たちの「生きる力」となるのか、その手がかりを西洋とアジアの哲学的知見から改めて発掘し、展開させる。情報化社会と密接に連動する経済不況、貧困格差、人権問題や環境問題といったグローバルにもローカルにも単純に振り分けられない諸問題に直面する中、氾濫する情報の流れに翻弄されずに自己を律し、自己の経験を一步先に進めるための哲学的な思考法の体得をめざす。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅢB	哲学と環境問題のかかわりについて新たなアプローチの提示を試みる。世界の環境問題の現状についてさまざまな角度から問題提起をするとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を手がかりとしながら紹介する。外部講師を含む複数の講師がそれぞれの専門分野の立場から講義を行い、広く学際的な枠の中で環境と哲学というテーマについて考察していく。受講者が環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅣA	哲学館において「妖怪学」の講義が開講されたのは明治二十年（1887）である。それから百二十五年たつ現在、妖怪をとりまく社会も学問のありようもさまざまなに変化した。現代に即した「新しい妖怪学」は可能だろうか？この講義では、今までにない「新しい妖怪学」の構築を試みる。比較宗教学・民俗学・文学・芸能史・風俗史・神話学・異常心理学・精神病理学などさまざまな学問分野の成果を導入し、さらに日本だけでなく広くアジアやヨーロッパをも視野に入れた学際的アプローチの展開をめざす。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅣB	アジアの国や地域（複数の国をまたがって）において調査研究を行っている国際地域学部の教員とその共同研究者が、現場主義の立場にたつて、今アジアで進められている「開発」の実態を紹介し問題点を抽出する。最新でかつヴィヴィッドな情報をもとに、開発の現場から見た今日のアジア地域における諸問題とその課題について、新入生諸君にもわかりやすいように説いていく。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅤA	哲学・死生学・出版界・自閉症・セクシャリティ・ホスピス・音楽など様々な学問や文化活動の観点から、生きがいについて考える方法を身につけるのが目標である。価値観・死生観・職業観・倫理意識等についてオムニバス方式を用いて取り上げて、現代社会における我々人間存在の複合的位相に切り込んでいき、個々の問題事象や解決方法などを提示していく。また併せて、茶道の点前を実演し、学生は客の体験をすることをおして、日本固有の伝統芸道の意義やその深みを、学んでいく。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅤB	日本の古代から現代にいたる歴史や時代の流れの中で、ひとびとが持った生きがいやなりわいというものが生み出し、展開した文学文化はどういうものであったか。そこに込められた人々の精神はいかなるものであったかについて様々な具体的職業やなりわいを取り上げて考える。ことに、現代では非日常に属する伝統的文化に焦点を充てる。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅥA	本授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を知ることが出来る。社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとして自身のキャリアの変遷を振り返り、他者との価値観を分かち合い等を通じて学生が学生や社会生活で何をどう学び、どう生きていくかを学習する、大学での学びを深化させ、学びから得たものを人生で活かすことを知るものである。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅥB	授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を社会人のキャリアスピーク・ワークショップから知ることが出来る。また、社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとしてキャリアを開発してきた様々なゲスト（社会人）をお招きしディスカッションとワークを行い、その後に再度学生自身の今後のキャリア開発を模索する。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅦA	異文化理解の問題を、特にヨーロッパとの関連で取り上げる。ヨーロッパ地域、ヨーロッパの歴史・文化に関心のある人にとっては、興味ある知識が得られるであろう。具体的には「異文化としてのヨーロッパの特徴を知り、説明できる」「留学、旅行などの事前準備の知識として十分な知識を得られる」「異文化としてのヨーロッパの特徴を知ることによって、逆に自文化、つまり日本文化の特徴を知ることができる」「正しい異文化理解をもてれば、自分と異なる文化に対する偏見から解放される」ことを目指す。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅦB	西洋のイメージが永らく「欧米」という言葉で表されてきたように、アメリカとヨーロッパは（対日本という見地）一括して捉えられてきた。しかし、実際には歴史・文化・国民性・価値観など大きな違いがあり、それが経済や政治に繋がる。本講義では、現代アメリカ事情を中心に、文学や歴史なども学ぶ教養科目としての側面も加味させたい。英雄像の違い、教育の考え方、家庭生活、犯罪、人種のつづとと言われることから現代アメリカの苦悩である人種差別や性差別、宗教からくる対立、社会構造からくる貧富の差などを取り上げる。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅧA	「日本の近代化と東洋大学一井上円了の哲学と実践」をテーマに、建学の精神を知り、自らのアイデンティティーを確立することを目指す。具体的には、「井上円了の目指したもの」、「近代化と啓蒙思想」、「明治初期の宗教界」、「明治の青春群像と井上円了」、「哲学館の三恩人」、「井上円了が祀る聖者たち」、「迷信より哲学へ」、「井上円了の外道哲学」、「日本をどう考えるのか」、「井上円了が語る庶民の道徳」、「私学の役割と目的」、「井上円了の海外視察」、「哲学館初期のカリキュラム」等について講義形式で授業を進める。	

科目 区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合ⅧB	「日本の近代化と東洋大学一井上円了の哲学と実践」をテーマに東洋大学の歴史を知り、自らのアイデンティティを確立することを目標とする。具体的には、「哲学館から東洋大学へ」、「私学と国家権力」、「庶民の啓蒙が国を支える」、「円了の台湾巡講」、「哲学の小宇宙」、「哲学館の後継者たち」、「哲学館からチベットへ」、「哲学館・東洋大学の留学生たち」、「哲学館・東洋大学出身の文人・歌人」、「社会で活躍する校友」、「東洋大学の現在」、「井上円了の生涯をかけた熱き闘い」等について講義形式で授業を進める。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合IXA	世界の認識についての哲学的な思考法を提示しながら世界の見方、世界における人間存在のあり方を考えていくことを目的とした教養的な科目である。講義ではとくに現象学的な思考法、問題意識を紹介しながら、人間をとりまく世界をどのように見るか、そこに人間が存在するというのはいかなることか、また他者とのかわりとはいかなるものかを考えていく。そして、現象学的な思考法を援用しつつ、一人の人間と世界のかかわり、科学の可能性と問題点などといった現代に通じる問題について切り込んでいく。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	総合IXB	科学や科学技術に内在する哲学的課題を浮き彫りにしながら、現代社会に存在するさまざまな問題に対する新たな思考法の可能性を提示することを目的とする。科学的探究の利点は、固有な課題や社会の要求に応じて、そのつどプログラムを設定し、展開することができることにあるが、本講義では、科学の成立史、科学的探究のプログラム設定のありかたについて哲学的な視点から検証しながら、環境、障害者に対する認識などといった問題について、哲学がどのような形で有効かつ斬新な見方を提示できるかを考えていく。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	全学総合 I A	2000年以上の歴史をもつ「哲学」とその「思考法」が、どのようにして現在の私たちの「生きる力」となるのか、その手がかりを西洋とアジアの哲学的知見から改めて発掘し、展開させる。情報化社会と密接に連動する経済不況、貧困格差、人権問題や環境問題といったグローバルにもローカルにも単純に振り分けられない諸問題に直面する中、氾濫する情報の流れに翻弄されずに自己を律し、自己の経験を歩先に進めるための哲学的な思考法の体得をめざす。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	全学総合 I B	哲学と環境問題のかかわりについて新たなアプローチの提示を試みる。世界の環境問題の現状についてさまざまな角度から問題提起をするとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を手がかりとしながら紹介する。外部講師を含む複数の講師がそれぞれの専門分野の立場から講義を行い、広く学際的な枠の中で環境と哲学というテーマについて考察していく。受講者が環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	全学総合 II A	哲学館において「妖怪学」の講義が開講されたのは明治二十年（1887）である。それから百二十五年たつ現在、妖怪をとりまく社会も学問のありようもさまざまに変化した。現代に即した「新しい妖怪学」は可能だろうか？この講義では、今までにない「新しい妖怪学」の構築を試みる。比較宗教学・民俗学・文学・芸能史・風俗史・神話学・異常心理学・精神病理学などさまざまな学問分野の成果を導入し、さらに日本だけでなく広くアジアやヨーロッパをも視野に入れた学際的アプローチの展開をめざす。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
共通 総合 科目	教養 科目	総合	全学総合 II B	アジアの国や地域（複数の国をまたがって）において調査研究を行っている国際地域学部の教員とその共同研究者が、現場主義の立場にたって、今アジアで進められている「開発」の実態を紹介し問題点を抽出する。最新でかつヴィヴィッドな情報をもとに、開発の現場から見た今日のアジア地域における諸問題とその課題について、新入生諸君にもわかりやすいように説いていく。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
共通 総合 科目	社会 科目 基礎力		社会人基礎力入門講義	社会はどのような人材を必要としているか？本講義は、将来社会で活躍できる人材育成を目標として、「社会人基礎力」の観点から解説を行う。「社会人基礎力」とは、経済産業省が定義した「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」のことである。本講義は、その「社会人基礎力」の育成のために、本学独自の視点を加えて、さまざまな問題提起を含むヒントを提供したい。	
共通 総合 科目	社会 科目 基礎力		社会人基礎力実践講義	社会人として生きていくためには、必然的に、学生時代から「社会」に興味を持ち、「社会」のことを知らなければならない。情報化社会、国際化社会の今日、「社会に生きる」ということは、大げさに言えば、無限大の世界が対象となる。この授業では、「新聞」というメディアを活用し、そこから「社会」を知り、様々なことを考え、その考えを自ら発信する姿勢を、普段の生活に於いて確立することを、目指したい。	
共通 総合 科目	社会 科目 基礎力		キャリアデベロップメント 論A	本授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を学ぶこととする。社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとして自身のキャリアの変遷を振り返り、他者との価値観の分かち合い等を通じて学生が学生や社会生活で何をどう学び、どう生きていくかを学習し大学での学びを深化させ、学びから得たものを人生で活かすことを考えていきたい。	
共通 総合 科目	社会 科目 基礎力		キャリアデベロップメント 論B	本授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を社会人のキャリアスピーク・ワークショップから学んでいくこととする。また、社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとしてキャリアを開発してきた様々なゲスト（社会人）をお招きしディスカッションとワークを行い、その後に再度学生自身の今後のキャリア開発を模索していきたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	社会人基礎力	企業のしくみ	本講義では、企業と企業組織、企業の活動を理解する上で基盤となる知識や考え方に触れてもらい、企業社会で活躍する社会人となるには必要なことは何かということを考えるための自分なりの糸口を見つける手がかりを得てもらう。特に、この講義では、企業とはどのような存在なのか、その企業組織はどのような仕組みになっているのか、そして企業を「経営」ということはどのようなことなのかということを考える際の出発点となる、企業制度と企業組織に関する基礎知識とそれらに対する多様な見方（視点）を学ぶことを目的とする。	
共通総合科目	社会人基礎力	企業家論	現代社会は、先人たちの試行錯誤と創意工夫により形作られたものである。株式会社という仕組みを日本に導入し広めた渋沢栄一、私鉄経営のモデルを築いた小林一三、水道哲学で日本の家電市場を切り拓いた松下幸之助などの企業家の活動が日本の新たな時代を先導してきた。このような人々の営みを学ぶことは、社会に対する理解をより深めるだけでなく、将来を展望するカギともなる。本科目は、時代をリードした日本の企業家を取りあげ学ぶことを通じ、社会のリーダーとして将来を期待される学生のキャリアデザインに資することを目的とする。	
共通総合科目	社会人基礎力	社会貢献活動入門	社会貢献という視点から、これからの人生設計を考える。①学生が、社会貢献という視点から自身の人生設計を検討する姿勢を養う。②①を達成するために、知識の提供ではなく、自律的な思考能力の育成を重視する。公益とは何か、また、公益と個人の利害の葛藤などについて考え、社会において個人が果たし得る役割と課題について考える。また、社会と個人をつなぐ組織的活動についても理解を深める。	
共通総合科目	社会人基礎力	公務員論	我が国の公務員制度について、法制度や慣習の観点から考察を行うとともに、講師の国家公務員・地方公務員の体験談を交えながら理解を深める。また、公務員試験を目指す学生のためのアドバイスも適宜行う。単なる公務員に関する知識習得に留まらず、公務員制度の本質の理解と、学生自ら我が国の行政運営に関する課題とその解決策を探ることを目指す。また、学生の関心やその時の話題となっているテーマについても随時取り上げる予定である。	
共通総合科目	留学支援科目	英語科目別 Special Corse in Advanced TOEFL I	この授業では、「使える英語力」を身につけるために、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4つの技能をバランスよく効果的に学び、受講者全員がTOEFL (PBT) で500点以上を取れるようになることを目指す。それにより、いつでも英語圏の大学へ留学できる資格が得られるとともに、卒業後に英語力を生かした仕事に就ける可能性を高める。	
共通総合科目	留学支援科目	英語科目別 Special Corse in Advanced TOEFL II	この授業では、SCAT I で学習した「使える英語力」をさらに磨くことを目指す。SCAT II では、受講者それぞれが、ただ与えられた課題をこなすのではなく、自ら課題を設定し、それに取り組んでいく態度を養うことが望まれる。尚、SCAT II は、SCAT I を受講し、C以上の評価を得た者のみが対象となる。	
共通総合科目	留学支援科目	日本語科目 Integrated Japanese I	このコースの目的は、中級レベルの日本語能力を獲得することにある。内容は、学生の身近なトピックを題材に読む・聞く・話す・書くの4技能が統合的に高められるように構成されている。・中級の文法、語彙を使った文章が読めるようになる、中級の文法、語彙を使って短い文が書けるようになる、中級の文法、語彙を使ってディスカッションし意見が言えるようになることを目指す。	
共通総合科目	留学支援科目	日本語科目 Integrated Japanese II	このコースの目的は、中級レベルの日本語能力を獲得することにある。内容は、学生の身近なトピックを題材に読む・聞く・話す・書くの4技能が統合的に高められるように構成されている。・中級の文法、語彙を使った文章が読めるようになる・中級の文法、語彙を使って短い文が書けるようになる・中級の文法、語彙を使ってディスカッションし意見が言えるようになる。	
共通総合科目	留学支援科目	日本語科目 Japanese Reading and Composition I	このクラスは、一通りの基礎的文法や語彙を学習し、これからさらに応用的な読み物に挑戦したいと考える学生のためのクラスである。教科書を基本に「読む」「書く」をキーワードとして、大学生活に必要な総合的な日本語スキルを学ぶ。活動の中心は「読む」「書く」であるが、そのほかに学生が話し合いや様々な活動を通して、主体的にかつ論理的に表現できるようになることを目指す。	
共通総合科目	留学支援科目	日本語科目 Japanese Reading and Composition II	このクラスは、中級から上級にかけての語彙を学習し、さらに応用的な学習に挑戦したいと考える学生のためのクラスである。教科書を基本に、「読む」「書く」をキーワードとして大学生活に必要な総合的な日本語スキルを学ぶ。活動の中心は「読む」「書く」であるが、そのほかに学生どうしの話し合いや様々な活動を通して、主体的にかつ論理的に表現できるようになることを目指す。	
共通総合科目	留学支援科目	日本語科目 Kanji Literacy I	このクラスは、中級前半レベルの漢字基礎力を養う。すでに300字程度の漢字を学習した学生を対象とする。一つ一つの漢字の意味を理解し、正確に書き、かつ正確に読めるようにすること。漢字の成り立ちや部首などの漢字に関する知識を身につけること。漢字の読み書きだけでなく、漢字が語彙として文や談話の中でどのように使われているのかを理解できるようにすること。習得した漢字を用いて、実際に熟語や文を作り、漢字の使い方に慣れること。今学期における到達学習漢字数は約600字とする。	
共通総合科目	留学支援科目	日本語科目 Kanji Literacy II	日本語を理解するときに必要な漢字を、集中的に学び、大学生として大学の授業を受けるにふさわしい漢字能力の養成を目的とする。しっかりと基礎を固めたうえで、さらに日本での生活の中で必要と思われる漢字や熟語、また漢字に関する基本的な知識を学習する。1000程度の中級レベルの漢字基礎力をつける。一つ一つの漢字の意味を理解し、正確に書き、正確に読めるようになる。漢字の成り立ちや部首などの漢字に関する知識を身につける。漢字の読み書きだけでなく、漢字が語彙として文の中でどのように使われているのかを理解できるようになったり、漢字を使って、実際に熟語や文を作り、漢字の使い方に慣れる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	留学支援科目	日本語科目	Project Work I	学生が各自の興味関心に基づいて情報収集、発信、調査研究と発表を行う。必要に応じて新しい表現も学ぶが、基本的には既習表現の範囲で創造的な活動を行う。ProjectWorkIでは、効果的なプレゼンテーションを可能にするための基礎を学ぶ。授業は実習が中心となる。例えば、学生は自分でパワーポイント等を使って「自己紹介」等の課題に取り組む。	
共通総合科目	留学支援科目	日本語科目	Project Work II	ProjectWorkIIでは、前期に学習したことをもとに効果的なレポートを書くための基礎を学ぶ。日本語の資料を探すことができ、集めた日本語の資料を使って発表できることを目指す。	
共通総合科目	留学支援科目	日本語科目	Japanese Listening Comprehension I	毎回、授業のはじめに聴解ストラテジーの練習を行い、聴解力をアップさせるにはストラテジーが大切であることを学ぶ。学生が興味を持ちそうな内容の聴解教材を選び、聴解力をアップさせるだけでなく、聴解を通して、日本事情、情報の収集、社会問題なども学ぶ。聴解能力をアップさせるために必要なストラテジーを意識しながら、だんだん生の情報番組やインタビュー番組などに慣れ、学生生活に必要な聴解力を育てる。	
共通総合科目	留学支援科目	日本語科目	Japanese Listening Comprehension II	聴解の力をアップするために必要なストラテジーを意識しながら、生の情報番組やインタビュー番組などがだいたい理解できるようになる。大学生が学生生活を送っているときに、聴く場面(人とのコミュニケーション、講義、テレビ、映画などからの情報を得るとき等)で、自分で対応できる。2.今、何を聴きとったらいいか判断ができ、それにはどうしたらいいのかが分かる。3.分からない言葉を聴いても、自分で調べることができることを目的とする。	
共通総合科目	留学支援科目	日本語科目	Japanese Culture I	日本の伝統文化、芸術、工芸と文化歴史を勉強する。これらのクラスは土曜日に開催されて、いくつかの見学を含む。学生は、これらの歴史の背景と製造工程(職人、その他の従来の技術)についての学習を通して、日本の伝統的な美術工芸から彼らの知識と理解を深める。コースは、主に土曜日(第二期)に、白山キャンパスで開講される。時折、学生は劇場、職人のスタジオ他授業の主題に関連した場所を訪問する。	
共通総合科目	留学支援科目	日本語科目	Japanese Culture II	日本の伝統文化、芸術、工芸品および文化史を研究する。授業は土曜日に開講され、見学を数回行う。学生は、これらの歴史的背景および生産工程(職人などの従来の技術)に関して学習することによって日本の伝統芸術および技術についての知識および理解を深くする。時々、劇場、職人の工房など授業のテーマに関係する場所を訪れることになる。美術工芸を含む日本の文化の様々な様相に接し、また日本の工芸美術の歴史的背景と生産工程についての理解することを目指す。	
文学部共通科目	文学部教育		伝統文化講座	日本には様々なかたちで伝統文化が形成されているが、今日の大多数の日本人は、それらを正確に理解するどころか直に触れる機会さえない。国際化の中で、自国の文化を正しく知り、正しく発信できる人材の育成は急務である。東洋大学文学部は、従来、日本の伝統芸能を大学内外に公開、公演をおこなってきたが、本年度よりこれらを正規授業科目として位置付け、日本の伝統文化について、一回的表面的な理解に終ることなく、本質を深く知り、世界に発信できる<日本伝統文化学>を修得していただきたい。	
文学部共通科目	文学部教育		東洋大学・井上門了研究	東洋大学文学部学生として、学問をとおして人格を陶冶する姿勢を身につけるとともに、東洋大学文学部の学問伝統の意義について学ぶのが目標である。具体的には、東洋大学文学部の歩み・哲学館事件・学徒動員による戦争体験とその克服・井上門了の学問・学問と人生・先輩から後輩へ伝えていくべき価値観世界観人生観・学問の招来といった主題をとおして、人生の指針や学問の動機付けについて考える機会を併せて提供し、東洋大学文学部学生としてのアイデンティティとは何か理解する契機を考える。	
文学部共通科目	文学部教育		情報処理演習 A	授業では情報にかかわって以下の点の修得を目標とする。情報と法や倫理との関わりについて「情報リテラシー」の専門的側面から説明できる。情報の収集・整理・活用を「多文化の異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解」並びに「統合的な学習経験と創造的思考力」として実践できる。レポートなどの文章として「知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能」を実践として表現できる。表計算ソフトを活用して文章データを分析する作業を通して「数量的スキル、論理的思考力方法」の体得を実践表現できる。	
文学部共通科目	文学部教育		情報処理演習 B	主に人文学分野の題材を用い、情報処理技術を活用した講義と課題演習を通して、大学での学習および実社会における諸課題の解決に必要とされる以下のスキルを身に付ける。表計算ソフトの基礎から活用までを実践できる。レポート、卒業論文などに応用できる文章情報の解析技術を習得し、実践できる。「多文化の異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解」を関連づけて表現できる。グループワークによる情報の収集・整理と、その活用の課題により、「自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任」を発揮できることを目指す。	
文学部共通科目	専門科目	文学部基礎	論理学概論	哲学的思考にとって必要不可欠な論理学の知識と論理的能力を習得するのが、目標である。論理学には伝統的形式論理学と現代論理学がある。伝統的論理学と現代論理学それぞれの特徴を学び、論理言語と自然言語の違いを知ったうえで、さらに命題論理・述語論理について理解する。そのうえで、結合子・真理値表・トートロジー・タブロー・量量子などを学び、続けて様相論理・時間論理・多値論理・ファジー論理なども併せて、練習問題を解く作業も含めておこないながら学んでいく。	
文学部共通科目	専門科目	文学部基礎	哲学基礎概説	西洋哲学思想の基本知識を、古典的哲学文献アンソロジーをとおして、包括的に身につけるのが目標である。主な単位としては、哲学の始まり・存在・ロゴス・多元論や原子論・対話法・善・分類と体系・一者・ヘレニズムとヘブライズム・知と信・個と普遍・自然本性・近代的自我・合理主義と経験論・理性批判・歴史などであり、西洋哲学思想史における古代ギリシャ・古代ローマ・古代ユダヤ思想・キリスト教中世・近現代の流れにしたがって、考察していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	比較思想	様々な思想文化を合理的に理解する手立てとしての比較思想を学ぶことをとおして、様々な思想文化に対して偏見や差別にとらわれない公正な立場を保持する姿勢を習得するのが、目標である。比較思想という学問の方法や意義を学び、東西の宗教文化や哲学思想を個別に取り上げて、その類似性や異質性を考察することによって、我々が慣れ親しみ依拠する価値観や世界観のなかにも、我々が通常異質であると思い込んでいる様々な観念や思考が存在していることに気づき、様々な思想文化全体が有機的に連携していることを探求する。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	哲学と科学	主に近代初頭から現代にかけて、自然哲学などの哲学思想から個別科学としての自然科学が分岐していく過程を辿って、哲学と科学それぞれの本質と両者の違いを明確に理解するのが、目標である。哲学と科学の分岐を、自然・社会・心理・生命といったそれぞれの領域において考察し、具体的事象を取り上げて、哲学と科学の分岐することによる意義ならびに問題点や、哲学と科学の分岐を再び統合する形而上学的試みの意義や課題などを探求するとともに、将来に向けてあるべき哲学と科学の姿も併せて探求する。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	応用倫理学特論	現代社会に生きる我々を取り巻く実践的諸問題を、倫理学の基礎知識を実際に応用することによって、解決する能力や姿勢を養うのが目標である。応用倫理学を、生命倫理学・環境倫理学・経営倫理学などの多角的観点から考察するとともに、我々の生活実践のリアリティを、人間・歴史・文化・自然といった広い視野から複合的かつ有機的に内省するとともに、個別具体的な諸事例を取り上げて、実際に倫理学的知識を応用して問題解決する仕方を探求するとともに、近現代社会の特質や今後の社会のあり方なども併せて探求する。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	哲学と宗教思想	宗教をめぐる学問理解の輪郭を概括することによって、宗教哲学の基本を身につけることが目標である。宗教は、それぞれの文化や文明において世界観について共通点と相違点が顕著である。宗教史学の見地から宗教の歴史と展開を概観し、全体を俯瞰する姿勢を身につけてから、近代宗教学の発展ならびに同時代の哲学の展開について注目しつつ、宗教の本質論・比較宗教学や比較神話学の方法・文化人類学の方法・深層心理学の方法・民俗学的方法・社会学的方法など具体的に学ぶことによって、宗教を理解する基本姿勢を探求する。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	英語圏文学文化と日本A	この授業では、「日本人論」と呼ばれる、日本や日本文化について論じた一連のテキスト（英語圏の著者によるもの、英語圏に向けて書かれたものを含む）を歴史的に概観する。日本人や日本文化が、どのような形で理解され、表現されてきたかを考え比較文化論的な視点を養ってもらいたい。具体的には、日本人論とは何か、外から見た日本、外に向けて書かれた日本、古典的日本人論（第二次大戦前～戦後）に関して論じていく。文化を論じること自体の思想性について問い、今後の日本人論の在り方について自身の問題に引き付けて考える。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	英語圏文学文化と日本B	「英語圏文学文化と日本A」に引き続き、「日本人論」と呼ばれる、日本や日本文化について論じた一連のテキスト（英語圏の著者によるもの、英語圏に向けて書かれたものを含む）を歴史的に概観する。日本人や日本文化が、歴史上どのような形で理解され、表現されてきたのかを考える中で、比較文化論的な視点を養う。テーマは、ジャポニズム、映像文化・鑑賞、日本人論の展開と日本人描写、オリエンタリズムと日本人表象、「かわいい」から「クール・ジャパン」などである。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	ドイツ語圏文学文化と日本A	ドイツの風土や歴史、文化について、ゲーテやシラー、あるいは童話で有名なグリムなどといったさまざまな文学作品や文化風土資料、映像資料を通じて紹介していく。また、そのことを通じて、ドイツの風土・文化と日本の風土・文化の共通点や相違点について考え、異文化としてのドイツを広く深い視野で理解することをめざす。本講義では、ドイツ文化風土に関する基礎的な知識の提供からはじめて、具体的な文学作品の事例を紹介し、ドイツ文化風土を多角的に理解する視点を養っていく。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	ドイツ語圏文学文化と日本B	ドイツの風土や歴史、文化について、ゲーテやシラー、あるいは童話で有名なグリムなどといったさまざまな文学作品や文化風土資料を通じて紹介していく。また、そのことを通じて、ドイツの風土・文化と日本の風土・文化の共通点や相違点について考え、異文化としてのドイツを広く深い視野で理解することをめざす。本講義では、文学作品や思想書などの検討を進めながら、異文化ドイツを日本との関連において批判的に考える比較文学的視点を養うことをめざす。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	フランス語圏文学文化と日本A	フランスの風土、歴史、社会、文学、芸術についてさまざまな角度から紹介し、異文化としてのフランスについての理解を深める。その際、常に、比較文化史的視点に立ち、フランスの文化や風土と日本の文化や風土の共通性や差異について考えていく。はじめにフランスの地理や風土の特徴を日本と比較しながら紹介したのち、フランスがたどった歴史を日本と関連づけながら解説する。さらに、首都パリとさまざまな地方の風貌、文化的特色を概観し、異文化フランスを総合的に理解することをめざす。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	フランス語圏文学文化と日本B	フランスの風土、歴史、社会、文学、芸術についてさまざまな角度から紹介し、異文化としてのフランスについての理解を深める。その際、常に、比較文化史的視点に立ち、フランスの文化や風土と日本の文化や風土の共通性や差異について考えていく。本講義では、とくに、文学、美術、音楽、映画などといったフランス文化の諸相を具体的な作品の鑑賞を通じて見ていく。また、そうした作品を日本文学や美術、映画との比較しながら、比較文学文化史的な教養を身につけることをめざす。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	中国文学文化と日本A	日本文学に密接不離の関係にあった中国の文学からの影響関係をたどりながら、日中それぞれの特徴をとらえる。文学の発信、受容、影響、変容、定着という流れの中で、どのように日本に受け入れられ、独自の文化として形成されていったのかを考える。具体的には、日中比較文学の視点、恋愛小説、詩歌、史書、説話、記録文学、怪奇小説、短編小説、裁判もの、長編小説、翻訳、戯曲、笑話、絵本をとりあつかう。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	中国文学文化と日本B	日本文化に密接不離の関係にあった中国の文化からの影響関係をたどりながら、日中それぞれの特徴をとらえる。文化の発信、受容、影響、変容、定着という流れの中で、どのように日本に受け入れられ、独自の文化として形成されていったのかを考える。具体的には、花の表象文化、茶の表象文化、空間の表象文化、音楽の表象文化、芸能の表象文化、身体文化、庭の表象文化、食の表象文化、絵の表象文化、文学の表象文化、心の表象文化などをとりあつかう。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	日本の伝統行事A	社会はつねに変容してゆき、人々の暮らし方も変化しているが、人々の暮らし方や考え方のすべてが急速に変化するわけではない。人々の日常生活には、過去からの伝統的な生活と、社会変容にともなって変化した生活が混在している。授業では、「伝統行事」（民俗行事）の起源や変遷を知り、現代に行われている行事の実態と意義を民俗学の観点から考える。人々が過去から継承してきた生活や考え方は、家・地域・地方ごとに異なって存在しており、一律ではない。授業では、日本全国に共通して存在する伝統行事と、地域ごとに相違して存在する伝統行事について、時代による変遷にも目を向けながら考えていく。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	日本の伝統行事B	主な行事を取り上げ、日本社会が培ってきたさまざまな民俗の知恵を知ることにより、現代社会における課題と民俗とのかかわりを考えていく。人々の暮らしは、毎日繰り返される普段の仕事（労働）で生活が成り立っている。それに対して、年中行事や祭礼が行われる日（ハレの日）は、普段とは違うことが行われる。仕事は休みとなり、華やかな衣装や飾りをつけ、神を祭ってご馳走を供え、人々が集って食べ、歌や踊りで時を過ごす。一年の暮らしの中で、普段の生活にハレの目がかかるようにかわり、生活の中にリズムを作ってきたか、祭り行事の実態と意義を知る。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	日本の伝統芸能A	日本を代表する古典芸能である歌舞伎の特質と展開、実際の舞台について知り、理解を深めると同時に国際的な観点から歌舞伎の位置づけについて理解を深めるのが、本講義の目的である。わが国の長い歴史の中における伝統的芸能文化の代表的なものに歌舞伎がある。本授業では、この歌舞伎の成立と歴史、舞台装置、演目、役者、現代への変遷等の基本的知識の習得と、伝統芸能を体感するという意味で歌舞伎の舞台を鑑賞することを実践していく。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	日本の伝統芸能B	室町時代、足利將軍義満の庇護下で大成した能楽は、江戸時代において武家の武楽として固定化し再生芸術としての道をたどる。その歴史的意義や能楽が担った役割について押さえた上で、日本を代表する伝統芸能としての能楽の現代的意義を考察する。能楽前史から、室町將軍家の文化基盤を説明し、観阿弥・世阿弥が能楽を大成したこと、世阿弥の代表的な伝書や思想についても理解を深めていく。また室町時代の能楽の状況、安土桃山時代の能楽の状況、江戸時代に入り式楽への道を辿ったことなどを解説する。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	比較文学文化概説A	日本においては近代以前まで中国文化の影響を受けてきたが、19世紀から20世紀にかけて西洋文化の衝撃を受け、西洋と自国の文化比較により自身の文化の特色を再発見した。本科目は日本と中国における比較文学の先駆けをなした人物とその業績をとりあげながら、比較の題材によって、どのような方法が用いられてきたのかを学ぶことを目的とする。授業は講義形式で行う。講義においてはまず比較の視点の意味と概略を述べ、日本と中国の比較文学文化の実際を翻訳や詩論などの例から概説する。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	比較文学文化概説B	文学や文化の比較はそれぞれの国や地域の文化的特徴を浮き彫りにしてくれる。本科目は、日本と中国における比較文学の先駆けをなした人物とその業績をとりあげながら、比較の題材と比較の方法について、その基礎を学ぶことを目的とする。授業は講義形式で行う。講義においては、はじめに世界の文学を比較する時に持つべき複合的視野について解説する。その後「類型」「人間観」「異文化体験」「伝統論」「美意識と表現」という切り口から中国と日本の比較を行い、その特色について考察する。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	韓国文化事情A	韓国の歴史などを踏まえた上で現在の韓国文化を紹介し、結婚式などの韓国の諸行事、住居などの生活様式や食事マナーなどの日常生活と関連した韓国の文化を理解する。授業は講義形式で行う。その際ビデオや音楽などの視聴覚教材を使用しながら、日本の文化との比較を通して韓国文化への理解を深めていく。また講義においては、ハングル文字や韓国語の基本的な文法の解説を行い、韓国語で簡単な挨拶や自己紹介程度の会話ができる能力を身につけることを目指す。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	韓国文化事情B	本科目はことばを通して日韓文化の違いを理解し、韓国や韓国人への理解を深めることを目的とし、韓国文化と合わせて韓国語の基礎を学ぶ。授業においては韓国の文化を理解するためのビデオや音楽などの視聴覚教材を利用し、韓国の宗教、社会習慣、世界遺産など韓国の文化を紹介するとともに、食事の誘いや道案内、買い物といった日常場面での簡単な会話ができるよう基礎的な韓国語の練習も行う。授業は講義形式で行うが、韓国語で話す機会や時間も多く与える。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	児童文学A	毎回さまざまな角度から、主に現代の日本の児童文学作品を、2、3作ずつ紹介する。また、絵本や詩についても、随時紹介する。授業では、第一に、児童文学作品と出会う中で、自身の子ども時代からの読書体験を振り返り、その内実について考察すること、第二に、児童文学の特質について考えながら、さまざまな作品に親しむこと、第三に、児童文学作品の題材、テーマ、表現などについて考察し、それについて意見を述べ合ったり、感想を書きとめたりすることを目標とする。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	児童文学B	文学作品にはさまざまな法則、作法というものがあり、それによって作品たり得ている、ということができる。授業では、第一に、そうした文学作品の作法というものをなるべく実践的につかんでもらい、作品の背後にある「作法」について理解を深めること、第二に、そうした作法を意識しながら、文学作品を読む態度を身につけること、第三に、そうした作法を応用しながら、実際に作品を構想し、執筆することを目標とする。最終的に掌編作品を一作書きあげてもらう。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	英文学特講Ⅰ	『コスモポリタンス』はイギリスの作家W.S.モーム（WilliamSomersetMaugham）が1936年に発表した短編集である。モームは「私が旅をするのは人間というものを知るためなのだ」と書いたが、本作品の中でも旅を通じて知り合った人々の矛盾撞着に満ちた多様性を平明な文体と巧みな筋書きで書くことに成功している。『コスモポリタンス』から数編を読むことを通じて、基礎的な英語読解と内容解釈の力を養う。また、モームの作品の特徴でもあるシニカルな人間観に根ざしたユーモアの精神についても学んでいく。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	英文学特講Ⅱ	イギリス小説を代表するJaneAusten(1775-1817)とCharlesDickens(1812-70)の作品を一つずつ読む。前半で取り上げるのはディケンズの『オリバー・ツイスト』、後半はオースティンの『高慢と偏見』である。それぞれの作品のあらすじを確認しながら鑑賞のポイントを説明し、英語原文の引用を黒板で適時に紹介する。読む量が多いので受講者はあらかじめ原文が翻訳に目を通しておくこと。英文学史上必読の名作の内容と文章表現に親しみ、鑑賞する力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	英文学特講Ⅲ	Charlotte Brontëの長編小説“Jane Eyre”を講読する。この作品は、家庭教師として雇ってくれたソーニフィールドの邸宅の主人Edward Rochesterと結婚したJane Eyreが、孤児であった少女時代から結婚までを回想して一人称で語り、運命が与えた過酷な試練を乗り越えて成長し、究極の愛を実現する長編小説である。19世紀イギリスの男性原理に支配された社会体制の中で成長するJaneの自立と依存という問題に照明を与え、C. Brontëの文学的特質をつかみ、C. Brontëが読者に投げかけている問題を考えていく。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	米文学特講Ⅰ	「失われた世代」の作家の一人であるFitzgeraldの代表作、The Great Gatsbyを読む。今は人妻となった、かつての恋人Daisyを取り戻そうと、過去をくり返すことができると信じて疑わない主人公Gatsbyの「偉大さ」とは何かを考えることを狙いとする。同時に、Fitzgeraldの代表作を精読することにより、20世紀アメリカ文学に対する理解を深める。作品の精読により、Fitzgeraldの描く世界を鑑賞し、自分なりの解釈ができるようになることを目標とする。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	米文学特講Ⅱ	講義の目的・内容：アメリカ文学の代表的作家のひとりマーク・トウェインの長編小説「A Connecticut Yankee in King Arthur's Court」を読む。19世紀のアメリカ人が6世紀のイギリスにタイムスリップする不思議な物語を通して、マーク・トウェインが何を語ろうとしたのか考えてみたい。到達目標：マーク・トウェインの癖のある英文を理解できるようになり、文学作品の読み方に接する姿勢を身につけることが目標である。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	イギリスの文化と思想	講義の目的・内容：イギリスの文化と思想と一言にいってもそのあり方は多種多様である。本講義では、宗教、メディア、音楽などといった諸相について考え、イギリスの社会や歴史について理解を深めることを目的とする。イギリスの思想史をたどるものではない。到達目標：例えば「英国における食文化」など、各講義のテーマについて整理、説明できるようになる。日本においてイギリスの文化がどのように受容されているか、またはされていないのかを意識する。テーマ理解のために様々な資料にアクセスすることができる。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	アメリカの文化と思想	ビデオ等を使いアメリカの文化と思想を概説する。特定の教科書を読むのではなく、数回の授業を一単位とし、そこで一つのテーマ（例えばアメリカの原住民、西部開拓等）を取り上げ講義する。文学作品をより深く味わえるように、アメリカの歴史・文化を通して、アメリカの思想やアメリカ人の思考を理解することを目指す。講義形式で行うが、映像資料を見たときには、レポートの提出を求める。また夏季休暇中にレポート課題を課す。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	日本史概説	東アジアの一角に位置する「日本」の歴史を、総合的に把握することを課題とする。基礎となる歴史事象についての知識を獲得し、その方法を理解する。本講義では日本列島・日本人の形成、「日本史」の始まりから説明し、12世紀末までの古代国家の形成・展開・変容の過程を対象とする。到達目標は以下の2つである。1）日本史の流れを理解した上で、古代国家の展開過程を説明することができる。2）基礎的な事実を理解するとともに、それがどのような根拠・論拠で立論されているのかを理解し、自らの論理的な思考を構築することができる。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	西洋史概説	オリент史を含めて西洋古代史の基本的知識の習得を目的とする。歴史を学んだ者の共通の知識として、議論の出発点となり、ものを考えて行く際の拠点となる基本的知識というものがある。正確にそれを知り、今後何かの際にはすぐに取り出して、ものを考える際の土台ができるようにしておく必要がある。本講義は、オリент史を含めて西洋古代史に関わるそうした知識を伝達し、それを身につけるようにさせることを目的としている。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	生涯学習概論Ⅰ	複雑化し、不確実な現代社会において、子どもから高齢者まで、自分らしい生き方を求め、地域や社会を構築していく上で、生涯にわたる主体的・協同的な学習が不可欠となっている。本講は、誕生から死に至る人間の一生を通じて、家庭・学校及び社会で行われる生涯学習に関する基礎的能力を養うことを目的とする。生涯学習・社会教育の本質と意義を理解し、教育に関する法律・自治体行政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について検討する。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	生涯学習概論Ⅱ	社会の変動に応じ、労働と生活の主体として、その質を維持、向上するため、人間には生涯にわたる学習が求められてきた。それは、国家や企業体のみならず、民間のセクターによっても保障されてきている。また、貧困に苦しむ国や地域では、生きることそのものに関わる学習として、生涯学習の実践が展開されている。生き、働く状況と結びついて世界的に展開される生涯学習の内実と外延を理解するとともに、そこから学習と生が深く結びついた理路が求められている。本講では、世界各地で行われている生涯学習の実践と政策展開を通じて、いくつかの国と地域を取り上げながら概説し、その特徴と課題を明らかにすることを通じて、生涯学習の現代的意味と課題について検討する。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	特別支援教育概論Ⅰ	特別支援教育が法的に位置づいてから数年が経過した。この講義では、特別支援教育の基本的な考え方、特別支援学校の教育、小・中学校等における特別支援教育についての基本的な知識を習得することを目的とする。特殊教育から特別支援教育への展開の歴史的意義、各学校種における特別支援教育の進展度（体制整備の状況）の現状とこれからの在り方、視覚障害、聴覚障害など障害の種類に応じた支援のあり方とその特徴などについても考察することとする。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	特別支援教育概論Ⅱ	世界的な観点からの特別支援教育の概念の変遷について知ると共に、障害の概念や障害者観の変遷、障害者支援の基本的な理解を目的とする。また、障害者支援の在り方について学校教育に限らず幼児期からの支援や学校卒業後の支援（就労支援）に至る課題についても考察する。さらに、特別支援教育Ⅰで学んだことを基本として、学校における広汎性発達障害の児童生徒を中心とする特別なニーズを有する児童生徒に対する教育的対応の実践や医療的ケアを必要とする重複障害児への対応についての正しい理解と適切な指導や支援についての基本を身に付ける。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	家族心理学	この授業では、家族という人間の営み、家族関係にまつわる人間の心理が、いかに社会・文化的に規定されるものであるかを取り上げて検討する。私たちが「家族とはこういうもの」と当たり前のよう考えている事柄でも、観点を変えると違って見えてくる。自分の「常識」にチャレンジする授業となることを目指す。具体的には、現代に生きる私たちの「家族イメージ」が形成された経緯を知り、家族の姿は社会・文化的に変わることを理解すること、家族にまつわる心理や家族関係が社会におけるジェンダー規範と深く関連することなどの理解を図る。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	女性問題と学習	現在の日本で女性を軽視したり男尊女卑を公言する人はいないと思うが、男女が平等に扱われていると考える人もいないのではないか。女性問題は、日本の文化の中に深く根ざしており、日常生活と密接に結びついているため意識にのぼりにくい。本稿はそのことを意識化していくことを目的とする。しかし、単に知識を得るだけでなく、日常生活の中に「性による差別があること」を身近なテーマをもとに受講者自らが考えることを重視する。		
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	家庭教育論	本講では、歴史的、比較社会的視点の導入によって現代日本の子育てをめぐる状況を相対化してとらえ、家庭教育に関する議論を批判的に検討できる基礎的知識を養うことを目的とする。さらに成人教育、社会教育の視点からの実践の検討を行い、現代的課題に取り組む学習実践を展望する。歴史的かつ比較社会的な知識と視野をもち、批判的かつ多角的な視点から家庭教育について考察し論じることのできる力を身につけることを到達目標とする。		
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	児童文化研究	本稿では、まず、家庭で保護され、教育の対象として「子ども」を尊重するという、いわゆる近代的な「子ども」観の特徴を紹介し、児童文化の現状と問題点を整理することで、転換期にさしかかりつつある「子ども」像を再検討する。受講生には、近代的な子ども観の特徴、子どもと文化の関係性とその特質を自らの言葉で整理・指摘すること、また子ども文化の現状について討議できるようにすることを求める。		
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	言語・非言語コミュニケーションA	コミュニケーション研究の基礎的な知識や考え方および分析手法を学ぶ。言語コミュニケーション分野においては、発話行為論、会話分析、談話分析、相互行為分析の各分野について基礎知識と考え方を修得し、基礎的な事例分析ができるようになることを目標とする。非言語コミュニケーション分野においては、ジェスチャー研究、文化研究、空間分析などの学際的な分野について扱い、基礎知識、考え方、および基礎的な分析手法の修得を目指す。		
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	言語・非言語コミュニケーションB	コミュニケーション研究の中級レベルの知識や考え方および分析手法を学ぶ。言語コミュニケーション分野においては、発話行為論、会話分析、談話分析、相互行為分析の各分野について知識や思考力を更に深め、コミュニケーション事例の分析力の深化を目標とする。非言語コミュニケーション分野においては、ジェスチャー研究、文化研究、空間分析などの学際的な分野について扱い、各分野の知識や考え方、および分析手法の更なる深化を目指す。		
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	言語論A	言語学の基礎的な知識や考え方および言語データの分析手法を学ぶ。音韻論、音声学、文法論、統語論、形態論、意味論、語用論など、言語学の各分野についてまんべんなく基礎知識と考え方を修得し、基礎的な言語データの分析ができるようになることを目標とする。それに加え、社会言語学、心理言語学、応用言語学などの学際的な分野についても扱い、基礎知識、考え方、および基礎的な言語データの分析の修得を目指す。		
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	言語論B	言語学Aで学んだ基礎的な知識や考え方を復習し、中級レベルの知識と考え方、および言語データの分析方法を学ぶ。音韻論、音声学、文法論、統語論、形態論、意味論、語用論など、言語学の各分野について更に知識と考え方を深め、中級レベルの言語データの分析ができるようになることを目標とする。社会言語学、心理言語学、応用言語学などの学際的な分野についても扱い、知識と考え方、および言語データの分析力の深化を目標とする。		
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	比較文化論A	このコースでは、私たちが高校で受ける国家主義教育に真っ向から立ち向かっていく内容を扱っていく。国家主義的な視点に立ち向かっていく、その主な方法としては、過去そして現在の少数意見や対立に着目することである。学生はみな必ず授業に参加し、また一人で研究に取り組むことも求められる。学生は授業中にディスカッションできるように、宿題をして準備をして、いつも授業に來なければならない。学生は、個人またはグループで学習に励み、授業でディスカッションしたことについて考えていく。		
文学部共通科目	文学部基礎専門科目	比較文化論B	教育・ジェンダーと性（偏見・差別・不平等）・日本国における多様性・エンパワーメントといったこの授業で勉強する課題の重要性の理解を示す。地方・国家・地球のレベルで重要な課題を捉える複雑な文献を読んで理解を示す。クラスで捉える課題の一つについて更に調べて発表する。懐疑的に文献が読めるようになる。クラスの捉える課題に関して自分の倫理的な責任を真剣に問う。クラスの捉える様々な課題の繋がりを見つけ出して考える。クラスで勉強する課題と自分との関係を考えて人生に与えられた選択肢を自覚する。違った文化によって課題が違ってくるということを理解する。		
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	検定英語	英語力の向上を常に意識しながら、英語関係の各種検定試験で少しでも上級レベルの資格取得が実現できる英語力の養成を目指します。問題形式の教材をはじめとして、総合的な英語力アップのための各種教材を用いて、応用発展的な英語演習を行います。継続的な英語学習習慣を身につけられるようにし、TOEICで700点以上または実用英語技能検定で準1級以上を目指す。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	Practical Writing	日本もグローバル化の波に飲み込まれ、経済面でもかなり厳しい状況になっている。いまだかつてない程、異文化間のコミュニケーションが求められている。このクラスでは四技能の一つであるWriting、特にPractical Writingに焦点をあてクラスを進めていく。英文を書く場合、単に日本語の文を英訳するだけでは通じない場合が多くある。それは日本語と英語とは論理的な展開が全く違うということをまず理解する必要がある。クラスではその辺のことから平易に説明していきたい。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	Communicative English A	このコースは、学生に英語でコミュニケーションすることに対してより自信をつけてもらい、またそのための能力を身につけてもらうことがねらいである。重点を置いていることは、学生自身が既に知っている言葉を使って、流暢に、よりたくさん話せるようになること。本授業では特に、会話の導入、組み立てを学び、提案・勧誘の表現を習得することが目標である。学生は、遅刻することなくに出席し、授業に参加し、英語を使用することが求められる。授業時間には、短編ビデオ、リスニング、チームワーク、グループワーク、およびディスカッションを行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	Communicative English B	このコースは、学生に英語でコミュニケーションすることに対してより自信をつけてもらい、またそのための能力を身につけてもらうことがねらいである。重点を置いていることは、学生自身が既に知っている言葉を使って、流暢に、よりたくさん話せるようになること。本授業では特に、好き・嫌いや感情の表現を学ぶとともに、相手に要求したり、意見を言ったり、忠告したりできるようになることが目標である。学生は、遅刻することなく出席し、授業に参加し、英語を使用することが求められる。授業時間には、短編ビデオ、リスニング、チームワーク、グループワーク、およびディスカッションを行う。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	英語ⅠA	英語の基礎的な四技能のうち、リスニング、スピーキング、そしてライティングの技能のレベルアップに重点を置いた授業であり、英語による表現力やコミュニケーションの能力を養うことを目的としている。具体的には、正しい発音・アクセント・イントネーション、そして文法を理解した上で、英文を正確に聞き取る力、自然な英文を話す力・書く力を身につけるだけでなく、スピーチやディスカッション等で必要とされる相手を説得するための知識・技能も併せて学んでもらう。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	英語ⅠB	英語の基礎的な四技能のうち、リーディングの技能のレベルアップに重点を置いた授業であり、時事に関するもの、エッセイ、小説、物語、戯曲などを通じて読解力と異文化を理解する力を養うことを目的としている。具体的には、英文の各語句の意味や構文を把握し英文の内容を正確に読み取る力を身につけるだけでなく、時事に関するものであれば国際情勢の知識を修得してもらい、文学作品であれば登場人物の感情や性格、作品に込められた筆者の意図などについて深く考えることを学んでもらう。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	英語ⅡA	英語ⅠAを継承し発展させた内容で、リスニング、スピーキング、そしてライティングの技能のレベルアップに重点を置いた授業であり、中級・上級レベルの英語による表現力やコミュニケーションの能力を養うことを目的としている。具体的には、音声や文法について理解した上で、英文を正確に聞き取る力、自然な英文を書く力・話す力を身につけるだけでなく、スピーチ・ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション等で必要とされる相手を説得するための知識・技能も併せて学んでもらう。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	英語ⅡB	英語ⅠBを継承し発展させた内容で、リーディングの技能のレベルアップに重点を置いた授業であり、時事に関するもの、エッセイ、小説、物語、戯曲などを通じて中級・上級レベルの読解力と異文化を理解する力を養うことを目的としている。具体的には、英文の内容を正確に読み取るだけでなく、時事に関するものであれば要点を的確に掴む速読の技能を修得してもらい、文学作品であれば登場人物の感情や性格、作品に込められた筆者の意図などについて深く考えることを学んでもらう。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	英語ⅢA	これまで学習した英語を総合的に発展させた内容で、特に卒業後のビジネスの世界で実用的・実践的に役立つ知識・技能の修得を目指した授業である。具体的には、ビジネスの世界における専門的な用語や、求職・交渉・出張・苦情処理・プレゼンテーションなど様々なビジネスの場面に則した的確な表現を学び、英語でのコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。またそれに付随して、ビジネスを円滑に進めるために必要な背景知識も併せて学んでもらう。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	英語ⅢB	これまで学習した英語を総合的に発展させた内容で、特に卒業後のビジネスの世界で必須となる時事英語の理解に役立つ知識・技能の修得を目指した授業である。具体的には、時事英語特有の専門用語や独特の表現、文体的、文法的な特徴などについて学び、国内外の時事英語を読むための英語力を身につけることを目標とする。またそれに付随して、時事英語を深く理解するための政治的、社会的背景や報道の視点についてなどの関連知識も併せて学んでもらう。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅠA	ドイツ語初級文法の習得。ドイツ語の初級文法を、基本的な演習を繰り返すことで、習得していく。ドイツ語と英語は親戚関係にある。しかし、ドイツ語には枠構造と言うものがあり、それを頭に入れさえすれば、むしろ、感覚的に日本語に近いものを感じる人も多いはずである。この授業では、文法を理解するのではなく、身につけることを目指していく。そのためには、文法に従って、独文を作ってみることが大切である。簡単な文を繰り返し作り、文法を体で覚えていくことを目指す。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅠB	ドイツ語の初級文法をおさえつつ、練習問題や音声教材を用いて聴く・書く・話す・読むという4つの力を総合的に養っていく。中でも読解力は大事ですので、一年終了時には独和辞典を駆使しつつ、ある程度文章を自力で読む力がついているようにしたい。ドイツ語の習得を通じて、ドイツをはじめとするヨーロッパの文化や思想に触れる機会を持ち、ひいては自国の文化・思想との比較、そして深い理解につながるように、そしてこちらがその橋渡しができるように切に願う。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅡA	一年生の時に学んだ文法事項を補強しながら、より高度なドイツ語を理解できるように、丹念に積み上げていきます。文章を論理的に把握し、読み進めていけるようになるのを目標とし、ドイツ語独特の語感をさらに深く体得できるよう手助けします。また、正しい発音の完成を目指し、ドイツ語独特の響きを味わいつつ体感できるようになることにも努めます。最終的には、辞書を駆使しながら、自力である程度のもので読みこなせるように、じっくり指導していく。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅡB	この授業では、1.ドイツ語での口頭および文字コミュニケーション能力2.外国語学習の方法・方略（ドイツ語以外にも応用できるもの）3.異文化交流・相互理解の姿勢（ドイツ人以外にも発揮できるもの）上記の目的を達成するために必要な要素として、発音規則や文法の習得、語彙力の増強、発言する勇気を持つこと、周囲の声を聞く姿勢、グループワークや学生同士の交流といった機会を有効に活用する。また、ドイツ人と交流する際に意識するとよいことなどについても授業で触れていく。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅢA	この授業ではまず、①「ヘンゼルとグレーテル」のテキストを精読し、言語学者でもあるグリム兄弟がテキスト内に施したさまざまな「仕掛け」を考える。また、森、お菓子の家、鳥、魔女、女性、家族といった諸々のモチーフを考察しメルヒェンの文化的・歴史的背景をさぐる。さらに、②「ラプンツェル」のテキストを精読しつつ比較し、グリム兄弟の加筆の実態にせまるとともに、グリム兄弟のメルヒェン観を考察する。語学読解力を強化しつつ、文化史的知識を深めていく。	隔年開講

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅢB	ドイツ語中級程度の読解力、コミュニケーション能力のみならず、テーマにそった文化史的知識をも身につけることを目標とする。まず、コミュニケーション系のテキストに沿って、受講生にはそれぞれ会話を試みてもらう。さらに講読系のメニューにおいては、ドイツ語のテキストをひたすら読むだけでなく、講読内容をふまえた議論、考察、解説を随時行う演習方式をも取り入れ、語学読解力を強化しつつ、文化史的知識を深めていく。	隔年開講
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	フランス語	フランス語ⅠA	文法を中心にしながらフランス語の基礎を学ぶ。アルファベット、つづり字と発音の基本的な関係の解説から始めて、フランス語文法のもっとも基本的な文法事項を1年間で学習する。授業では文法事項の解説を主とし、適宜練習問題を取り入れながら知識の確認をする。学年の終わりにはフランス語の基本的な構造が理解でき、辞書を引きながら簡単な読み物が読めるようになっていることをめざす。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	フランス語	フランス語ⅠB	フランス語の基本的な発音、さまざまな基本文、語彙などを学び、フランス語によるコミュニケーションの基礎力を習得する。文法の授業における解説を適宜補足しつつ、日常生活でよく使う文や表現を提示すると同時に、聞き取りや音読の練習を通じて、実用フランス語検定4級程度のコミュニケーション能力を養成していく。時間のあるかぎりにおいてフランスについての基本的な情報を提供し、フランス文化についての学ぶことの楽しさを学生に理解させる。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	フランス語	フランス語ⅡA	1年次の学習を引き継ぐ形で、初級文法の知識の知識を補いながら、読解力をつけていく。1年次に習得した文法事項を再確認しながら、さまざまな時制や法（条件法・接続法など）について紹介し、フランス語文法の基礎力の完成をめざす。また、平易な読み物の訳読を通して語彙力、構文の理解力をつけると同時に、フランス語とフランス文化についての理解を深めていく。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	フランス語	フランス語ⅡB	1年次の文法事項や基本的な発音、語彙などを再確認しながら、フランス語の基本的なコミュニケーション能力を養成する。平易な読み物や会話教材を通じてフランス語の発音と基本的な文型を確認していく。聞き取り、音読の授業を重視し、実用フランス語検定3級程度のコミュニケーション能力の養成を目標とする。また、フランス文化や生活事情などについて適宜紹介する。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	フランス語	フランス語ⅢA	初級文法をひととおり習得している学生を対象とし、文法・読解を中心としたフランス語力に磨きをかける。時制、法、文型などフランス語文法についての知識を充実させるとともに、フランスのさまざまな文学作品を難易度に沿って段階を追って演習方式で読みながら、読む楽しみを味わっていく。さらに、文学作品についての解説やフランス文化事情についての解説を加えながら、フランス語と文化事情についての知識を深めていく。	隔年開講
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	フランス語	フランス語ⅢB	2年次までに学んだフランス語の力に磨きをかけ、実用的なフランス語能力を養っていく。教材として日常生活から文化、政治まで、現代フランスに関するさまざまな情報を集めたテキストを用い、フランス語力をつけると同時に、現代フランス事情についての考察を行う。また、実用フランス語検定準2級ないし2級相当の実力をつけることを目標に、音読、聞き取り、書き取りなどの練習を随時行う。さらに、フランス文化事情について紹介し、2異文化を批判的に考察する眼を養う。	隔年開講
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	中国語	中国語ⅠA	中国語の発音とその発音表記、基本文型など総合的な語学力を身につけることを狙いとする。春学期は発音とローマ字による発音表記とその規則、簡単な文型を学び、秋学期から体系的に文型の習得に重点をおく。中国語の正確な発音とその表記を習得できること、基本文型を使って表現ができることなど、次のステップへの確固たる語学基礎を身につけることをめざす。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	中国語	中国語ⅠB	中国語の発音の特徴を知り、ピンイン（中国語発音表記）の規則を理解し、正確に読み、書け、聞き取れるようになることを第一段階の目標とする。そして、コミュニケーション用語の基礎、すなわち、中国語の挨拶、日常会話を中心に基礎力をつける。授業では、実践を重視し、ネイティブの教員が担当する。聞く力と同時に、相手とのコミュニケーションができるよう実践を積む。同時に、中国の習慣などに対する理解も促す。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	中国語	中国語ⅡA	講読を重点とする二年目の中国語授業である。基本文型の学習に取り組み、中文日訳と中国語による問答の力を向上させることをめざす。1年次で学んだ初級段階の発音・語彙・文法を中級レベルに引き上げる。長文でもその文構造が自然にわかるような分析力を身につける。同時に中国語の音の知識を正確なものとし、不確かな発音を徹底的に矯正していく。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	中国語	中国語ⅡB	中国語の基礎を一通り学習した学生を対象とし、中国語の「話す・聞く」におけるやや高度な実践的会話能力を養うことを目標とする。授業が進むにつれて、パターン化した会話を身につけ、日本と中国の文化を比較しながら、より表現力の豊かな会話を練習する。講義はできる限り中国語で進行し、特に授業用語は中国語を使う。教員の質問に聞きとれ、それに答えられるよう練習し、自己表現できる力をつける。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	中国語	中国語ⅢA	中国語における読み解く力を身につけることを目的とする。春学期は、中国で今ホットな話題を題材にした時事中国語を用い、中国社会の最前線でどんな現象がおきているのか、新しい言葉や概念を学ぶことを目的とする。秋学期は、話題の文芸作品を題材として、作品世界を理解するための修辞方法や、構文のしくみなどを具体事例を味わいながら身につけていく。	隔年開講

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	中国語	中国語ⅢB	中国語Ⅲは、読むスキルを主に学ぶAと話すスキルを主とするBとを隔年で学んでいく。Bは話す表現のスキルアップをはかることを目的とする。春学期は、歴史に残る名スピーチ題材とし、秋学期は、名作シナリオを題材とする。豊かで巧みな表現にじっくりとふれ、文構造、修辞技術などを理解し、さらに表現を自分のものとして応用できるようにように定着をはかる。	隔年開講
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	(留学生用) 日本語	日本語ⅠAA	大学生活及び社会生活において必要とされる論理的な日本語の運用能力を育成することを目的とする。そのため、説明文・論説文・評論文などを中心に扱い、日本語を正確に理解し、適切に表現する力を養う。具体的には、まず、レポートや小論文などの論理的な文章を書くための表現のトレーニングを行う。次に、文のレベルでのレポート独特の用法や表現方法について学んでいく。また、レポートの形式や文脈展開、論の組み立て方などについてもとりあげる。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	(留学生用) 日本語	日本語ⅠAB	基本的には、日本語ⅠAA(春学期)の内容をふまえて講義を行う。春学期に学んだ表現技術について大まかな復習を行った上で、人文・社会・科学などの様々な分野をとりあげ、その内容の要約を行ったり、筆者の指摘に対する自己の見解をまとめたりするといった、実践的な課題にとり組んでいく。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	(留学生用) 日本語	日本語ⅠBA	大学生活および社会生活において必要とされる論理的な日本語の運用能力を身につけるための練習を行う。情報を収集、整理し、問題の解決にあたり、企画を練り上げたりといった知的生産を、日本語で自由にできるようになることを目的としている。春学期開講のこの授業では、レポート、論文を中心とした論理的で客観的な文章が書けるようになることを目標とする。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	(留学生用) 日本語	日本語ⅠBB	大学生活および社会生活において必要とされる論理的な日本語の運用能力を身につけるための練習を行う。秋学期開講のこの授業では、コミュニケーション・プレゼンテーションについて学ぶ。効果的にプレゼンテーションをするにはどうしたらいいか、他人のプレゼンテーションをどのように聞けばいいのかを考える。また、ディベートの目的、議論の展開方法、評価の方法について学ぶ。対立が生じるテーマでの議論の方法を学ぶことで、生産的な議論ができるようになることを目標とする。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	(留学生用) 日本語	日本語と日本社会A	本講義では、現代の日本社会がかかえる課題と論点について調査・報告・議論することを通して、各テーマにふさわしい表現力を身につけることを目的とする。取り上げる予定のテーマは、教育、文化、科学技術、スポーツ、観光等である。受講生は、各テーマの中から関心のあるテーマを選び、演習形式で報告・討議する。到達目標は、現代日本社会において何が論点となっているかを調査・報告し、他者と意見交換することができるようになることである。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	(留学生用) 日本語	日本語と日本社会B	本講義では、現代の日本社会がかかえる課題と論点について調査・報告・議論することを通して、各テーマにふさわしい表現力を身につけることを目的とする。取り上げる予定のテーマは、経済、産業、国際関係、少子高齢化、医療、福祉等である。受講生は、各テーマの中から関心のあるテーマを選び、演習形式で報告・討議する。到達目標は、現代日本社会において何が論点となっているかを調査・報告し、他者と意見交換することができるようになることである。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	(留学生用) 日本語	日本語と日本文化A	本講義の目的は、日本語の言語文化を理解し、あわせて第二言語として日本語を使用する学生を対象に大学において必要となる日本語力を高めることである。より具体的な到達目標としては、多文化の1つとしての日本文化という位置づけにおいて、日本語に現れた文化に気づき、自らの言語行動、コミュニケーション行動を振り返ること、そこで得た気づきを表現する方法を学ぶことである。そのために、日本語と日本人の言語行動を調査、観察し、報告したり、ディスカッションしたりする活動を行う。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	(留学生用) 日本語	日本語と日本文化B	本講義の目的は、日本語の言語文化を理解し、あわせて第二言語として日本語を使用する学生を対象に大学において必要となる日本語力を高めることである。より具体的な到達目標としては、多文化の1つとしての日本文化という位置づけにおいて、日本語に現れた文化に気づき、自国の文化と比較すること、そこで得た気づきを表現する方法を学ぶことである。そのために、日本語と日本人の言語行動を調査、観察し、報告したり、ディスカッションしたりする活動を行う。	
文学部共通科目	諸資格関連科目		教育基礎論Ⅰ	本講では、現代教育の諸問題、教育をめぐる諸事象を検討する際に必要となる知識、考え方の基礎を身につけることを目的とし、教育学に関するさまざまな分野についての概括的な知識の獲得と理解をはかる。人間の文化とその伝達の特異性、成長・発達についての考え方の基本、教育に関する諸規定などを検討の対象とする。また、学校教育の内容を左右する学習指導要領の歴史的変遷を取り上げ、学校教育の社会的性格についても検討する。	
文学部共通科目	諸資格関連科目		教育基礎論Ⅱ	本講では、教育現象、特に学校教育現象に焦点を当てながら、具体的な諸問題を取り上げて検討する。学校制度の機能とその問題点、教育を受けることが国民の権利として保障されていることの歴史的・教育的意義などを中心に整理する。具体的には、教育が臣民の義務とされていた教育勅語体制と戦後の日本国憲法・教育基本法体制との比較、保護者の教育義務と就学義務、市町村の学校設置義務、義務教育の無償制と就学保障制度などを検討の対象とする。	
文学部共通科目	諸資格関連科目		図書館概論	日本における図書館と図書館をめぐる情勢は日々刻々変化している。授業では、こうした変化を踏まえながら、受講者に図書館というものの仕組みや歴史、社会的な存在意義を正しく認識してもらおうと共に、インターネットの普及や図書デジタル化の進展といった大きな情報変革の時代に生きている私たちが、将来にわたってよりよい図書館を作っていくためにはどうしたらよいかを考える手がかりを見出してもらうことを目的とする。今日の図書館が抱えている諸問題についての正確な認識を得ること、今後の図書館のあり方について具体的なイメージを描けるようになることを目標とする。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目	情報サービス論	図書館で行われているレファレンスサービスや情報検索サービスといった、さまざまな「情報サービス」について、その意義や基本的な概念等を理解することを目的とする。はじめに、情報サービスの概念やその内容の歴史的な変遷について説明する。次に、情報サービスを支える参考図書やデータベース等の各種情報源の特徴や使用方法について具体例を挙げて説明を行う。さらに、パスファインダーの事例に見られる発信型情報サービスといった新たな情報サービスについても説明を行う。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目	児童サービス論	授業では、子供を自ら図書館・読書に向かわせるサービスとはどのようなものか、授業で想定する子どもや図書館と、現実のそれとのギャップはどこから生まれるのかを考える。サービス対象者である乳幼児・児童の実状を把握すること、児童資料にはどのような物があるか説明できること、児童サービスのさまざまな方法について理解すること、そして図書館サービス全体の中での児童サービスの位置付けを理解し、計画立案できるようになることを目標とする。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目	図書・図書館史	社会の移り変わりや科学技術の進歩、ネットワークや新しい形態のメディアの普及と照らし合わせながら、日本の図書館が閉鎖された図書館から市民に開かれた図書館へと発展した変遷を振り返る。さらに、図書館の基本理念である資料収集と資料提供の自由について現在の社会問題と関連させながら考察し図書館の社会的役割と使命について理解を深める。また、革新的な試みを行っている国内外の図書館を参考にしてこれからの図書館のあり方について議論する。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目	図書館制度・経営論	本講義では、受講生各自に少なくとも2つの視点を持ちつつ受講・学習してもらいたい。ひとつは、図書館という有機体が、従来からどのようなシステムによって運営・維持されているかを理解しようとする学習の視点である。もうひとつは、そのシステムが現在どう変化を求められ、どの方向に進もうとしているかを理解しつつ、しかし現状を批判的に捕らえ自らが考える視点である。批判は決して否定ではなく発展の一要素だと考え、「図書館経営」を理解してもらいたい。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目	図書館サービス概論	様々な社会構造の変化が起こる中で、図書館が利用者に与える事のできるサポート、サービスにはどのようなものがあるのかを理解することが目的である。本講義では、公共図書館を中心とした図書館の機能、構成要素、役割、業務内容を、図書館と利用者双方の背景をふまえて確認していく。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目	情報サービス演習A	高度情報化社会、電子情報社会、生涯学習社会に対応した図書館情報サービスについて基本的な認識を形成する。演習課題においては、情報検索のメカニズムとレファレンス・サービスの理解に焦点をあて、履修生が図書館司書役と図書館利用者役になり、与えられた検索質問について図書館利用者役が検索し、図書館司書役が支援するというやり取りをとおして、高度情報化社会、電子情報社会、生涯学習社会に対応した図書館情報サービスに必要な知識と技術の習得を目指す。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目	情報サービス演習B	「情報サービス演習A」で習得した情報検索のメカニズムとレファレンス・サービスの在り方についての理解をふまえ、次の各視点、すなわち、課題解決支援サービス、図書館利用教育、発信型情報サービスとパスファインダー、情報サービスの評価について考察をより深める。演習課題においては、履修生が図書館司書役と図書館利用者役になり、課題解決型質問についての情報検索と支援のやり取りを実際に行って上述の各視点について考察を深める。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目	図書館情報資源概論	メディアの多様化に伴い、図書館で扱う資料にも変化が起こっている。利用者の要求に応える事のできる図書館となるために、新旧いずれの種類の資料にも対応できるよう、その歴史、流通、選択、管理、利用について解説する。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目	図書館情報資源特論	学問・研究のため、仕事のため、また、生活上の関心や問いについて深く考えるために、私たちは日々、さまざまなテーマの資料や情報が必要とする。図書館利用者のニーズが多様化し、質的に深化するなかで、特定の主題分野・領域を対象とする専門資料の活用は欠かせないものとなっている。この科目では、人文科学・社会科学・自然科学・技術分野などの主題専門分野における資料・情報源の特性や種類について概説し、図書館における専門資料の活用（収集・組織・保存・利用提供）についての基礎知識を学ぶことを目的とする。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目	情報資源組織論	本講義では、まず、図書館における資料組織化の意義からスタートし、資料組織法を概括する。その後、多くの学生が受講するであろう「資料組織演習」に備えて、現実利用されているいくつかの組織法について理解しよう。また、各組織法自体が、コンピュータを利用したボーダーレスになりつつある状況も把握し、コンピュータやデータベースを利用した資料組織演習のために、最低限必要な知識を身につける。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目	情報資源組織演習A	図書や雑誌、ネットワーク情報資源などの多様な情報資源に対する主題分析、分類作業（分類記号の付与）、件名作業（件名の付与）について演習を行う。分類記号および件名を付与するためのツールとして、前者は『日本十進分類法（NDC）新訂9版』、後者は『基本件名標目表（BSH）第4版』を用いる。それぞれのツールについて使用方法を学ぶとともに、実際に分類記号および件名の付与を行う。以上のことを踏まえて、情報資源組織業務の一部である分類作業や件名作業について理解することを目的とする。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目	情報資源組織演習B	図書館が収集・提供する図書や雑誌、ネットワーク情報資源などの多様な情報資源を同定・識別するためのツールとして「目録」がある。目録を作成するためのツールである『日本目録規則（NCR）1987年版改訂3版』を用いて、その使用方法を学ぶとともに、実際に目録作成（目録作業）を行う。加えて、「書誌ユーティリティ」、「コンピュータ目録」といった、目録にかかわるさまざまなことがらについても説明を行う。これらを踏まえて、情報資源組織業務の一つである目録作業について理解することを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部共通科目	諸資格関連科目	図書館情報技術論	図書館の業務・サービスを実施するために必要な基礎的な情報技術について説明を行う。具体的には、コンピュータとネットワークの基礎、図書館業務システム、検索エンジンなどを挙げることができる。これらのトピックや事例に対する説明を通して、図書館の業務・サービスを実施するために必要な基礎的な情報技術の知識を身につけることを目的とする。必要に応じて上述の情報技術（およびその事例）を実際に利用する。以上のことを踏まえ、図書館が情報技術とどのように向き合っていけばよいのかについて考察する。	
文学部共通科目	諸資格関連科目	学習指導と学校図書館	教育課程の展開において重要視されている情報化社会・生涯学習社会・国際社会を担う児童・生徒に求められる力、すなわち日々の生活で遭遇する問題を解決する力、主体的に学ぶ力、論理的に考える力の育成を支援する学校図書館と学校図書館司書教諭の役割について理解し認識を形成する。また、情報活用能力・学び方・論理的思考力育成のために学校図書館メディアを効果的に活用する教授方法や学習方法についての理論を理解し実践的な技術の獲得を目指す。	
文学部共通科目	諸資格関連科目	読書と豊かな人間性	読書が子どもの人間形成にもたらす効果と読書の意義、読書と子どもの発達段階との関係、環境が読書に及ぼす影響について論じる。また、ブックトーク、読み聞かせ、読書感想文、アニメーション、リテラチャーサークルなどの読書指導法を取りあげて、子どもたちに読書の喜びを教え、子どもたちが生涯をとおして読書に親しむようになることを促す読書指導について考察する。さらに、遊び、テレビ、ゲーム、インターネットに話題を広げ、これらと読書との関係について議論する。	
文学部共通科目	諸資格関連科目	学校経営と学校図書館	学校図書館は、新学習指導要領やその他諸法律及び各種通達等で、学校の教育活動の中に位置づけるものとして、その機能がますます重視されている。PISAの調査では、読解力の低下が指摘され、それを受けて国や各地方自治体では、子どもの読書活動推進計画が策定されている。読解力を含めた「読書力」の向上を念頭に置いた学校図書館と、その機能を十分に果たすべき司書教諭の在り方を、関係資料を参照しながら考察していく。また、公共図書館を含めた「図書館」の全体像等からも考察する。	
文学部共通科目	諸資格関連科目	情報メディアの活用	グローバル化した現代世界において、情報の持つ意味はますます大きくなってきている。本講義においては、こうした高度情報社会にあって、情報メディアをいかに活用するかについて、できるだけ幅広い角度から学ぶ。3つの課題、「情報メディアの発達と教育」、「情報メディアを実際にどう活用するのか」、「情報メディアに関わる法的、倫理的課題」をテーマに設定していきたい。	
文学部共通科目	諸資格関連科目	学校図書館メディアの構成	学校図書館メディアの特性とその組織化について基本的な認識を形成するとともに、実践的な技術の獲得を目指す。具体的には、学校図書館メディアの種類とそれぞれの特性について理解し、次にメディアを教育課程の展開に有効利用するための各視点、すなわちメディア構成の目的、目録法、件名法、分類法、収集・受入、装備、排架の一連の作業、及び評価について理解する。さらに、図書館管理システムの導入など近年の学校図書館を取り巻く状況について考察する。	
文学部共通科目	諸資格関連科目	視聴覚教育(視聴覚教育論を含む)	教育方法としての視聴覚教育の現状と課題や、メディアの特徴や教育目的に合った活用方法について検討する。また、メディアを利用して効果的で、効率的な教育行為を実践するために必要なスキルを身につけることを試みる。そのために、プレゼンテーションやマルチメディア教材の作成と発表など実習形式での授業を行う。視聴覚教育の定義及び歴史、教育・学習モデルについての教育工学的見地からのとらえ直しと理解の深化、学校教育における活用などが課題となる。	
文学部共通科目	諸資格関連科目	社会教育計画論Ⅰ	本講は、生涯学習社会を構築する上で重要な役割を果たす、社会教育計画の核となる概念やポイントを押さえながら、社会教育職員として必要な能力を高めることを目的とする。歴史的・国際的視点に加えて、現代的課題も取り上げ、社会教育計画の世界を学ぶ中で、社会教育主事にふさわしい実力を身につけることをめざす。具体的には、社会教育計画の意義や役割の基本についての理解、新たな時代に対応する社会教育計画のあり方についての見解の整理、教室での学習と現場の取材を循環させながら、社会教育計画の理解を深めること、などが課題となる。	
文学部共通科目	諸資格関連科目	社会教育計画論Ⅱ	本稿は社会教育主事資格取得のための必修科目の一つであり、社会教育職員として必要な能力を高めることを目的とするものである。特に、生涯学習の支援という観点から、国内外の理論と実践をふまえて、人々の生涯にわたる発達と生活文化を育む社会教育計画のポイントの把握を課題とする。また、計画の実施・評価段階の要点を理解した上で、現場で応用しうる主催事業の開発を目指す。	
文学部共通科目	諸資格関連科目	博物館概論	博物館に関する基礎的な講義をおこなう。博物館の歴史、機能や役割、学芸員の仕事などについて理解し、実際の博物館見学に役立てるとともに、現代社会における博物館について自ら考えていってもらいたい。以下の3つを到達目標とする。①博物館の歴史および、機能について説明できる。②現代社会における博物館および学芸員の社会的役割を指摘できる。③博物館に興味と関心をいだき、将来にわたって、博物館を利用し、楽しむことができる価値観を共有できる。	
文学部共通科目	諸資格関連科目	博物館資料論	博物館資料への視野を広げるのを目的とする。特に、歴史学の視点から博物館資料をとらえ博物館の調査研究活動を通しての資料の重要性を学ぶ。博物館の成り立ちから誕生までを概説しわが国の博物館の特徴を学び、特に歴史資料が各博物館においてどのような位置にあるかを考える。歴史資料をコレクションの核とする歴史館はもちろん、そうではない、美術館、植物園などの館における調査研究活動を紹介してその意義を考える。	
文学部共通科目	諸資格関連科目	博物館展示論	博物館学芸員の仕事の1つの柱には博物館の運営があり、その中でも常設展示・企画展示など展示は博物館の「顔」とも言うべき重要な業務である。展示行為こそがその他の教育機関と博物館を区別する要素である。博物館には様々な種類があり、展示内容もまちまちであるから、これだけが唯一の正しい方法というものはないが、展示の基本理念には共通する部分もあり、具体的な博物館展示をも素材に、こうした側面の基本的素養を身につけるように図りたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部 共通科目	諸資格関連科目	博物館経営論	博物館が社会や市民の期待に真摯に応えるためには、経営（ミュージアムマネジメント）は必要不可欠な概念である。マネジメントの工夫は、博物館を魅力的な存在に導くこととなるであろう。この講義ではマネジメントの意義と価値を述べ、博物館の行財政制度、人材と組織、施設・設備の整備と管理、倫理、マーケティング、地域連携、事業計画と評価などについて解説することを通じて、博物館を活性化させ、需要を創出するための方法を検討する。	
文学部 共通科目	諸資格関連科目	博物館資料保存論	資料は博物館にとって根幹となるモノであり、その資料を保管・保存し、後世に伝えることが博物館に課せられた重要な使命の1つである。一方でその資料を展示することは資料の劣化につながる懼れもあり、この相矛盾した行為が博物館活用には存する。そこで、本講義では、博物館資料およびその保存・展示環境を科学的に把握し、展示と保存という本来矛盾した博物館業務を円滑に行い、貴重な資料を良好な状態で保存していくための基礎を学ぶ。主に収蔵庫内での保存環境や展示の際に資料に及ぼす外的・内的要因などを理解することを図りたい。	
文学部 共通科目	諸資格関連科目	博物館教育論	博物館における教育の位置づけに加えて、教育的役割を果たすことを目的とした博物館の諸機能、生涯学習と博物館の関係について理解する。そのうえで、公教育機関として博物館の諸活動を見直し、博物館の果たすべき目的と機能について考える。さらに、教育的視点に立脚した博物館展示やワークショップなど、各種の学習支援活動に関する知識と方法を習得して、博物館教育に関する基礎的能力を身に付けることを目指す。	
文学部 共通科目	諸資格関連科目	博物館情報・メディア論	博物館にとって、映像などの視聴覚情報をどう取り入れていくべきか、さらに博物館資料をどう情報公開していくかについて、明確な答えを出せるようにするのが、本授業の目的である。前半は、映像と音声ガイドなど、主に視聴覚機器を用いた情報発信の成立過程と実際を検討する。そのために、視聴覚機器を利用した博物館の見学実習を1～2回予定している。後半は、博物館の情報発信として、最も根幹にある、資料の整備について、実際の分類例を提示して、データベースの構築過程を学ぶこととする。	
文学部 共通科目	諸資格関連科目	博物館実習Ⅰ	本講義では、文献資料や民俗資料などを中心に、歴史系博物館で取り扱う資料の整理・活用に関する実習を行う。実習は班単位とし、授業数回にわたって一つの作業をこなしていく、7月以降は模擬展示に向けて準備する。以下の3つを到達目標とする。①歴史系博物館の学芸員として必要とされる基礎的な知識、技術について修得する。②学芸員資格を取得する上で、「博物館の仕事」について具体的に認識を深める。③班単位の行動を通じて、他の班員と協調、協力することで創造的な成果を作り出す。	
文学部 共通科目	諸資格関連科目	博物館実習Ⅱ	学芸員資格取得のための最終科目として博物館実習のまとめをおこなう。博物館に関する基本的な知識、博物館資料の取扱について、講義および実習をおこなう。また館園実習に臨むにあたっての心構えについて指導する。日頃から各自が多くの博物館を訪れ、これまでの学芸員資格取得のための授業で習ったことを実際に確かめておくこと。館園実習は、各自の受け入れ先の博物館にて指導をうけること。学芸員有資格者として十分な知識、技術を身につけることを、到達目標とする。	
文学部 共通科目	キャリア教育	インターンシップ	本科目は、文学部学生が卒業後、社会により適切に順応しつつ活躍の場が持てるよう、在学時に一定期間「就業体験」を試み、その活動を卒業単位として認めようとするものであり、学問は机上でのみ行われるものではなく、実践を伴うものでもあるとする学祖の思想の反映でもある。なお、インターンシップに出掛ける前に、事前説明を兼ねた指導会を開催し、就職のための心構えや社会人としてのあり方について、様々な角度から考える機会を提供する。	
文学部 共通科目	キャリア教育	ボランティア活動	文学部学生が、ボランティア活動を通じて、社会に積極的に関わり、人々と共に生きていくという姿勢を学ぶことで、人生を力強く生きていく為の勇氣と糧を得、それを卒業単位として認めようとするものである。これは、学問は広く万民と共にあらねばならないとする学祖の思想の実践でもある。またボランティア活動の前に、事前説明を兼ねた講義をおこない、その心構えや意義について、様々な角度から考える機会を提供する。	
文学部 共通科目	キャリア教育	キャリア支援Ⅰ	本稿の目的は、学生が将来について真剣に考え、学び、行動するためのサポートである。答えのない時代といわれるなか、自分軸をしっかり持って、主体的に学び、行動するためには、基盤となる知識やスキルを身につけて、磨き続けることが求められている。本稿では、学生と教員がそれらの知識やスキルについて共に探究し、お互いが触発し合うことを意図している。具体的には、コミュニケーション能力、課題発見能力、プレゼンテーション能力、文章表現能力、ディベート能力を身につけることをめざす。	
文学部 共通科目	キャリア教育	キャリア支援Ⅱ	本講座は、日本語の文章読解力と表現力を養成する。ある程度の長さを持つ文章を論理的で説得力のある形に仕上げるには、それなりの知識とトレーニングが必要である。日本の代表的な文学作品や新聞記事、評論、エッセイ等、さまざまな文章を題材として扱いながら、特にレポートや論文などに必要な論理的な文章の書き方を習得することに重点をおいて、説得力のある論理的な文章を書けるように徐々にステップアップをはかっていく。	
文学部 共通科目	キャリア教育	教員養成講座Ⅰ	本講座は、教職を志す学生が在学時から教師として「最小限度必要な資質・能力」を身に付けると同時に、教員採用試験に合格できる実力や高い志をもって挑戦する態度を養成することを目的とする。具体的には学校現場の課題や事例を通して教師の心構え、指導方法、児童・生徒の理解、指導計画の立て方等を身に付けることをめざす。また、学習指導案による模擬授業・集団面接を行い、対人関係、協調性、実践的指導力の獲得をめざす。	
文学部 共通科目	キャリア教育	教員養成講座Ⅱ	本稿は「教員養成講座Ⅰ」と同様の目的をもつ科目である。具体的には、個人・集団面接対策、ロールプレイを通じた教育相談、地域・保護者との連携、道徳教育、学校の組織と運営、児童・生徒理解、生徒指導、キャリア教育の推進、教師の職務と研修など、学校現場での教育実践により近い内容について取り上げて、学生自らが教員としての自覚と教員になるためのスキルを身につけることをめざす。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	必修科目	東洋思想文化への誘い A	(概要) 東洋思想文化学科の学問領域全体について基礎知識を養い、今後の勉学への動機づけを行うことを目的とする 1 年必修の導入科目である。講義形式を採るが、扱う範囲が広いので、専門を異にする複数の教員のオムニバス形式で行う。2 年次以降、「インド思想」「中国語・中国哲学文学」「仏教思想」「東洋芸術文化」の 4 コースに分かれるため、各分野の性格の違いやそれを学ぶおもしろさを伝え、学生がコース選択を誤らないようにしたい。春学期は中国文学、中国語、仏教思想を専門とする教員が中心となって授業を運営する。 (オムニバス方式／全15回) (76 坂井多穂子／2回) 中国古典文学概論中国語概論 (2 野間信幸／3回) ガイダンス近現代中国文学概論まとめ (8 川崎ミチコ／2回) 敦煌文学概論敦煌学概論 (6 渡辺章悟／2回) 大乘仏教概論Ⅰ 大乘仏教概論Ⅱ (4 山口しのぶ／2回) チベット仏教概論密教概論 (7 岩井昌悟／2回) ブッダの生涯と思想部派仏教概論 (15 伊吹敦／2回) 中国仏教概論日本仏教概論	オムニバス
		東洋思想文化への誘い B	(概要) 東洋思想文化学科の学問領域全体について基礎知識を養い、今後の勉学への動機づけを行うことを目的とする 1 年必修の導入科目である。講義形式を採るが、範囲が広いので専門を異にする複数の教員のオムニバス形式で行う。2 年次以降、「インド思想」「中国語・中国哲学文学」「仏教思想」「東洋芸術文化」の 4 コースに分かれるため、各分野の性格の違いやそれを学ぶおもしろさを伝え、学生がコース選択を誤らないようにしたい。秋学期は、中国哲学、インド思想、東洋芸術文化を専門とする教員が中心となって授業を運営する予定である。 (オムニバス方式／全15回) (5 山田利明／3回) 中国哲学概論道教思想概論Ⅰ 道教思想概論Ⅱ (1 小路口聡／2回) 儒教思想概論Ⅰ 儒教思想概論Ⅱ (3 橋本泰元／2回) ヒンドゥー教概論Ⅰ ヒンドゥー教概論Ⅱ (9 沼田一郎／4回) ガイダンスインド思想概論Ⅰ インド思想概論Ⅱまとめ (4 山口しのぶ／2回) 東洋美術概論Ⅰ 東洋美術概論Ⅱ (7 岩井昌悟／2回) 仏教文学概論Ⅰ 仏教文学概論Ⅱ	オムニバス
専門科目	必修科目	レポート・論文制作の技法	大学における研究の心得（高校までの学習との違い）、参考文献の利用方法（特にインターネットを参照する際の注意）を知り、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方などのスタディ・スキルを身につけることを目標とする。はじめに担当教員が講義形式で入門を講義し、その後は受講生自身がレポートを作成して口頭発表を行う演習形式で進める。毎回、受講生にコメントをもとめ、よかった点、悪かった点などを批評し合う。	
専門科目	必修科目	東洋思想文化演習Ⅰ	2 年生を対象とする必修の演習（ゼミ）である。専任教員が自分の専門を生かした演習を開講するので、学生は関心に合わせていずれかの演習に参加することとなる。演習では、それぞれの分野の研究法に合わせて、資料の収集、文献資料の校訂や読解、様々な言語で書かれた参考文献の参照やその理解等を実際に行うことで勉学の方法を身につけてもらう。また、場合によっては、文献やテーマに対する各自の理解や問題意識等を発表してもらい、それを全体で討議する。こうした方法によって学生相互の勉学意識を高めるよう努める。	
専門科目	必修科目	東洋思想文化演習Ⅱ	3 年生を対象とする必修の演習（ゼミ）である。専任教員が自分の専門を生かした演習を開講するので、学生は関心に合わせていずれかの演習に参加することとなる。演習では、それぞれの分野の研究法に合わせて、資料の収集、文献資料の校訂や読解、様々な言語で書かれた参考文献の参照やその理解等を実際に行うことで勉学の方法を身につけてもらう。また、場合によっては、文献やテーマに対する各自の理解や問題意識等を発表してもらい、それを全体で討議する。こうした方法によって学生相互の勉学意識を高めるよう努める。	
専門科目	必修科目	卒論指導	卒論のテーマに基づいて学生一人ごとに一人の専任教員を指導教員として指定するから、学生はその指導教員の指導のもとに卒業論文を制作する。指導教員は、オフィスアワーの時間等を利用して、資料収集や論文の書き方等の個別相談に応じるとともに、場合によっては、指導する学生を集めた卒論発表会を設けて相互に切磋琢磨させることで意欲を高める等の方法を用いて指導を行う。提出された卒業論文の内容いかんに関わらず、指導教員の十分な指導を受けていなくてはならない。	
専門科目	必修科目	卒業論文	指定された指導教員の卒論指導に従って、4 年間の勉学の総決算として卒業論文を制作し、指定された日時に東洋思想文化学科の共同研究室に提出してもらう。指定された日時に遅れたものは、理由のいかんにかかわらず、一切受け付けない。論文提出後は、口頭試問の機会を設け、直接、内容を質して本人の著作であることを確認するとともに、指導教員を中心にテーマ、資料収集、資料分析、全体構成、文章表現、努力の度合いなどによって客観的に論文の評価を行う。	
専門科目	選択科目	宗教をめぐる諸問題 A	(概要) 専任教員による講義と外部講師による講義を合わせたオムニバス講義形式。インド、チベット、スリランカ、中国、日本、欧米、中東などにおける、世界のさまざまな宗教を取り上げ、それぞれの宗教の教義がどのようなものか、また社会とどのように関わっているのかを包括的に理解することを目的とする。扱う宗教体系は、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教、イスラーム教、道教などである。A では仏教における聖者を地域別にみる。初學者を念頭に入れて、原則的に各々の地域・宗教に概説と本論の時間を設定し、2 回を配当する。 (オムニバス方式／全15回) (7 岩井昌悟／4回) 開講にあって初期仏教とは何か初期仏教における聖者 (6 渡辺章悟／3回) 大乘仏教とは何か大乘仏教における聖者モンゴル仏教と聖者 (15 伊吹敦／2回) 中国仏教とは何か中国仏教における聖者 (4 山口しのぶ／2回) チベット仏教とは何かチベット仏教における聖者 (168 佐藤厚／1回) 韓国仏教における聖（ひじり） (249 養輪顕量／1回) 日本仏教とは何か日本仏教における聖者 (203 戸松義晴／1回) アメリカ仏教と聖者 (3 橋本泰元／1回) 仏教における聖者のまとめ	オムニバス

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	宗教をめぐる諸問題 B	(概要) インド、チベット、スリランカ、中国、日本、欧米、中東などにおける、世界のさまざまな宗教を取り上げ、それぞれの宗教の教義がどのようなものか、また社会とどのように関わっているのかを包括的に理解することを目的とする。扱う宗教体系は、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教、イスラーム教、道教などである。Bでは仏教以外の諸宗教の聖者を概観する。初學者を念頭に入れて、原則的に各々の地域・宗教に概説と本論の時間を設定し、2回を配当する。 (オムニバス方式／全15回) (7 岩井昌悟／2回) 開講にあたって諸宗教の聖者のまとめ (252 宮本久義／2回) ヒンドゥー教とは何かヒンドゥー教における聖者③(近現代) (3 橋本泰元／2回) ヒンドゥー教における聖者②(中世以降)シク教と聖者 (4 山口しのぶ／2回) ヒンドゥー教における聖者①(古代)ゾロアスター教における聖者 (50 永井晋／2回) ユダヤ教におけるとは何かユダヤ教における聖者 (275 渡辺研二／2回) ジャイナ教とは何かジャイナ教における聖者 (264 山中利美／2回) キリスト教とは何かキリスト教における聖人 (173 柴山滋／1回) イスラーム教と聖者	オムニバス
専門科目	選択科目	宗教学概論 A	宗教、それにかかわる諸現象、そしてそれを学問として扱う宗教学の理解を深めることを目的とする。授業は講義形式で行う。講義においては宗教類型論の基礎知識を把握したうえで、世界宗教、日本の新宗教、在家と出家、諸行事やその他の宗教的行為に見られる日本人の宗教意識、また国家と宗教の関係などを取り上げ概説する。またデータ資料を含むさまざまな情報を提示し、それらをどのように選別し分析するかといった学びかた、調べかたを身につけるような講義を行う。	
専門科目	選択科目	宗教学概論 B	宗教学上重要な諸問題について理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。講義においては移民と宗教における文明の衝突を欧米や日本の事例から概観し、また近代・現代社会における世俗化と宗教の問題について述べる。さらに宗教原理主義の問題について基礎的な概念を解説するとともに、欧米や日本の事例について考察する。その際データ資料を含むさまざまな情報を提示し、それらをどのように選別し分析するかといった学びかた、調べかたを身につけるような講義を行う。	
専門科目	選択科目	東洋の身体論	(概要) この授業は、東洋の様々な思想的伝統において身体がどのように考えられてきたかを明らかにすることによって、「人間とは何か」、「人間にとって一番よい生き方とは何か」といった問題を考える契機を与えることを目標とする。授業は主としてオムニバス形式の講義の形で行われる。その内容と担当者は以下の通りである。 (オムニバス方式／全15回) (15 伊吹敦／4回) ガイダンス禅仏教の身体論まとめ試験 (252 宮本久義／1回) ヨーガ・アーユルヴェーダの身体論ヒンドゥー教の身体論 (4 山口しのぶ／1回) チベット仏教の身体論 (5 山田利明／1回) 道教の身体論 (7 岩井昌悟／1回) インド仏教の身体論 (114 伊藤聡／1回) 神道・修験道の身体論 (267 山本早良紗／1回) バリ舞踊の身体論 (275 渡辺研二／1回) ジャイナ教の身体論 (173 柴山滋／1回) イスラームの身体論 (140 金本拓士／1回) 真言密教の身体論 (273 林鳴宇／1回) 天台宗の身体論 (3 橋本泰元／1回) 仏教の身体論	オムニバス 隔年開講
専門科目	選択科目	近代化と東洋	(概要) 東洋の諸国には様々な思想的伝統が息づいているが、本授業では、それらが近代化の中でどのような困難な状況に陥ったか、そして、それをいかに乗り越えて現在までその伝統を伝えていくかを明らかにすることで、東洋の伝統を見直す契機を与えることを目標とする。授業は主としてオムニバス形式の講義の形で行われる。その内容と担当者は以下の通りである。 (オムニバス方式／全15回) (15 伊吹敦／4回) ガイダンス近代化と中国仏教まとめ試験 (204 富澤かな／1回) イギリスのインド統治とオリエンタリズム (9 沼田一郎／1回) 近代化とインド思想 (101 青木雅浩／1回) 近代化とモンゴル文化 (168 佐藤厚／1回) 近代化と韓国仏教 (146 橋川智昭／1回) 近代化と日本仏教 (2 野間信幸／1回) 台湾の近代文学 (4 山口しのぶ／1回) 近代化とチベット (261 戴内聡子／1回) 近代化と東南アジア仏教 (6 渡辺章悟／1回) 現代インドの仏教 (203 戸松義晴／1回) 終末期医療と仏教	オムニバス 隔年開講
専門科目	選択科目	韓国文化事情 A	韓国の歴史などを踏まえた上で現在の韓国文化を紹介し、結婚式などの韓国の諸行事、住居などの生活様式や食事マナーなどの日常生活と関連した韓国の文化を理解する。授業は講義形式で行う。その際ビデオや音楽などの視聴覚教材を使用しながら、日本の文化との比較を通して韓国文化への理解を深めていく。また講義においては、ハングル文字や韓国語の基本的な文法の解説を行い、韓国語で簡単な挨拶や自己紹介程度の会話ができる能力を身につけることを目指す。	
専門科目	選択科目	韓国文化事情 B	本科目はことばを通して日韓文化の違いを理解し、韓国や韓国人への理解を深めることを目的とし、韓国文化と合わせて韓国語の基礎を学ぶ。授業においては韓国の文化を理解するためのビデオや音楽などの視聴覚教材を利用し、韓国の宗教、社会習慣、世界遺産など韓国の文化を紹介するとともに、食事の誘いや道案内、買い物といった日常場面での簡単な会話ができるよう基礎的な韓国語の練習も行う。授業は講義形式で行うが、韓国語で話す機会や時間も多く与える。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	中国文学文化と日本A	日本文学文化に密接不離の関係にあった中国の文学文化からの影響関係をたどりながら、日本文学文化の特徴を考察していくことを目的とする。授業は講義形式で行う。本科目では日本と中国の小説、詩歌、史書、説話、戯曲、笑話などの比較を通して、従来意識しなかった日本文学の本質を再認識することを目指す。文学の発信、受容、影響、変容、定着という流れの中で、中国の文学が、いかに日本に受け入れられ、独自の文学として形成されていったのか、変容の鍵になるものは何だったのかなどを考える知識や方法を身につける。	
専門科目	選択科目	中国文学文化と日本B	中国の文化からの影響関係をたどりながら、日本文化の特徴を考察していくことを目的とする。授業は講義形式で行う。本科目においては、花、茶、身体、音楽、芸能、絵等について日本と中国それぞれの文化の内容を把握した上で、中国と日本の比較・考察を行い従来意識しなかった日本文化の本質を再認識することを目指す。文化の発信、受容、影響、変容、定着という流れの中で、中国文化に日本に受け入れられとして形成されていったのか、変容の鍵になるものは何だったのかなどを考える知識や方法を身につける。	
専門科目	選択科目	比較文学文化概説A	日本においては近代以前まで中国文化の影響を受けてきたが、19世紀から20世紀にかけて西洋文化の衝撃を受け、西洋と自国の文化比較により自身の文化の特色を再発見した。本科目は日本と中国における比較文学の先駆けをなした人物とその業績をとりあげながら、比較の題材によって、どのような方法が用いられてきたのかを学ぶことを目的とする。授業は講義形式で行う。講義においてはまず比較の視点の意味と概略を述べ、日本と中国の比較文学文化の実際を翻訳や詩論などの例から概説する。	
専門科目	選択科目	比較文学文化概説B	文学や文化の比較はそれぞれの国や地域の文化的特徴を浮き彫りにしてくれる。本科目は、日本と中国における比較文学の先駆けをなした人物とその業績をとりあげながら、比較の題材と比較の方法について、その基礎を学ぶことを目的とする。授業は講義形式で行う。講義においては、はじめに世界の文学を比較する時に持つべき複合的視野について解説する。その後「類型」「人間観」「異文化体験」「伝統論」「美意識と表現」という切り口から中国と日本の比較を行い、その特色について考察する。	
専門科目	選択科目	日本文学文化概説A	文学を広く文化の視点から捉え、その歴史を、貴族の時代(奈良～室町)・非貴族の時代(安土桃山～江戸)・個人の時代(近現代)とする。古代から現代に至るこの国の文学文化のあり方を、その原点にさかのぼって考察し、そのかたちを確認したいと思う。日本文学文化史を概説したうえで、『古事記』から『萬葉集』へといたる事例にもとづいて上記の問題を論じ、総括として「古代日本文学文化から何が見えるのか」という問題を確認する。	
専門科目	選択科目	日本文学文化概説B	文学を広く文化の視点から捉え、その歴史を、貴族の時代(奈良～室町)・非貴族の時代(安土桃山～江戸)・個人の時代(近現代)とする。古代から現代に至るこの国の文学文化のあり方を、その原点にさかのぼって考察し、そのかたちを確認したいと思う。本講義においては奈良時代から平安時代へと至る和歌の系譜をたどり、更に源氏物語、枕草子へと至る。総括として管弦や舞をも含む「王朝貴族文化」の文化史的立場づけについて検討する。	
専門科目	選択科目	古文書学Ⅰ	古文書学は反古となった過去の文書（主に手紙）である古文書は日本の歴史を学ぶうえでもっとも基本的な史料情報源である。本講義ではその読解に通じることで史料研究上の基礎を築くことを目指す。古文書学を概説した上で、古代～中世～織豊期へと歴史的にその特徴を講じ花押や印章についても触れる。また、料紙についても取り上げ、更には古文書の影写実習も実施して、受講者が古文書についての基礎的知識と扱い方を修得するよう配慮する。	
専門科目	選択科目	キリスト教概論	キリスト教の基本的内容を宗教思想史的観点から理解することを目標とする。イスラエルという一地方に起こった小さな宗教運動にすぎなかったキリスト教が、如何なる宗教的、思想的特徴を持つに至ったかという視点から学んでゆく。まずキリスト教の基礎となった古代ユダヤ教について学び、その思想をイエスの思想や彼の死後に成立したキリスト教がどのように継承し、また新しく解釈し直していったかに注目しつつ、キリスト教神学の確立までをたどってゆく。	
専門科目	選択科目	イスラーム概論	イスラームは、7世紀のアラビアの人ムハンマドの宗教活動からはじまり、世界化した。現在では10億人を超える信徒を持つイスラームを理解することは、現代世界を理解する上で必須のことである。しかし、われわれ日本人はイスラームについてあまりに無知である。本講義は、イスラームという宗教を見る目を養うことを目的とし、そのとらえ方を考える。到達目標としては、宗教としてのイスラームの性質、生活の規範としてのイスラーム、世界におけるイスラームの広まりを理解することである。	
専門科目	選択科目	インド現代思想	古代より最高原理、最高神、真理などを追究する傾向を持っていたインドの思想・宗教は、イギリス支配下の時代に多大な変容を余儀なくされた。それまではインド内部で通用すればよかった伝統的思考が、西洋の思想や文化に直面して、世界に通じる論理を持たざるを得なくなったのである。本講では、インドの近・現代の思想家・宗教者たちが、どのように伝統的思考を再検討し、統合・発展させていったかを、ヴィヴェーカーナンダやオーロビンド・ゴーシュなど十名前後の宗教思想家の教説を取り上げ、思想史的、社会的な諸要因を分析しつつ概説する。	隔年開講
専門科目	選択科目	現代のインド	現在インドは爆発的な経済発展のさなかにある。インドは古代からの価値観を維持しつつ、世界の中で新しく生まれ変わろうとしている。本講ではそのような古くて新しいインドが、どのようにして形成されてきたのかを、英国植民地からの独立運動、ガーデンイーやネルーらの国家の理念などを分析しつつ解説する。また、インドが直面する不可触民問題、ヒンドゥー教とイスラームの宗教間対立、移民問題をはじめ、政治・経済・社会の様々なトピックについて、その現状と問題点を受講生と一緒に考えてみたい。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教と社会福祉	この講義では仏教者および寺院・教団がおこなってきたいわゆる社会福祉事業について歴史的検証をおこない、その教義的根拠・役割・意義・限界を考察し、現代社会に意義ある今日的な仏教社会福祉のあり方を提言する。講義・ゲストスピーカーから仏教の社会福祉事業の歴史的変遷を理解し、現代社会の抱える諸問題に仏教の特性をいかしどのようにかわられるかを学ぶ。事例にもとづいて仏教の四聖諦の方法論で問題分析をおこない、その問題に対して仏教がどのように取り組むかを考え提言する。	隔年開講

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	現代に生きる仏教	この講義では現代社会における「EngagedBuddhism」の役割・必要性を考える。講義・映像・ゲストスピーカーから世界の危機的状況・社会問題の現状・原因を理解する。その問題に対する仏教者の活動の事例を検討し、何を実践し問題解決にどのように貢献しているかを探求する。その上で各自が関心のある社会問題を選択し、仏教の四聖諦の方法論で問題分析をおこない、その問題に対して仏教がどのように取り組むかを考え政策提言する。共に学び合い、自己の考え・意見を明確に表現することを目的とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国学研究法 A	中国学、とくに中国哲学・中国文学をこれから学んでゆこうとする初学者に向けて、基礎的な知識と研究方法を伝授することを目的とする。中国学を研究するために必要となる工具書（辞書・事典・年表・年譜・索引・地図等）の取り扱いを覚えるとともに、研究文献や研究資料の収集整理方法について学習する。図書目録などの扱いについては、具体的な課題に基づいて、各人に調査を行わせて練習を積み上げてゆく。今後の専門科目授業において戸惑わなくて済むように、テクニカルタームやその概念も解説してゆくことになる。本講義では、導入教育を中心に基礎的知識と学習方法の伝授を行う。	
専門科目	選択科目	中国学研究法 B	中国学、とくに中国哲学・中国文学をこれから学んでゆこうとする初学者に向けて、基礎的な知識と研究方法を伝授することを目的とする。中国学を研究するために必要となる工具書（辞書・事典・年表・年譜・索引・地図等）の取り扱いを覚えるとともに、研究文献や研究資料の収集整理方法について学習する。図書目録などの扱いについては、具体的な課題に基づいて、各人に調査を行わせて練習を積み上げてゆく。今後の専門科目授業において戸惑わなくて済むように、テクニカルタームやその概念も解説してゆくことになる。本講義では、基礎専門知識の伝授と具体的に工具書等の扱い方を覚える授業を行う。	
専門科目	選択科目	漢文訓読法	外国語である漢語で書かれた文献を、歴代の日本人が理解してこれたのは、訓読法をもっていただのおかげである。本講義は、訓読法に習熟し、さらに、漢文法をも理解し、漢和辞典さえあれば簡単な白文が読めるようになることを目的とする。日本思想・日本文化・日本文学を学ぶ他学科の学生にも広く開放してゆく科目となる。	
専門科目	選択科目	心理学概論 A	本講義では、心理学の概説を行い、広範囲に及ぶ心理学の研究手法やその知見を学習するとともに、最新の研究知見から得られた心理学の日常生活への活かし方を紹介する。心理学の概説を通して、心理学的な物の見方や考え方を習得すること。それらを日常生活へと活かし、セルフ・マネジメントのスキルを習得することを到達目標とする。具体的な課題としては、感覚と知覚、ストレス、記憶、学習、動機づけ、知能、自己などである。	
専門科目	選択科目	心理学概論 B	本講義では、心理学の概説を行い、広範囲に及ぶ心理学の研究手法やその知見を学習するとともに、最新の研究知見から得られた心理学の日常生活への活かし方を紹介する。心理学の概説を通して、心理学的な物の見方や考え方を習得すること。それらを日常生活へと活かし、セルフ・マネジメントのスキルを習得することを到達目標とする。具体的な課題としては、パーソナリティ、アサーション、健康とストレス、社会心理学、コミュニケーション、臨床心理学などである。	
専門科目	選択科目	写経	本講義では写経の歴史の変遷に触れた上で、大乘経典において写経が強調されることの意味、「行」としての写経について考察してみたい。特に平安時代の比叡山において写経が仏道修行として位置付けられるようになった教理的根拠について講義する。毎回墨を摺って実際に写経を体験してもらうことで、「教え」と「実践」の両面から仏教に親しんでもらいたいと考えている。写経として一般的な『般若心経』の内容も解説しつつ授業を進める予定である。	毎回、実習と講義を併用する。
専門科目	選択科目	ヨーガ	ハタ・ヨーガについて、「ガーヤトリーマントラ」のサンスクリット語による読誦法をまなび、ヨーガに関する実践的講義を行う。そして、それを踏まえて、ヨーガの基本的な実践を行うい、身心の変化を確認する。とりわけ呼吸法を重視して、ヨーガの基本体位を実践する。その際には身体と心の中心軸を意識することを強調し、瞑想法への導入としたい。人類の英知であるヨーガを実践し、社会に出てからも通用する素晴らしい健康や人格を形成してほしい。	毎回、実習と講義を併用する。
専門科目	選択科目	坐禅	禅宗、特に臨済禅の正式な作法にしたがい、坐禅を体験し、禅の教え、禅のこころに触れる。仏教史から見れば、禅宗は中国の唐代に完成した新しい教えだが、釈迦が坐禅をして悟った、という観点からすれば、仏教の原点であるともいえる。まずは、実際に坐って「禅」を体験し、そして仏教の原点を知ることが目標とし、その上で、日常生活において、癒しとともに自分のことと向き合う手段として坐禅を応用できることを目指していく。毎回、坐禅の実践と講義とを併用して授業を行う。	毎回、実習と講義を併用する。
専門科目	選択科目	仏教の芸能	本講座は、日本の伝統仏教において大事に伝承されてきた讃歌の音楽である聲明とは何かを、またインド・中国・日本への伝播の歴史を概観する。その後、専門家による聲明の音楽の構造や日本における歴史的發展などの講義と実演をして頂き、受講生は模倣による実修を試みる。さらに、和語による讃歌である和讃・御詠歌について、同じように行う。この講座によって、日本の古典的歌謡から伝統的な邦楽に、仏教の伝統的な聲明や和讃・御詠歌がいかに深い影響を与えているか再認識してもらい、日本の伝統文化の一端を理解してもらう。	毎回、実習と講義を併用する。
専門科目	選択科目	インド舞踊	本科目は、インド舞踊を通して身体トレーニングを行うとともに、思想、音楽、文学、美術等の精神文化と深く関わる総合芸術としての舞踊について理解を深めることを目的とする。その起源を古代インドまで遡り、南インドのタミルナドゥ地方を中心に広まる古典舞踊バラタナティヤムの実技とダンス理論を中心に授業を展開する。授業は実技形式で行うが、舞踊の感情的表現においては神話や詩歌の理解が重要であるため、宗教や神話を含んだインド舞踊の歴史的展開についても解説を行う。	毎回、実習と講義を併用する。
専門科目	選択科目	日本の宗教を歩く	週末を利用して関東一円に点在する神社仏閣などの名勝を訪問・見学しながら、日本の歴史や風土、伝統文化を実際に見て感じることで、それらについてより具体的な知識を身につけ、理解を深めることを目標とする体験型の授業である。受講生にレポート課題を課すことを通して、日常の講義を通して学んだ東洋の思想や文化の理念が現代日本において実際にどのように具現化しているか、また、変わらずに残っている伝統とはっきりとした変容といった点に注意を向けるよう促す。	集中講義 講義：30時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	基礎中国語 A	北京語（中国語の標準語）の発音表記（ピンイン）の読み方をマスターし、基礎的な文法や日常会話表現の習得をめざす。中国語の初学者を対象とした授業であるので、まずピンインの学習からはじめ、その後テキストを用いて発音練習や聴き取り練習を繰り返す。この過程をとおしてテキスト本文の基本表現を暗誦し、その基礎の上に立って、自己紹介や簡単な中国語会話ができるところまで、中国語の運用力をつける。なお初学者が戸惑う中国語の漢字（簡体字）についても、見て分かり、書けるようにする。本講義では、発音とピンインを習得することに重点を置いた授業を行う。	
専門科目	選択科目	基礎中国語 B	北京語（中国語の標準語）の発音表記（ピンイン）の読み方をマスターし、基礎的な文法や日常会話表現の習得をめざす。中国語の初学者を対象とした授業であるので、まずピンインの学習からはじめ、その後テキストを用いて発音練習や聴き取り練習を繰り返す。この過程をとおしてテキスト本文の基本表現を暗誦し、その基礎の上に立って、自己紹介や簡単な中国語会話ができるところまで、中国語の運用力をつける。なお初学者が戸惑う中国語の漢字（簡体字）についても、見て分かり、書けるようにする。本講義では、簡体字を覚えたり、中国語の運用力をつける授業を行う。	
専門科目	選択科目	書道 I A	本講義では、書道の基本技法の習得を目指す。楷書・行書・かな・硬筆（ペン字を含む）を、対象に取り上げる。基礎知識を講義した後、実践練習を重ねてゆく。基本点画の把握に努め、線の調和・文字と文字の調和・変化と統一など基本表現の充実を図っていく。特に、技術の向上と定着を目指す。硬筆においては、正しいペンの持ち方を指導して確実に上達を図ってゆく。「かな」と「漢字かな交じりの書」については、流れの美しさに配慮する。本講義では、楷書、行書を中心に行う。	
専門科目	選択科目	書道 I B	本講義では、書道の基本技法の習得を目指す。楷書・行書・かな・硬筆（ペン字を含む）を、対象に取り上げる。基礎知識を講義した後、実践練習を重ねてゆく。基本点画の把握に努め、線の調和・文字と文字の調和・変化と統一など基本表現の充実を図っていく。特に、技術の向上と定着を目指す。硬筆においては、正しいペンの持ち方を指導して確実に上達を図ってゆく。「かな」と「漢字かな交じりの書」については、流れの美しさに配慮する。本講義では、臨書と表現、かなを中心に行う。	
専門科目	選択科目	書道史 A	殷・周・秦・漢・三国・西晋・南北朝・隋・唐に至るまでの書体の変遷を理解する。文字の変遷は、殷代の甲骨文字に始まり、西周時代の金文、先秦時代の大篆、秦始皇の小篆による文字の統一を経て、前漢の隸書やがて草書へと発展してゆく。書道史上最大の出来事は、前漢中期に紙が発明されたことである。その後の紙の普及は、三国時代以後の楷書・行書・草書の発展の引き金となる。南北朝時代になって楷書・行書・草書の書体はさらに発展し、唐代になって完成する。これらの発展史を概観してゆく。	
専門科目	選択科目	書道史 B	中国の宋代から清朝末期までの書風の変遷とともに、日本書道史をテーマに取り上げる。楷書・行書・草書の登場以後、書体の変遷は止み、書風の変遷を繰り返しながら、宋・元・明・清を経て発展し、現在に至っている。宋代以降、各時代において多くの作家が名品を書き遺しているが、時代背景とともに、作家についての研究や作品への理解を深めてゆく。日本書道史では、奈良・平安時代の名筆への理解と、日本独自の書の発展を理解する。紙の製法や筆の製法の伝来時期、中国に書道を学んだ足跡、和様体の発展などを、追求してゆく。	
専門科目	選択科目	サンスクリット語 I A	インド古典学および仏教学を学ぶに際して、インド文化圏の共通言語と言うべき古典サンスクリット語(skt)の知識を欠くことはできない。本講義においてはsktの初歩的理解と読解能力を涵養することを目指している。音の分類から名詞、形容詞、代名詞の「性・数・格」におよぶ変化の概要を修得し、動詞を含まない文の読解にいたる。古典語の学習は目で見て学ぶことに終始しがちであるが、「耳から」の学習効果を発揮するために、受講者には音読に心掛けるように求めている。	
専門科目	選択科目	サンスクリット語 I B	「サンスクリット語IA」の知識を前提として、動詞と複合語の概要を学ぶ。古典サンスクリット語(skt)の動詞変化は多彩を極め、初学者の修得を困難ならしめるが、本講義ではなるべく基本的な形態に限定して、現在組織をじゅうぶんに理解することに重点を置く。sktは印欧語であるから動詞の活用は英文法とも共通点がある。受講者の英語の知識を活かした《能動一受動》の書き換えなどを通じて、sktの形態に慣れるように努め、初級以上の階梯への導入とする。	
専門科目	選択科目	パーリ語 A	担当教員が文法書にそってパーリ語文法を概説した後、実際にテキストの講読に入るための準備を行う。パーリ語の文法事項の概略を理解することを目標とする。導入としてパーリ語概論（どのような言語か、いつどこで使用されていたか、習得するとどのようなテキストが読めるのか）を講義し、その後に音韻論、語形論（名詞・形容詞の曲用、代名詞・数詞の曲用、動詞の活用、連続体・不定体・分詞・不変語）、造語法、文章論と進める。授業は主に演習形式で行う。	
専門科目	選択科目	パーリ語 B	演習形式。実際にパーリ語で書かれたテキストを講読することを通して、辞書に慣れ親しみ、文法理解を深めながら、パーリ語の読解力を習得することを目標とする。講読用テキストは受講生の興味を勘案してパーリ聖典から選択する。適宜、註釈書（アッタカタ）を参照させ、内容解釈に註釈書が如何に有用であるかを知ってもらふ。受講生ひとりひとりに短文を読ませ、毎回受講者全員が辞書を引くことになるよう工夫し、講読への主体的参加を促す。	
専門科目	選択科目	ヒンディー語 A	インドの宗教文化を理解する一つ的手段として、ヒンドゥー教の知識階層の文章語であった古典サンスクリット語、および北インドにおいて10世紀以降に発展した近代インド・アーリヤ諸語のうちサンスクリット語の直系ともいべきヒンディー語の知識が必要である。また、ヒンディー語を通して現代の文化事象を理解し、過去の諸事象の様態を観る方法も極めて有効である。この観点に立って、インド連邦の公用語であるヒンディー語の現代標準形の初等文法の学習を文字の段階から開始する。	
専門科目	選択科目	ヒンディー語 B	「ヒンディー語A」に続いて現代標準形の初等文法の学習を継続し、日本語文法や英語文法との比較を行って学習者の理解の深化に努めつつ、標準的な教科書に記述された基礎文法の学習事項を網羅的に教授し、その後、学年末頃には受講生が文法的に平易な文献を読める力を身に付けるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	チベット語A	本科目は、仏教研究のために必要不可欠な古典チベット語の基礎文法の習得を通じて、サンスクリット語からの翻訳仏教文献を読解するために必要な知識を身に付けることを目的とする。授業においては、最初にチベット文字と発音について概説し、その後名詞・代名詞の種類、助辞の用法、動詞の種類と変化など、古典チベット語文法の基本について解説する。授業は講義形式で行うが、毎回練習問題を課し文法事項の復習を行う。最終的には簡単なチベット文の和訳ができるようになることを目指す。	
専門科目	選択科目	チベット語B	仏教研究において古典チベット語文献の読解は、難解な論書等のサンスクリット原典読解のため、またサンスクリット原典が散逸しチベット語翻訳でしか現存していない多くの仏教文献をするために必要不可欠である。本科目はそのようなチベット語文献の読解力を身につけることを目的とする。授業は講義形式で行い、チベット語で書かれた仏教経典を取り上げ、和訳・解説を行う。その際文法事項の把握と正しい翻訳のみでなく、仏教経典の内容把握ができるよう背景となる仏教の基礎知識についても解説する。	
専門科目	選択科目	仏教漢文A	日本で用いられる訓読という方法によって仏教漢文の基礎的な読解力をつけることをねらいとし、最終的には受講生自らが思想の内容を考え理解するということを目標におく。一般漢文の語法理解はまずもって基本であるが、仏教漢文の場合、思想的な術語など予備的な知識や了解事項がある程度前提となり、その上で文の内容に従いながら訓読を行う必要がある。授業は主に演習形式によって行う。春学期は、漢文の訓読法を確認した後、まずは簡単なテキストを出席者に輪読で読んでもらい、教員が解説を行いながら理解を深めてゆく。	
専門科目	選択科目	仏教漢文B	日本で用いられる訓読という方法によって仏教漢文の基礎的な読解力をつけることをねらいとし、最終的には受講生自らが思想の内容を考え理解するということを目標におく。一般漢文の語法理解はまずもって基本であるが、仏教漢文の場合、思想的な術語など予備的な知識や了解事項がある程度前提となり、その上で文の内容に従いながら訓読を行う必要がある。授業は主に演習形式によって行う。秋学期は、春学期の勉強を基礎に、仏教に関わる様々なテキストを取りあげ、輪読で読んでゆく予定である。	
専門科目	選択科目	中国語ⅣA	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「聴」（聴き取り）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、聴き取りの力をつける基礎的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「聞」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	
専門科目	選択科目	中国語ⅣB	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「聴」（聴き取り）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、聴き取りの力をつける発展的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「聞」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	
専門科目	選択科目	中国語ⅤA	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「写」（作文）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、作文の力をつける基礎的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「聞」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	
専門科目	選択科目	中国語ⅤB	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「写」（作文）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、作文の力をつける発展的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「聞」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	
専門科目	選択科目	中国語ⅥA	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「聞」（読解）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、読解の力をつける基礎的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「聞」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	
専門科目	選択科目	中国語ⅥB	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「聞」（読解）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、読解の力をつける発展的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「聞」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	中国語ⅦA	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「口語」（会話）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、会話の力をつける基礎的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「聞」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	
専門科目	選択科目	中国語ⅦB	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「口語」（会話）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、会話の力をつける発展的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「聞」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	
専門科目	選択科目	中国語学演習 A	初級中国語の学習を終えた者を対象に、基礎力に磨きをかけることを目的とし、さらに中国語の持つ豊かさを理論的、実践的に理解することも併せ目的として一段深いレベルで学習する。本講義は検定試験とは距離を置き、中級レベルの中国語を学びながら、理論面に重点をおいて学んでゆくところに特徴がある。外国語を覚えるときの一番の壁は、ある程度実力がついてからの方が困難が生ずるという認識の下で、中国語の学習を継続しやすいように、中国の笑い話やなぞなぞから時事問題を扱った文章まで、幅広い分野の生きた中国語を教材として学んでゆく。本講義では、短文を中心に中国の笑い話や時事中国語を扱うことになる。	
専門科目	選択科目	中国語学演習 B	初級中国語の学習を終えた者を対象に、基礎力に磨きをかけることを目的とし、さらに中国語の持つ豊かさを理論的、実践的に理解することも併せ目的として一段深いレベルで学習する。本講義は検定試験とは距離を置き、中級レベルの中国語を学びながら、理論面に重点をおいて学んでゆくところに特徴がある。外国語を覚えるときの一番の壁は、ある程度実力がついてからの方が困難が生ずるという認識の下で、中国語の学習を継続しやすいように、中国の笑い話やなぞなぞから時事問題を扱った文章まで、幅広い分野の生きた中国語を教材として学んでゆく。本講義では、長文を中心に中国の故事や時事中国語を扱うことになる。	
専門科目	選択科目	韓国語 A	はじめて韓国語を学ぶ人を対象として韓国語の基礎を教授する。内容と到達目標は、(1)韓国語の特徴、とくに日本語との同異点を理解すること、(2)韓国語の文字（ハングル）の読み方、書き方を理解すること、(3)ハムニダ体の体言語尾を用いた文章の読解、作文ができるようになること、(4)日常でよく用いられる基本表現を暗記すること、である。また、異文化理解のために、様々な映像教材を用いた韓国文化の紹介も行なう。	
専門科目	選択科目	韓国語 B	韓国語 A をうけて、より高度な文法事項を教授する。内容と到達目標は、(1)ハムニダ体の用言語尾を用いた文章の読解、作文ができるようになること、(2)ヘヨ体の体言語尾、用言語尾を用いた文章の読解、作文ができるようになること、(3)数詞（固有語数詞、漢字語数詞）を理解し、それぞれ 1 から 10 まで言えて書けるようになること、(4)基本的な語尾表現ができるようになること、(5)自己紹介ができるようになること、である。また、異文化理解のために、様々な映像教材を用いた韓国文化の紹介も行なう。	
専門科目	選択科目	インド思想特講Ⅰ A	長いインドの歴史時代の中で、古代史についてはじゅうぶんな知識を得ることが困難である。これは資料の絶対量が不足していることに加えて、それらが宗教的、哲学的内容を中心とすることになっている。その中で、「ダルマ文庫」は理念的ではあるが社会の姿を描き出そうとしている。これを分析することで、社会変動の実態をとらえることが本講義の目的である。ダルマ文庫史上のエポックとも言うべき『マヌ法典』を中心として、その前後の時代との差異を抽出して示す。	隔年開講
専門科目	選択科目	インド思想特講Ⅰ B	インド人は古代から心身に対する関心を抱き、それらを伝統的行法ヨーガと伝承医学アーユルヴェーダの教説としてまとめていった。それらはインドに西洋文明の波が押し寄せても消滅するどころか、現代にいたってますます重視されるようになっている。本講では、ヨーガの歴史、身体観、行法体系、心識論、およびアーユルヴェーダの歴史、身体観について、それらの教義を原典にもとづいて平易に解説する。また、伝統的行法や伝承医学が現代に生きる人々にどのように寄与するかを理解することを受講生の到達目標とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	インド思想特講Ⅱ A	本講義では、南アジア（インド世界）の宗教文化の成立と発展を歴史的に考察する。前期は、インダス文明の都市文化からはじめ、ヴェーダ時代のバラモン教の展開とそれに対抗する形で出現した仏教やジャイナ教の歴史的な位置づけについて検討する。次いでマウリヤ朝からクシャーナ朝へと至る仏教文化の繁栄、グプタ朝時代に繁栄の極を迎えたサンスクリット古典文化の諸相をたどる。受講者が、各宗教文化の地域的展開に注目しながら、その社会的・経済的背景についての理解を深めることを目標とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	インド思想特講Ⅱ B	前期に続いてグプタ朝以降の宗教文化の展開について検討する。まず、グプタ朝を境として支配的な宗教が仏教からヒンドゥー教へと推移していく過程を考察する。13世紀へと至るこの時期に南部、東部、西部のインドで地域の独自性を持ったヒンドゥー教の文化が隆盛となった事情を検証する。さらに13世紀以降イスラーム教徒の政治的支配の拡大によって生まれた、イスラーム文化の伝播とその土着文化との融合の諸相について考察する。全体として、受講者が多様性を持つ南アジアの文化の歴史的特質を理解することを目的とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	インド思想特講Ⅲ A	インドの現代社会と文化を文化人類学のアプローチによって解説する。インドを対象とする人類学は、1950年代から欧米を中心に発展してきた。初期の研究は、村落社会でのカーストのあり方や、親族関係、宗教形態などが主要テーマであった。閉じられたと想定される社会での文化は、機能主義的および構造主義的に論じられることが多かった。現代インドでは、グローバル化が著しく、インド文化も様々な影響を相互に受けながら変容している。ヒンドゥーイズムを根底としたインド文化の人類学的研究の発展と可能性をみていく。	隔年開講

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	インド思想特講ⅢB	多種多様な神々を有するインドでは神話も様々である。インドから仏教とともに日本へ伝播し、歌舞伎の題材となったものも存在する。本講義ではこの豊かなインド神話の一端を紹介し、概説する。特にインドの大叙事詩マハーバータにおいて語られている神話を中心に、それ以前のヴェーダ、ブラーフマナ文献において、またそれ以後のプラーナ文献においてどのように語られているのか、時代の変遷と物語の移り変わりを見ていく。使用する文献は日本語もしくは英語文献。	隔年開講
専門科目	選択科目	インド思想特講ⅣA	インドの宗教思想としてヒンドゥー教、仏教とならんで重要なジャイナ教について、講義形式で包括的に説明します。ジャイナ教と仏教は成立した時代、地域がほぼ一致し、様々な点で共通する点が多く見られます。そこで、両者を比較することでその特色を明らかにするとともに、ジャイナ教成立の意義、基本思想、教団の生活規範、歴史的変化、現在のジャイナ教徒が置かれた状況等について概説し、最後に、その特色をなす「不殺生」（アヒンサー）の教えの現代的な意義についても論じる予定である。	隔年開講
専門科目	選択科目	インド思想特講ⅣB	詩人タゴールは、詩以外にも小説や戯曲など多くのジャンルで優れた文学作品を残したが、生涯を英領インド時代に過ごし、その中でベンガルおよびインドの文化的アイデンティティーを模索しつつ文学活動を行った。そのタゴールの小説作品を、当時の社会的背景と重ね合わせつつ読む。特にその示唆するところが現代にもつながるとされる長編小説『ゴラ』について詳細に解説し、あわせて現在のインドの諸問題とも重ね合わせて『ゴラ』の予言的性格についても考察する。授業は主に講義形式で行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教思想特講ⅠA	インド仏教の根幹を貫くさとりの智慧（般若）に焦点を当て、その思想的特徴や、中道という立場からの実践的意義などを考察する。さらに、さとりの智慧（般若）が対象とする世界を「空」と喝破する大乘仏教思想のエッセンスを解説し、仏教の基盤となった空性の考え方の理解を促す。受講者には関連文献を読み、レポートを発表してもらう。それらを通じて日常の生き方の中で空の思想がどのように適応できるのかを考えてもらい、仏教思想の柔軟な理解の形成を到達目標とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教思想特講ⅠB	インドで生まれた密教がどのように展開し、チベット・中国・日本に伝えられていったのかを講義形式で説明する。特に空海が日本にもたらした真言密教の教義は、山岳宗教や民間信仰など、日本文化に多大な影響を及ぼしている。そこで前半では、密教の出現の意味、その後の密教思想の変化、『大日経』『金剛頂経』出現の意義、後期密教の思想等、インド密教について概略を説明した後、後半では空海の『即身成仏義』をテキストに密教の成仏論を理解し、また、その思想が日本文化に与えた影響について考えてゆきたい。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教思想特講ⅡA	禅宗は、あらゆる仏教のなかでも最も独創的なものの一つといえよう。それは、仏教思想と中国思想を総合して、全く新たな思想と修行法を生みだし、中国や日本の文化史に極めて大きな影響を残した。そのみでなく、その思想は今日においても色あせることなく、現実に立ち向かううえで重要な示唆を与えてくれる。本講義では、このような特徴を持つ禅の思想や歴史等について総合的な知識を得させるために、1. 禅の現在、2. 禅の思想、禅の歴史という順序に沿って講義形式で授業を行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教思想特講ⅡB	本講義では、ブッダの「さとり」体験に始まる仏教の流れの中で、在家を中心とする仏教として成立した浄土教仏教を体系的に論じ、現在の浄土真宗への流れを明確化することを目的とする。浄土教は在家を中心とする仏教の中で展開したが、歴史の中で仏教の傍流・亜流として誤解されることもあり、社会に対する訴求力を失ってきた。本講は、現代の人間にも興味を持って受け入れられ、さらに大乘仏教の原点、そして親鸞の根本意趣に立ち返って、これからの世界、人類の諸問題に対応しようとする浄土教理解を示したい。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教思想特講ⅢA	講義形式。無常・苦・無我に代表される仏教の基本的な思想を、第一次資料（初期仏教聖典とアピダルマ文献）にもとづいて紹介し、基本用語の一般の理解の仕方が、諸説の一端にすぎず、解釈の幅が極めて大きいことを知ることを目指す。解脱とは何か、邪見を通して釈尊の立場を知る（六十二見と六師外道）、釈尊は答えないそれとも答えられない？（無記）、輪廻の様相、業報思想、仏教の基本思想（四諦・八正道、無常・苦・無我、縁起・相依性）、部派仏教における発展と進める。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教思想特講ⅢB	唯識思想をテーマとして講義する。原始仏教以来、仏教は唯心論的な傾向をそなえ、また禅定体験を重視したが、これに大乘仏教の空思想の登場を経て、さらに新たな空思想の展開として完成されたのが唯識思想である。それは自己と外界の事物は自己の心が作り出したものであり、自己の心を離れて存在するものではないという考え方を柱とし、大乘仏教思想の要として後世宗派の枠を超えて重視された。また今日的には、他者・環境との関わりという問題についてもヒントを提示している。本講義では、世親が著した『唯識三十頌』を中心に進める。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教思想特講ⅣA	『華嚴経』は、東アジアに大きな影響を与えた経典である。唐の時代には、この『華嚴経』に基づき、華嚴宗の教学が大成された。本講義では、その『華嚴経』および華嚴思想の内容を分かりやすく紹介し、また特に日本文化に与えた影響について解説する。『華嚴経』のほかに、『八宗綱要』を取り上げて、華嚴宗の思想、そしてそれが日本に与えた影響について基礎的な知識を身につけることを目指す。現代思想と華嚴思想との関連についても言及する。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教思想特講ⅣB	本講義では、6世紀末から現在に至るまでの間に伝承されてきた中国天台思想の発展の歴史および特色について講義する。その目的は、天台思想が、漢訳経典に説かれた教えを如何にして消化し、実践してきたかを、明らかにしていくことにある。授業では、中国天台宗に係わる諸資料を解説し、それぞれの内容や意義等について講義するが、天台思想史を、智顗を中心とする草創期、智顗以降湛然の時代、宋代以降に分け、各時代における発展や変化について解説する。また現代の中国天台宗の状況とその意義についても考察する。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国哲学特講ⅠA	「命を食べる」をメイン・テーマとして、「動物を殺して食べる」ことについて、中国人を含む人類が、この問題にどのように向き合ってきたのかを、儒教・仏教・キリスト教そして現代人の立場を見ていながら、「人間とは何か?」、さらには自然や動物を含めた他者と向き合う人間の倫理、「共生」の倫理について考えてゆく。その中で中国古代・近世の思想家たちの人間観・世界観を批判的に検討してゆく。さらに性善説の現代的意義を吟味・理解し、「不忍人之心」を涵養する。本講義では、食を巡る講義とグループ討論を中心にして授業を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	中国哲学特講Ⅰ B	「命を食べる」をメイン・テーマとして、「動物を殺して食べる」ことについて、中国人を含む人類が、この問題にどのように向き合ってきたのかを、儒教・仏教・キリスト教そして現代人の立場を見ていながら、「人間とは何か?」、さらには自然や動物を含めた他者と向き合う人間の倫理、「共生」の倫理について考えてゆく。その中で中国古代・近世の思想家たちの人間観・世界観を批判的に検討してゆく。さらに性善説の現代的意義を吟味・理解し、「不忍人之心」を涵養する。本講義では、生命を巡っての講義とグループ討論を中心にして授業を行う。	
専門科目	選択科目	中国哲学特講Ⅱ A	19世紀には数多くの耶蘇会(プロテスタント)宣教師が入華し、キリスト教を布教するとともに、西欧の思想・政治・経済・科学の紹介書を中国語によって著した。宣教師たちは、キリスト教を布教するにあたって、伝統的な中国の哲学思想と対決・融合し、中国の人々に「神」の存在を説かねばならなかった。その工夫と苦勞をよく反映する書籍に『天道遡原』がある。西欧の近代科学を背景にして、入華宣教師たちがいかに「神」の存在を中国の人々に伝えようとしたのか、またそれが中国の近代にどのように影響したのかを、この『天道遡原』を通して考える。さらにその前提として、テキストの文章を正確に読解する能力を養うことになる。本講義では、『天道遡原』前半部の講義を行う。	
専門科目	選択科目	中国哲学特講Ⅱ B	19世紀には数多くの耶蘇会(プロテスタント)宣教師が入華し、キリスト教を布教するとともに、西欧の思想・政治・経済・科学の紹介書を中国語によって著した。宣教師たちは、キリスト教を布教するにあたって、伝統的な中国の哲学思想と対決・融合し、中国の人々に「神」の存在を説かねばならなかった。その工夫と苦勞をよく反映する書籍に『天道遡原』がある。西欧の近代科学を背景にして、入華宣教師たちがいかに「神」の存在を中国の人々に伝えようとしたのか、またそれが中国の近代にどのように影響したのかを、この『天道遡原』を通して考える。さらにその前提として、テキストの文章を正確に読解する能力を養うことになる。本講義では、『天道遡原』後半部の講義を行う。	
専門科目	選択科目	中国文学特講Ⅰ A	中国(大陸)の歴史や文学だけでなく、台湾の歴史や文学にも知識を持ち関心を深めることで、中国やアジアを見る視野を広げておきたい。本講義では台湾を対象として、台湾文学が内包する複雑さの背景を理解することを目的とする。そこで台湾を理解する前提として、台湾についての基礎知識(地理・歴史・言語等)を学び、そのうえで各時代で台湾文学がどのような変遷を経てきたのかを概観する。各時代の人々の生活や思考・感情を反映する文学作品のもつ複雑さの由来を、具体的に作品検討などを通して考察してゆく。本講義では、台湾の基礎知識をえとることに重点を置いた授業を行う。	
専門科目	選択科目	中国文学特講Ⅰ B	中国(大陸)の歴史や文学だけでなく、台湾の歴史や文学にも知識を持ち関心を深めることで、中国やアジアを見る視野を広げておきたい。本講義では台湾を対象として、台湾文学が内包する複雑さの背景を理解することを目的とする。そこで台湾を理解する前提として、台湾についての基礎知識(地理・歴史・言語等)を学び、そのうえで各時代で台湾文学がどのような変遷を経てきたのかを概観する。各時代の人々の生活や思考・感情を反映する文学作品のもつ複雑さの由来を、具体的に作品検討などを通して考察してゆく。本講義では、台湾の基礎知識を得たうえで、具体的に文学作品を読み分析を加えていく。	
専門科目	選択科目	中国文学特講Ⅱ A	北宋(960~1126)・南宋(1127~1279)の300年をこえる王朝の文学について、詩を中心に学び、宋代文学に対する理解を深めることを目的とする。まず宋代文学についての概説を行い、その後個別の文学者の作品を取り上げて読解し、その特徴をさぐる。扱う詩人は、欧陽脩・梅堯臣・蘇舜欽・王安石・蘇軾・黃庭堅・陸游・范成大・楊万里・辛棄疾・元好問・文天祥など、宋代を代表する面々である。漢詩の読解力を高め、これら主要詩人たちの生涯や文学の特徴を把握することを目標とする。本講義では、北宋の詩人たちを取り上げる。	
専門科目	選択科目	中国文学特講Ⅱ B	北宋(960~1126)・南宋(1127~1279)の300年をこえる王朝の文学について、詩を中心に学び、宋代文学に対する理解を深めることを目的とする。まず宋代文学についての概説を行い、その後個別の文学者の作品を取り上げて読解し、その特徴をさぐる。扱う詩人は、欧陽脩・梅堯臣・蘇舜欽・王安石・蘇軾・黃庭堅・陸游・范成大・楊万里・辛棄疾・元好問・文天祥など、宋代を代表する面々である。漢詩の読解力を高め、これら主要詩人たちの生涯や文学の特徴を把握することを目標とする。本講義では、南宋の詩人たちを取り上げる。	
専門科目	選択科目	東洋芸術文化特講Ⅰ A	インドの建築論とは、ヒンドゥーだけではなく、ジャイナや仏教をも含む言い方である。建築論はヒンドゥーの学問分類において、実利論に含まれる。世俗的には、王侯のための理論として、王宮や都市の造成から国土計画まで述べられる。また、宗教的には、建築儀礼から寺院建立までの一統に述べられる。インド以外の地域で、インドの建築論をもとに建てられたものにアンコールワットなどがあり、その影響は密教を通じて日本まで及んでいる。原典をもとに、インドの建築論の構成から建造物の各要素までを学習する。	隔年開講
専門科目	選択科目	東洋芸術文化特講Ⅰ B	映画を観賞するときには、ただ単にその作品自体の内容や表現の巧みさ・豊かさを楽しむだけではなく、その作品の作られた国や地域の歴史的・文化的背景を理解することによって、その映画をさらに深く味わうことができる。この授業では、東アジア(韓国や中国語圏)、東南アジア(マレーシアなど)、南アジア(インド)など、アジア各地の映画作品を紹介しながら、アジア映画とひとくくりにして考えることのできない多様性や、地域を越えたネットワークの広がりについて考察してみたい。	隔年開講
専門科目	選択科目	東洋芸術文化特講Ⅱ A	ヒンドゥー寺院音楽や地域の芸能音楽と密接な関係を保ち、中世においてはイスラーム神秘主義等の影響のもと宮廷音楽において発展をとげた北インド古典音楽は、ビートルズなどの西洋音楽にも影響を与えたことで知られる。本授業では、南アジア(特に北インド)における古典音楽と芸能文化について、音楽家の世界観や音楽家を取り巻く社会関係・文化環境の変化も視野に入れつつ、宗教社会史的視点、民族音楽的視点、文化人類学的視点から多角的に検討を行う予定である。授業は主に講義形式で行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	東洋芸術文化特講Ⅱ B	本授業は講義形式で行い、バリの芸能について学ぶ。具体的には、ケチャやバロン劇、ワヤン・クリッなどの演劇・芝居、レゴンやトベン、パリスといった舞踊、ガムランに代表される器楽演奏などを扱う。こうした芸能は、バリの宗教や儀礼など、日常的な生活世界と密接にかかわっている一方、観光化や近代化の過程で新たに創造されてきたものでもある。本授業では、バリの芸能がもつ宗教性と日常性を理解するとともに、「伝統」が創造されてきた／いくプロセスを捉え、同時代における「文化」の動態を理解する視点を養うことを目的とする。	隔年開講

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	東洋芸術文化特講ⅢA	この授業では、目撃される機会の少ない、前近代における東アジアの絵画の歴史に対する理解を深めるために、前近代の東アジア絵画の中心であった中国の絵画の歴史と、日本における中国絵画の受容の様相を概観する。具体的な内容としては、まず現代の我々が考える「美術」の1ジャンルとしての絵画と前近代の「書画」の枠組みの中にある絵画の違いについて触れた後、中国絵画に関しては、「水墨画」と「文人画」に注目し、各時代の絵画の特色を捉え、日本絵画については、中国絵画受容の具体例を挙げつつ、その受容のあり方について考える。	隔年開講
専門科目	選択科目	東洋芸術文化特講ⅢB	中国の伝統演劇は、何もない空間に豊かな情景を瞬時に造型する虚構表現という独自の表象方法をとる。人間の性格や人物像を典型化する手法も早くから形成された。舞台空間を一つの宇宙ととらえ、神話伝説から奇想天外な物語、王朝の興亡、裁判物、恋愛、文人心理、さらに庶民の百態まで、千変万化の豊富な人間ドラマを演じる。具体的演目を通して、中国演劇の手法がヨーロッパで発展したリアリズム演劇とは全く異なる表現形態であることや、その表象の独自な特徴と方法を理解することを目指す。授業は主に講義形式で行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	東洋芸術文化特講ⅣA	本科目は、仏教美術の中で重要な位置を占めるマンダラについて、図像学的特徴とその背景となる思想・文化について理解することを目的とする。授業は映像資料を用いた講義形式で行う。授業においてはインド密教史におけるマンダラの位置について確認した後、マンダラの構造とそれが示す意味、時代ごとの変遷、日本を含んだマンダラの地域ごとの特色とその背景などについて解説する。また宗教行為においてマンダラが実際にどのように用いられるかに関して、マンダラと儀礼や瞑想との関わりについても説明する。	隔年開講
専門科目	選択科目	東洋芸術文化特講ⅣB	講義形式。仏教文学とその図像化についての概説。特に「絵解き」に焦点を当てる。レリーフ（浮彫）や画像の形で図像化されている仏伝やジャータカやアヴァダーナなどの前生譚について、インドのガンダーラや、チベット、東南アジアの作例を中心に見ていく。文字による伝承のヴァリエーションと図像化された作例の関係を、実例を紹介しながら概説する。日本の涅槃図についても数例を紹介し、『大般涅槃経』などに説かれる釈尊の入滅場面との関係、日本における独特な変容について紹介する。	隔年開講
専門科目	選択科目	東西交渉文化史A	内陸アジアは、東西の文明の交錯の場であり、また遊牧民とオアシス都市定住民の生活の場でもあった複雑な地域である。本授業では、このような内陸アジアにおける人々の営みについて、歴史及び文化の面から解説する。本授業は講義形式を取り、内陸アジアの諸地域が清朝とロシア帝国の支配下に入るまでの歴史を、現地住民の活動と東西交渉という2つの要素から解説する。受講者が内陸アジアに関する基礎知識を身につけ、内陸アジアの重要性を理解することが、本授業の目標である。	隔年開講
専門科目	選択科目	東西交渉文化史B	「民族の世紀」と呼ばれる20世紀、清朝とロシア帝国の支配を受ける内陸アジアでも、各民族が自立性を模索し始めた。一方、周辺の大国は、国際情勢を考慮しつつ、この地域における影響力の確保を試みた。本授業では、激動の近現代内陸アジアについて解説する。本授業は講義形式を取り、内陸アジア各民族の運動と国際関係に焦点を当て、20世紀の内陸アジアの実態について説明する。文化的変容から国際政治まで、幅広い内容を含む。受講者が今日の国際情勢における内陸アジアの重要性を理解することが、本講義の目標である。	隔年開講
専門科目	選択科目	インド文化概論A	本科目は、歌謡、絵解き、人形操りなどインドにおける芸能の多様性を理解するとともに、芸能を通して見えてくる人々の生活世界や文化を理解することを目的とする。インド芸能は、インドの各地方の持つ様々な宗教的・儀礼的実践の形を反映させ、極めて多様な形態をとって今日まで連綿と受け継がれてきた。授業は講義形式で行い、正統的とされてきた古典的伝統と、そこから影響を受けながら大衆的なものとして成立していった民俗的伝統のダイナミックな関係性に注目し、芸能とそれを担う人々の社会・文化的側面について解説する。	
専門科目	選択科目	インド文化概論B	本科目は文学作品を通してインド文化を考察することを目的とする。インドには様々な言語、宗教、文化があり、多様なアプローチが可能であるが、講義では、ヴェーダ、叙事詩など毎回1つのテーマを設定して代表的作品を紹介するとともに、そこにインドのどのような文化が反映されているか等について解説する。従来インド文学は、サンスクリット語作品を中心として、ヒンドゥー教の視点から取り上げられることが多いが、インド独立やカースト制度など異なった視点からの考察も行う。	
専門科目	選択科目	インド・仏教の美術A	本科目はインドでおこりアジアに広まった仏教の美術の流れを理解するとともに、その背景となる仏教思想・文化について理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。授業においてはインド美術史の大まかな流れを概観した後、大乘仏教における仏像の出現とインド仏教における発展の歴史、およびネパール、チベット密教の美術について美術作品の映像を用いながら解説する。また各々の仏像や神像が示す図像的特徴と、それらの特徴が仏教思想や文学などその他の文化とどのように関わるかについても説明を行う。	
専門科目	選択科目	インド・仏教の美術B	本科目はインドでおこり東南アジアにも広まったヒンドゥー教の美術を概観することにより、ヒンドゥー神像が示す象徴性やインド思想、文化との関わりについて理解することを目的とする。授業は映像資料を用いた講義形式で行う。授業においてはヒンドゥー教における美術の発展の歴史について概観した後、叙事詩や神話とヒンドゥー神の造形との関わりについて解説し、個々の神像が示す象徴的意味について検討する。またインドの影響を多大に受けたインドネシア、ベトナム、カンボジアなど東南アジアの美術についても解説する。	
専門科目	選択科目	インド思想史A	現象世界を生みだし、またその秩序だった運行を維持するものは何か。この問いに対して古代インドの哲人たちは、最高神あるいは根本原理についての様々な思索をめぐらせた。それらに通底するのは、マクロコスモスたる大自然とミクロコスモスたる人間の照応である。それは、万有に遍在する原理ブラフマン（梵）と万有に内在する原理アートマン（我）は同一であるとする梵我一如の思想にも多大な影響を与えた。本講では、それらの思想を説くヴェーダ聖典やウパニシャッド聖典を中心に、インド思想の形成時代の思潮を概説する。	
専門科目	選択科目	インド思想史B	本講では、ヴェーダ、ウパニシャッド時代以降のインド思想の発展を解説する。西暦紀元前後から次第に形を整えていったサーンキヤ学派、ヨーガ学派、ニヤーヤ学派、ヴァイシェシカ学派、ミーマンサー学派、ヴェーダーンタ学派のいわゆる六派哲学、および文法学派について、それぞれの根本教典をもとに、目的、思想基盤、方法論などの特徴を概説する。学派間の共通点と相違点の検証を通じて、受講者が哲学的なアプローチの諸相を理解し、各自が様々な問題点を解決するための方法を習得することを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	インド古典思想概論A	正統バラモン系統の諸学派はウパニシャッド時代に現れた業に基づく輪廻とそれからの解脱の思想を基本的な教義とするが、解脱に到達するための道筋はそれぞれ異なっている。その方法論の相違はさまざまな論争となって現れ、ある場合には影響の授受が認められるが、またある場合は自派の立場を譲らないこともあった。このような対立点を追究することにより、各学派の立脚点が明確になってくる。本講では一元論に立脚するヴェーダーンタ学派の教説を中心に、ウパニシャッドとの関係や、他学派の教義と比較することによって、その特徴を把握できるようにする。（宮本）3000年を超えるインド文化史の中から「インド古典哲学」すなわち、古代中世に展開した正統バラモン系統の哲学説を概説する。ヴェーダ、ウパニシャッドに哲学思想の源泉を見だし、その後の学派的体系へと至る。諸学派の所依のテキストから、原文および邦訳を抜粋して、それを解説しながら哲学的な特徴を明らかにし、それぞれに共通する構造のあることを示す。また、その発展、変容形態としての中世・近代思想にも言及する。	
専門科目	選択科目	インド古典思想概論B	本講では、二元論に立脚するサーンキヤ学派の歴史と教義を概説する。インド哲学の諸学派の多くは宗教と密接に関係しているが、サーンキヤ学派は神学的議論を交えることなく、純粋に形而上学の立場から、世界と人間の諸相を解明しようとした。彼らがそのためにどのような論理を展開し、また解脱をめぐるどのような宗教教済論を発展させてゆくことになったかを解説する。さらに、姉妹学派といわれるヨーガ学派との共通点や相違点なども検討し、インド思想の教義と方法論を包括的に理解することを目指す。	
専門科目	選択科目	ヒンドゥー教概論A	現代インドの総人口11億余りのうち約81%の人々が信奉するヒンドゥー教は、近代以後のインド人の移民・海外進出に伴って、「インド世界」の枠を超えて今や世界宗教となっているといえる。現代ヒンドゥー教の基礎は中世に築かれたもので、その内実にはさまざまな宗派や伝統があり、一概にヒンドゥー教とは何かと記述することは困難である。そこで本講義では、インド思想を単元的・通時的に扱う授業では扱いにくい側面に焦点を当てて、現代まで影響のある顕著な諸宗派や諸伝統の教説を概観する。はじめに比較宗教学的な視点でヒンドゥー教の地理的・歴史的・宗教的な一般的特徴を概観する。	
専門科目	選択科目	ヒンドゥー教概論B	「ヒンドゥー教概論A」の授業内容を継承して、現代まで影響のある顕著な諸宗派や諸伝統の歴史的形成過程、それに伴う教説の特徴と変遷、その宗教文化などを中心に講義する。これによってシヴァ信仰・ヴィシュヌ信仰・女神信仰という大きな伝統の内実を受講生がかなり程度専門的に理解でき、さらに大きな伝統と関連する地域的なあるいは時代的な小さい伝統や宗派について知識を増やすことができるものと思われる。	
専門科目	選択科目	インド仏教史A	講義形式。インドにおける仏教の成立と大乘仏教の成立以前までの思想的発展の概略をおさえ、特に重要な事項について諸学説の差異とその根拠を知り、今までに組み立てられた思想史観が確定したものではないことを理解することを目標とする。まず資料論として初期仏教聖典の組織を紹介した後に、釈尊の登場する社会的・思想的背景を見て、釈尊の伝記、教団（サンガ）の組織、結集、部派分裂と進み、最後に部派仏教の様相について概説する。	
専門科目	選択科目	インド仏教史B	講義形式。インドにおける大乘仏教興起からそれ以後のインドにおける仏教の思想的展開を理解することを目指す。大乘仏教成立の下地となったとされる仏伝文学（アシュヴァゴーシャなど）やガンダーラ美術（仏像制作の開始の問題）の概説に始まり、大乘仏教の起源に関する諸学説の紹介と批判、般若經典群、法華經、浄土經典などの諸初期大乘經典、龍樹、中期大乘經典（如来蔵と仏性）、唯識（無着、世親）、中観派と瑜伽行派、仏教論理学、密教と進め、インドにおける仏教の滅亡で終わる。	
専門科目	選択科目	仏教思想概論A	仏教はインドに生まれ、中央アジア・チベット・中国・朝鮮半島・日本に伝わって、その間さまざまな思想を形づくりながら、各地の文化にとけ込んで今日に至った。本講義はこれら仏教の教えの土台となったブッダのものの見方、考え方を追及しながら、ブッダの生涯とその教えの核心、さらにはブッダ当時の修行者の生活などを講義する。さらには、ブッダ以降の仏教の展開から現代仏教に至るまで、そこに貫かれる仏教の骨格について概説する。これによって、仏教についての基本的な知識を備え、偏りのない仏教思想・仏教観を持つことができる。	
専門科目	選択科目	仏教思想概論B	本講義は仏教思想の骨格となったブッダの教えを追及する。そして、各地域に広がった仏教の展開を概説し、その地域独自で発達した仏教思想を解説する。講義の中心となるテーマは、仏教思想の核心である四諦説、無我説、縁起説を解説し、その基盤の上に展開した大乘仏教の概説、さらにはその大乘仏教思想の中心的な思想、すなわち菩薩思想、空の思想、如来蔵思想、密教の思想などを歴史的展開に沿って解説する。このように仏教についての基本的な知識を学び、偏りのない仏教思想・仏教観を持てるようになることが到達目標となる。	
専門科目	選択科目	中国仏教史A	中国仏教の歴史は、インドの哲学的思维を受けつぎつつも、それを中国の風土や思想に根ざすものに組み替えようとした中国人の絶えざる努力の軌跡であったといえる。仏教がいかなる時代背景の中で伝来し、また、中国の政治的・社会的変化の中で、独自の性格と意義を持つ中国仏教がいかんして形成され、また、歴史の中でいかに変化していったかを概観する。春学期では、初伝期から南北朝までを扱い、いかに仏教が受け入れられていったかを中心に講義形式で授業を行う。	
専門科目	選択科目	中国仏教史B	中国仏教の歴史は、インドの哲学的思维を受けつぎつつも、それを中国の風土や思想に根ざすものに組み替えようとした中国人の絶えざる努力の軌跡であったといえる。仏教がいかなる時代背景の中で伝来し、また、中国の政治的・社会的変化の中で、独自の性格と意義を持つ中国仏教がいかんして形成され、また、歴史の中でいかに変化していったかを概観する。秋学期では、隋唐から現代までを扱い、いかに中国独自の仏教が形成され、また、中国社会に同化していったかを中心に講義形式で授業を行う。	
専門科目	選択科目	日本仏教史A	本科目は仏教思想の歴史的展開について、教理と歴史の両方を踏まえたトータルな思想史として理解することを目指す。授業は講義形式で行う。授業においては、日本仏教において活躍した仏教者や各宗派の創始者の思想を歴史的にたどり概説する。対象とする時代や人物は、仏教伝来期と聖徳太子、平安期の最澄、空海、法然の思想、また神仏習合などである。講義においてはおおのの思想的な特色や、時代と思想との関係性について考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	日本仏教史 B	本科目は、日本の中世・近世・近代における仏教思想の意義と近代における各宗の思想の展開について理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。授業においては、中世から近代にかけて活躍した仏教者および日本仏教諸宗派の思想について歴史的に概説する。対象となるのは中世期における親鸞、栄西、道元、日蓮とこれらの人物と関わる浄土真宗、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗などの思想および近世・近代における仏教思想の展開である。これらの思想について、各々の特色や各時代における仏教と社会との関わりについて解説する。	
専門科目	選択科目	東南アジア仏教史	本科目は東南アジア仏教の基本的な流れを理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。授業においてはまず上座部仏教の根拠地とされるスリランカの仏教史を理解した上で、聖典語であるパーリ語で伝承されたタイの史書『ジナカーラマリー』（16世紀作）について解説をおこなう。12世紀にスリランカでマハーヴィハーラ派の受戒のみが承認されるようになった後に、このマハーヴィハーラ派の仏教が、東南アジア各国にどのように流布され、国教化されたのかを、ミャンマー、カンボジア、ラオス等の歴史に配慮しながら検討する。	隔年開講
専門科目	選択科目	チベット仏教史	本科目は、インド仏教の伝統を継承するチベット仏教の思想・文化の流れと特色を理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。授業においては、古代から近現代までのチベットにおける仏教受容の歴史と思想について、周辺地域との関わりを含んで概観する。その際チベットがインド仏教思想のどの部分に重点をおいて受容したか、またチベットにおける仏教の変容について、チベット社会との関わりを含んで解説する。また宗教行為や仏教思想を背景とした儀礼、美術などの文化についても概観する。	隔年開講
専門科目	選択科目	韓国仏教史	韓国の仏教は、紀元4世紀に伝来してから現在に至るまで、約1600年にわたる伝統を持ち、現在でも宗教人口の半数を占める、韓国人にとって重要な宗教である。本講義では、韓国の仏教の流れを、(1)三国時代、(2)新羅時代、(3)高麗時代、(4)朝鮮時代、(5)植民地時代、(6)解放後から現代まで、の順で解説していく。なお、韓国の仏教を理解するためには、中国仏教の知識が必須であり、また韓国仏教は日本仏教との関係も深いので、これら両国の仏教との関係もあわせて講義する。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国学概論 A	「学ぶ」「戦争」「死刑」「法律と道徳」「家族」「豊かさ」「人間とは?」といった人類の普遍的な課題に関して、中国古代の思想家たちがどのように考え、取り組んできたかを、資料に即して読み解いていきながら、同時に、我々が現代において直面している問題にどのように向き合っていけばよいのか、その解決の糸口が中国古代の哲学的資源の中に隠されていないか、を模索する。たんなる知識の伝達場としてではなく、現代的な課題に対して、中国学はどのように向き合い、答えを出して行くことが可能なかといった中国学の「可能性」について、考察・吟味・検討してゆく場とする。本講義では、戦争・死刑等の問題を中心に取り上げる。	
専門科目	選択科目	中国学概論 B	「学ぶ」「戦争」「死刑」「法律と道徳」「家族」「豊かさ」「人間とは?」といった人類の普遍的な課題に関して、中国古代の思想家たちがどのように考え、取り組んできたかを、資料に即して読み解いていきながら、同時に、我々が現代において直面している問題にどのように向き合っていけばよいのか、その解決の糸口が中国古代の哲学的資源の中に隠されていないか、を模索する。たんなる知識の伝達場としてではなく、現代的な課題に対して、中国学はどのように向き合い、答えを出して行くことが可能なかといった中国学の「可能性」について、考察・吟味・検討してゆく場とする。本講義では、豊かさ、幸福感等の問題を中心に取り上げる。	
専門科目	選択科目	中国史概説 A	4千年におよぶ中国の歴史を、先秦時代から清朝末期にまでかけて概説する。伝統中国の図書分類では、歴史書は「経史子集」の「史」としては極めて重要視されてきた。もちろん現在においても、中国哲学・中国文学を学ぶ場合に、中国史は基礎的知識として欠かせない。「文史哲」と括られて、中国文学・中国史・中国哲学と三位一体のものとして位置づけられてもいる。各講義で必要に応じて該当時期の歴史を講じることはあっても、それらは断代史的なものにならざるを得ず、通史の必要性は常に意識されてきた。本講義は、中国史を通史として講ずるものである。本講義では、古代から唐代までを取り上げる。	
専門科目	選択科目	中国史概説 B	4千年におよぶ中国の歴史を、先秦時代から清朝末期にまでかけて概説する。伝統中国の図書分類では、歴史書は「経史子集」の「史」としては極めて重要視されてきた。もちろん現在においても、中国哲学・中国文学を学ぶ場合に、中国史は基礎的知識として欠かせない。「文史哲」と括られて、中国文学・中国史・中国哲学と三位一体のものとして位置づけられてもいる。各講義で必要に応じて該当時期の歴史を講じることはあっても、それらは断代史的なものにならざるを得ず、通史の必要性は常に意識されてきた。本講義は、中国史を通史として講ずるものである。本講義では、宋代から清代までを取り上げる。	
専門科目	選択科目	中国文献学 A	中国悠久の歴史の中に存在する数多くの古典文献を対象として、「研究・整理」してゆく過程で形成された「中国文献学」という分野に目を向け、その内容を解説してゆく。それによって中国古典文献を取り扱う上で必要とされる基礎知識を身につける。具体的には工具書についての解説を行った後、中国文献の歴史を講述し、各時代における中国文献目録について、さらに「四庫全書」についての解説を行い、叢書や類書について話を進めてゆく。本講義では、工具書の説明と、中国の文献の歴史解説を中心に行う。	
専門科目	選択科目	中国文献学 B	中国悠久の歴史の中に存在する数多くの古典文献を対象として、「研究・整理」してゆく過程で形成された「中国文献学」という分野に目を向け、その内容を解説してゆく。それによって中国古典文献を取り扱う上で必要とされる基礎知識を身につける。具体的には工具書についての解説を行った後、中国文献の歴史を講述し、各時代における中国文献目録について、さらに「四庫全書」についての解説を行い、叢書や類書について話を進めてゆく。本講義では、中国の文献目録についての解説と、叢書や類書についての説明を中心に行う。	
専門科目	選択科目	中国文字学 A	本講義は、「字」そのものについての知識を深めることを目的とする。中国学を学ぶ以上、漢語で書かれた資料を扱うのは避けて通れないし、そもそも日本人は漢字を基盤とした文化圏のなかに生活しているという現実がある。その漢字についての知識を深く持つことで、現在我々が日常接している文字への認識を深めることができるし、ひいては研究を行う上で資料操作等を容易にすることができるようになる。そこで本講義では、まず漢字の歴史についての知識や漢字の成り立ちについての知識を伝え、そのうえで漢字を研究する文字学の方針へと深化させてゆく。本講義では、甲骨文字から文字の統一までを中心に説明を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	中国文字学 B	本講義は、「字」そのものについての知識を深めることを目的とする。中国学を学ぶ以上、漢語で書かれた資料を扱うのは避けて通れないし、そもそも日本人は漢字を基盤とした文化圏のなかに生活しているという現実がある。その漢字についての知識を深く持つことで、現在我々が日常接している文字への認識を深めることができるし、ひいては研究を行う上で資料操作等を容易にすることができるようになる。そこで本講義では、まず漢字の歴史についての知識や漢字の成り立ちについての知識を伝え、そのうえで漢字を研究する文字学の分野へと深化させてゆく。本講義では、『説文解字』と説文学の解説を中心に行う。	
専門科目	選択科目	中国文化史 A	21世紀、「革命中国」は「伝統中国」に回帰し、新しい「華夷秩序」への模索が始まろうとしている。中国が回帰しようとしている伝統的な中華の世界とは何か。伝統中国の再登場は、世界秩序にどのような影響を与えるのか。日本の将来にどのような影響を与えるのか。このような問題意識のもと、「民主」「自由」「自立」「統一」「日中関係」について、伝統中国がはらむ問題点を考察し、近現代中国をどのような視点で理解する必要があるのかを考察する。本講義では、孫文の三民主義の概念を中心に解説を行う。	
専門科目	選択科目	中国文化史 B	21世紀、「革命中国」は「伝統中国」に回帰し、新しい「華夷秩序」への模索が始まろうとしている。中国が回帰しようとしている伝統的な中華の世界とは何か。伝統中国の再登場は、世界秩序にどのような影響を与えるのか。日本の将来にどのような影響を与えるのか。このような問題意識のもと、「民主」「自由」「自立」「統一」「日中関係」について、伝統中国がはらむ問題点を考察し、近現代中国をどのような視点で理解する必要があるのかを考察する。本講義では、伝統意識と「統一」、および日中関係などを中心に説明を行う。	
専門科目	選択科目	中国の美術 A	広大な国土と長く複雑な歴史をもつ中国では、時代と地域により多様な美術作品が生み出された。本科目は、先史時代から南北朝時代までの中国美術について、造形様式の変遷とその歴史的背景を理解することを目的とする。授業は講義形式でおこない、絵画、彫刻、工芸を対象に、各時代の代表作品をとりあげ、画像、映像等による作品鑑賞をまじえながら、それぞれの作品の制作事情、様式・技法上の特色、造形の基盤となった思想や文化などについて解説し、中国美術の流れを概観する。あわせて、中国美術が日本美術に与えた影響についても言及する。	
専門科目	選択科目	中国の美術 B	広大な国土と長く複雑な歴史をもつ中国では、時代と地域により多様な美術作品が生み出された。本科目は、隋唐時代から明清時代までの中国美術について、造形様式の変遷とその歴史的背景を理解することを目的とする。授業は講義形式でおこない、絵画、彫刻、工芸を対象に、各時代の代表作品を取りあげ、画像、映像等による作品鑑賞をまじえながら、それぞれの作品の制作事情、様式・技法上の特色、造形の基盤となった思想や文化などについて解説し、中国美術の流れを概観する。あわせて、中国美術が日本美術に与えた影響についても言及する。	
専門科目	選択科目	中国哲学史 A	中国の哲学者は政治哲学、自然哲学、死生観、歴史哲学など、思索をこらした関心範囲はさまざまである。その大要を紹介するとともに、日本に生きる我々にとって中国哲学を学ぶことの意義とは何かという問題関心を大事にしながら講義を行う。講義内容に即して、その都度それが日本においてどのように受容されたのかを、特徴的な話をまじえて講述する。たんに知識として覚えるのではなくして、提示された思考類型を参考にして自前で考える訓練も行う。本講義では、諸子百家から儒仏道の諸相までを解説する。	
専門科目	選択科目	中国哲学史 B	中国の哲学者は政治哲学、自然哲学、死生観、歴史哲学など、思索をこらした関心範囲はさまざまである。その大要を紹介するとともに、日本に生きる我々にとって中国哲学を学ぶことの意義とは何かという問題関心を大事にしながら講義を行う。講義内容に即して、その都度それが日本においてどのように受容されたのかを、特徴的な話をまじえて講述する。たんに知識として覚えるのではなくして、提示された思考類型を参考にして自前で考える訓練も行う。本講義では、新儒教の躍進から近代初期の哲学の諸相までを扱う。	
専門科目	選択科目	中国文学史 A	中国文学の発展の様相を、通史的に講義する。先秦から清末に至るまで、各時代における文学事象・文学者（詩人・作家）・作品等の基礎的知識を伝授するとともに、各時代ごとの特徴に踏み入り、それらの特徴が生じた背景や要因を考察する。また各時代の代表的な作品にも具体的に接しながら、時代状況のなかに作品を置いて分析する訓練も、併せて行う。本講義のねらいは、中国文学の発展の諸相について基礎的知識を得ることによって、中国文学が携えている独特の価値観や特徴を把握するところにある。本講義では、『詩経』から唐代文学までを扱う。	
専門科目	選択科目	中国文学史 B	中国文学の発展の様相を、通史的に講義する。先秦から清末に至るまで、各時代における文学事象・文学者（詩人・作家）・作品等の基礎的知識を伝授するとともに、各時代ごとの特徴に踏み入り、それらの特徴が生じた背景や要因を考察する。また各時代の代表的な作品にも具体的に接しながら、時代状況のなかに作品を置いて分析する訓練も、併せて行う。本講義のねらいは、中国文学の発展の諸相について基礎的知識を得ることによって、中国文学が携えている独特の価値観や特徴を把握するところにある。本講義では、宋代の文学から清代の文学までを扱う。	
専門科目	選択科目	中国現代文学史 A	中国の近現代文学の発展の諸相を、通史的に講義する。清末から新時期文学の時期を取り上げるので、おもに20世紀の中国文学を概観することになる。各期における文学事象・作家・作品等について基礎的知識を伝授するとともに、各時期の文学が見せる特徴を指摘するとともに、それらの特徴が生じた背景や要因を考察する。また近現代文学を代表する作品を読み、討論形式でテーマ分析等を行うことで、理解を深めてゆくことにする。本講義は清朝末期から30年代の文学までを、講義の対象とする。	
専門科目	選択科目	中国現代文学史 B	中国の近現代文学の発展の諸相を、通史的に講義する。清末から新時期文学の時期を取り上げるので、おもに20世紀の中国文学を概観することになる。各期における文学事象・作家・作品等について基礎的知識を伝授するとともに、各時期の文学が見せる特徴を指摘するとともに、それらの特徴が生じた背景や要因を考察する。また近現代文学を代表する作品を読み、討論形式でテーマ分析等を行うことで、理解を深めてゆくことにする。本講義は40年代から文革終結後の新時期文学までを、講義の対象とする。	
専門科目	選択科目	中国哲学講義 A	異文化理解の基本は、言語の修得にある。とくに中国の研究には漢語文献の読解力が不可欠である。本講義では、日本の伝統的な漢語文献の読解法である訓読法によって、古典文献を理解する力を涵養することを目的とする。訓読法の基礎的知識を再確認するところからはじめ、最終的には白文を読む訓練の段階まで到達する。哲学文献を対象として、読む力をつけることを主目的にしながら、併せて中国古典研究の基礎知識をも講義する。本講義では、『論語』の基礎知識と読み方の基礎を伝授する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	中国哲学講読B	異文化理解の基本は、言語の修得にある。とくに中国の研究には漢語文献の読解力が不可欠である。本講義では、日本の伝統的な漢語文献の読解法である訓読法によって、古典文献を理解する力を涵養することを目的とする。訓読法の基礎的知識を再確認するところからはじめ、最終的には白文を読む訓練の段階まで到達する。哲学文献を対象として、読む力をつけることを主目的にしながら、併せて中国古典研究の基礎知識をも講義する。本講義では、テキストに沿って、漢文読解の訓練を行う。	
専門科目	選択科目	中国文学講読A	中国文学の文献を対象として、原典を正確に読み、文章内容を正しく理解する訓練を行う。本講義は、初級段階の演習を終えてきた者を対象とするが、基礎的知識の復習からはじめ、徐々に高度な読解力を要する文章まで読み進め、読む力を涵養してゆく。中国の文献は、読んだ量に比例して読解力がついてゆくの、ひたすら読む訓練を繰り返してゆく。読む訓練のなかには、予習に際して工具書をいかに効率よく利用しているか、類書をはじめさまざまな文献をいかに調査してくれるのかということも含まれる。本講義では、工具書の効果的な使い方や、漢文読解の基礎を伝授する。	
専門科目	選択科目	中国文学講読B	中国文学の文献を対象として、原典を正確に読み、文章内容を正しく理解する訓練を行う。本講義は、初級段階の演習を終えてきた者を対象とするが、基礎的知識の復習からはじめ、徐々に高度な読解力を要する文章まで読み進め、読む力を涵養してゆく。中国の文献は、読んだ量に比例して読解力がついてゆくの、ひたすら読む訓練を繰り返してゆく。読む訓練のなかには、予習に際して工具書をいかに効率よく利用しているか、類書をはじめさまざまな文献をいかに調査してくれるのかということも含まれる。本講義では、テキストに沿って、漢文読解の訓練を行う。	
専門科目	選択科目	日本漢学A	日本が歴史時代に入ったのは、漢民族が古典古代の文化を完成させた時期である。日本の精神文化は最初から漢字文化圏の中で形成された。日本文化史は漢文学として出発したのである。だから日本漢学は日本学理解の主座を占めることになる。いきおい日本漢学という講義は、漢民族の学問・文学が日本においていかに受容されて、その理解を基礎にして、いかに独自の文学思想を樹立したのかを考える。外来文学である漢文学が日本の中で自文化創造の豊かな滋養になったこと、西欧・キリスト教文化を受容するときにそれが大きな役割を果たしたこと、その際に漢文学が自己革新を模索したことなどを講義する。本講義では、漢字文化圏における日本文化の発火から、江戸時代の漢学文化の諸相までを取り上げる。	
専門科目	選択科目	日本漢学B	日本が歴史時代に入ったのは、漢民族が古典古代の文化を完成させた時期である。日本の精神文化は最初から漢字文化圏の中で形成された。日本文化史は漢文学として出発したのである。だから日本漢学は日本学理解の主座を占めることになる。いきおい日本漢学という講義は、漢民族の学問・文学が日本においていかに受容されて、その理解を基礎にして、いかに独自の文学思想を樹立したのかを考える。外来文学である漢文学が日本の中で自文化創造の豊かな滋養になったこと、西欧・キリスト教文化を受容するときにそれが大きな役割を果たしたこと、その際に漢文学が自己革新を模索したことなどを講義する。本講義では、漢文の発展を追いかけつつ、近代文学における影響力に至るまでを解説する。	
専門科目	選択科目	日本の美術A	本科目は毎時間、絵画、工芸、染織（衣装）など、様々な日本の造形文化史上の名品を鑑賞し、幅広い知識を得ると同時に「暮らしの中の美術文化史」という視点から、日本美術の本質を理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。授業では原始から近世までの日本の造形文化とその美意識について学ぶ。例えば王朝絵巻などに見られる物語と絵画の関わりや現代のアニメーションなどとの関連性について解説し、また工芸、彫刻、衣装、建築作品の鑑賞と解説を通じてそれを育んだ豊かな文化背景を考察する。	
専門科目	選択科目	日本の美術B	本科目は、日本の造形文化史上の名品の解説と鑑賞を通じて日本美術の基本的知識を身につけ、また日本の美術や文化がもたらした国際交流の軌跡について理解を得ることを目的とする。授業は講義形式で行う。授業では近世から現代までの日本の造形文化と、海外の美術館や個人が所蔵する日本美術コレクションの現状や歴代の里帰り展について解説するとともに、日本の美術、文化が欧米に与えた影響「ジャポニスム」にも言及し、現代の日本の作家達が発信するイメージの中に息づく、伝統の手法や感性についても考察する。	
専門科目	選択科目	神道史A	現在みられる〈神道〉の姿は、明治維新の神仏分離・廃仏毀釈を経て、近代に再編されたものである。それ以前は千年以上の間、土着的な〈カミ〉信仰が仏教を中心とする外来宗教の影響を受けた〈神仏習合〉の時代が続いたのであって、〈神道〉とは、そのなかで形成された信仰と思想と儀礼の総体なのである。かかる観点から本授業は、「神道史A」では、主に古代を扱い、〈カミ〉信仰の原初形態から仏教伝来と、それに伴う神仏習合・本地垂迹説の展開を概観する。	隔年開講
専門科目	選択科目	神道史B	「神道史A」を受け継ぎ、中世における神道史を概観する。本地垂迹説に基づく〈神道〉の教理形成（中世神道説）、神祇信仰の諸相、中世独自の神話記述（中世神話、中世日本紀）等を論じ、併せて中世社会の変貌のなかで、〈神道〉が仏教から独立した存在になっていく経緯を辿る。講義を通して、〈神道〉或いは〈神道的なるもの〉が、仏教渡来以前より連続と受け継がれてきたのだという固有性の呪縛を解き、東アジア社会の思想・宗教の交流・融合・変容の産物として〈神道〉をとらえなおすことを企図する。	隔年開講
専門科目	選択科目	近世日本思想A	本講義は、天下統一から幕藩体制の成立のなか（16世紀から17世紀）で起こった思想的変容を概観するものである。近世社会の到来は、中世までの仏教中心とした思想・宗教の状況を大きく変化した。仏教が主として担っていた来世的宗教観が退潮して、世俗主義的風潮が強まる。また、神道が仏教より独立した存在となるいっぽう、儒学が幕府の公的学問としての地歩を固めていった。本講義は、これら儒・仏・神三教に加え、一六世紀に入ってきたキリスト教も含め、近世社会前期における思想的・宗教的営みを辿ることで、今日に通ずる「日本人」の考え方の土台がいかに作られたかを考える。	隔年開講
専門科目	選択科目	近世日本思想B	「近世日本思想A」を受け継ぎ、18世紀中葉から19世紀かけての、日本における思想状況を概観する。江戸中期以降になると、儒教が社会的に定着するいっぽう、蘭学を学ぶ傾向が起り、従来までの中国的学問の体系が批判されるようになった。また、日本の古典研究（和学）と神道研究の融合のなかから国学が起り、仏教・儒教など外来思想を批判する。これが近代以降の国家主義のイデオロギーの土台を築いていくのである。講義を通じて、近世から近代への変化の過程において、何が受け継がれ、何が失われたかを考えていきたい。併せて民間信仰の諸相や幕末の宗教運動についても触れる。	隔年開講

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	比較宗教 A	宗教とは何かを考察する学問が宗教学であるが、宗教学の始まりは「たった一つの宗教しか知らないものは、宗教を知らないものである」という比較宗教学であった。本講義では、宗教学が何を問題にしてきたのかを紹介し、学問・研究の基礎である「理論化」というスキルの習得を目指す。次に具体的に諸宗教の比較を行う。存在論や倫理観など、いくつかの観点から諸宗教の違いを明確化し、諸宗教の特質を理解する。特に、西洋と東洋という視点だけでなく、神道と仏教の違いなど日本における諸宗教の違いにも目を向ける。	
専門科目	選択科目	比較宗教 B	宗教間の対話に焦点をあてる。宗教が多くの紛争と関わりを持ってきたことは事実である。宗教間対話とは、国際社会がグローバル化する中で諸宗教がどうあるべきかを模索することである。本講義では、宗教における対立や紛争の歴史を学び、宗教間対話が注目されてきた時代背景を理解する。次に、各国における宗教教科書を確認し、諸宗教にとって「宗教」や他宗教がどのように認識されているのかを学ぶ。これらを踏まえ、宗教間対話における理論研究の考察をする。また、宗教間対話における諸宗教の活動に目を向ける。	
専門科目	選択科目	宗教社会学 A	現代では、宗教は個人の心の問題で、現実社会とは関係のないものと考えられる傾向が強い。しかし歴史や世界の情勢を見れば、宗教が社会の方向性を指し示し歴史を牽引する役割を果たしてきたことがわかる。宗教の違いが様々な摩擦や衝突を起こしている例も多い。宗教とはいったいどのようなもので、今どこに向かっているのか。授業では宗教なるものの理解のために形成されてきた学問である「宗教学」の視点を利用し、かつその問題点を考えながら、世界の宗教に関する知見を広げ、認識を深めていくことを目指す。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	宗教社会学 B	社会と宗教には深い関わりがあるが、その関係は複雑、多様で、一般化して論じるのが難しいものである。そもそも我々が気軽に使っている「宗教」という語彙自体、実は西洋の宗教や学問の歴史的な脈から切り離し難いものであり、これをもって世界の多様な現象を語ることに、実は様々な困難がある。本授業ではインドを主要なテーマとして、宗教間対立の問題、伝統とされるものの意外な近代性などを学ぶと共に、特に文化の壁を超えて社会と宗教の関わりを理解することの可能性と困難を考えることとする。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	日本民俗学 A	日本民俗学について、柳田国男の著作から目的と研究方法を学んで、資料のバラエティや収集方法の実際を学ぶ。人々の身近に多く存在する「あたりまえ」の事象が存在する（した）現代の意味を考察するために、民俗学と歴史学、民俗学と物語との関連に言及する。講義では、プリントで伝承文化と史料の事例を紹介してゆく。具体的な課題としては、民俗学の入門から、ムラ・マチの社会、人生儀礼、フィールドワーク、民俗調査の方法などである。	
専門科目	選択科目	日本民俗学 B	日本民俗学について、柳田国男の著作から目的と研究方法を学んで、資料のバラエティや収集方法の実際を学ぶ。人々の身近に多く存在する「あたりまえ」の事象が存在する（した）現代の意味を考察するために、民俗学と歴史学、民俗学と物語との関連に言及する。講義では、プリントで伝承文化と史料の事例を紹介してゆく。具体的な課題としては、第生活具・民具の発見と記録法、民俗芸能、絵解きの絵・文字・語り、稲作と文化、職人と技芸の継承などである。	
専門科目	選択科目	書道Ⅱ A	楷書・行書・草書・隸書・かな等の古典学習のなかから、文字の構造美を探ってゆく。また文字の発生から、篆書・隸書・楷書・行書・草書・仮名に至るまでの各時代の書体の変化と書風の変遷の理解を深める。書道における基本知識と、楷書・行書・かなの基本知識を習得し、筆で上手に書ける技術を訓練する。硬筆では、ノートの文字や板書の技量が高まることを目指す。以上の訓練を通して、書道科教員免許取得のための基本的な知識と技法の充実を図ってゆく。本講義では、楷書、行書を中心に行う。	
専門科目	選択科目	書道Ⅱ B	楷書・行書・草書・隸書・かな等の古典学習のなかから、文字の構造美を探ってゆく。また文字の発生から、篆書・隸書・楷書・行書・草書・仮名に至るまでの各時代の書体の変化と書風の変遷の理解を深める。書道における基本知識と、楷書・行書・かなの基本知識を習得し、筆で上手に書ける技術を訓練する。硬筆では、ノートの文字や板書の技量が高まることを目指す。以上の訓練を通して、書道科教員免許取得のための基本的な知識と技法の充実を図ってゆく。本講義では、篆書、隸書、篆刻等を中心に行う。	
専門科目	選択科目	書道Ⅲ A	書道Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎をさらに固め、高度な表現技法を習得することを目的とする。漢字・かな・硬筆・篆刻などを対象として取り上げる。特に楷書・行書・草書・篆書・隸書の名筆を臨書の課題して取り上げ、さらに細字についても訓練を行う。篆刻では、自用印の制作を行い、篆刻における造形美についても理解を深めてゆくことにする。以上の訓練を通して、書道科教員免許取得のための基本的な知識と技法の充実を図ってゆく。本講義では、楷書、行書、草書、篆書等を中心に行う。	
専門科目	選択科目	書道Ⅲ B	書道Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎をさらに固め、高度な表現技法を習得することを目的とする。漢字・かな・硬筆・篆刻などを対象として取り上げる。特に楷書・行書・草書・篆書・隸書の名筆を臨書の課題して取り上げ、さらに細字についても訓練を行う。篆刻では、自用印の制作を行い、篆刻における造形美についても理解を深めてゆくことにする。以上の訓練を通して、書道科教員免許取得のための基本的な知識と技法の充実を図ってゆく。本講義では、隸書、篆刻、細字等を中心に行う。	
専門科目	選択科目	海外文化研修Ⅰ	授業で学んだインドおよびその文化圏諸国の地理・歴史・文化・風土などの知識を、歴史的遺蹟や建造物、生きた聖地など現地を訪問して、教員スタッフや現地ガイドからレクチャーを受けながら肌身をもって試し、広くアジアを中心とする国際感覚を涵養することを主目的とする。研修時期は、おおよそ夏季休暇などの長期休暇時期を利用し、行う予定である。事情が許せば当該大学の学生との交流も行いたい。研修実施以前に数回の講義を行う。	集中講義 講義：18時間 実習：72時間
専門科目	選択科目	海外文化研修Ⅱ	現地を直接訪れ、海外の文化や風土に直接触れることで学んだ知識を深めるとともに国際感覚を養うことを目的とする。海外文化研修Ⅰが南アジアを対象とするのに対して、海外文化研修Ⅱは東アジアを対象とする。具体的には、各地の寺院や遺跡等の文化遺産を訪問し、また、博物館で文化財を鑑賞するとともに、提携大学を訪れて国際交流を行なう予定である。研修は夏季休暇中に行うが、事前にガイダンスを開いて訪問先についての十分な知識を養った上で現地を訪れ、帰国後に長文のレポートを課す予定である。	集中講義 講義：18時間 実習：72時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	サンスクリット語Ⅱ A	インドの基本的文献はサンスクリット語で書かれている。したがってインド思想や仏教を学ぶためには、原典を通して読むことが望ましい。本講は初年度で初級サンスクリット語を履修した学生に対し、さらに解説を中心とする実践的な講義を通して、サンスクリット文献の読解能力の向上をめざす。ナーガリー文字に慣れることも必要なので、教材にはC.R.Lanmanの文法書（SanskritReader）などを用いながら、実践的な訓練を行い、それによって各自の研究分野に対応できる語学力を強化する養成することを目指す。	
専門科目	選択科目	サンスクリット語Ⅱ B	インドの基本的文献はサンスクリット語で書かれている。したがってインド思想や仏教を学ぶためには、原典を通して読むことが望ましい。本講は春学期に引き続いて履修する学生を想定し、さらに解説を中心とする実践的な訓練を積み重ねて、サンスクリット文献の読解能力の向上をめざす。ナーガリー文字に慣れることも必要なので、教材にはC.R.Lanmanの文法書（SanskritReader）に加え、『般若心経』の解説などを予定している。それによってインド学、仏教学にまたがる研究分野に対応できる語学力を強化することを目指す。	
専門科目	選択科目	哲学概論	現象学の入門書として書かれている著『現象学とはじめ』を用いて、自覚の仕方をたどって、「数えること」、「見えることと感ずること」、「時がたつこと」等々、私たちが日常生活を「生きる」中で、当たり前に行っていることの成り立ちや仕組みをはっきり自覚していく実例を呈示している。授業に参加する学生は、この自覚の仕方を共に、各自で追体験することを通して、それに慣れ親しみ、習熟していくことになる。このことこそ、この講義の目的である。	
専門科目	選択科目	倫理学概論	本講義は、倫理学の基本を専門的に学ぶものである。その内容は、体系・歴史・応用である。哲学科の皆さんは、必修科目であるので、必ず受講しなければならない。ヨーロッパの真理観、学問分類を定義し、古代から、中世、近世のカントに至るまでのに至る善、知恵、感情、道徳、背徳、悪について論じる。受講者の理解度に即して、進度は変化しうる。倫理学の基礎的知識とバースペクティブを身につけて、社会人として役立ててもらいたい。	
専門科目	選択科目	書論 A	「書論」とは、書作品がもつ美の概念を分析し、評論を加えたものをいう。文字を書くという行為が造形芸術となり、理論が展開されてきた歴史を学ぶことは、書の本質的な価値を探るうえで重要なことである。現存する中国最古の書論の文献は、後漢の趙壹による『非草書』である。この書より始め、南朝・唐・五代・北宋・南宋・元・明・清・民国の各時代に書かれてきた書論の特徴を探る。書論の内容および思想や精神を学ぶことで、書法の原典を探り、自らの書法の向上と充実を図ることに努めたい。	
専門科目	選択科目	書論 B	「書論」とは、書作品がもつ美の概念を分析し、評論を加えたものをいう。文字を書くという行為が造形芸術となり、理論が展開されてきた歴史を学ぶことは、書の本質的な価値を探るうえで重要なことである。現存する中国最古の書論の文献は、後漢の趙壹による『非草書』である。この書より始め、南朝・唐・五代・北宋・南宋・元・明・清・民国の各時代に書かれてきた書論の特徴を探る。さらに本講義では、中国の各時代の書論とともに、日本の書論についても学び、日本の書論の特徴と問題点を考えていく。	
専門科目	選択科目	書道Ⅳ A	書道における原理・原則を理解するとともに、かなの古典学習を通して日本文化と書道との関連性を考える。書道は実技科目であるので書くことに重点をおくことになるが、臨書学習にとどまらず、古典鑑賞を行ったりすることで創作方法への理解を深めてゆきたい。漢字仮名交じりの書や、手本の書き方についても研究し、筆墨硯紙を変えての作品制作にも取り組んでゆく。さらに硬筆（ペン字を含む）の訓練も行って、自らの筆法の完成を追求してゆくことにする。本講義では、楷書、行書、草書、篆書、隸書等を中心に行う。	
専門科目	選択科目	書道Ⅳ B	書道における原理・原則を理解するとともに、かなの古典学習を通して日本文化と書道との関連性を考える。書道は実技科目であるので書くことに重点をおくことになるが、臨書学習にとどまらず、古典鑑賞を行ったりすることで創作方法への理解を深めてゆきたい。漢字仮名交じりの書や、手本の書き方についても研究し、筆墨硯紙を変えての作品制作にも取り組んでゆく。さらに硬筆（ペン字を含む）の訓練も行って、自らの筆法の完成を追求してゆくことにする。本講義では、臨書、篆刻、細字を中心に行う。	
専門科目	選択科目	創作書道 A	漢字の各書体・かな・漢字かな交じりの書のなかから、自らテーマを決めて創作作品を書くことで、実技面における最終目標である創作性の養成を行う。創作の対象は、漢字・かな・漢字かな交じりの書・篆刻とする。これらのうち何種類もの書体を創作してよい。創作内容は、好みの漢詩・和歌・語句・自作の歌などとする。創作に当たっては、走行を制作した後、大きな紙に清書する手順をとる。書き上げた作品に対しては、批評を与えて完成度を高めてゆくことにする。本講義では、古典の臨書学習と創作方針の模索を行う。	
専門科目	選択科目	創作書道 B	漢字の各書体・かな・漢字かな交じりの書のなかから、自らテーマを決めて創作作品を書くことで、実技面における最終目標である創作性の養成を行う。創作の対象は、漢字・かな・漢字かな交じりの書・篆刻とする。これらのうち何種類もの書体を創作してよい。創作内容は、好みの漢詩・和歌・語句・自作の歌などとする。創作に当たっては、走行を制作した後、大きな紙に清書する手順をとる。書き上げた作品に対しては、批評を与えて完成度を高めてゆくことにする。本講義では、創作実践を行う。	
専門科目	選択科目	日本史 A	地理歴史科教師に必要な日本史の基礎的知識を習得し、あわせて歴史学の基本的な研究方法を理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。まず歴史研究の方法について解説した後、日本の古代史と中世史の主要な事件や出来事に関して、その歴史的な背景、具体的な経過、後代への影響などを、核となる史料をいくつか提示し、その講読・解釈を通じて概説していく。具体的には、大和朝廷の成立、律令国家の成立と発展から始めて、織豊政権、桃山文化に及ぶ。	
専門科目	選択科目	日本史 B	地理歴史科教師に必要な日本史の基礎的知識を習得し、あわせて歴史学の基本的な研究方法を理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。江戸時代以降、現在までの主要な事件や出来事に関して、その歴史的な背景、具体的な経過、後代への影響などについて諸史料の講読・解釈を通じて概説していく。具体的には、「幕藩体制の成立」から始めて、「近代国家の成立」「太平洋戦争と日本の敗戦」「高度経済成長と公害」等を経て、「21世紀の世界と日本」にまで及ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	外国史A	中学校社会歴史的分野および高校世界史の授業において生徒を指導するに足る世界史の基礎知識を修得させ、また、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることで歴史的思考力を培うことを目指す。世界史全体を(1)諸地域世界の形成、(2)諸地域世界の交流と再編、(3)諸地域世界の結合と変容、(4)地球世界の形成に区分し、それぞれの時期に最も重要な役割を果たした地域世界の動向に着目して同時代の世界の全体像を動態的に理解する。この授業では(1)諸地域世界の形成、(2)諸地域世界の交流と再編を扱う。主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	外国史B	中学校社会歴史的分野および高校世界史の授業において生徒を指導するに足る世界史の基礎知識を修得させ、また、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることで歴史的思考力を培うことを目指す。世界史全体を(1)諸地域世界の形成、(2)諸地域世界の交流と再編、(3)諸地域世界の結合と変容、(4)地球世界の形成に区分し、それぞれの時期に最も重要な役割を果たした地域世界の動向に着目して同時代の世界の全体像を動態的に理解する。この授業では(3)諸地域世界の結合と変容、(4)地球世界の形成を扱う。主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	地誌学A	地誌の考え方・方法を理解すると共に、地誌学的視点を身につけることを目標とする。「日本地誌を考える」をテーマに、地誌学の考え方・方法・意義を検討し、世界の諸地域を比較対象として取り上げながら、日本の諸地域を具体的な考察対象として、地誌学を考察する。扱う内容は、「地理学と地誌学、世界地誌と対比した日本地誌」「地域と地域区分」「地誌をめぐる近年の議論と地誌の存在理由」「日本とその地域区分」「大都市圏」「大都市圏の回廊地帯」「地方圏」等であり、講義形式で授業を進める。	
専門科目	選択科目	地誌学B	地誌の考え方・方法を理解すると共に、地誌学的視点を身につけることを目標とする。「世界地誌を考える」をテーマに、地誌学の考え方・方法・意義を検討し、日本の諸地域を比較対象として取り上げながら、世界の諸地域を具体的な考察対象として、地誌学を考察する。扱う内容は、「地理学と地誌学、日本地誌と対比した世界地誌」「地域と地域区分」「地誌をめぐる近年の議論と地誌の存在理由」「世界とその地域区分」「世界の諸地域」等であり、講義形式で授業を進める。	
専門科目	選択科目	自然地理学A	自然地理の現象面のみの理解にとどまらず、その原因についても論理的に考察できるようになるとともに、中学社会、高校地理の授業において生徒を指導するに足る基礎的知識を修得することを旨とする。具体的には、我々が生活の場としている地球表層部の成立を詳しく解説するとともに、宇宙の中での地球、地球の構造と歴史、地球表層における日本の特徴、といった順番に日本列島の特徴を述べてゆく。また、日本では何故地震が多いか、地震被害を軽減するにはどうしたらよいか、などに関しても言及する。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	自然地理学B	自然地理について作図等を通じて理解を深めることで、中学社会、高校地理の授業において生徒を指導するに足る基礎的知識を修得することを旨とする。具体的には、日本列島にお地形形成について、地殻変動・気候変化の観点から解説する。そして、自然災害は普遍的な現象であることを明らかにした後、その予測についても紹介する。気候変化に関しては、過去から現在までの環境変遷の様子が土地にプリントされていること、環境変遷が人間の歴史に大きな影響を与えてきたことなどを解説する。授業は講義を中心に行う。	
専門科目	選択科目	人文地理学A	「武蔵野台地」や「北海道」「燕市」「バングラデシュ」「タイの農村」など、日本と外国の具体的な事象を扱うことで、人文地理学の特徴である、各地の事例を相互に比較対照させて論理を検討する帰納的な手法と、環境論ならびに地域分業（関係）論という視点を得させ、それを用いて現実の地域社会を分析できる能力や、グローバルな地域関係に象徴される現代世界の人の生き様・課題の理解を得させることで、中学社会、高校地理の授業において生徒を指導するに足る基礎的知識を修得することを目標とする。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	人文地理学B	1. 人文地理学のマルチ・スケールな視点から現代社会における地域開発を考える、2. 地図・統計分析・フィールドワークなどの環境をとらえる地理学の技法を身につける、3. 地域を作り社会を変える人間の能動性に注目した人文地理学の方向性を知るという三つを目標に、地域を作るという営みと、主体となる人々の環境認識や未来図構築との関連について、各地の事例を比較対照しつつ考察を重ねることで、中学社会、高校地理の授業において生徒を指導するに足る基礎的知識を修得することを旨とする。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	日本語概説A	日本語の様々な現象や問題点を取り上げ、日本語の構造について把握し、日本語学全般にわたる基礎的な知識の習得をめざす。大きく、音声・音韻、文字・表現に分類し、具体的な事例を多く取り上げながら授業を進める。「音声・音韻」では、すべての人が同じように発音しているわけではないのに、なぜことばが通ずるのかを考える。また「音韻」という概念を理解し、「音声」との違いを把握する。「文字・表現」では、文字とその使い方の概要を学び、漢字、仮名（ひらがな・カタカナ）、ローマ字に触れる。	
専門科目	選択科目	日本語概説B	日本語の様々な現象や問題点を取り上げ、日本語の構造について把握し、日本語学全般にわたる基礎的な知識の習得をめざす。大きく、語彙と文法に分類し、具体的な事例を多く取り上げながら授業を進める。「語彙」では、単語の発音と意味の結びつき、また単語と語彙の違い、語彙の類別・量、語構成、語彙史などの面から学習を進める。「文法」では、文法と文法論の異なりについて考える。さらに語についての研究と文についての研究を取り上げる。また文章というものはどのようなものか、文体とは何が異なるのかについて理解を深めてゆく。	
専門科目	選択科目	古代日本文学史A	本講義では、平安朝の文学の生成と展開を跡付ける。大きな柱を示すと、次のようになる。 (1) 王朝漢文学の隆盛と終息 (2) 万葉集から王朝和歌へ (3) 仮名散文の始発、以上のような枠組みの中で、まずは個別に問題を掘り下げてゆが、最終的にはそれぞれの柱が独立しているのではなく、互いに深くかわりながら、王朝文学の豊かな世界を切り開いていったことを理解するところに重点を置く。こうした理解を深めるなかで、王朝文学固有のダイナミズムを明らかにすることを目的とする。	
専門科目	選択科目	古代日本文学史B	本講義では、平安朝の文学の生成と展開を跡付ける。大きな柱を示すと、次のようになる。 (1) 仮名散文の始発 (2) 女流日記の世界 (3) 物語の登場、以上のような枠組みの中で、まずは個別に問題を掘り下げてゆが、最終的にはそれぞれの柱が独立しているのではなく、互いに深くかわりながら、王朝文学の豊かな世界を切り開いていったことを理解するところに重点を置く。こうした理解を深めるなかで、王朝文学固有のダイナミズムを明らかにすることを目的とする。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	中世日本文学史 A	中世とは、平安時代末期から江戸時代の始まる前までの約400年間を指すが、前代の思想・伝統を引き継いでゆくとともに、新しい時代の変化に応じた文学作品も次々と作り出されたじだいである。本講義では、中世文学というものの発生と展開の諸相を概観し、歴史的社会的な時代の動向に目を配り、中世文学の特質やその文芸思潮について講述してゆく。あわせて、和歌・連歌・日記・紀行・軍記・説話・演劇その他にわたって、できるだけ多くの作品を取り上げ、それらの内容を具体的に読み解き、個々の作品の文学史的位置づけについて概説・考究する。本講義では、上記内容の和歌・連歌を中心に行う。	
専門科目	選択科目	中世日本文学史 B	中世とは、平安時代末期から江戸時代の始まる前までの約400年間を指すが、前代の思想・伝統を引き継いでゆくとともに、新しい時代の変化に応じた文学作品も次々と作り出されたじだいである。本講義では、中世文学というものの発生と展開の諸相を概観し、歴史的社会的な時代の動向に目を配り、中世文学の特質やその文芸思潮について講述してゆく。あわせて、和歌・連歌・日記・紀行・軍記・説話・演劇その他にわたって、できるだけ多くの作品を取り上げ、それらの内容を具体的に読み解き、個々の作品の文学史的位置づけについて概説・考究する。本講義では、上記内容の日記・紀行を中心に行う。	
専門科目	選択科目	近世日本文学史 A	日本の近世の特質のひとつに、印刷技術の発展がある。近世とはさまざまな文学作品を多くの人々が享受することができるようになった時代である。それは中世以前の書写による作品享受という状況とは、桁違いの大きな変化であった。ふたつめに、上方と江戸という二つの文化圏の出現である。前代までの文化の中心地であった京、そして新たな商業都市大坂。近世前期の文化はここからはじまることとなる。それに対し、将軍のお膝元として発展する都市江戸。この二つの文化圏によってさまざまな文学が生み出された時代、それが日本の近世である。以上の方と江戸という二つの文化圏を視座として、日本近世文学史を理解することを目的とする。本講義では、俳諧・上方小説等を中心として行う。	
専門科目	選択科目	近世日本文学史 B	日本の近世の特質のひとつに、印刷技術の発展がある。近世とはさまざまな文学作品を多くの人々が享受することができるようになった時代である。それは中世以前の書写による作品享受という状況とは、桁違いの大きな変化であった。ふたつめに、上方と江戸という二つの文化圏の出現である。前代までの文化の中心地であった京、そして新たな商業都市大坂。近世前期の文化はここからはじまることとなる。それに対し、将軍のお膝元として発展する都市江戸。この二つの文化圏によってさまざまな文学が生み出された時代、それが日本の近世である。以上の方と江戸という二つの文化圏を視座として、日本近世文学史を理解することを目的とする。本講義では、浄瑠璃・歌舞伎・後期江戸小説等を中心として行う。	
専門科目	選択科目	近現代日本文学史 A	明治、大正、昭和、現代の文芸思潮の流れを中心に解説する。それぞれの時期の代表的な作品、その文章、言葉の表情をじかに味わいながら、個々の作品の生まれた時代、その文章、言葉の表情をじかに味わいながら、個々の作品の生まれた時代、文化的背景や、作家の文学史上の位置について考える。また史的な関連を考慮していく。この国の近代化にともなって生まれた、或いは孕まれる文化的、文明的な諸問題について、時系列を踏み抜いた比較往還的視点から、個々の作品の関連的な解説を試みる。本講義では、近代文学の黎明・試行・成立・展開を扱う。	
専門科目	選択科目	近現代日本文学史 B	明治、大正、昭和、現代の文芸思潮の流れを中心に解説する。それぞれの時期の代表的な作品、その文章、言葉の表情をじかに味わいながら、個々の作品の生まれた時代、その文章、言葉の表情をじかに味わいながら、個々の作品の生まれた時代、文化的背景や、作家の文学史上の位置について考える。また史的な関連を考慮していく。この国の近代化にともなって生まれた、或いは孕まれる文化的、文明的な諸問題について、時系列を踏み抜いた比較往還的視点から、個々の作品の関連的な解説を試みる。本講義では、昭和文学の諸相・戦中戦後の文学・現代の文学状況を扱う。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（上代） A	上代の文学は奈良以前を対象とする。この時期に形成された古典には、韻文では『万葉集』、『懐風藻』、散文では『古事記』『日本書紀』『風土記』などがある。これらの古典に収められた歌や説話を読み、その作品世界に親しむこと、またその読み解きを通して古代の文学や文化の特色について、理解を深めることを目的とする。韻文については、『万葉集』を対象に万葉の時代全体を視野に収めて代表的な作品を取り上げ、万葉の歌や歌人の特色、古代の歌が含みもつ問題について整理する。また散文については、『古事記』が伝える国土の誕生や形成・平定・統治の伝承に注目し、『古事記』の特色を理解するとともに、個々の説話の意義やそれらの説話が成立した背景について整理する。本講義では韻文を中心として扱う。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（上代） B	上代の文学は奈良以前を対象とする。この時期に形成された古典には、韻文では『万葉集』、『懐風藻』、散文では『古事記』『日本書紀』『風土記』などがある。これらの古典に収められた歌や説話を読み、その作品世界に親しむこと、またその読み解きを通して古代の文学や文化の特色について、理解を深めることを目的とする。韻文については、『万葉集』を対象に万葉の時代全体を視野に収めて代表的な作品を取り上げ、万葉の歌や歌人の特色、古代の歌が含みもつ問題について整理する。また散文については、『古事記』が伝える国土の誕生や形成・平定・統治の伝承に注目し、『古事記』の特色を理解するとともに、個々の説話の意義やそれらの説話が成立した背景について整理する。本講義では散文を中心として扱う。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（中古） A	大和物語は、伊勢物語や平中物語とともに、歌物語のひとつに数えられるものの、伊勢物語ほど研究もされず、文学的に劣るともひょうかされる。それは一に、実話的性格の濃さに起因する。そのため、週刊誌的な面白さやゴシップ的な側面が強調されやすい。しかしその内実、文学化されていない実人生だからこそ垣間見られる真実の人間の姿がある。これを一話一話丁寧に読んでいくためには、当時の社会を知ること、一人一人の人物の調査を必要とする。そのような作業過程も含めて、登場する一人一人にこだわって歌語を読み進めることで、文学調査を進め理解を深めてゆく。本講義では、宇多天皇の歌語を中心に行う。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（中古） B	大和物語は、伊勢物語や平中物語とともに、歌物語のひとつに数えられるものの、伊勢物語ほど研究もされず、文学的に劣るともひょうかされる。それは一に、実話的性格の濃さに起因する。そのため、週刊誌的な面白さやゴシップ的な側面が強調されやすい。しかしその内実、文学化されていない実人生だからこそ垣間見られる真実の人間の姿がある。これを一話一話丁寧に読んでいくためには、当時の社会を知ること、一人一人の人物の調査を必要とする。そのような作業過程も含めて、登場する一人一人にこだわって歌語を読み進めることで、文学調査を進め理解を深めてゆく。本講義では、大和物語前半の解釈を中心に行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	作家作品研究（中世）A	室町時代物語の作品に親しみ、その作品がどんな作品であるかを理解してもらうことを目的とし、まずは丁寧な原文講読、次に作品の周辺領域や背景についての説明を主な内容とする。作品の内容を正確に理解するだけでなく、文学的・歴史的位置や特質などについても理解し、説明できるようになることを、到達目標とする。本講義では、「小町草紙」を取り上げる。最初に室町時代の物語について解説し、その「小町草紙」の解説を経て「小町草紙」の講読に入る。その後「小町草紙」の周辺説明として、中世の小町伝説を追う。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（中世）B	室町時代物語の作品に親しみ、その作品がどんな作品であるかを理解してもらうことを目的とし、まずは丁寧な原文講読、次に作品の周辺領域や背景についての説明を主な内容とする。作品の内容を正確に理解するだけでなく、文学的・歴史的位置や特質などについても理解し、説明できるようになることを、到達目標とする。本講義では、「橋立の本地」を取り上げる。最初に「橋立の本地」について解説し、「橋立の本地」の講読に入る。その後「橋立の本地」の周辺説明を行う。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（近世）A	『おくのほそ道』の全編を視野に入れて、その主たる章段を読む。そして松尾芭蕉のたどり着いた人生観や芸術観を考える。芭蕉は元禄二年（1689）、旧暦の三月末に同行曾良を伴い、江東の深川から隅田川を舟で出立し、千住で舟をあがった。以降、約五カ月間に及ぶ行脚の成果を文学史に照らして読めば、『おくのほそ道』とは芭蕉の心の中で、毀れゆくモノと、あらたに生まれ出ずるモノを明らかにする作品であることがわかる。それを不易流行という理念の醸成と位置付けて、議論の土台を提供する。本講義では、「発端」から「松島」までを輪読する。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（近世）B	『おくのほそ道』の全編を視野に入れて、その主たる章段を読む。そして松尾芭蕉のたどり着いた人生観や芸術観を考える。芭蕉は元禄二年（1689）、旧暦の三月末に同行曾良を伴い、江東の深川から隅田川を舟で出立し、千住で舟をあがった。以降、約五カ月間に及ぶ行脚の成果を文学史に照らして読めば、『おくのほそ道』とは芭蕉の心の中で、毀れゆくモノと、あらたに生まれ出ずるモノを明らかにする作品であることがわかる。それを不易流行という理念の醸成と位置付けて、議論の土台を提供する。本講義では、「瑞巖寺」から「大垣」までを輪読する。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（近現代）A	文学が生まれるのには人間が関わっている。また現在我々の目の前にインクの染みついた紙の塊として存在する「本」を誰かが開いて読むという行為によって作品は文学として新たな存在を始める。作品を自然科学の対象のごとく扱って切り刻んだり、あやふやな読む主体をごまかすため、外部の作品分析方法、今はやりの研究方法を導入せず、作品そのものの読みを深めることに徹し、作家・作品と時代の運命的な関わりを見つめ、「文学とは何か」という大きなテーマをも追求してゆきたいと考える。本講義では、川端康成の作品「骨拾い」「母」「日向」「伊豆の踊子」等を取り上げるとともに、川端が作家として出発するまでの人生を把握する。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（近現代）B	文学が生まれるのには人間が関わっている。また現在我々の目の前にインクの染みついた紙の塊として存在する「本」を誰かが開いて読むという行為によって作品は文学として新たな存在を始める。作品を自然科学の対象のごとく扱って切り刻んだり、あやふやな読む主体をごまかすため、外部の作品分析方法、今はやりの研究方法を導入せず、作品そのものの読みを深めることに徹し、作家・作品と時代の運命的な関わりを見つめ、「文学とは何か」という大きなテーマをも追求してゆきたいと考える。本講義では、川端康成の作品「雪国」「古都」等を取り上げるとともに、川端が作家として出発して以降の人生を把握する。	
専門科目	選択科目	教職国語（古典）A	教職国語科目として、古代日本文学史を学修する。本講義では、平安朝の文学の生成と展開を跡付ける。大きな柱を示すと、次のようになる。（1）王朝漢文学の隆盛と終息（2）万葉集から王朝和歌へ（3）仮名散文の始発、以上のような枠組みの中で、まずは個別に問題を掘り下げてゆくが、最終的にはそれぞれの柱が独立しているのではなく、互いに深くかかわりながら、王朝文学の豊かな世界を切り開いていったことを理解するところに重点を置く。こうした理解を深めるなかで、王朝文学固有のダイナミズムを明らかにすることを目的とする。	
専門科目	選択科目	教職国語（古典）B	教職国語科目として、古代日本文学史を学修する。本講義では、平安朝の文学の生成と展開を跡付ける。大きな柱を示すと、次のようになる。（1）仮名散文の始発（2）女流日記の世界（3）物語の登場、以上のような枠組みの中で、まずは個別に問題を掘り下げてゆくが、最終的にはそれぞれの柱が独立しているのではなく、互いに深くかかわりながら、王朝文学の豊かな世界を切り開いていったことを理解するところに重点を置く。こうした理解を深めるなかで、王朝文学固有のダイナミズムを明らかにすることを目的とする。	
専門科目	選択科目	教職国語（現代文）A	教職国語科目として、近現代日本文学史を学修する。明治、大正、昭和、現代の文芸思潮の流れを中心に解説する。それぞれの時期の代表的な作品、その文章、言葉の表情をじかに味わいながら、個々の作品の生まれた時代、その文章、言葉の表情をじかに味わいながら、個々の作品の生まれた時代、文化的背景や、作家の文学史上の位置について考える。また史的な関連を考慮していく。この国の近代化にともなって孕まれた、或いは孕まれる文化的、文明的な諸問題について、時系列を踏み抜いた比較往還的視点から、個々の作品の関連的な解説を試みる。本講義では、近代文学の黎明・試行・成立・展開を扱う。	
専門科目	選択科目	教職国語（現代文）B	教職国語科目として、近現代日本文学史を学修する。文学が生まれるのには人間が関わっている。また現在我々の目の前にインクの染みついた紙の塊として存在する「本」を誰かが開いて読むという行為によって作品は文学として新たな存在を始める。作品を自然科学の対象のごとく扱って切り刻んだり、あやふやな読む主体をごまかすため、外部の作品分析方法、今はやりの研究方法を導入せず、作品そのものの読みを深めることに徹し、作家・作品と時代の運命的な関わりを見つめ、「文学とは何か」という大きなテーマをも追求してゆきたいと考える。本講義では、川端康成の作品「雪国」「古都」等を取り上げるとともに、川端が作家として出発して以降の人生を把握する。	
専門科目	選択科目	日本語史A	ことばは生きている。生きていることばを理解するためには、変化する日本語の姿を正しく把握し、日本語の歴史に対する正しい認識が必要である。ことばには、音韻や語彙のように比較的变化しやすい面と、文法のように変化のゆるやかな面との二面性が認められる。このことばの二面性に着目しながら、移りゆく日本語の姿を、発生の原初から現代語の確立まで、音韻・文法（語法）・語彙などを中心に据えて、日本語の様相を講ずる。本講義では、日本語史等の基礎知識を講述したあと、奈良時代から平安時代までの音韻や語法などを講ずる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	日本語史 B	ことばは生きている。生きていることばを理解するためには、変化する日本語の姿を正しく把握し、日本語の歴史に対する正しい認識が必要である。ことばには、音韻や語彙のように比較的变化しやすい面と、文法のように変化のゆるやかな面との二面性が認められる。このことばの二面性に着目しながら、移りゆく日本語の姿を、発生の原初から現代語の確立まで、音韻・文法（語法）・語彙などを中心に据えて、日本語の様相を講ずる。本講義では、鎌倉・室町時代から江戸時代を経て明治までの音韻や語法などを講ずる。	
専門科目	選択科目	古典文法 A	古典作品を読解する際に必要となる文法を、的確に身につけることを目標とする。代表的な作品を通じて、今まで学習してきた基本的な事項を確認しながら進めてゆく。さらに既存の見解にはどのような問題がひそみ、いかに解決してゆくべきであるのかを考察する。古典文法について概要を説明できること、さらに個々の文学作品に対して、文法面から説明できることを到達目標とする。本講義では、歴史的仮名遣い、五十音図、文・文節、単語、品詞、動詞、形容詞、形容動詞を扱う。	
専門科目	選択科目	古典文法 B	古典作品を読解する際に必要となる文法を、的確に身につけることを目標とする。代表的な作品を通じて、今まで学習してきた基本的な事項を確認しながら進めてゆく。さらに既存の見解にはどのような問題がひそみ、いかに解決してゆくべきであるのかを考察する。古典文法について概要を説明できること、さらに個々の文学作品に対して、文法面から説明できることを到達目標とする。本講義では、付属語、助動詞、助詞、名詞、副詞・連体詞、接続詞・感動詞、敬語を扱う。	
専門科目	選択科目	現代語文法 A	本講義では、考えるための文法、ことばの面白さを知るための文法、自分のことばを再発見するための文法をめざす。具体的には、これまでの学校文法を復習しつつ、そこで説明されにくかったこと、取り上げられなかったことなどを考え、より明確な文法理解に到達する。到達目標として、日本語文法の基本的な概念が理解できること、文法は覚えるものではなく考えて規則性を見つけるものであることを理解すること、ことばは変化を続けていることを実感することなどを掲げる。本講義では、上記内容の前半部を行う。	
専門科目	選択科目	現代語文法 B	本講義では、考えるための文法、ことばの面白さを知るための文法、自分のことばを再発見するための文法をめざす。具体的には、これまでの学校文法を復習しつつ、そこで説明されにくかったこと、取り上げられなかったことなどを考え、より明確な文法理解に到達する。到達目標として、日本語文法の基本的な概念が理解できること、文法は覚えるものではなく考えて規則性を見つけるものであることを理解すること、ことばは変化を続けていることを実感することなどを掲げる。本講義では、上記内容の後半部を行う。	
専門科目	選択科目	国際法 A	先ず、国際法に必要な法学の概説を行った後、国際法の基礎理論について詳細な説明を行う。具体的には、国際法の全体像と歴史、戦争観念の変遷、国家主権観念の変遷、承認論、国際主体論、外交関係と領事関係、条約法と慣習法、国際法と国内法との関係等について、主として講義形式で知識の教授を行う。これによって、国際法の各分野の基礎を習得し、それに基づいて具体例を考察でき、国際法を用いた結論を提示することができるようになることが期待される。	
専門科目	選択科目	国際法 B	春学期に続いて、地的管轄権概説（空間秩序）、海洋法①（内水）、海洋法②（領海・無害通航権）、海洋法③（接続水域・継続追跡権）、海洋法④（EEZと大陸棚）、領域主権観念の変遷、人的管轄権①（国籍の取得と外国人の人權）、人的管轄権②（帰化と外交的保護権）、人的管轄権③（犯罪人引渡）、紛争の解決①と国家責任、紛争の解決②等について講義形式で授業を行う。これによって、国際法の各分野の基礎を習得し、それに基づいて具体例を考察でき、国際法を用いた結論を提示することができるようになることが期待される。	
専門科目	選択科目	政治学原論 A	現代日本政治全般にわたって概説することで、日本の政治のしくみについて基礎的な理解を得、また、それを通じて政治学の基礎的概念を修得することを目指す。取り扱う具体的テーマとしては、「衆議院と参議院」「国会のルール」「国会と立法」「国会の実態」「内閣と与党」「内閣の構成」「政府と予算」「選挙の制度」「衆議院と参議院の選挙制度」「政党」「政党政治の問題点」「日本政治の課題」などである。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	政治学原論 B	政治学の全般について概説することで、専門分野に対応できるようにすることを目標とする。取り扱う具体的テーマとしては、「政治権力」「政治的リーダーシップ」「政治思想とイデオロギー」「デモクラシーの理論」「近代国家と議会制民主主義」「政党と政党制」「压力団体と住民運動」「選挙制度」「政治意識と投票行動」「官僚制」「大衆社会の政治」「現代社会における国家」「日本の政治」「国際政治」「政治学の理論」「比較政治学の理論」などである。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	国語科教育論	国語科教育に関する基礎的な知識・技能及び基本的な事柄を論理的に検証し、国語科教育に対する問題意識・認識をはぐくむこと、国語科教育の楽しさを実践できる能力を身に付けることを目的に、新学習指導要領の国語科の目指す意義・内容に基づき、国語教育の可能性、日本語としての国語という視点を中心に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」にわたって総合的な学習を行う。また、それらの学習を通して国語科教育への意欲を養う。	
専門科目	選択科目	社会科教育論	社会科教育は、民主主義を担う主権者としての基礎を培うことが目的である。その社会科の成り立ちと戦後の社会科の変遷を通して、今日的課題を考える。また、戦後社会科の60年で生みだされた実践を学び、地理・歴史・公民の各分野について社会科の授業づくりにも取り組み、教師としての実践的な力量を身につける。さらに、社会科の学力や評価、社会科教師としてのあり方についても考える。講義が中心となるが、必要に応じてグループごとに発表を行ってもいい、参加型の授業とする予定である。	
専門科目	選択科目	国語科指導法 I	国語科教育の目標と構造を理解し、中学・高等学校における学習指導を展開する上での基本的能力を身に付けることを目的に、「国語科教育論」で理論的に学習した基礎の上に立ち、教材研究の意義と方法の理解、学習指導案の作成、受講生の模擬授業と研究協議、国語科カリキュラムの作成方法を中心に講義する。国語科教育の原理及び学習指導要領について理解すること、教材研究を深め適切な学習指導案が作成できるようになることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	国語科指導法Ⅱ	国語科教育の目標と構造を理解し、中学・高等学校における学習指導を展開する上での基本的能力を身に付けることを目的に、「国語科教育論」で理論的に学習した基礎の上に立ち、教材研究の意義と方法の理解、学習指導案の作成、受講生の模擬授業と研究協議、国語科カリキュラムの作成方法を中心に講義する。国語科教育の原理をふまえ、教材研究ができること、適切な学習指導案を作成し、模擬授業が適切な形でできるようになることを目標とする。	
専門科目	選択科目	書道科指導法Ⅰ	小中学校国語科で行う「書写」を中心とした内容を扱う。書写では、国語をつかさどる言語としての文字を正しく書くことが必須となる。そのために、漢字・平仮名・カタカナを対象に、正確な点画のあり方と筆順の指導を第一とし、字形を整えて書けるように導いていく。また、中学から始まる行書では、漢字を効率よく書けるように指導し、それに対応する仮名も含め、書き慣れることによって、より速く書けるように訓練していく。これらの内容を毛筆と硬筆の両方について学習する。	
専門科目	選択科目	書道科指導法Ⅱ	高等学校芸術科「書道」に対応した内容を中心に扱う。書道は文字による表現活動である。そこには、古典と呼ばれる名筆を書き残し、書を芸術の領域まで高めた書人たちの知恵と工夫があった。それらを古典の中に探り、様々な字形や構成法、多彩な筆使いの技法などから文字の造形美、書の表現美を求め、それらの原理原則をどのように指導していくのか学習する。また、学習指導要領で必修とされている「漢字仮名交じりの書」についても指導のあり方を考え、書に関係する用具用材、篆刻、拓本、表具などについても基礎事項を学習する。	
専門科目	選択科目	社会・地歴指導法Ⅰ	中学校社会・高校地理歴史科の目標・内容・指導方法を理解し、国際化・情報化が進む現代社会に対応した社会科指導ができる実践的指導力を培うことを目標とする。経済のグローバル化・少子化・高齢化が進行して大学全入時代が始まった。大学入試を意識した「暗記社会科」は、その維持が困難になっている。こうした状況を踏まえて、学校・地域・家庭の相互信頼を醸成しつつ子どもの目が輝く社会科教育を、20世紀の授業諸実践を整理継承しつつ、21世紀の社会科を考えていきたい。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	社会・地歴指導法Ⅱ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の授業を構想し、適切な指導案と教材を作成することができることを目指すとともに、模擬授業を通して実践的指導力を培います。教材をひとつ取り入れるだけで授業は変わり、生徒の目が輝いてくる。それはなぜなのでしょう。またどのような教材を使えばたのしくわかる授業になるのだろうか。またその教材はどのように入手するのだろうか。そうした問題を検討した上で、1時間分の教案を作成し、模擬授業を行い、教育を追体験してみる。講義を中心に授業を行う。	
専門科目	選択科目	社会・公民指導法Ⅰ	中学校社会科公民的分野、および高等学校公民科の目標、内容、教育課程の編成、授業の方法等について理解し実践的指導力を習得することを目標とする。我が国の教育課程における公民教育の位置づけ、公民教育の歴史、学習指導要領の変遷、新しい学習指導要領の特徴、公民的分野および公民科の内容の研究、すぐれた社会科・公民科授業の分析（政治的分野・経済的分野・倫理社会的分野）、指導計画と指導案の作成等について説明を行う。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	社会・公民指導法Ⅱ	社会科および公民科の教材研究、指導案の作成、模擬授業の実施を通して実践的指導力を習得し、授業の展開の工夫、授業の技術の訓練を行うことを目標とする。この目標を達成するために、社会科・公民科の指導計画、指導案の作成、社会科・公民科の教材研究の意義と方法、公民科におけるさまざまな授業の方法、模擬授業の実施等について詳しく説明を行い、実践に役立ててもらおう。授業は講義を中心に行うが、ディスカッションや模擬授業など実践の機会も設けるよう配慮する。	
専門科目	選択科目	教職実践演習（中・高）	教育実習は、将来教師になろうとする者が、教育現場における教育の実習を観察し、経験や体験を積むことにより、教育の意義についての体験的認識と理解を深め、教師としてのありかたを学ぶことを目的とする。大学における学問研究の成果（理論と技術）を、教育の実践的体験を通じて主体的に再構成し、教育現場に適用させることを目的として実習に参加する。大学の授業では経験することが困難な教育の実際を生徒とのふれあいの中で理解するとともに、経験豊かな教育実習指導教諭による指導を通じて、実践的指導力の初歩を修得する。またこれらの活動を通して、教職への意欲や情熱を再確認する機会としても位置付ける。	

（注）

- 1 開設する授業科目の数に及び、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校を取寄定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要				
(文学部第2部東洋思想文化学科)				
区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	哲学・思想 哲学A	西洋哲学を中心にしながら、古今東西の哲学思想の根本的議論や主題を概括して、混迷する現代社会に生きる我々の人生の指針や問題解決の思索の仕方を学ぶのが目標である。主に、存在論・認識論・一元論と多元論・有神論と無神論・個別と普遍・理性主義・実存思想・生命論・人間学・真善美などの真理観・学問分類法・宗教論・身体論・歴史哲学などをおとし、個別の哲学論争や根本問題を取り上げて、議論の所在や要点を理解するとともに、人文科学・社会科学・自然科学などの位置づけや関連なども併せて学ぶ。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想 哲学B	西洋哲学を中心にしながら、古今東西の哲学思想の根本的議論や主題を概括して、混迷する現代社会に生きる我々の人生の指針や問題解決の思索の仕方を学ぶのが目標である。主に、存在論・認識論・一元論と多元論・有神論と無神論・個別と普遍・理性主義・実存思想・生命論・人間学・真善美などの真理観・学問分類法・宗教論・身体論・歴史哲学などをおとし、とりわけ現代社会の諸問題などを取り上げて、如何にして哲学思想の知識を応用して、実践的に問題を解決するために役立つかを考察し、学問の人生における意義を探究する。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想 哲学史A	西洋哲学史を中心に、主として神話思想・古代ギリシア・古代ローマ・古代ヘブル思想・キリスト教中世・近現代哲学の流れに沿って、哲学思想の潮流を概観するのが目標である。とりわけ、ギリシア神話・エレア学派・ソクラテスやプラトンやアリストテレスやプロティノス、キクロ・ポエティウス・マルクス＝アウレリウス、旧新約聖書思想やアウグスチヌスなどを取り上げて、西洋哲学の根幹となった哲学的思索を考察し、併せてこうした哲学的思索の政治的社会的背景や、後の時代に与えた影響を探究する。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想 哲学史B	西洋哲学史を中心に、主として神話思想・古代ギリシア・古代ローマ・古代ヘブル思想・キリスト教中世・近現代哲学の流れに沿って、哲学思想の潮流を概観するのが目標である。とりわけ、アンセルムス・トマス＝アキナス・オッカム、デカルト・スピノザ・ロック・カント・ヘーゲル、キルケゴール・ニーチェ・フロイト・フッサール・ハイデガー・サルトル・ヤスパーズ・ハーバーマスをとり上げて、西洋哲学の根幹となった哲学的思索を考察し、西田幾多郎などの日本の哲学思想や東洋の哲学思想との関連も併せて探究する。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想 倫理学A	社会存在としての人間の本質を理解すると同時に行動の善悪の規範がどのように規定され実践されているのかを主として考察するのが、目標である。内容は、西洋古代倫理思想史において展開された「実践論の系譜」や西洋近代倫理思想史の「自由論の系譜」を探り、習俗と倫理・礼儀と流行・法律と道徳・黄金律と互酬性について取り上げるとともに、個人と国家・人間と自然・技術と社会・自己と他者といった主題を検討し、今日の状況におけるより善く生きる人間像やあるべき共生社会の姿を探究する。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想 倫理学B	倫理的諸問題を、生命倫理学・環境倫理学・経営倫理学などの観点から多角的に考察し、とりわけ環境破壊・企業の独占的行為・家庭崩壊・医療ミス・若年層の犯罪など現代社会がかかえる深刻な諸問題に対して、倫理学の基礎知識を如何に応用実践することによって、問題解決することができるか、検討する。また、哲学的人間学を学ぶことをとおして、人文科学・社会科学・自然科学と如何に密接に連携して現代人の営みが構築されているか、併せて検討する。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想 芸術学A	絵画・音楽・彫刻・建築作品等を中心にした芸術諸作品の鑑賞をとおして、その創作活動の背景としての時代や地域の人間の営みの歴史と思想を学ぶ。とりわけ特定の時代・地域の作品群を取り上げて、創作主題・技術・用具等の歴史的変遷に注目しながら、社会構造や科学技術とともに変化してきた芸術の世界について学び、芸術作品によって如何に人格が陶冶されるか考察して、優れた美意識を身につけ、豊かな内面性を育む方法を習得する。また、併せて美意識が人間の倫理性に如何に深く影響を与えてきたかを学ぶ。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想 芸術学B	絵画・音楽・彫刻・建築作品等を中心にした芸術諸作品の鑑賞をとおして、その創作活動の背景としての時代や地域の人間の営みの歴史と思想を学ぶ。特に、芸術全般のジャンルについて俯瞰するとともに、個々の地域や時代や民族や習俗による美意識の類似性や相違性について検討し、併せて日本文化特有の美意識や伝統芸術における価値観や世界観を探究することによって、世界に通底する美意識の基層や日本文化の美意識の特質も考察して、豊かな内面性を育む方法を習得する。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想 宗教学ⅠA	文化における根元的なテーマは生死と善悪の問題である。人はなぜ死ぬのか。大切な人ともう会うことはできないのか。この世で実現されない正義はどうなるのか。これらの問いが宗教の地平で重なり合ったところに編み出されるのが死後の生をめぐる思索である。宗教思想とはこの根元的な問いでありまた解であると見ることができる。本講義では、古代メソポタミア、エジプト、ペルシアに着目しつつ、キリスト教と周辺多様な宗教文化を往還する形で、死生観の重層性や通文化性を明らかにしていく。授業は主に講義形式で行う。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想 宗教学ⅠB	文化における根元的なテーマは生死と善悪の問題である。人はなぜ死ぬのか。大切な人ともう会うことはできないのか。この世で実現されない正義はどうなるのか。これらの問いが宗教の地平で重なり合ったところに編み出されるのが死後の生をめぐる思索である。宗教思想とはこの根元的な問いでありまた解であると見ることができる。本講義では、ヘレニズムとヘブライズム、イスラームに着目しつつ、キリスト教と周辺多様な宗教文化を往還する形で、死生観の重層性や通文化性を明らかにしていく。授業は主に講義形式で行う。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想 宗教学ⅡA	（成立そのものは江戸期だが）七福神がインド・中国・日本の神々からなることは、仏教が伝播の過程で、土地土地の信仰と結びついたことを物語っている。神仏習合は仏教の変質や日本だけの特殊現象ではなく、空という形なきものを目指す仏教が土地の「形」と結びついて安定する、定着の基本形態として捉えるべきものである。授業では、仏教のこのような重層的なあり方について、インド仏教を受け継いだチベットの伝統的理解を踏まえて紹介する。授業は主に講義形式で行う。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想 宗教学ⅡB	伝統的説明では、経典の膨大さや内容の多様性は、一律の教義ではなく、相手に合わせて異なる教えが説かれたこと（対機説法）で説明される。仏教には固有の要素と他の宗教と共通する要素があり、それが土地土地の信仰と結びつくことを可能にした。授業では、伝統的理解を踏まえて、前近代の日本の宗教的展開を捉え直すことによって、アジアにおける仏教伝播と定着という広い観点から、日本人の宗教性を自覚することを目指す。授業は主に講義形式で行う。	

区 科 分 目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	東洋思想A	秘境、未知なる国というイメージが強いチベット、その奥底に秘められた独自の思想、倫理観を考察するとともに、それを日本や中国の思想、倫理観と比較対照させながら概説していくことで、東洋の倫理観の概要や特質等について基礎的な知識を身につけることを目標とする。具体的には、「東洋思想とは」、「チベットの民俗と倫理思想」、「チベットの歴史と文化」、「宗教と倫理思想」、「輪廻思想の展開」、「仏教思想の流入」、「チベット最初の法典と中国思想、十七条憲法」、「タントラ仏教」等について講義形式で授業を進める。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	東洋思想B	非倫理、非道徳と見做されがちな「タントリズム」（狭義の密教）の思想を、大きな思想・宗教・文化の流れを通して、また我々が置かれている現代社会の背景なども考慮しながら批判的に捉えることで、東洋の倫理観について基礎的な知識を身につけることを目標とする。具体的には、「神秘思想とは」、「現代の神秘思想」、「東洋における神秘思想の伝統」、「中国思想と日本思想」、「仏教タントリズムの成立と展開」、「象徴主義と逆転の発想」、「不道徳の倫理と真理」等について講義形式で授業を進める。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	地域文化研究A	アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大大陸に接する地域や小アジア地域など、様々な文化・文明圏や大陸の境界域、さらに、そうした境界にまたがる文化・文明圏についてとりわけ焦点を当てて、通常我々が慣れ親しんでいる地理観や世界観とは異なる生活世界が多々存在することを、歴史・文化・地理といった複合的な観点から有機的に説明することが主眼である。さらに、そうした地域に住む人々の政治・日々の食事・生活用具・学校教育・心象風景なども取り上げて、生活実感をできるかぎり理解できるようにする。	
共通総合科目	教養科目	哲学・思想	地域文化研究B	アジア・アフリカ・ヨーロッパの三大大陸に接する地域や小アジア地域など、様々な文化・文明圏や大陸の境界域、さらに、そうした境界にまたがる文化・文明圏についてとりわけ焦点を当てて、とりわけ、民族問題やアイデンティティ問題について、近現代史的視点から人々の営みや紛争の所在について検討する。また、国際政治情勢や様々な形態の戦争・国際的衝突・異文化理解において生起する齟齬の発生要因なども含めて検討して、具体的な地域や文化や国家を取り上げて考察していく。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	自然の数理A	数学の体系を学ぶとともに、使える数学の習得を目指す。複数のコースが開講されるので、内容は解析学、線形代数、数論など基本的な数学分野の多岐にわたる。高校数学の復習、確認も含め、数学の基本的な概念をきちんと勉強し、自分で論理的に問題を解く能力を養う。個々の内容としては、多項式の微分積分、ベクトル、行列の計算、整数論、群論、体論などを含む。講義を行い、それに付随し、練習問題、小テストなどを課して、学生自身が実習する機会をできるだけ多くとる。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	自然の数理B	自然の数理Aで学んだ知識を前提として、公式の応用、具体的な数学問題の解法を学ぶ。各コースの内容としては、三角関数、指数・対数関数など初等関数の微分、積分、関数の展開、極値など、微分・積分の応用、行列、行列式の計算、逆行列の計算、線形変換、固有値問題、対角化、複素数論、幾何学などを含む。数学の体系を理解するとともに、数学を上手に使えるようにする。練習問題、小テストなどを課して、学生自身が実習する機会をできるだけ多くとる。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	生活と物理A	自然科学の基本的な考え方と、基礎的な知識を勉強する。21世紀に文明人として生活していくうえで必要とされる科学・技術について基本的な教養を身につける。古典物理学の復習とともに、近代科学技術の基礎となる量子力学、相対性理論などの基礎知識を勉強する。原子論を基礎として、その応用として発達してきた現代科学の成果を学ぶ。具体的な内容は、コースにより、光、電磁気、半導体、レーザー、超伝導、などとなる。講義を行うとともに、小テスト、レポートなどを課し、学生が積極的に学ぶ機会を多くする。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	生活と物理B	自然科学の基本的な考え方を学び、自然科学のより深い理解を目指す。現代の科学技術に量子力学、相対性理論などがどのように応用されているのか理解を深める。原子、原子核の知識を学び、半導体、ダイオード、トランジスタ、レーザーの原理と種類、その応用、放射光、超伝導の理論と高温超伝導体、放射線、エネルギーなどの内容を系統的に学ぶ。必要に応じ、波動、熱力学、電磁気学など古典物理学の講義も含める。小テスト、レポートなどを課し、学生が積極的に学ぶ機会を多くする。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	エネルギーの科学A	大量のエネルギー消費は深刻な環境破壊を引き起こすため、省エネルギーが推奨されている。しかし、この先、人口の爆発的増加とともに、エネルギー消費量はさらに増加していくことが予想されている。こうした現代社会を生きる我々は、エネルギーに関する基礎知識をもち、エネルギー利用の現状と未来をしっかりと見据える必要がある。この講義ではクリーンエネルギー、再生可能エネルギー、カーボンオフセット等の概念を科学的に理解し、エネルギー利用と地球環境問題のバランスを考えていくことを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	エネルギーの科学B	我々人類は、近い将来に、環境に優しく、エネルギー需要を十分まかなえる恒久的なエネルギーを開発する必要がある。それまでは、地球環境を考えながら、現在あるエネルギーを有効利用していかなければならない。この講義では各種エネルギーの特長や問題点を科学的に理解し、エネルギーのベストミックス、廃エネルギーの有効利用や省エネルギーについて考えていくとともに、未来のエネルギー利用を予想していくことを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	物質の科学A	本講義では、私たちが様々な化学物質からなる世界に生き、様々な化学物質を生み出し利用しているという物質社会に生きる現実認識のもと、日常生活に関連する物質とその科学的特性・機能、特性・機能発その仕組み・原理について理解する講義とする。理系の学生向けの講義とは異なり、物理・化学の基礎知識があまり無くとも理解可能なように、文系の学生に向けた構成、内容の講義とする。具体的には、物質世界の始まり、物質科学の基礎、味物質・食べ物の科学、衣類・洗剤の科学、色々な金属とその特徴・役割について講義する。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	物質の科学B	本講義では、私たちが様々な化学物質からなる世界に生き、様々な化学物質を生み出し利用しているという物質社会に生きる現実認識のもと、日常生活に関連する物質とその科学的特性・機能、特性・機能発その仕組み・原理について理解する講義とする。理系の学生向けの講義とは異なり、物理・化学の基礎知識があまり無くとも理解可能なように、文系の学生に向けた構成、内容の講義とする。具体的には、色々な気体とその機能・役割、環境と物質、生命を司る物質と役割、毒物質について講義する。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	環境の科学A	現代に生きる我々は地球環境問題という地球全体を巻き込んだ環境問題に直面している。かつて局地的であった環境汚染が地球全体に波及したからである。二酸化炭素の増加、オゾン層の破壊、酸性雨、ダイオキシン、環境ホルモンなどの問題である。一方、自動車の排気ガスからの浮遊粒子状物質、NO ₂ などによる大気汚染、水質汚濁、騒音などの私たちの身の回りの環境問題も依然として深刻である。この講義では、環境問題発生のメカニズム、現状、対策等を論じ、持続可能な社会を築くための科学的な基礎知識を教授することを目的とする。	

区 科 分 目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	環境の科学B	1990年代に入り、人類生存の危機とかかわって、いわゆる“地球環境問題”が、社会経済体制の違いをこえて広く地球規模で緊急に解決しなければならない大きな課題として浮かび上がってきた。二酸化炭素の増加、オゾン層の破壊、酸性雨、ダイオキシン、環境ホルモンなどの問題である。人口が67億を超えた今、地球はもはや無限に広くはないのである。そこで、この講義では、よく話題になる地球環境問題あれこれを、自然科学の目で解剖することを目的としている。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	地球の科学A	文明の高度化や人口の増加に伴って深刻化する地球環境問題を正しく理解するために、様々な時空間スケールをもつ地球の諸現象を学び、科学リテラシー・環境リテラシーとしての地球観・宇宙観・自然観を修得することを目的とする。「地球の科学A」では、特に、宇宙の大規模構造や太陽形成の標準モデル、46億年におよぶ地球環境の進化の過程を概説し、地球上の生命の誕生と進化・絶滅・人類の誕生までの歴史を振り返る。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	地球の科学B	文明の高度化や人口の増加に伴って深刻化する地球環境問題を正しく理解するために、様々な時空間スケールをもつ地球の諸現象を学び、科学リテラシー・環境リテラシーとしての地球観・宇宙観・自然観を修得することを目的とする。「地球の科学B」では、特に、地球環境問題や資源エネルギー問題について、地球システム学の観点から概説する。また、地震・津波・火山等の災害から身を守るための基礎知識として、火山や地震などの発生メカニズムと災害被害について理解をする。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	生物学A	この講義の目的は、世界の植物群落の性質と分布を知り、その形成に関係した環境について知ること、さらに、その植物群落を利用してきた人々の関係について考察することを目的とする。この講義では、講義担当者がこれまでに歩いた世界の異なる地域を取り上げ、その植物群落とその発達を支えている環境について学び、そこに生活する人々の生活の実際について紹介する。世界の植物群落の全体的特徴を知ることと同時に、さらに情報を集めて自然理解を深めて欲しい。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	生物学B	この講義では、日本の自然に関して植生管理学的な見方で解説し、日本の自然の実態と問題点を知ってもらい、その改善のための管理のあり方について考えてもらうことが目的である。この講義では、最初に植物群落に関する基本的な見方について説明し、次に、世界の中での日本の植物群落の性質を知ってもらう。その後は、日本の代表的な自然群落や二次的な植物群落に焦点を当て、そのもつ性質と現在置かれた状況を紹介し、植生管理のあり方について考えてもらう。日本の植物群落に関心を持ち、情報を集めて考えて欲しい。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	天文学A	美しい星空や宇宙を科学的に理解し、さらに太陽や月そして夜空に輝やく星たちの世界のさまざまな現象が地上の自然現象と同じ物理法則によって支配されていることを学ぶ。そして「宇宙における地球及び人類の位置」を的確に把握するために、その基礎となる、恒星から宇宙の地平線までの「膨張宇宙」を考え、さらに我々の身近な太陽系の月と惑星について解説する。併せて、それらを理解するのに必要な物理学の基礎も講義する。その他に空の色・こよみ・月の満ち欠け・干支などを解説する。さらに、教員ごとに、①ケプラー・ニュートンの法則。②惑星・太陽系。③恒星のスペクトル、HRR図。恒星とは何か、恒星の一生。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	天文学B	美しい星空や宇宙を科学的に理解し、さらに太陽や月そして夜空に輝やく星たちの世界のさまざまな現象が地上の自然現象と同じ物理法則によって支配されていることを学ぶ。そして「宇宙における地球及び人類の位置」を的確に把握するために、その基礎となる、恒星から宇宙の地平線までの「膨張宇宙」を考え、さらに我々の身近な太陽系の月と惑星について解説する。併せて、それらを理解するのに必要な物理学の基礎も講義する。その他に空の色・こよみ・月の満ち欠け・干支などを解説する。教員ごとに、①恒星から宇宙まで。②恒星の光と内部構造・進化。③恒星の誕生と終末。相対性理論と宇宙論、人類の宇宙観の変遷。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	自然科学概論A	いろいろな自然現象を経験するときに、どうしてそのような現象が起こるのかという疑問を抱く。我々をとりまく身近な自然環境や自然現象と、地球や宇宙におけるさまざまな現象の共通点・相違点について物理的に考え、自然を総合的に理解することを目的とする。I. 自然環境としての地球。1. 地球と惑星の大気、水河、雲（フェーン現象）。2. コリオリの力3. 東京の地形、4. マントル対流と大陸移動。II. 身近な自然の諸法則。1. レーリー散乱2. 物体の色と温度。III. 星と宇宙における自然の原理。1. 地球の回転、地軸の傾き、歳差運動、2. 月とこよみ3. 五行説と干支、こよみ・方位・時刻・季節。主に地球の回転・月齢・東京の地形を解説する。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	自然科学概論B	いろいろな自然現象を経験するときに、どうしてそのような現象が起こるのかという疑問を抱く。我々をとりまく身近な自然環境や自然現象と、地球や宇宙におけるさまざまな現象の共通点・相違点について物理的に考え、自然を総合的に理解することを目的とする。I. 自然環境としての地球。1. 地球と惑星の大気、水河、雲（フェーン現象）。2. コリオリの力3. 東京の地形、4. マントル対流と大陸移動。II. 身近な自然の諸法則。1. レーリー散乱2. 物体の色と温度。III. 星と宇宙における自然の原理。1. 地球の回転、地軸の傾き、歳差運動、2. 月とこよみ3. 五行説と干支、こよみ・方位・時刻・季節。主に空の色・気象・地球とマントル対流・こよみを中心に解説する。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	自然誌A	環境と生命・人間を対象として、環境の構成要素・構造・ダイナミクス、環境に存在する生命とその科学、環境と生命の相互作用、自然物とこれに係る文明・文化およびその背景にある科学、これらの時空間的変遷などの博物学的内容とその背景にある科学について講義する。具体的には、水の自然誌（水の科学、生命の条件、自然に於ける水の分布・形態・動態と変遷）、生命の自然誌（生命とはなにか、生命を司る物質、生命維持・存続の仕組み、自己と非自己の違い）などを講義する。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	自然誌B	環境と生命・人間を対象として、環境の構成要素・構造・ダイナミクス、環境に存在する生命とその科学、環境と生命の相互作用、自然物とこれに係る文明・文化およびその背景にある科学、これらの時空間的変遷などの博物学的内容とその背景にある科学について講義する。具体的には、水の自然誌（自然が織りなす水の芸術、人工・天然物とその比較、文明と水、水の科学と文化・産業、資源としての水）、生物の自然誌（環境と生命の関わり合い、感覚と動物の反応、生得的行動と学習行動）などを講義する。	
共通総合科目	教養科目	自然・環境・生命	生物学実験講義A	本講義では、花の進化と生殖戦略について扱うこととする。特に、虫媒花の花色とその発現のメカニズムを中心に扱い、それを花の起源や構造についての知識を養いながら、最終的に、「色とその情報」の観点からアプローチし理解を深める。講義だけでなく、観察を行うほか、講義の後半では色素に関する実験を行うことにより、花と色素についての理解を促進する。このコースは生物学実験講義Bとセットで受講することを強くお勧めする。	

区 科 分 目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	生物学実験講義 B	本講義は、植物の生活と「光」との関係を理解することを目的とする。特に、講義の前半では、光とかかわりの深い、植物のもっている葉の構造や性質についての知識を習得することに重点を置く。その後、植物たちの生き残り戦略を、光争奪戦術の観点からの講義を行うとともに、実験を通じてその理解を深めていく。また、その際のデータ処理についても扱うこととする。このコースは生物学実験講義Aとセットで受講することを強くお勧めする。	
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	化学実験講義 A	日常生活と関係深い物質や化学反応、学術的に特徴ある化学現象、社会で利用されている化学技術を対象に、実験・講義を通じてそれらの化学構造、特徴、仕組み、機能、役割を学習しながら化学の重要な基本を理解するとともに、化学に立脚する物の見方、考え方を養うことを目的とする。化学の知識や化学実験の経験がなくても理解できるような内容とする。具体的には、周期表、化学結合・反応の基礎、分子構造情報と模型作製、化学実験の基本と注意事項、未知試料の分析、食品の成分分析について実験・講義する。	隔年開講
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	化学実験講義 B	日常生活と関係深い物質や化学反応、学術的に特徴ある化学現象、社会で利用されている化学技術を対象に、実験・講義を通じてそれらの化学構造、特徴、仕組み、機能、役割を学習しながら化学の重要な基本を理解するとともに、化学に立脚する物の見方、考え方を養うことを目的とする。同時に、科学レポートの書き方について講義し、実験レポート作成により実践する。具体的には、繊維の合成、物質の蒸留・抽出、時空間連続反応、環境放射線測定、浸透圧について実験・講義する。	隔年開講
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	数理・情報実習講義 A	プログラミングの講義と実習を行う。Cによるプログラムの作成、コンパイル、計算などを修得する。教室におけるコンピュータおよびプログラミングの講義と、PCを使っている実習を交互に行う。必要な数学は講義中に解説する。パソコンの前で学生自身がプログラミングを行なう。プログラミングに必要な文法を講義する。Aで学ぶ内容は、入出力命令、判断文、繰り返し命令、コンソール操作、配列などである。隔週に課題を課し、それに対応したプログラムを作成し、ソースコードを提出させる。	隔年開講
共通総合科目	教養科目	自然・生命・環境・	数理・情報実習講義 B	プログラミングの講義と実習を行う。Aで学んだ知識を前提として、Cによるプログラムの作成、コンパイル、計算などを修得する。教室におけるコンピュータおよびプログラミングの講義と、PCを使っている実習を交互に行う。必要な数学は講義中に解説する。パソコンの前で学生自身がプログラミングを行なう。Bで学ぶ内容は、関数、ポインタ、乱数などの数学処理、ファイル操作、シミュレーションなどである。隔週に課題を課し、それに対応したプログラムを提出させる。最後に1年分のプログラムを完成させる。	隔年開講
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	百人一首の文化史 A	『百人一首』の世界を（１）成立の背景（２）注釈と秘伝（３）享受と展開の３点から概観し多様性を味わう。具体的には（１）『百人一首』はどのように選ばれたのか（定家の日記『明月記』に記された「色紙」や、配列・入集歌の異なる『百人秀歌』の存在などを材料に成立事情や撰歌意識について考える。（２）『百人一首』成立後、注釈書は写本として特定の人々の間に伝えられたが江戸期には、秘伝をもった注釈から公開される注釈へと変容する。（３）以上を踏まえ各歌の読解を通して『百人一首』とその文学文化を考察する。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	百人一首の文化史 B	『百人一首』の世界を（１）成立の背景（２）注釈と秘伝（３）享受と展開の３点から概観し多様性を味わう。具体的には（１）『百人一首』はどのように選ばれたのか（定家の日記『明月記』に記された「色紙」や、配列・入集歌の異なる『百人秀歌』の存在などを材料に成立事情や撰歌意識について考える。（２）かかるた、往来物などへ形態を変え、「異種百人一首」・「もじり百人一首」など新たな文学作品を生み出してゆく過程を学ぶ。（３）以上を踏まえ各歌の読解を通して『百人一首』とその文学文化を考察する。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本の昔話 A	多くの人が、自身の成育過程で、昔話に触れた経験を持っている。しかし実は、そのほとんどは、作家によって子ども向けに作り変えられたものにすぎない。授業で扱う昔話とは、児童書や絵本、アニメなどになっているものではなく、それらの源にある、口承文芸（口から耳へと伝えられてきた文芸の総称）としての昔話である。授業では、上記の意味における昔話とはどのようなものなのか、どのように伝えられてきたのかということなどを取り上げ、昔話の外観的な特徴を理解することを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本の昔話 B	多くの人が、自身の成育過程で、昔話に触れた経験を持っている。しかし実は、そのほとんどは、作家によって子ども向けに作り変えられたものにすぎない。授業で扱う昔話とは、児童書や絵本、アニメなどになっているものではなく、それらの源にある、口承文芸（口から耳へと伝えられてきた文芸の総称）としての昔話である。授業では、動物昔話・本格昔話・笑話の構造と特徴、昔話の分布の状況、伝播者（広めた人々）などを取り上げ、昔話の内容について理解を深めることを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本文学文化と風土 A	古代前期の文学作品に描かれている気候・地形・景観などといった要素を丹念に読み解いていく。取り扱う作品は、万葉集所収歌を中心とするが、古事記・日本書紀・風土記などに収められている神話・伝説・歌謡にも言及する。内容的には、風・雨・雲・月などをはじめとした気候・天象に関する表現、山・海・坂などをはじめとした他界・境界に関する表現など幾つかのテーマ設けて進める。作品の本文をじっくりと鑑賞することにより、その古代的特質を認識し、日本文化に対する教養・識見を深めることを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本文学文化と風土 B	古代前期の文学作品に描かれている気候・地形・景観などといった要素を丹念に読み解いていく。取り扱う作品は、万葉集所収歌を中心とするが、古事記・日本書紀・風土記などに収められている神話・伝説・歌謡にも言及する。内容的には、万葉歌に表現された親子関係、桜・稲・紅葉・海藻・鳥などをはじめとした動植物に関する表現、霧・雪・霞などをはじめとした気候・天象に関する表現など幾つかのテーマを設けて進める。作品の本文をじっくりと鑑賞することにより、その古代的特質などを認識し、日本文化に対する教養・識見を深めることを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本の詩歌 A	和歌文学の長い歴史の中で定着した独特のイメージを持つ歌ことばを広く「歌枕」と呼ぶ。授業では、その発生と展開について、『万葉集』から勅撰和歌集へと連続する和歌文学史の中で考える。具体的には、『万葉集』の巻7や巻10、14を中心に歌語分類、四季分類されている「歌語」を取り上げて和歌史の中で位置づけ、「歌枕」の派生と定着をみる。なお、歌語分類にかかわっては、天象・山河・旅・譬喩に関するものを主な対象とし、四季分類にかかわっては年中行事との関係に注目する。	

区 科 分 目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	日本の詩歌B	狭義の「歌枕」は、和歌に引証される地名を示す語であり、歌人たちがことばによって作り出した幻想の空間でもある。授業では、関東一円の「歌枕」を抜い一つ、現実の風土と幻想の風土のはざまに往時の歌人たちが思いを寄せた世界を明らかにする。具体的には、「歌枕の基礎知識」について概説したのち、遠江・駿河・伊豆・相模・武蔵・上総・下総・常陸・上野・下野・陸奥の順で、各地域の代表的な歌枕について整理・検討し、古今人々が「歌枕」にあこがれ、旅をした理由についても考える。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	西欧文学A	本講義は、イギリス、フランス、ドイツ、あるいはアメリカといった欧米諸国から、ロシアなどに至るまで、西欧のさまざまな地域で書かれたさまざまな文学作品を広く紹介し、その魅力を探っていく一般教養的な科目である。対象となる時代も古代ギリシャから現代まで幅が広い。全体的な問題意識を提示したのち、文学作品をひとつひとつ紹介しながら、そこにあらわれるテーマについて考えていく。世界の名作に親しむことを通じて、読書や文学に対する興味を引き出し、幅広い教養を培うことをめざす。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	西欧文学B	本講義は、イギリス、フランス、ドイツ、あるいはアメリカといった欧米諸国から、ロシアなどに至るまで、西欧のさまざまな地域で書かれたさまざまな文学作品を広く紹介し、その魅力を探っていく一般教養的な科目である。対象となる時代も古代ギリシャから現代まで幅が広い。世界の名作についてテーマの考察を加えながら深く味わい、作品に現れたテーマや問題意識、文学表現上の魅力について考えていく。また、そのことを通じて西欧の文化や歴史を日本との関係において理解し、批判的に思考する力を養う。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	現代日本文学A	作品の鑑賞を主として現代日本文学を考える。文学作品の映像化は文学作品を現代化する装置、もしくは、映像化は映像作家が原作に与えた作品論であり文学作品と「現代」の読者（観客）を結ぶ機能を持つものとしてとらえる。つまり「現代」を生きる読者である我々と文学作品の仲介に映像を置くことで見えてくる日本文学の「現代」や「現代」読者が日本文学を読むということが、いかなるものであるのかを明らかにしてゆきたい。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	現代日本文学B	作品の鑑賞を主として現代日本文学を考える。文学作品の映像化は文学作品を現代化する装置、もしくは、映像化は映像作家が原作に与えた作品論であり文学作品と「現代」の読者（観客）を結ぶ機能を持つものとしてとらえる。つまり「現代」を生きる読者である我々と文学作品の仲介に映像を置くことで見えてくる日本文学の「現代」や「現代」読者が日本文学を読むということが、いかなるものであるのかを明らかにしてゆきたい。秋学期は特に外国人映像作家に注目し、外国人の目に見える現代「日本文学」の姿がを考察する。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	地域史A	古代ギリシアが、そもそも西洋文明の源流と見做されるようになったのは何故か？というところから出発し、紀元前3000年期からはじめて、古代ギリシア文明の成立、そしてポリス（都市国家）と呼ばれる古代ギリシア文明を担った古代ギリシア人の共同体の社会・制度的特質とその発展と変容を時間の流れとともに概観していく。また、「ギリシア神話」で日本でも馴染みあるように、古代ギリシアは神々に溢れる多神教世界であった。その「宗教」とその他の「世俗」は、想像以上に密接に絡み合う独特の世界であり、この面についても可能な限り目配りをしたい。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	地域史B	一都市国家から成立したローマはやがて地中海世界全域を支配する一大帝国を築き上げた。それは、今日のヨーロッパとほぼ重なる領域であり、文明圏としてヨーロッパの基盤を形成した。古代ギリシアの都市国家（ポリス）と同じ共同体として出発しながら、何故、ローマは、都市国家の枠組みを脱し、一大帝国を築き上げたこととなったのか？それは、単なる右肩上がりの成長・発展だろうか？都市国家という限界と相反する対外侵出への動因とのジレンマを抱えながらローマ共同体は変貌を遂げる。その過程を都市ローマ成立の前8世紀から始めて、いわゆる西ローマ帝国滅亡の後5世紀まで辿りつつ、一つの文明の成長と発展の限界などを考える。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	歴史の諸問題A	日本の江戸時代について考える。近代国民国家とは、教育により同質な国民を生み出し、すべての国民に同じ義務を課し、権利を保障する国家である反面、社会を構成する人々の多様性が失われてしまっている。しかし、現在の日本社会を理解するには、同質性を前提とするよりも、多様性を前提にする必要がある。そこで、日本の江戸時代の事例に即して、日本社会の多様性を知ることがこの授業の目的である。	
共通総合科目	教養科目	歴史・文化	歴史の諸問題B	日本と東アジア世界との関係に関する関係を概説する。ある国や地域の歴史は、その地域や国の内部で完結するものではなく、世界と密接な関係を保ちつつ展開していく。前近代の日本にとって世界とは東アジア世界であった。この東アジア世界には、現在の国際社会とは異なる思想、秩序、制度があった。それぞれの時代において、日本が世界とどのように関わってきたのかを考える。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	経済学A	経済学における入門的理論と実践を同時に身につけることを目的とする。私たちの実生活と密接不可分の関係にある「経済」を、「経済学の考え方」を用いて理解を深めていく。具体的には「GDPとは何か説明できる」「基本的な景気循環理論を類別できる」「経済合理性を前提とした、個人・家計の消費行動や企業の投資行動を説明できる」「貨幣の役割や金融政策を説明できる」「貿易の利益や基礎的な為替レート決定理論を説明できる」「現実の主要な経済指標データに関して討議できる」ことを目指す。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	経済学B	「経済学A」に引き続き、経済学の理論の説明部分と現実の日本経済を理解するための制度的側面や経済指標のデータの解説部分のバランスをとり、経済学における入門的理論と実践を同時に身につけることを目的として講義をすすめる。具体的には「経済成長の基礎理論を説明できる」「生産性とは何かを説明できる」「労働供給と労働需要の決定について経済学的な説明ができる」「現実の主要な経済指標データに関して討議できる」ことを目指す。	

区 科 分 目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	現代・社会	法学	人が、社会を作り、秩序を保った生活をしていくためには、ルールが必要である。道徳、宗教、そして法などである。法と道徳はともに人の心に訴えかけ、その行動のよりどころとなるものであるが、両者の違いは、その強制力の違いに現れることが多い。宗教は、厳しい教えを実践しなければならず、違反には制裁がなされることがあるが、それを信仰している者にしか、そのルールは及ばない。法は、すべての者にその遵守を求め、違反には制裁を辞さないという峻厳な一面を有するが、主権者国民の代表が、一定の形式に基づき、その時々、過半数によって内容を決定するという柔軟性も備えている。法は、その規律の対象により、公法と私法に分けられる。公法は、国家对私人の関係を規律し、主として権力の問題を扱う。行政サービスを、大量・迅速に、国民全体にいきわたらせるためには権力が必要であるが、個人の自由を国家により侵害から防御するという場合には、権力の抑制が重要になる。私法は、対等な私人間の関係を円滑なものとするためのルールである。基本となるのは、当事者の自由意思によって権利・義務の関係を形成し、その最終的な実現を国家権力が担保するということである。私的自治の原則を現代社会の特性にあわせていかに修正していくかが課題である。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	日本国憲法	憲法は国家の基礎となる法である。その特徴は「最高法規」であり、憲法に違反する法はたとえいかに正しい手続きによって定められても無効となる。そこで、憲法が、人として譲ることができない最低限度の権利として保障している人権は、たとえ国会の多数決によって定められた法律によっても侵害することができない。さらに憲法は、統治の仕組みについて定めている。国民に主権を認め、選挙により代表者を選出し、その代表者が国会を形成し、法律を定める。内閣は、抽象的な法律を現実適用することにより行政を行い裁判所は、国会・内閣の作用を憲法・法律に照らして見直し・是正する機関である。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	政治学A	政治学の入門的講義を行なう。政治学分野の全体を概観的にAとBで二分して行なうので、併せて履修するのが望ましい。政治学Aでは、「伝統的政治学」と呼ばれる、古代から政治について考察がなされてきた分野が中心となる。政治権力の概念、政治の権力構造、政治的リーダーシップ（機能と類型）、政治思想とイデオロギー、デモクラシーの理論、近代国家の原理、議会制民主主義、政党と政党制（その類型）、压力団体と住民運動、選挙制度（多数代表制と比例代表制ほか）を扱う。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	政治学B	政治学の入門的講義を行なう。政治学分野の全体を概観的にAとBで二分して行なうので、併せて履修するのが望ましい。政治学Bでは、政治学の内、20世紀以降に発達してきた「現代政治学」と呼ばれる領域を中心とする。具体的には、政治意識とその形成（政治的社会化）、選挙での投票の行動様式、官僚制、大衆社会の政治、現代国家の特徴、日本の政治の特徴、国際政治（その実態と諸理論）、政治学の新しい諸理論、比較政治学の理論（諸外国の政治を比較しながら分析する枠組み）を扱う。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	社会学A	社会学は、政治学、経済学、法学などを含む社会科学の一つの分野で、社会の現象や仕組み、変化のメカニズム、歴史、文化、行為やコミュニケーションなど、さまざまな水準、アプローチで社会のありようを捉えようとする学問である。本科目では、社会学にはじめてふれる方を対象に、「家族」「都市と地域共同体」「メディア・情報化社会」「階層・格差」等の具体的で身近なトピックスにふれながら、社会学で何がわかるか、社会学ではどんな考え方・捉え方をするのか、といった社会学的視点を学ぶことを目的としている。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	社会学B	社会学は、政治学、経済学、法学などを含む社会科学の一つの分野で、社会の現象や仕組み、変化のメカニズム、歴史、文化、行為やコミュニケーションなど、さまざまな水準、アプローチで社会のありようを捉えようとする学問である。本科目では、社会学Aに引き続き、「自我とコミュニケーション」「ジェンダー」「セクシャリティ」「多文化社会」「社会運動・市民社会・ボランティア」等の具体的で身近なトピックスにふれながら、社会学で何がわかるか、社会学ではどんな考え方・捉え方をするのか、といった社会学的視点を学ぶことを目的としている。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	人類学A	人類の歴史と文化について講じる。2011年、世界人口は70億人の大台に達したと伝えられた。1950年には25億人程度だった。1万年前には500万人から1,000万人程度だったろうと推測されている。人口爆発した時代にわれわれは生きている。人類の始まりから今日まで、数百万年間はどんな過去であったろうか。本講では、人類に関する諸学の成果を参照し、また人類進化論的に狩猟採集、農耕、産業を大づかみに人類史をたどる。世界の人類について大きな視野を提示する。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	人類学B	「日本民族、日本文化の形成」について講じる。3.11後、世界中の国の人々から、これまでの歴史の中でこれほど日本への同情が集まったことは無かったであろう。その一方で日本のマンガ、アニメ、ファッションなどの最新の流行・作品から伝統文化まで強く関心を寄せている人々も少なくない。ところで、日本人はそうした人々に対して日本文化を全体として説明できるであろうか。各論は知っているけれど、日本の大枠については曖昧模糊としたイメージしかない。そこで、本講では日本民族学、日本に関する社会人類学の初歩を手ほどきする。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	地理学A	本講義は、地理学の方法論（研究目的・視点・独自性）について、その概要を解説することを主眼にしている科目である。内容的には、1. 環境論に始まる近代地理学のみ歩みをヨーロッパを中心に学説史的に紹介する。2. 場所の経済的価値について説いている、いわゆる「立地論」（農業・工業・中心地・オフィス）を解説する。都市と農村の機能的・構造的な差異の実態と形成メカニズムを解説する。の3つを中心に考えている。最後に、これらを踏まえて、理論と現実の差異がなぜ生じているのか、その要因とより正確な現実の把握のために必要な視点について考察する。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	地理学B	本講義は、地理学の方法論（研究目的・視点・独自性）について、その概要を解説することを主眼にしている科目である。内容的には、1. 地理学の概念と方法についての解説、2. 立地論（農業・工業・中心地・オフィス）の解説、3. 経済的弱者の生活空間の特徴の把握、4. 人口移動のマクロ的把握と過疎地域における第3次産業を中心とした地域振興・町づくり策の現状把握、の4点を中心に考える。これらを踏まえ、地方経済の活性化を想定する国土軸・地域軸論および21世紀を展望した国土計画について解説し、現在の日本の地域構造を変えられるのか、その可能性について考える。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	心理学A	「こころ」についての関心は、最近ますます高まっている。その「こころ」を研究対象とした「心理学」とは、どのような研究領域なのだろうか。この授業では、「こころ」のさまざまな現象を科学的に解明しようとする心理学の営みについて解説し、心理学的なものを見方を紹介する。具体的には、心理学の代表的な各領域（心の進化、心の発達と支援、認知等）を取り上げ、検討する。そこでは、どのような「問い」があるのか、その「問い」について、心理学はどのような「方法」で取り組もうとしているのか、その結果、わかってきたことは何なのか、ということについて、解説する。	

区 科 分 目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	現代・社会	心理学B	本講義では、恋愛、失恋、離婚について心理学的（科学的）な視点からアプローチする。特に、失恋や離婚をメインとした講義を行う。本講義の目的は、さまざまな研究者たちが残してくれた遺産（研究成果）を、単純に理解することだけではなく、むしろ、その遺産に関心をもち、自発的に調べ、学んでいくことにある。そのため、講義では、学生たちが自ら関心を示すことができるような数多くの、最新の知見を紹介する。心理学に関する知識が一切なくとも、理解することができるように説明する。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	旅と言語	この授業では大学レベルの英文の観光学関連教科書を用い、旅行の歴史の概観と旅行の形態について学び、平行して旅行の言語（ターム）を学ぶ。この中には地域、時代による旅行目的・旅行目的地、及び宿泊施設・宿泊形態も含まれる。タームには移動方法（運輸）、宿泊（施設の多様性）、規制（地域によって異なる法律、命令など）、旅行目的地、などに関して特有の表現があるので、専門的な翻訳が必要となる。観光の歴史と形態を学びながら、観光英文の読み方、観光のタームの知識も同時に養成する。	
共通総合科目	教養科目	現代・社会	観光の歴史	観光とはツーリズムの訳語であるが、他国を巡歴してその風俗・文物・制度を観察するという考え方を含んでいる。日本では奈良時代の遣唐使が中国への観光と分明摂取を目的としていた。国内では、平安時代には地方官職に就任した貴族が任地と都との往復の途中の巡歴の様子が見られるようになる。また平安後期からは都・畿内のなかでの寺社巡拝がはじまり、熊野・高野など比較的遠方への寺社参詣も盛んになる。これらは僧侶などの宗教者が中心であったが、室町時代には庶民までが熱心に参詣するようになる。江戸時代にはこの傾向はいっそう強まり、本山詣でや札所めぐりが各地で行われた。そのなかでも伊勢詣では広汎な広がりを見せるが、それは遊楽を含み、また物見遊山の要素が増大していった。また一方に芭蕉のように旅を人生の基本におく人物も現れたが、文人・文化との触れ合いを求めたものであった。明治以降には、旅の制約がなくなるが、余暇を楽しむ傾向が増加する。この授業では、こうした日本における巡歴・参詣・旅の歴史を概観し、旅・観光が生活を再生する要素をもつことを考える。	
共通総合科目	教養科目	スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技A	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なる。なお、「スポーツ健康科学実A」は春学期開講の授業科目である。	
共通総合科目	教養科目	スポーツ・健康	スポーツ健康科学実技B	各種スポーツ種目を教材として、当該スポーツ種目を楽しむために必要な、技術・戦術およびルールを習得し、運動習慣を身につけることを目的とする。また、スポーツを通して主体的なコミュニケーション能力を育成することも、重要な課題として位置づけている。授業で取り上げるスポーツ種目は曜日・時限によって異なる。なお、「スポーツ健康科学実B」は秋学期開講の授業科目である。	
共通総合科目	教養科目	スポーツ・健康	スポーツ健康科学講義Ⅰ	スポーツ健康科学分野に関して、専門的な内容に的を絞った講義を実施する。授業内で取り上げる内容は各担当教員の専門分野によって異なるが、現状では、バイオメカニクス、スポーツ文化論、スポーツ医学、スポーツ史、スポーツ人類学、公衆衛生学、運動生理学などの講義が設定されている。本授業科目では、当該専門分野を春秋で二分して行うため、年間を通して履修することが望ましい。なお、「スポーツ健康科学講義ⅡA」は、春学期の開講科目である。本講義では主に、健康管理・安全管理を中心に講義していく。	
共通総合科目	教養科目	スポーツ・健康	スポーツ健康科学講義ⅡA	スポーツ健康科学分野に関して、専門的な内容に的を絞った講義を実施する。授業内で取り上げる内容は各担当教員の専門分野によって異なるが、現状では、バイオメカニクス、スポーツ文化論、スポーツ医学、スポーツ史、スポーツ人類学、公衆衛生学、運動生理学などの講義が設定されている。本授業科目では、当該専門分野を春秋で二分して行うため、年間を通して履修することが望ましい。なお、「スポーツ健康科学講義ⅡB」は、秋学期の開講科目である。本講義では主に、生活習慣病や体づくり、トレーニング理論を中心に講義していく。	
共通総合科目	教養科目	スポーツ・健康	スポーツ健康科学講義ⅡB	スポーツ健康科学分野に関して、専門的な内容に的を絞った講義を実施する。授業内で取り上げる内容は各担当教員の専門分野によって異なるが、現状では、バイオメカニクス、スポーツ文化論、スポーツ医学、スポーツ史、スポーツ人類学、公衆衛生学、運動生理学などの講義が設定されている。本授業科目では、当該専門分野を春秋で二分して行うため、年間を通して履修することが望ましい。なお、「スポーツ健康科学講義ⅡB」は、秋学期の開講科目である。	
共通総合科目	教養科目	情報教育	コンピュータ・リテラシーA	本講義は、大学や企業でコンピュータをひとつのツールとして利用するための基本的な能力を身につけることを目的とする。そのため、講義は演習を中心に進行する。併せて、情報の利用や倫理についても解説する。具体的には「コンピュータの構成・基本操作の習熟」「タッチタイピング技術の習熟」「ワープロソフトの利用方法の習熟（Word）」「プレゼンテーションソフトの利用方法の習熟（PowerPoint）」「インターネットの利用方法の習熟」「電子メールの利用方法の習熟」「ネチケット、情報倫理への理解の習熟」を目指す。	
共通総合科目	教養科目	情報教育	コンピュータ・リテラシーB	現代社会においては、ビジネス、教育、日常的な社会生活等、様々な場面でコンピュータを利用する機会が増え、それを使いこなせることが求められている。本講義では、大学や企業でコンピュータをひとつのツールとして利用するための基本的な能力を身につけることを目的としている。そのため、講義は演習を中心に進行する。具体的には、「コンピュータの構成・基本操作の習熟」「表計算ソフトの利用方法の習熟（Excel）」「複数のソフトウェアを連携して利用できる」を目指す。	
共通総合科目	教養科目	情報教育	情報化社会と人間	インターネットでは、情報閲覧、メッセージの送受信、商品取引などが行われている。私たちの住む社会でさらに情報化がすすむと、生活環境は今後、どのように変化していくのだろうか。そして私たちがそうした社会を上手に暮らしていくには、どのような知識と技術が必要なのだろうか。本講義はこうした問題意識を出発点として、これまでの社会の変化、今後の情報通信技術の社会への普及状況や情報化社会のあり方を考えるための知見を習得し、日常生活にちりばめられた情報ツールに関する正しい知識ならびに自分なりのつきあい方を会得することを目指す。	

区 科 分 目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅠA	「日本の近代化と東洋大学一井上円了の哲学と実践」をテーマに、建学の精神を知り、自らのアイデンティティを確立することを目標とする。具体的には、「井上円了の目指したもの」、「近代化と啓蒙思想」、「明治初期の宗教界」、「明治の青春群像と井上円了」、「哲学館の三恩人」、「井上円了が祀る聖者たち」、「迷信より哲学へ」、「井上円了の外道哲学」、「日本をどう考えるのか」、「井上円了が語る庶民の道徳」、「私学の役割と目的」、「井上円了の海外視察」、「哲学館初期のカリキュラム」等について講義形式で授業を進める。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅠB	「日本の近代化と東洋大学一井上円了の哲学と実践」をテーマに東洋大学の歴史を知り、自らのアイデンティティを確立することを目標とする。具体的には、「哲学館から東洋大学へ」、「私学と国家権力」、「庶民の啓蒙が国を支える」、「円了の台湾巡講」、「哲学の小宇宙」、「哲学館の後継者たち」、「哲学館からチベットへ」、「哲学館・東洋大学の留学生たち」、「哲学館・東洋大学出身の文人・歌人」、「社会で活躍する校友」、「東洋大学の現在」、「井上円了の生涯をかけた熱き闘い」等について講義形式で授業を進める。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅡA	世界の認識についての哲学的な思考法を提示しながら世界の見方、世界における人間存在のあり方を考えていくことを目的とした教養的な科目である。講義ではとくに現象学的な思考法、問題意識を紹介しながら、人間をとりまく世界をどのように見るか、そこに人間が存在するというのはいかなることか、また他者とのかかわりとはいかなるものかを考えていく。そして、現象学的な思考法を援用しつつ、一人の人間と世界のかかわり、科学の可能性と問題点などといった現代に通じる問題について切り込んでいく。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅡB	科学や科学技術に内在する哲学的課題を浮き彫りにしながら、現代社会に存在するさまざまな問題に対する新たな思考法の可能性を提示することを目的とする。科学的探究の利点は、固有な課題や社会の要求に応じて、そのつどプログラムを設定し、展開することができることにあるが、本講義では、科学の成立史、科学的探究のプログラム設定のありかたについて哲学的な視点から検証しながら、環境、障害者に対する認識などといった問題について、哲学がどのような形で有効かつ斬新な見方を提示できるかを考えていく。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅢA	2000年以上の歴史をもつ「哲学」とその「思考法」が、どのようにして現在の私たちの「生きる力」となるのか、その手がかりを西洋とアジアの哲学的知見から改めて発掘し、展開させる。情報化社会と密接に連動する経済不況、貧困格差、人権問題や環境問題といったグローバルにもローカルにも単純に振り分けられない諸問題に直面する中、氾濫する情報の流れに翻弄されずに自己を律し、自己の経験を一步先に進めるための哲学的な思考法の体得をめざす。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅢB	哲学と環境問題のかかわりについて新たなアプローチの提示を試みる。世界の環境問題の現状についてさまざまな角度から問題提起をするとともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を手がかりとしながら紹介する。外部講師を含む複数の講師がそれぞれの専門分野の立場から講義を行い、広く学際的な枠の中で環境と哲学というテーマについて考察していく。受講者が環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅣA	哲学館において「妖怪学」の講義が開講されたのは明治二十年（1887）である。それから百二十五年たつ現在、妖怪をとりまく社会も学問のありようもさまざまなに変化した。現代に即した「新しい妖怪学」は可能だろうか？この講義では、今までにない「新しい妖怪学」の構築を試みる。比較宗教学・民俗学・文学・芸能史・風俗史・神話学・異常心理学・精神病理学などさまざまな学問分野の成果を導入し、さらに日本だけでなく広くアジアやヨーロッパをも視野に入れた学際的なアプローチの展開をめざす。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅣB	アジアの国や地域（複数の国をまたがって）において調査研究を行っている国際地域学部の教員とその共同研究者が、現場主義の立場にたって、今アジアで進められている「開発」の実態を紹介し問題点を抽出する。最新でかつヴィヴィッドな情報をもとに、開発の現場から見た今日のアジア地域における諸問題とその課題について、新入生諸君にもわかりやすいように説いていく。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅤA	哲学・死生学・出版界・自閉症・セクシャリティ・ホスピスなど様々な観点から、価値観・死生観・職業観・倫理意識等について、考える。本講義は、スケジュール変更がありうる。確定したスケジュールは、第1回講義で発表する。生きがいややる気などの動機づけなどについて、自分自身の人生の指針を発見する能力を身につける。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅤB	日本の古代から現代にいたる歴史や時代の流れの中で、ひとびとが持った生きがいやなりわいというものが生み出し、展開した文学文化はどういうものであったか。そこに込められた人々の精神はいかなるものであったかについて様々な具体的職業やなりわいを取り上げて考える。ことに、現代では非日常に属する伝統的文化に焦点を充てる。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅥA	本授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を知ることが出来る。社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとして自身のキャリアの変遷を振り返り、他者との価値観を分かち合い等を通じて学生が学生や社会生活で何をどう学び、どう生きていくかを学習する、大学での学びを深化させ、学びから得たものを人生で活かすことを知るものである。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅥB	授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を社会人のキャリアスピーク・ワークショップから知ることが出来る。また、社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとしてキャリアを開発してきた様々なゲスト（社会人）をお招きしディスカッションとワークを行い、その後に再度学生自身の今後のキャリア開発を模索する。	

区 科 分 目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅦA	交通手段の発達、情報化の波などによって今日、世界はますます狭くなり、文化の異なる人々との接触が多くなるばかりで、いやおうなしに異文化体験をする機会が急速に増えている。このような時代においては、異文化理解、異文化コミュニケーションの必要性が増すばかりである。本講義は、この異文化理解の問題を特にヨーロッパとの関連で取り上げるものである。ヨーロッパ地域、ヨーロッパの歴史・文化に関心のある人にとっては、興味ある知識が得られ、また将来、ヨーロッパ各地に留学、もしくは旅行したい人にとっては、事前準備、事前研修としても役立つ情報が得られるであろう。	
共通総合科目	教養科目	総合	総合ⅦB	内容は現代アメリカ事情を中心に、留学、研修、旅行に役立つ実用面のみならず、文学や歴史なども学ぶ教養科目としての側面も加味させたい。英雄像の違い、教育の考え方、家庭生活、犯罪、人種のるつぼと言われることから現代アメリカの苦悩である人種差別や性差別、宗教からくる対立、社会構造からくる貧富の差など取り上げテーマは数々ある。	
共通総合科目	教養科目	総合	全学総合ⅠA	2000年以上の歴史をもつ「哲学」とその「思考法」が、どのようにして現在の私たちの「生きる力」となるのか、その手がかりを西洋とアジアの哲学的知見から改めて発掘し、展開させる。情報化社会と密接に連動する経済不況、貧困格差、人権問題や環境問題といったグローバルにもローカルにも単純に振り分けられない諸問題に直面する中、氾濫する情報の流れに翻弄されずに自己を律し、自己の経験を一歩先に進めるための哲学的な思考法の体得をめざす。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
共通総合科目	教養科目	総合	全学総合ⅠB	哲学と環境問題のかかわりについて新たなアプローチの提示を試みる。世界の環境問題の現状についてさまざまな角度から問題提起をするともに、これらを解決しようとする試みを、東洋・西洋の哲学的思想を手がかりとしながら紹介する。外部講師を含む複数の講師がそれぞれの専門分野の立場から講義を行い、広く学際的な枠の中で環境と哲学というテーマについて考察していく。受講者が環境関連の諸問題を総合的に理解し、自分なりに判断できる力を身につけることを目的とする。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
共通総合科目	教養科目	総合	全学総合ⅡA	現象学的な物事の見方、事象への迫り方を習得することで、現れざる経験をどのように捉えるのかを把握する。現象学とは、人間が生きていることと地続きになった体験世界へと踏み込むことである。体験世界とは、知識や認識世界とは独立に「できる」という行為能力に対応して組織化される世界である。本講義では、現象学的なまなざしを活用して、体験世界を分析する。講義では、現象学の基本的なタームを解説し、その後、時間、他性、事故（自己）といった概念を中心に出来事性についての現象学を展開する。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
共通総合科目	教養科目	総合	全学総合ⅡB	科学や科学技術に内在する哲学的課題を浮き彫りにし、昨今話題となっている環境課題では何が問題になっているのかにまで考察を進める。本講義では、科学の成立史から、科学的探究のプログラム設定の仕方へと進み、その後、環境問題に関するどれだけ有効かつ新たな選択肢を現実社会の中に生み出すことができるのかを構想する。すでにデザインされている多様な環境にかかわるモデルを取り上げ、そのポイントを抽出すると同時に、その有効性や限界を哲学的・現象学的に考察し、新たなデザインへと展開する。そのさい、生態系にとっての環境にとどまらず、今後のリハビリ医療にとって重要な心身障害者にとっての環境設定にまで考察の範囲を拡張する。また、白山、朝霞、川越、板倉の4キャンパスを通信回線で結び、同じ授業を同時に開講する利点を生かして、各キャンパスの受講者が相互に質疑応答することにも意を用いている。	
共通総合科目	社会人基礎力		社会人基礎力入門講義	社会はどのような人材を必要としているか?本講義は、将来社会で活躍できる人材育成を目標として、「社会人基礎力」の観点から解説を行う。「社会人基礎力」とは、経済産業省が定義した「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」のことである。本講義は、その「社会人基礎力」の育成のために、本学独自の視点を加えて、さまざまな問題提起を含むヒントを提供したい。	
共通総合科目	社会人基礎力		社会人基礎力実践講義	社会人として生きていくためには、必然的に、学生時代から「社会」に興味を持ち、「社会」のことを知らなければならぬ。情報化社会、国際化社会の今日、「社会に生きる」ということは、大げさに言えば、無限大の世界が対象となる。この授業では、「新聞」というメディアを活用し、そこから「社会」を知り、様々なことを考え、その考えを自ら発信する姿勢を、普段の生活に於いて確立することを、目指したい。	
共通総合科目	社会人基礎力		キャリアデベロップメント論	本授業は、キャリア形成の基礎を知り、大学生活での成長と共に自身のキャリアの変遷と今後のキャリア形成の基になる手法を社会人のキャリアスピーク・ワークショップから学んでいくこととする。また、社会が多様に変化し続ける中、個人が生涯を通して自己学習し、キャリア形成を成す、基礎学力を育む手段のひとつとしてキャリアを開発してきた様々なゲスト（社会人）をお招きしディスカッションとワークを行い、その後に再度学生自身の今後のキャリア開発を模索していきたい。	
共通総合科目	社会人基礎力		社会貢献活動入門	社会貢献という視点から、これからの人生設計を考える。①学生が、社会貢献という視点から自身の人生設計を検討する姿勢を養う。②①を達成するために、知識の提供ではなく、自律的な思考能力の育成を重視する。公益とは何か、また、公益と個人の利害の葛藤などについて考え、社会において個人が果たし得る役割と課題について考える。また、社会と個人をつなぐ組織的活動についても理解を深める。	
共通総合科目	社会人基礎力		公務員論	我が国の公務員制度について、法制度や慣習の観点から考察を行うとともに、講師の国家公務員・地方公務員の体験談を交えながら理解を深める。また、公務員試験を目指す学生のためのアドバイスも適宜行う。単なる公務員に関する知識習得に留まらず、公務員制度の本質の理解と、学生自ら我が国の行政運営に関する課題とその解決策を探ることを目指す。また、学生の関心やその時の話題となっているテーマについても随時取り上げる予定である。	

区 科 分 目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通総合科目	留学支援科目	英語特別	Special Corse in Advanced TOEFL I	この授業では、「使える英語力」を身につけるために、リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4つの技能をバランスよく効果的に学び、受講者全員がTOEFL (PBT) で500点以上を取れるようになることを目指す。それにより、いつでも英語圏の大学へ留学できる資格が得られるとともに、卒業後に英語力を生かした仕事に就ける可能性が高まる。	
共通総合科目	留学支援科目	英語特別	Special Corse in Advanced TOEFL II	この授業では、SCAT I で学習した「使える英語力」をさらに磨くことを目指します。SCAT II では、受講者それぞれが、ただ与えられた課題をこなすのではなく、自ら課題を設定し、それに取り組んでいく態度を養うことが望まれる。尚、SCAT II は、SCAT I を受講し、C以上の評価を得た者のみが対象となる。	
文学部共通科目	文学部教育		情報処理演習 A	授業では情報にかかわって以下の点の修得を目標とする。情報と法や倫理との関わりについて「情報リテラシー」の専門的側面から説明できる。情報の収集・整理・活用を「多文化の異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解」並びに「統合的な学習経験と創造的思考力」として実践できる。レポートなどの文章として「知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能」を実践として表現できる。表計算ソフトを活用して文章データを分析する作業を通して「数量的スキル、論理的思考力方法」の体得を表現実践できる。	
文学部共通科目	文学部教育		情報処理演習 B	主に人文分野の題材を用い、情報処理技術を活用した講義と課題演習を通して、大学での学習および実社会における諸課題の解決に必要とされる以下のスキルを身に付ける。表計算ソフトの基礎から活用までを実践できる。レポート、卒業論文などに応用できる文章情報の解析技術を習得し、実践できる。「多文化の異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解」を関連づけて表現できる。グループワークによる情報の収集・整理と、その活用の課題により、「自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任」を発揮できる。	
文学部共通科目	文学部教育		伝統文化講座	日本には様々なかたちで伝統文化が形成されているが、今日の大多数の日本人は、それらを正確に理解するどころか直に触れる機会さえない。国際化の中で、自国の文化を正しく知り、正しく発信できる人材の育成は急務である。東洋大学文学部は、従来、日本の伝統芸能を大学内外に公開、公演をおこなってきたが、本年度よりこれらを正規授業科目として位置付け、日本の伝統文化について、一回的表面的な理解に終ることなく、本質を深く知り、世界に発信できる＜日本伝統文化学＞を修得していただきたい。	
文学部共通科目	文学部教育		東洋大学・井上門了研究	東洋大学文学部学生として、学問をとおして人格を陶冶する姿勢を身につけるとともに、東洋大学文学部の学問伝統の意義について学ぶのが目標である。具体的には、東洋大学文学部の歩み・哲学館事件・学徒動員による戦争体験とその克服・井上門了の学問・学問と人生・先輩から後輩へ伝えていくべき価値観世界観人生観・学問の招来といった主題をとおして、人生の指針や学問の動機付けについて考える機会を併せて提供し、東洋大学文学部学生としてのアイデンティティとは何か理解する契機を考える。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目		比較文学文化概説 A	比較文学・文化研究の誕生とその歴史的発展を検証しながら、比較とは何か、比較文学・文化の分野においてどのような研究がなされ、今後どのようなアプローチが可能かを考えていく。まず、西欧と日本、西欧諸国と近東などにおける異文化体験、異文化受容の歴史を具体的に辿りながら、異文化受容がもたらす可能性と問題点を検証する。さらに、日本人による日本論と外国人による日本論の比較などを通じて、文化論、風土論がいかなる角度からなされているのかを検証していく。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目		比較文学文化概説 B	比較文学文化研究におけるさまざまなアプローチのかたちを検討しながら、比較文学文化研究の方法論の基礎について学んでいく。日本および外国の比較文学文化研究の具体的な事例を紹介しながら、影響研究と対比研究の違い、受容のありかたのさまざまな検証法、ジャンル論、翻訳論、比較から生まれる新たな文化交流や文化創造などといった問題を提示し、批判的に検討していく。そうした過程を通じて多角的な比較の視野と発想の力を養うことをめざす。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目		英語圏文学文化と日本 A	この授業では、「日本人論」と呼ばれる、日本や日本文化について論じた一連のテキスト（英語圏の著者によるもの、英語圏に向けて書かれたものを含む）を歴史的に概観する。日本人や日本文化が、どのような形で理解され、表現されてきたかを考え比較文化論的な視点を養ってもらいたい。具体的には、日本人論とは何か、外から見た日本、外に向けて書かれた日本、古典的日本人論（第二次大戦前～戦後）に関して論じていく。文化を論じること自体の思想性について問い、今後の日本人論の在り方について自身の問題に引き付けて考える。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目		英語圏文学文化と日本 B	「英語圏文学文化と日本 A」に引き続き、「日本人論」と呼ばれる、日本や日本文化について論じた一連のテキスト（英語圏の著者によるもの、英語圏に向けて書かれたものを含む）を歴史的に概観する。日本人や日本文化が、歴史上どのような形で理解され、表現されてきたのかを考える中で、比較文化論的な視点を養う。テーマは、ジャポニズム、映像文化・鑑賞、日本人論の展開と日本人描写、オリエンタリズムと日本人表象、「かわいい」から「クール・ジャパン」などである。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目		ドイツ語圏文学文化と日本 A	ドイツの風土や歴史、文化について、ゲーテやシラー、あるいは童話で有名なグリムなどといったさまざまな文学作品や文化風土資料、映像資料を通じて紹介していく。また、そのことを通じて、ドイツの風土・文化と日本の風土・文化の共通点や相違点について考え、異文化としてのドイツを広く深い視野で理解することをめざす。本講義では、ドイツ文化風土に関する基礎的な知識の提供からはじめて、具体的な文学作品の事例を紹介し、ドイツ文化風土を多角的に理解する視点を養っていく。	
文学部共通科目	文学部基礎専門科目		ドイツ語圏文学文化と日本 B	ドイツの風土や歴史、文化について、ゲーテやシラー、あるいは童話で有名なグリムなどといったさまざまな文学作品や文化風土資料を通じて紹介していく。また、そのことを通じて、ドイツの風土・文化と日本の風土・文化の共通点や相違点について考え、異文化としてのドイツを広く深い視野で理解することをめざす。本講義では、文学作品や思想書などの検討を進めながら、異文化ドイツを日本との関連において批判的に考える比較文学的視点を養うことをめざす。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部共通科目	文学部基礎 専門科目	フランス語圏文学文化と日本 A	フランスの風土、歴史、社会、文学、芸術についてさまざまな角度から紹介し、異文化としてのフランスについての理解を深める。その際、常に、比較文化史的視点に立ち、フランスの文化や風土と日本の文化や風土の共通性や差異について考えていく。はじめにフランスの地理や風土の特徴を日本と比較しながら紹介したのち、フランスがたどった歴史を日本と関連づけながら解説する。さらに、首都パリとさまざまな地方の風貌、文化的特色を概観し、異文化フランスを総合的に理解することをめざす。	
文学部共通科目	文学部基礎 専門科目	フランス語圏文学文化と日本 B	フランスの風土、歴史、社会、文学、芸術についてさまざまな角度から紹介し、異文化としてのフランスについての理解を深める。その際、常に、比較文化史的視点に立ち、フランスの文化や風土と日本の文化や風土の共通性や差異について考えていく。本講義では、とくに、文学、美術、音楽、映画などといったフランス文化の諸相を具体的な作品の鑑賞を通じて見ていく。また、そうした作品を日本文学や美術、映画との比較しながら、比較文学文化史的な教養を身につけることをめざす。	
文学部共通科目	文学部基礎 専門科目	中国文学文化と日本 A	日本文学に密接不離の関係にあった中国の文学からの影響関係をたどりながら、日中それぞれの特徴をとらえる。文学の発信、受容、影響、変容、定着という流れの中で、どのように日本に受け入れられ、独自の文化として形成されていったのかを考える。具体的には、日中比較文学の視点、恋愛小説、詩歌、史書、説話、記録文学、怪奇小説、短編小説、裁判もの、長編小説、翻訳、戯曲、笑話、絵本をとりあつかう。	
文学部共通科目	文学部基礎 専門科目	中国文学文化と日本 B	日本文化に密接不離の関係にあった中国の文化からの影響関係をたどりながら、日中それぞれの特徴をとらえる。文化の発信、受容、影響、変容、定着という流れの中で、どのように日本に受け入れられ、独自の文化として形成されていったのかを考える。具体的には、花の表象文化、茶の表象文化、空間の表象文化、音楽の表象文化、芸能の表象文化、身体文化、庭の表象文化、食の表象文化、絵の表象文化、文学の表象文化、心の表象文化などをとりあつかう。	
文学部共通科目	文学部基礎 専門科目	日本の伝統行事 A	社会はつねに変容してゆき、人々の暮らし方も変化しているが、人々の暮らし方や考え方のすべてが急速に変化するわけではない。人々の日常生活には、過去からの伝統的な生活と、社会変容にともなって変化した生活が混在している。授業では、「伝統行事」（民俗行事）の起源や変遷を知り、現代に行われている行事の実態と意義を民俗学の観点から考える。人々が過去から継承してきた生活や考え方は、家・地域・地方ごとに異なっており、一律ではない。授業では、日本全国に共通して存在する伝統行事と、地域ごとに相違して存在する伝統行事について、時代による変遷にも目を向けながら考えていく。	
文学部共通科目	文学部基礎 専門科目	日本の伝統行事 B	主な行事を取り上げ、日本社会が培ってきたさまざまな民俗の知恵を知ることにより、現代社会における課題と民俗のかかわりを考えていく。人々の暮らしは、毎日繰り返される普段の仕事（労働）で生活が成り立っている。それに対して、年中行事や祭礼が行われる日（ハレの日）は、普段とは違うことが行われる。仕事は休みとなり、華やかな衣装や飾りをつけ、神を祭ってご馳走を供え、人々が集って食べ、歌や踊りで時を過ごす。一年の暮らしの中で、普段の生活にハレの日がどのようにかわり、生活の中にリズムを作ってきたか、祭り行事の実態と意義を知る。	
文学部共通科目	文学部基礎 専門科目	韓国文化事情 A	韓国の歴史などを踏まえた上で現在の韓国文化を紹介し、結婚式などの韓国の諸行事、住居などの生活様式や食事マナーなどの日常生活と関連した韓国の文化を理解する。授業は講義形式で行う。その際ビデオや音楽などの視聴覚教材を使用しながら、日本の文化との比較を通して韓国文化への理解を深めていく。また講義においては、ハングル文字や韓国語の基本的な文法の解説を行い、韓国語で簡単な挨拶や自己紹介程度の会話ができる能力を身につけることを目指す。	
文学部共通科目	文学部基礎 専門科目	韓国文化事情 B	本科目はことばを通して日韓文化の違いを理解し、韓国や韓国語への理解を深めることを目的とし、韓国文化と合わせて韓国語の基礎を学ぶ。授業においては韓国の文化を理解するためのビデオや音楽などの視聴覚教材を利用し、韓国の宗教、社会習慣、世界遺産など韓国の文化を紹介するとともに、食事の誘いや道案内、買い物といった日常場面での簡単な会話ができるよう基礎的な韓国語の練習も行う。授業は講義形式で行うが、韓国語で話す機会や時間も多く与える。	
文学部共通科目	文学部基礎 専門科目	児童文学 A	毎回さまざまな角度から、主に現代の日本の児童文学作品を、2、3作ずつ紹介する。また、絵本や詩についても、随時紹介する。授業では、第一に、児童文学作品と出合う中で、自身の子ども時代からの読書体験を振り返り、その内実について考察すること、第二に、児童文学の特質について考えながら、さまざまな作品に親しむこと、第三に、児童文学作品の題材、テーマ、表現などについて考察し、それについて意見を述べ合ったり、感想を書きとめたりすることを目指す。	
文学部共通科目	文学部基礎 専門科目	児童文学 B	文学作品にはさまざまな法則、作法というものが働いており、それによって作品たり得ている、ということが出来る。授業では、第一に、そうした文学作品の作法というものをなるべく実践的につかんでもらい、作品の背後にある「作法」について理解を深めること、第二に、そうした作法を意識しながら、文学作品を読む態度を身につけること、第三に、そうした作法を応用しながら、実際に作品を構想し、執筆することを目標とする。最終的に掌編作品を一つ書きあげてもらう。	
文学部共通科目	文学部基礎 専門科目	生涯学習概論Ⅰ	複雑化し、不確実な現代社会において、子どもから高齢者まで、自分らしい生き方を求め、地域や社会を構築していく上で、生涯にわたる主体的・協同的な学習が不可欠となっている。本講は、誕生から死に至る人間の一生を通じて、家庭・学校及び社会で行われる生涯学習に関する基礎的能力を養うことを目的とする。生涯学習・社会教育の本質と意義を理解し、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について検討する。	
文学部共通科目	文学部基礎 専門科目	生涯学習概論Ⅱ	人間には、社会の変動に応じ、労働と生活の主体として、その質を維持、向上するため、生涯にわたる学習が求められる。また、貧困に苦しむ国や地域では、生きることそのものに関わる学習として、生涯学習の実践が展開されている。世界的に展開される生涯学習の内実と外延を理解し、学習と生が深く結びついた理路を解明することが求められている。本講では、世界各地で行われている生涯学習の実践と政策展開について、いくつかの国と地域を取り上げながら概説し、その特徴と課題を明らかにすることを通じて、生涯学習の現代的意味と課題について検討する。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学 部 共 通 科 目	文学 部 基 礎 専 門 科 目	特別支援教育概論Ⅰ	特別支援教育が法的に位置づいてから数年が経過した。この講義では、特別支援教育の基本的な考え方、特別支援学校の教育、小・中学校等における特別支援教育についての基本的な知識を習得することを目的とする。特殊教育から特別支援教育への展開の歴史的意義、各学校種における特別支援教育の進展度（体制整備の状況）の現状とこれからの在り方、視覚障害、聴覚障害など障害の種類に応じた支援のあり方とその特徴などについても考察することとする。	
文学 部 共 通 科 目	文学 部 基 礎 専 門 科 目	特別支援教育概論Ⅱ	世界的な観点からの特別支援教育の概念の変遷について知ると共に、障害の概念や障害者観の変遷、障害者支援の基本的な理解を目的とする。また、障害者支援の在り方について学校教育に限らず幼児期からの支援や学校卒業後の支援（就労支援）に至る課題についても考察する。さらに、特別支援教育Ⅰで学んだことを基本として、学校における広汎性発達障害の児童生徒を中心とする特別なニーズを有する児童生徒に対する教育的対応の実際や医療的ケアを必要とする重複障害児への対応についての正しい理解と適切な指導や支援についての基本を身に付ける。	
文学 部 共 通 科 目	文学 部 基 礎 専 門 科 目	家族心理学	この授業では、家族という人間の営み、家族関係にまつわる人間の心理が、いかに社会・文化的に規定されるものであるかを取り上げて検討する。私たちが「家族とはこういうもの」と当たり前のように考えている事柄でも、観点を変えたと違って見えてくる。自分の「常識」にチャレンジする授業となることを目指す。具体的には、現代に生きる私たちの「家族イメージ」が形成された経緯を知り、家族の姿は社会・文化的に変わることを理解すること、家族にまつわる心理や家族関係が社会におけるジェンダー規範と深く関連することなどの理解を図る。	
文学 部 共 通 科 目	文学 部 基 礎 専 門 科 目	女性問題と学習	現在の日本で女性を軽視したり男尊女卑を公言する人はいないと思うが、男女が平等に扱われていると考える人もいないのではないかと。女性問題は、日本の文化の中に深く根ざしており、日常生活と密接に結びついているため意識にのぼりにくい。本稿はそのことを意識化していくことを目的とする。しかし、単に知識を得るだけでなく、日常生活の中に「性による差別があること」を身近なテーマをもとに受講者自らが考えることを重視する。	
文学 部 共 通 科 目	文学 部 基 礎 専 門 科 目	家庭教育論	本講では、歴史的、比較社会的視点の導入によって現代日本の子育てをめぐる状況を相対化してとらえ、家庭教育に関する議論を批判的に検討できる基礎的知識を養うことを目的とする。さらに成人教育、社会教育の視点からの実践の検討を行い、現代的課題に取り組む学習実践を展望する。歴史的かつ比較社会的な知識と視野をもち、批判的かつ多角的な視点から家庭教育について考察し論じることのできる力を身につけることを到達目標とする。	
文学 部 共 通 科 目	文学 部 基 礎 専 門 科 目	児童文化研究	本講では、まず、家庭で保護され、教育の対象として「子ども」を尊重するという、いわゆる近代的な「子ども」観の特徴を紹介し、児童文化の現状と問題点を整理することで、転換期にさしかかりつつある「子ども」像を再検討する。受講生には、近代的な子ども観の特徴、子どもと文化の関係性とその特質を自らの言葉で整理・指摘すること、また子ども文化の現状について討議できるようにすることを求める。	
文学 部 共 通 科 目	文学 部 基 礎 専 門 科 目	日本の伝統芸能A	日本を代表する古典芸能である歌舞伎の特質と展開、実際の舞台について知り、理解を深めると同時に国際的な観点から歌舞伎の位置づけについて理解を深めるのが、本講義の目的である。わが国の長い歴史の中における伝統的芸能文化の代表的なものに歌舞伎がある。本授業では、この歌舞伎の成立と歴史、舞台装置、演目、役者、現代への変遷等の基本的知識の習得と、伝統芸能を体感するという意味で歌舞伎の舞台を鑑賞することを実践していく。	
文学 部 共 通 科 目	文学 部 基 礎 専 門 科 目	日本の伝統芸能B	室町時代、足利将軍義満の庇護下で大成した能楽は、江戸時代において武家の武楽として固定化し再生芸術としての道をたどる。その歴史的意義や能楽が担った役割について押さえた上で、日本を代表する伝統芸能としての能楽の現代的意義を考察する。能楽前史から、室町将軍家の文化基盤を説明し、観阿弥・世阿弥が能楽を大成したこと、世阿弥の代表的な伝書や思想についても理解を深めていく。また室町時代の能楽の状況、安土桃山時代の能楽の状況、江戸時代に入り武楽への道を辿ったことなどを解説する。	
文学 部 共 通 科 目	英語 国際 コミュニケーション 科目	英語ⅠAA	英語の基礎的な四技能のうち、リスニング、スピーキング、そしてライティングの技能のレベルアップに重点を置いた授業であり、英語による表現力やコミュニケーションの能力を養うことを目的としている。具体的には、正しい発音・アクセント・イントネーション、そして文法を理解した上で、英文を正確に聞き取る力、自然な英文を話す力・書く力を身につけるだけでなく、スピーチやディスカッション等で必要とされる相手を説得するための知識・技能も併せて学んでもらう。	
文学 部 共 通 科 目	英語 国際 コミュニケーション 科目	英語ⅠAB	英語ⅠAAを継承し発展させた内容で、リスニング、スピーキング、そしてライティングの技能のレベルアップに重点を置いた授業であり、英語による表現力やコミュニケーションの能力を養うことを目的としている。具体的には、正しい発音・アクセント・イントネーション、そして文法を理解した上で、英文を正確に聞き取る力、自然な英文を話す力・書く力を身につけるだけでなく、スピーチやディスカッション等で必要とされる相手を説得するための知識・技能も併せて学んでもらう。	
文学 部 共 通 科 目	英語 国際 コミュニケーション 科目	英語ⅠBA	英語の基礎的な四技能のうち、リーディングの技能のレベルアップに重点を置いた授業であり、時事に関するもの、エッセイ、小説、物語、戯曲などを通じて読解力と異文化を理解する力を養うことを目的としている。具体的には、英文の各語句の意味や構文を把握し英文の内容を正確に読み取る力を身につけるだけではなく、時事に関するものであれば国際情勢の知識を修得してもらい、文学作品であれば英語圏の社会や文化・風習を理解した上で、作品について色々と考えることを学んでもらう。	
文学 部 共 通 科 目	英語 国際 コミュニケーション 科目	英語ⅠBB	英語ⅠBAを継承し発展させた内容で、リーディングの技能のレベルアップに重点を置いた授業であり、時事に関するもの、エッセイ、小説、物語、戯曲などを通じて読解力と異文化を理解する力を養うことを目的としている。具体的には、英文の各語句の意味や構文を把握し英文の内容を正確に読み取る力を身につけるだけではなく、時事に関するものであれば国際情勢の知識を修得してもらい、文学作品であれば英語圏の社会や文化・風習を理解した上で、作品について色々と考えることを学んでもらう。	

区 科 分 目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	英語ⅡA A	英語ⅠA・ⅠBを継承し発展させた内容で、リスニング、スピーキング、そしてライティングの技能のレベルアップに重点を置いた授業であり、中級・上級レベルの英語による表現力やコミュニケーションの能力を養うことを目的としている。具体的には、音声や文法について理解した上で、英文を正確に聞き取る力、自然な英文を書く力・話す力を身につけるだけでなく、スピーチ・ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション等で必要とされる相手を説得するための知識・技能も併せて学んでもらう。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	英語ⅡA B	英語ⅡAを継承しさらに発展させた内容で、リスニング、スピーキング、そしてライティングの技能のレベルアップに重点を置いた授業であり、中級・上級レベルの英語による表現力やコミュニケーションの能力を養うことを目的としている。具体的には、音声や文法について理解した上で、英文を正確に聞き取る力、自然な英文を書く力・話す力を身につけるだけでなく、スピーチ・ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション等で必要とされる相手を説得するための知識・技能も併せて学んでもらう。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	英語ⅡB A	英語ⅠB・ⅠBを継承し発展させた内容で、リーディングの技能のレベルアップに重点を置いた授業であり、時事に関するもの、エッセイ、小説、物語、戯曲などを通じて中級・上級レベルの読解力と異文化を理解する力を養うことを目的としている。具体的には、英文の内容を正確に読み取るだけでなく、時事に関するものであれば要点を的確に掴む速読の技能を修得してもらい、文学作品であれば登場人物の感情や性格、作品に込められた筆者の意図などについて深く考えることを学んでもらう。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	英語	英語ⅡB B	英語ⅡBを継承しさらに発展させた内容で、リーディングの技能のレベルアップに重点を置いた授業であり、時事に関するもの、エッセイ、小説、物語、戯曲などを通じて中級・上級レベルの読解力と異文化を理解する力を養うことを目的としている。具体的には、英文の内容を正確に読み取るだけでなく、時事に関するものであれば要点を的確に掴む速読の技能を修得してもらい、文学作品であれば登場人物の感情や性格、作品に込められた筆者の意図などについて深く考えることを学んでもらう。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅠA A	はじめてドイツ語を学ぶ学生を対象にした初級文法の授業である。春学期は発音から命令形までを学習する。簡単なドイツ語を理解し、作文できる力を身につけます。「ドイツ語検定」（独検）4級に合格できるレベルを目指す。1回の授業で1課を終えるペースで進む。教科書の練習問題を補足するプリントを配布する。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅠA B	ドイツ語の基礎的な文章構造を理解する。辞書を使えば相当レベルのドイツ語が読めるようになることを目指す。一方的に説明を聞くだけでは身につくものではない。重要な語形変化はいうにおよばず、基本的で身近な文を選んで、くりかえし（とくに口頭で）練習すると同時に、小テストも実施する。時間の許す限り、ドイツ語圏の文化、社会状況などにも触れ、ドイツ語への関心を高めたい。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅠB A	ドイツの日常生活に根ざした会話表現の習得を通して、ドイツ語の基本的な仕組みを学ぶ。ドイツの生活や文化に関する学習も併せて行う。ドイツ語検定4級合格を到達の目安とする。また基本的な表現でドイツ人と意思疎通ができるようになることを目標とする。自己紹介や友人作りができるレベルのコミュニケーション能力を習得する。同時にドイツ語圏の社会事情の学習を通して、日独の相違および類似点について理解と関心を深めることを目指す。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅠB B	前期に引き続き、初級ドイツ語基本会話を学習する。ドイツ語検定3級合格レベルを到達の目安とする。数百のドイツ語会話表現を自在に発話できるようになることを目指す。また前ドイツ語圏の社会事情の学習を通して、日独の相違および類似点について理解と関心を深めることを目指す。受講者にできるだけ多く発言（発音、音読）の機会を与えたい。と同時に、進度調整日を使い、ビデオやプリントを用い、ドイツ語圏の文化、社会状況などにも触れつつ、ドイツ語圏への関心を高めたい。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅡA A	ドイツ語の基礎文法を終えたばかりの学生を対象に、ドイツ語の骨組みの確認をする。テキストはドイツ体験をもとにしたものであり、ドイツ人の考え方、日常生活、ひいては文化に思いをはせる。すこしでも自分の考えをドイツ語で表現できるよう練習する。（その前半）受講者にできるだけ多く発言（発音、音読）の機会を与えたい。と同時に、進度調整日を使い、ビデオやプリントを用い、ドイツ語圏の文化、社会状況などにも触れつつ、ドイツ語圏への関心を高めたい。	隔年開講
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅡA B	ドイツ語の基礎文法を終えたばかりの学生を対象に、ドイツ語の骨組みの確認をする。テキストはドイツ体験をもとにしたものであり、ドイツ人の考え方、日常生活、ひいては文化に思いをはせる。すこしでも自分の考えをドイツ語で表現できるよう練習する。	隔年開講
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅡB A	映画『舞姫』のシナリオの主要部分を抜粋しテキストとして編集したものを教材にすることにより、会話的表現、読解力の向上を目指し、併せて日独交流の歴史にも思いを馳せたい。何度も音読し、最後には実際に配役を決め、台詞を流暢に言えるまでにしたい。なお、映像資料も使い、時代背景などの理解も深めたい。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	ドイツ語	ドイツ語ⅡB B	初級文法の復習をしながら、ドイツ語の総合力（文法力、会話力、読解力）を伸ばす。そのさい、とりわけ会話の場面にでてくる表現をできるだけ暗記することによって、ドイツ語の表現力を養う。できるだけ口頭での練習時間を取り、自分の口ではっきりと相手に伝える練習をする。と同時に、予備日を使い、ビデオなどを用い、ドイツ語圏の文化、社会状況などにも触れつつ、ドイツ語への関心を高めたい。	
文学部共通科目	国際コミュニケーション科目	フランス語	フランス語ⅠA A	文法を中心にしながらフランス語の基礎を学ぶ。アルファベット、つづり字と発音の基本的な関係の解説から始めて、フランス語文法のもっとも基本的な文法事項を1年間で学習する。授業では文法事項の解説を主とし、適宜練習問題を取り入れながら知識の確認をする。学期の終わりにはフランス語の基本的な発音とつづり字の関係が理解でき、現在時刻までの文法事項を理解することをめざす。	

区 科 分 目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	フ ラ ン ス 語	フランス語ⅠA B	文法を中心にしながらフランス語の基礎を学ぶ。アルファベット、つづり字と発音の基本的な関係の解説から始めて、フランス語文法のもっとも基本的な文法事項を1年間で学習する。授業では文法事項の解説を主とし、適宜練習問題を取り入れながら知識の確認をする。学期の終わりにはフランス語の基本的な構造が理解でき、辞書を引きながら簡単な読み物が読めるようになっていることをめざす。	
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	フ ラ ン ス 語	フランス語ⅠB A	フランス語の基本的な発音、さまざまな基本文、語彙などを学び、フランス語によるコミュニケーションの基礎力を習得する。文法の授業における解説を適宜補足しつつ、日常生活でよく使う文や表現を提示すると同時に、聞き取りや音読の練習を通じて、もっとも基本的なコミュニケーション能力を養成していく。時間のあるかぎりにおいてフランスについての基本的な情報を提供し、フランス文化についての学ぶことの楽しさを学生に理解させる。	
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	フ ラ ン ス 語	フランス語ⅠB B	フランス語の基本的な発音、さまざまな基本文、語彙などを学び、フランス語によるコミュニケーションの基礎力を習得する。文法の授業における解説を適宜補足しつつ、日常生活でよく使う文や表現を提示すると同時に、聞き取りや音読の練習を通じて、初歩のコミュニケーション能力を養成する。時間のあるかぎりにおいてフランスについての基本的な情報を提供し、フランス文化についての学ぶことの楽しさを学生に理解させる。	
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	フ ラ ン ス 語	フランス語ⅡA A	1年次の学習を引き継ぐ形で、初級文法の知識の知識を補いながら、読解力をつけていく。1年次に習得した文法事項を再確認しながら、さまざまな時制や法（条件法・接続法など）について紹介し、フランス語文法の基礎力の完成をめざす。また、平易な読み物の訳読を通して語彙力、構文の理解力をつけると同時に、フランス語とフランス文化についての理解を深めていく。主に直説法に加えて条件法・接続法の用法の理解・運用を目指し、直説法現在・複合過去以外の単純時制・複合時制の理解・運用を目指します。	隔年開講
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	フ ラ ン ス 語	フランス語ⅡA B	1年次の学習を引き継ぐ形で、初級文法の知識の知識を補いながら、読解力をつけていく。1年次に習得した文法事項を再確認しながら、さまざまな時制や法（条件法・接続法など）について紹介し、フランス語文法の基礎力の完成をめざす。また、平易な読み物の訳読を通して語彙力、構文の理解力をつけると同時に、フランス語とフランス文化についての理解を深めていく。フランス語検定3級水準、年度終了時にはフランス語検定準2級水準への到達を目標とします。	隔年開講
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	フ ラ ン ス 語	フランス語ⅡB A	フランス語をすでに1年間学んだ学生が、さらなる関心と意欲をもって、初級2段階の文法事項を学び、仏文を読解する。欧州統合の主要言語のひとつであるフランス語を使いこなすことが、ひとまずの目的である。まず1年の時にやり残した文法事項を学び、それに加えて、半過去、大過去、条件法、接続法、ジェロンディフを習得する。春学期は仏文読解に重点をおく。フランス語による自己表現をさらに自分のものにすることが、この講義の最終目的である。	
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	フ ラ ン ス 語	フランス語ⅡB B	フランス語をすでに1年半学んだ学生が、さらなる関心と意欲をもって、フランス語を使いこなすことが、ひとまずの目的である。それを通して西欧文明の直系を自任するフランス文化も学ぶ。実用に徹して、空港での会話、ホテルの予約確認、買い物の言い方、列車や地下鉄の切符購入、カフェやレストランの注文、電話での話し方、スポーツ観戦、芝居観賞、招待されたときの挨拶など。フランス語による自己表現をさらに自分のものにすることが、この講義の最終目的である。	
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	中 国 語	中国語ⅠA A	中国語の発音とその発音表記、基本文型など総合的な語学力を身につけることを狙いとする。本授業は発音とローマ字による発音表記とその規則、簡単な文型を学ぶ。中国語の正確な発音とその表記を習得できること、基本文型を使って表現ができることなど、次のステップへの確固たる語学基礎を身につけることをめざす。到達目標としては、中国語の音声とリズムに慣れ、正確な発音を把握する・四声の区別がつく・簡単な発音のピンインは、表記できる・簡単な挨拶が出来る・自分の状況について、簡単な表現が出来る。	
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	中 国 語	中国語ⅠA B	中国語の発音とその発音表記、基本文型など総合的な語学力を身につけることを狙いとする。本授業は体系的に文型の習得に重点をおく。中国語の正確な発音とその表記を習得できること、基本文型を使って表現ができることなど、次のステップへの確固たる語学基礎を身につけることをめざす。到達目標としては、中国語のリズムを身につける・四声の区別を確実にする・ピンインの表記を覚える・基礎的な構文になれる・周りの状況を中国語で表現する	
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	中 国 語	中国語ⅠB A	本講義は、中国語の最も基本的な文章構造を使って、基本的な会話ができるようにする。中国語の音声とリズムに慣れ、正確な発音を把握できること、簡単な発音のピンインは、標記できること、自己紹介や自分の意思を、簡単に表現できること、買い物をする時や、場所をきく時などの、簡単な会話ができることを目指す。	
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	中 国 語	中国語ⅠB B	本講義は、中国語の最も基本的な文章構造を使って、自分の状況や意思を表現しながらの会話ができるようにする。中国語検定準4級・4級程度の実力を付けることを目指す。中国語の音を正しく把握できること、発音をピンインで正確に標記できること、自分の身の周りのことについて簡単な表現ができること、要求したり、自分が可能なことを表現できること、動詞・形容詞を中心に、基本語彙を350語程度把握することを目指す。	
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	中 国 語	中国語ⅡA A	1年次で学んだ初級段階の発音・語彙・文法を中級レベルに引き上げる。1年次の学習を終えた学生は「文法面は相当力がついていたが、発音に自信がない」という。中国語検定試験受験者の弁も「筆記は合格点をとったが、ヒアリングで落第」である。こうした学生の不安・不満を解消する。「基礎発音」と「日常挨拶・常用会話」についてヒアリング形式で、「中国語発音の知識」を正確なものとし、不確かな発音を徹底的に矯正していく。	
文学部 共通科目 日	国際 コミュニ ケイ ション 科目	中 国 語	中国語ⅡA B	1年次で学んだ初級段階の発音・語彙・文法を中級レベルに引き上げる。、「中国成語故事」を中心に翻訳しながら、1年次学習済みの文法知識を確実に・強固なものにし、そのレベルアップをはかる。「成語故事」はピンイン文を配布するので、簡体字になお日本語に訳してくる。到達目標を検定試験3級合格に定める。	

区 科 分 目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部 共通科目	国際 コミュニケーション	中国語	中国語ⅡB A	日常生活に深く関わる会話の場面にそった会話文と短文の学習を行う。文法事項としては、補語、「把」構文等を重点的に学ぶ。授業の前には、新出単語と本文は必ず辞書を引いて予習をしておくことが求められる。1年次に学習した初級文法の復習しながら、表現能力を育成し、文法知識の深化を図る。まず口頭練習に重点をおいて授業を行う。二人一組での発音練習を十分に行うことで、学生自身によるトレーニングの時間を多くとる。次に読解の作業に入る。文がどういう構造をしているのかを理解しつつ、丁寧に訳してもらおう。テキストの例文を暗記してそれをもとに教員と話す。文法事項を使って文をつくる、などの練習を適宜取り入れていく最後に小テストを行う。	
文学部 共通科目	国際 コミュニケーション	中国語	中国語ⅡB B	日常生活に深く関わる会話の場面にそった会話文と短文の学習を行う。文法事項としては、使役文、受け身文等を重点的に学ぶ。授業の前には、新出単語と本文は必ず辞書を引いて予習をしておくことが求められる。まず口頭練習に重点をおいて授業を行う。二人一組での発音練習を十分に行うことで、学生自身によるトレーニングの時間を多くとる。次に読解の作業に入る。文がどういう構造をしているのかを理解しつつ、丁寧に訳してもらおう。テキストの例文を暗記してそれをもとに教員と話す。文法事項を使って文をつくる、などの練習を適宜取り入れていく最後に小テストを行う。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目		教育基礎論Ⅰ	本講では、現代教育の諸問題、教育をめぐる諸事象を検討する際に必要となる知識、考え方の基礎を身につけることを目的とし、教育学に関するさまざまな分野についての概括的な知識の獲得と理解をはかる。人間の文化とその伝達の特異性、成長・発達についての考え方の基本、教育に関する諸規定などを検討の対象とする。また、学校教育の内容を左右する学習指導要領の歴史的変遷を取り上げ、学校教育の社会的性格についても検討する。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目		教育基礎論Ⅱ	本講では、教育現象、特に学校教育現象に焦点を当てながら、具体的な諸問題を取り上げて検討する。学校制度の機能とその問題点、教育を受けることが国民の権利として保障されていることの歴史的・教育的意義などを中心に整理する。具体的には、教育が国民の義務とされていた教育勅語体制と戦後の日本国憲法・教育基本法体制との比較、保護者の教育義務と就学義務、市町村の学校設置義務、義務教育の無償制と就学保障制度などを検討の対象とする。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目		図書館概論	日本における図書館と図書館をめぐる情勢は日々刻々変化している。授業では、こうした変化を踏まえながら、受講者に図書館というものの仕組みや歴史、社会的な存在意義を正しく認識してもらおうと共に、インターネットの普及や図書デジタル化の進展といった大きな情報変革の時代に生きている私たちが、将来にわたってよりよい図書館を作っていくためにはどうしたらよいかを考える手がかりを見出してもらうことを目的とする。今日の図書館が抱えている諸問題についての正確な認識を得ること、今後の図書館のあり方について具体的なイメージを描けるようになることを目標とする。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目		情報サービス論	図書館における情報サービスの意義と流れを理解することを目的とする。内容は、情報源の種類、評価などを含め、情報サービスの基本的概念、プロセスの把握である。情報サービスの意義を説明できること、情報サービスの具体的な項目の知識を得ること、利用者とのコミュニケーションの取り方を理解すること、情報源の特徴とその収集について説明できること、情報源の評価方法を理解することを目指す。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目		児童サービス論	授業では、子供を自ら図書館・読書に向かわせるサービスとはどのようなものか、授業で想定する子どもや図書館と、現実のそれとのギャップはどこから生まれるのかを考える。サービス対象者である乳幼児・児童の実状を把握すること、児童資料にはどのような物があるか説明できること、児童サービスのさまざまな方法について理解すること、そして図書館サービス全体の中での児童サービスの位置付けを理解し、計画立案できるようになることを目標とする。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目		図書・図書館史	社会の移り変わりや科学技術の進歩、ネットワークや新しい形態のメディアの普及と照らし合わせながら、日本の図書館が閉鎖された図書館から市民に開かれた図書館へと発展した変遷を振り返る。さらに、図書館の基本理念である資料収集と資料提供の自由について現在の社会問題と関連させながら考察し図書館の社会的役割と使命について理解を深める。また、革新的な試みを行っている国内外の図書館を参考にしてこれからの図書館のあり方について議論する。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目		図書館制度・経営論	本講義では、受講生各自に少なくとも2つの視点を持ちつつ受講・学習してもらいたい。ひとつは、図書館という有機体が、従来からどのようなシステムによって運営・維持されているかを理解しようとする学習的視点である。もうひとつは、そのシステムが現在どう変化を求められ、どの方向に進もうとしているかを理解しつつ、しかし現状を批判的に捕らえ自らが考える視点である。批判は決して否定ではなく発展の一要素だと考え、「図書館経営」を理解してもらいたい。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目		図書館サービス概論	様々な社会構造の変化が起こる中で、図書館が利用者に与える事のできるサポート、サービスにはどのようなものがあるのかを理解することが目的である。本講義では、公共図書館を中心とした図書館の機能、構成要素、役割、業務内容を、図書館と利用者双方の背景をふまえて確認していく。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目		情報サービス演習A	高度情報化社会、電子情報社会、生涯学習社会に対応した図書館情報サービスについて基本的な認識を形成する。演習課題においては、情報検索のメカニズムとレファレンス・サービスの理解に焦点をあて、履修生が図書館司書役と図書館利用者役になり、与えられた検索質問について図書館利用者役が検索し、図書館司書役が支援するというやり取りをとおして、高度情報化社会、電子情報社会、生涯学習社会に対応した図書館情報サービスに必要な知識と技術の習得を目指す。	
文学部 共通科目	諸 資格 関連 科目		情報サービス演習B	「情報サービス演習A」で習得した情報検索のメカニズムとレファレンス・サービスの在り方についての理解をふまえ、次の各視点、すなわち、課題解決支援サービス、図書館利用教育、発信型情報サービスとパスファインダー、情報サービスの評価について考察を深める。演習課題においては、履修生が図書館司書役と図書館利用者役になり、課題解決型質問についての情報検索と支援のやり取りを実際に行って上述の各視点について考察を深める。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	図書館情報資源概論	メディアの多様化に伴い、図書館で扱う資料にも変化が起きている。利用者の要求に応える事のできる図書館となるために、新旧いずれの種類の資料にも対応できるよう、その歴史、流通、選択、管理、利用について解説する。	
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	図書館情報資源特論	学問・研究のため、仕事のため、また、生活上の関心や問いについて深く考えるために、私たちは日々、さまざまなテーマの資料や情報を必要とする。図書館利用者のニーズが多様化し、質的に深化するなかで、特定の主題分野・領域を対象とする専門資料の活用は欠かせないものとなっている。この科目では、人文科学・社会科学・自然科学・技術分野などの主題専門分野における資料・情報源の特性や種類について概説し、図書館における専門資料の活用（収集・組織・保存・利用提供）についての基礎知識を学ぶことを目的とする。	
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	情報資源組織論	図書館においては、目録が図書館資料を検索するための基本的ツールであり、対象とする資料を他の資料から同定・識別するために作成・利用される。最新の目録規則である日本目録規則1987年版改訂版に基づいて目録作成を学習する。また、インターネット上での資料検索のためのメタデータについても学習する。分類の原理である分類規定を中心にさまざまな資料の分類を学習する。	
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	情報資源組織演習A	図書館においては、目録が図書館資料を検索するための基本的ツールであり、対象とする資料を他の資料から同定・識別するために作成・利用される。最新の目録規則である日本目録規則1987年版改訂版に基づいて目録作成を演習する。目録演習においては、Microsoft Access2010を用いた書誌データベースを作成し、Accessの基本操作を併せて学習することができる。一部、画像・動画の取り扱いについても演習する。	
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	情報資源組織演習B	資料の主題を分析し、系統的に分類してみる。分類を付与する際の基本方針となる分類規程から始め、各種助記表の使い方など日本十進分類法（NDC）の使い方を学習する。演習においては、Microsoft Access2010により書誌データベースを作成し、この書誌データベースにデータを登録する形で行う。Accessの基本操作を併せて学習することができる。一部、画像・動画の取り扱いについても学習する。	
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	図書館情報技術論	図書館の業務・サービスを実施するために必要な基礎的な情報技術について説明を行う。具体的には、コンピュータとネットワークの基礎、図書館業務システム、検索エンジンなどを挙げる事ができる。これらのトピックや事例に対する説明を通して、図書館の業務・サービスを実施するために必要な基礎的な情報技術の知識を身につけることを目的とする。必要に応じて上述の情報技術（およびその事例）を実際に利用する。以上のことを踏まえ、図書館が情報技術とどのように向き合っていけばよいのかについて考察する。	
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	学習指導と学校図書館	教育課程の展開において重要視されている情報化社会・生涯学習社会・国際社会を担う児童・生徒に求められる力、すなわち日々の生活で遭遇する問題を解決する力、主体的に学ぶ力、論理的に考える力の育成を支援する学校図書館と学校図書館司書教諭の役割について理解し認識を形成する。また、情報活用能力・学び方・論理的思考力育成のために学校図書館メディアを効果的に活用する教授方法や学習方法についての理論を理解し実践的な技術の獲得を目指す。	
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	読書と豊かな人間性	読書が子どもの人間形成にもたらす効果と読書の意義、読書と子どもの発達段階との関係、環境が読書に及ぼす影響について論じる。また、ブックトーク、読み聞かせ、読書感想文、アニメーション、リテラチャーサークルなどの読書指導法を取りあげて、子どもたちに読書の喜びを教え、子どもたちが生涯をとおして読書に親しむようになることを促す読書指導について考察する。さらに、遊び、テレビ、ゲーム、インターネットに話題を広げ、これらと読書との関係について議論する。	
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	学校経営と学校図書館	学校教育に占める学校図書館の教育的意義、学校図書館の経営等、学校図書館に係わる事項を学校教育の全体像の中に位置づけながら考えていく。学校図書館の機能としてのメディアセンターとしての可能性や展開から学校図書館とそれに関わるすべての人々の役割についても考える。また、読書コミュニティとしての学校図書館の意義についても検討する。	
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	情報メディアの活用	グローバル化した現代世界において、情報の持つ意味はますます大きくなってきている。本講義においては、こうした高度情報社会にあって、情報メディアをいかに活用するかについて、できるだけ幅広い角度から学ぶ。3つの課題、「情報メディアの発達と教育」、「情報メディアを実際にどう活用するか」、「情報メディアに関わる法的、倫理的課題」をテーマに設定し見ていきたい。	
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	学校図書館メディアの構成	学校図書館メディアの特性とその組織化について基本的な認識を形成するとともに、実践的な技術の獲得を目指す。具体的には、学校図書館メディアの種類とそれぞれの特性について理解し、次にメディアを教育課程の展開に有効利用するための各視点、すなわちメディア構成の目的、目録法、件名法、分類法、収集・受入、装備、排架の一連の作業、及び評価について理解する。さらに、図書館管理システムの導入など近年の学校図書館を取り巻く状況について考察する。	
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	視聴覚教育(視聴覚メディア論を含む)	教育方法としての視聴覚教育の現状と課題や、メディアの特徴や教育目的に合った活用方法について検討する。また、メディアを利用して効果的、効率的な教育行為を実践するために必要なスキルを身につけることを試みる。そのために、プレゼンテーションやマルチメディア教材の作成と発表など実習形式での授業を行う。視聴覚教育の定義及び歴史、教育・学習モデルについての教育工学的見地からのとらえ直しと理解の深化、学校教育における活用などが課題となる。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	社会教育計画論Ⅰ	本講は、生涯学習社会を構築する上で重要な役割を果たす、社会教育計画の核となる概念やポイントを押さえながら、社会教育職員として必要な能力を高めることを目的とする。歴史的・国際的視点に加えて、現代的課題も取り上げ、社会教育計画の世界を学ぶ中で、社会教育主事にふさわしい実力を身につけることをめざす。具体的には、社会教育計画の意義や役割の基本についての理解、新たな時代に対応する社会教育計画のあり方についての見解の整理、教室での学習と現場の取材を循環させながら、社会教育計画の理解を深めること、などが課題となる。	
文学部 共通科目	諸資格 関連科目	社会教育計画論Ⅱ	本稿は社会教育主事資格取得のための必修科目の一つであり、社会教育職員として必要な能力を高めることを目的とするものである。特に、生涯学習の支援という観点から、国内外の理論と実践をふまえつつ、人々の生涯にわたる発達と生活文化を育む社会教育計画のポイントの把握を課題とする。また、計画の実施・評価段階の要点を理解した上で、現場で応用しうる主催事業の開発を目指す。	
文学部 共通科目	キャリア 教育	インターンシップ	本科目は、文学部学生が卒業後、社会により適切に順応しつつ活躍の場が持てるよう、在学時に一定期間「就業体験」を試み、その活動を卒業単位として認めようとするものであり、学間は机上でのみ行われるものではなく、実践を伴うものであるとする学祖の思想の反映でもある。なお、インターンシップに出掛ける前に、事前説明を兼ねた指導会を開催し、就職のための心構えや社会人としてのあり方について、様々な角度から考える機会を提供する。	
文学部 共通科目	キャリア 教育	ボランティア活動	文学部学生が、ボランティア活動を通じて、社会に積極的に関わり、人々と共に生きていくという姿勢を学ぶことで、人生を力強く生きていくための勇気と糧を得、それを卒業単位として認めようとするものである。これは、学間は広く万民と共にあらねばならないとする学祖の思想の実践でもある。またボランティア活動の前に、事前説明を兼ねた講義をおこない、その心構えや意義について、様々な角度から考える機会を提供する。	
文学部 共通科目	キャリア 教育	キャリア支援Ⅰ	本稿の目的は、学生が将来について真剣に考え、学び、行動するためのサポートである。答えのない時代といわれるなか、自分軸をしっかり持って、主体的に学び、行動するために、は、基盤となる知識やスキルを身につけ、磨き続けることが求められている。本稿では、学生と教員がそれぞれの知識やスキルについて共に探究し、お互いが触発し合うことを意図している。具体的には、コミュニケーション能力、課題発見能力、プレゼンテーション能力、文章表現能力、ディベート能力を身につけることをめざす。	
文学部 共通科目	キャリア 教育	キャリア支援Ⅱ	本講座は、日本語の文章読解力と表現力を養成する。ある程度の長さを持つ文章を論理的で説得力のある形に仕上げるには、それなりの知識とトレーニングが必要である。日本の代表的な文学作品や新聞記事、評論、エッセイ等、さまざまな文章を題材として扱いながら、特にレポートや論文などに必要な論理的な文章の書き方を習得することに重点を置いて、説得力のある論理的な文章を書けるように徐々にステップアップをはかっていく。	
文学部 共通科目	キャリア 教育	教員養成講座Ⅰ	本講座は、教職を志す学生が在学時から教師として「最小限度必要な資質・能力」を身に付けると同時に、教員採用試験に合格できる実力や高い志をもって挑戦する態度を養成することを目的とする。具体的には学校現場の課題や事例を通して教師の心構え、指導方法、児童・生徒の理解、指導計画の立て方等を身に付けることをめざす。また、学習指導案による模擬授業・集団面接を行い、対人関係、協調性、実践的指導力の獲得をめざす。	
文学部 共通科目	キャリア 教育	教員養成講座Ⅱ	本稿は「教員養成講座Ⅰ」と同様の目的をもつ科目である。具体的には、個人・集団面接対策、ロールプレイを通じた教育相談、地域・保護者との連携、道德教育、学校の組織と運営、児童・生徒理解、生徒指導、キャリア教育の推進、教師の職務と研修など、学校現場での教育実践により近い内容について取り上げて、学生自らが教員としての自覚と教員になるためのスキルを身につけることをめざす。	
専門科目	必修科目	東洋思想文化への誘いA	（概要） 東洋思想文化学科の学問領域全体について基礎知識を養い、今後の勉学への動機づけを行うことを目的とする1年必修の導入科目である。講義形式を採るが、扱う範囲が広いので、専門を異にする複数の教員のオムニバス形式で行う。2年次以降、「インド思想」「中国語・中国哲学文学」「仏教思想」「東洋芸術文化」の4コースに分かれるため、各分野の性格の違いやそれを学ぶおもしろさを伝え、学生がコース選択を誤らないようにしたい。春学期は中国文学、中国語、仏教思想を専門とする教員が中心となって授業を運営する。 （オムニバス方式／全15回） (26 野間信幸／4回) ガイダンス近現代中国文学概論まとめ (41 川崎ミチコ／2回) 敦煌文学概論敦煌学概論 (35 渡辺章悟／2回) 大乘仏教概論Ⅰ 大乘仏教概論Ⅱ (33 山口しのぶ／2回) チベット仏教概論密教概論 (37 岩井昌悟／2回) ブッダの生涯と思想部派仏教概論 (1 伊吹敦／3回) 中国仏教概論日本仏教概論	オムニバス
専門科目	必修科目	東洋思想文化への誘いB	（概要） 東洋思想文化学科の学問領域全体について基礎知識を養い、今後の勉学への動機づけを行うことを目的とする1年必修の導入科目である。講義形式を採るが、範囲が広いので専門を異にする複数の教員のオムニバス形式で行う。2年次以降、「インド思想」「中国語・中国哲学文学」「仏教思想」「東洋芸術文化」の4コースに分かれるため、各分野の性格の違いやそれを学ぶおもしろさを伝え、学生がコース選択を誤らないようにしたい。秋学期は、中国哲学、インド思想、東洋芸術文化を専門とする教員が中心となって授業を運営する予定である。 （オムニバス方式／全15回） (34 山田利明／3回) 中国哲学概論道教思想概論Ⅰ 道教思想概論Ⅱ (15 小路口聡／2回) 儒教思想概論Ⅰ 儒教思想概論Ⅱ (27 橋本泰元／2回) ヒンドゥー教概論Ⅰ ヒンドゥー教概論Ⅱ (52 沼田一郎／4回) ガイダンスインド思想概論Ⅰ インド思想概論Ⅱ まとめ (33 山口しのぶ／2回) 東洋美術概論Ⅰ 東洋美術概論Ⅱ (37 岩井昌悟／2回) 仏教文学概論Ⅰ 仏教文学概論Ⅱ	オムニバス

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	必修科目	レポート・論文制作の技法	新入生を対象として、大学での受講姿勢について、基本的な約束事を解説する。とくにレポート・論文制作の方法について、基本的知識を伝授する。大学でのレポートは、高校までの学習レポートとは質的にちがうので、その初歩的な知識を入学当初に理解しておく必要がある。たとえば文献からの引用がある場合、必ず注記等で明示する必要があるし、さらに文献名を記すだけでなく書籍の奥付を反映させるのが基本的約束事になる。また大学ではレポートと、論文に大きな差が存在するので、学生が同じ態度・同じ理解でこれらに臨むと、評価対象として認められないことになりかねない。本講義では、表題通りレポートと論文の制作の技法を伝えることを主目的とするが、その前提となる大学での学習態度や文献調査に取り組む姿勢など、基本的事項も併せ教授する。高校から大学への導入教育の一環として、本講義を位置づける。	
専門科目	必修科目	東洋思想文化演習Ⅰ	2年生を対象とする必修の演習（ゼミ）である。専任教員が自分の専門を生かした演習を開講するので、学生は関心に合わせていずれかの演習に参加することとなる。演習では、それぞれの分野の研究法に合わせて、資料の収集、文献資料の校訂や読解、様々な言語で書かれた参考文献の参照やその理解等を実際に行うことで勉学の方法を身につけてもらう。また、場合によっては、文献やテーマに対する各自の理解や問題意識等を発表してもらい、それを全体で討議する。こうした方法によって学生相互の勉学意識を高めるよう努める。	
専門科目	必修科目	東洋思想文化演習Ⅱ	3年生を対象とする必修の演習（ゼミ）である。専任教員が自分の専門を生かした演習を開講するので、学生は関心に合わせていずれかの演習に参加することとなる。演習では、それぞれの分野の研究法に合わせて、資料の収集、文献資料の校訂や読解、様々な言語で書かれた参考文献の参照やその理解等を実際に行うことで勉学の方法を身につけてもらう。また、場合によっては、文献やテーマに対する各自の理解や問題意識等を発表してもらい、それを全体で討議する。こうした方法によって学生相互の勉学意識を高めるよう努める。	
専門科目	必修科目	卒論指導	卒論のテーマに基づいて学生一人ごとに一人の専任教員を指導教員として指定するから、学生はその指導教員の指導のもとに卒業論文を制作する。指導教員は、オフィスアワーの時間等を利用して、資料収集や論文の書き方等の個別相談に応じるとともに、場合によっては、指導する学生を集めた卒論発表会を設けて相互に切磋琢磨させることで意欲を高める等の方法を用いて指導を行う。提出された卒業論文の内容いかに関わらず、指導教員の十分な指導を受けていなくてはならない。	
専門科目	必修科目	卒業論文	指定された指導教員の卒論指導に従って、4年間の勉学の総決算として卒業論文を制作し、指定された日時に東洋思想文化学科の共同研究室に提出してもらう。指定された日時に遅れたものは、理由のいかんに関わらず、一切受け付けない。論文提出後は、口頭試問の機会を設け、直接、内容を質して本人の著作であることを確認するとともに、指導教員を中心にテーマ、資料収集、資料分析、全体構成、文章表現、努力の度合いなどによって客観的に論文の評価を行う。	
専門科目	選択科目	宗教をめぐる諸問題A	（概要） 専任教員による講義と外部講師による講義を合わせたオムニバス講義形式。インド、チベット、スリランカ、中国、日本、欧米、中東などにおける、世界のさまざまな宗教を取り上げ、それぞれの宗教の教義がどのようなものか、また社会とどのように関わっているのかを包括的に理解することを目的とする。扱う宗教体系は、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教、イスラーム教、道教などである。Aでは仏教における聖者を地域別にみる。初学者を念頭に入れて、原則的に各々の地域・宗教に概説と本論の時間を設定し、2回を配当する。 （オムニバス方式／全15回） （37 岩井昌悟／4回） 開講にあたって初期仏教とは何か 初期仏教における聖者仏教における聖者のまとめ （35 渡辺章悟／3回） 大乗仏教とは何か大乗仏教における聖者モンゴル仏教と聖者 （1 伊吹敦／2回） 中国仏教とは何か中国仏教における聖者 （33 山口しのぶ／2回） チベット仏教とは何かチベット仏教における聖者 （106 佐藤厚／1回） 韓国仏教における聖（ひじり） （167 養輪顕量／2回） 日本仏教とは何か日本仏教における聖者 （142 戸松義晴／1回） アメリカ仏教と聖者	オムニバス
専門科目	選択科目	宗教をめぐる諸問題B	（概要） 講義形式。インド、チベット、スリランカ、中国、日本、欧米、中東などにおける、世界のさまざまな宗教を取り上げ、それぞれの宗教の教義がどのようなものか、また社会とどのように関わっているのかを包括的に理解することを目的とする。扱う宗教体系は、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教、イスラーム教、道教などである。Bでは仏教以外の諸宗教の聖者を概観する。初学者を念頭に入れて、原則的に各々の地域・宗教に概説と本論の時間を設定し、2回を配当する。 （オムニバス方式／全15回） （37 岩井昌悟／2回） 開講にあたって諸宗教の聖者のまとめ （171 宮本久義／2回） ヒンドゥー教とは何かヒンドゥー教における聖者③（近現代） （27 橋本泰元／2回） ヒンドゥー教における聖者②（中世以降）シク教と聖者 （33 山口しのぶ／2回） ヒンドゥー教における聖者①（古代）ゾロアスター教における聖者 （22 永井晋／2回） ユダヤ教におけるとは何かユダヤ教における聖者 （184 渡辺研二／2回） ジャイナ教とは何かジャイナ教における聖者 （179 山中利美／2回） キリスト教とは何かキリスト教における聖人	オムニバス
専門科目	選択科目	宗教学概論A	宗教、それにかかわる諸現象、そしてそれを学問として扱う宗教学の理解を深めることを目的とする。授業は講義形式で行う。講義においては宗教類型論の基礎知識を把握したうえで、世界宗教、日本の新宗教、在家と出家、諸行事やその他の宗教的行為に見られる日本人の宗教意識、また国家と宗教の関係などを取り上げ概説する。またデータ資料を含むさまざまな情報を提示し、それらをどのように選別し分析するかといった学びかた、調べかたを身につけるような講義を行う。	
専門科目	選択科目	宗教学概論B	宗教学上重要な諸問題について理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。講義においては移民と宗教における文明の衝突を欧米や日本の事例から概観し、また近代・現代社会における世俗化と宗教の問題について述べる。さらに宗教原理主義の問題について基礎的な概念を解説するとともに、欧米や日本の事例について考察する。その際データ資料を含むさまざまな情報を提示し、それらをどのように選別し分析するかといった学びかた、調べかたを身につけるような講義を行う。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	東洋の身体論	(概要) この授業は、東洋の様々な思想的伝統において身体がどのように考えられてきたかを明らかにすることによって、「人間とは何か」、「人間にとって一番よい生き方とは何か」といった問題を考える契機を与えることを目標とする。授業は主としてオムニバス形式の講義の形で行われる。その内容と担当者は以下の通りである。 (オムニバス方式／全15回) (1 伊吹敦／4回) ガイダンス禅仏教の身体論まとめ試験 (170 宮本久義／1回) ヨーガ・アーユルヴェーダの身体論ヒンドゥー教の身体論 (33 山口しのぶ／1回) チベット仏教の身体論 (34 山田利明／1回) 道教の身体論 (37 岩井昌悟／1回) インド仏教の身体論 (68 伊藤聡／1回) 神道・修験道の身体論 (181 山本早良紗／1回) バリ舞踊の身体論 (184 渡辺研二／1回) ジャイナ教の身体論 (109 柴山滋／1回) イスラームの身体論 (85 金本拓士／1回) 真言密教の身体論 (183 林鳴宇／1回) 天台宗の身体論 (27 橋本泰元／1回) 仏教の身体論	オムニバス 隔年開講
専門科目	選択科目	近代化と東洋	(概要) 東洋の諸国には様々な思想的伝統が息づいているが、本授業では、それらが近代化の中でどのような困難な状況に陥ったか、そして、それをいかに乗り越えて現在までその伝統を伝えていくかを明らかにすることで、東洋の伝統を見直す契機を与えることを目標とする。授業は主としてオムニバス形式の講義の形で行われる。その内容と担当者は以下の通りである。 (オムニバス方式／全15回) (1 伊吹敦／4回) ガイダンス近代化と中国仏教まとめ試験 (143 富澤かな／1回) イギリスのインド統治とオリエンタリズム (52 沼田一郎／1回) 近代化とインド思想 (62 青木雅浩／1回) 近代化とモンゴル文化 (106 佐藤厚／1回) 近代化と韓国仏教 (91 橋川智昭／1回) 近代化と日本仏教 (26 野間信幸／1回) 台湾の近代文学 (33 山口しのぶ／1回) 近代化とチベット (175 戴内聡子／1回) 近代化と東南アジア仏教 (35 渡辺章悟／1回) 現代インドの仏教 (142 戸松義晴／2回) 欧米に根付く仏教終末期医療と仏教	オムニバス 隔年開講
専門科目	選択科目	韓国文化事情A	韓国の歴史などを踏まえた上で現在の韓国文化を紹介し、結婚式などの韓国の諸行事、住居などの生活様式や食事マナーなどの日常生活と関連した韓国の文化を理解する。授業は講義形式で行う。その際ビデオや音楽などの視聴覚教材を使用しながら、日本の文化との比較を通して韓国文化への理解を深めていく。また講義においては、ハングル文字や韓国語の基本的な文法の解説を行い、韓国語で簡単な挨拶や自己紹介程度の会話ができる能力を身につけることを目指す。	
専門科目	選択科目	韓国文化事情B	本科目はことばを通して日韓文化の違いを理解し、韓国や韓国人への理解を深めることを目的とし、韓国文化と合わせて韓国語の基礎を学ぶ。授業においては韓国の文化を理解するためのビデオや音楽などの視聴覚教材を利用し、韓国の宗教、社会習慣、世界遺産など韓国の文化を紹介するとともに、食事の誘いや道案内、買い物といった日常場面での簡単な会話ができるよう基礎的な韓国語の練習も行う。授業は講義形式で行うが、韓国語で話す機会や時間も多く与える。	
専門科目	選択科目	中国文学文化と日本A	日本文学文化に密接不離の関係にあった中国の文学文化からの影響関係をたどりながら、日本文学文化の特徴を考察していくことを目的とする。授業は講義形式で行う。本科目では日本と中国の小説、詩歌、史書、説話、戯曲、笑話などの比較を通して、従来意識しなかった日本文学の本質を再認識することを目指す。文学の発信、受容、影響、変容、定着という流れの中で、中国の文学が、いかに日本に受け入れられ、独自の文学として形成されていったのか、変容の鍵になるものは何だったのかなどを考える知識や方法を身につける。	
専門科目	選択科目	中国文学文化と日本B	中国の文化からの影響関係をたどりながら、日本文化の特徴を考察していくことを目的とする。授業は講義形式で行う。本科目においては、花、茶、身体、音楽、芸能、絵等について日本と中国それぞれの文化の内容を把握した上で、中国と日本の比較・考察を行い従来意識しなかった日本文化の本質を再認識することを目指す。文化の発信、受容、影響、変容、定着という流れの中で、中国文化に日本に受け入れられとして形成されていったのか、変容の鍵になるものは何だったのかなどを考える知識や方法を身につける。	
専門科目	選択科目	比較文学文化概説A	日本においては近代以前まで中国文化の影響を受けてきたが、19世紀から20世紀にかけて西洋文化の衝撃を受け、西洋と自国の文化比較により自身の文化の特色を再発見した。本科目は日本と中国における比較文学の先駆けをなした人物とその業績をとりあげながら、比較の題材によって、どのような方法が用いられてきたのかを学ぶことを目的とする。授業は講義形式で行う。講義においてはまず比較の視点の意味と概略を述べ、日本と中国の比較文学文化の実際を翻訳や詩論などの例から概説する。	
専門科目	選択科目	比較文学文化概説B	文学や文化の比較はそれぞれの国や地域の文化的特徴を浮き彫りにしてくれる。本科目は、日本と中国における比較文学の先駆けをなした人物とその業績をとりあげながら、比較の題材と比較の方法について、その基礎を学ぶことを目的とする。授業は講義形式で行う。講義においては、はじめに世界の文学を比較する時に持つべき複合的視野について解説する。その後「類型」「人間観」「異文化体験」「伝統論」「美意識と表現」という切り口から中国と日本の比較を行い、その特色について考察する。	
専門科目	選択科目	日本文学文化概説A	文学を広く文化の視点から捉え、その歴史を、貴族の時代(奈良～室町)・非貴族の時代(安土桃山～江戸)・個人の時代(近現代)とする。古代から現代に至るこの国の文学文化のあり方を、その原点にさかのぼって考察し、そのかたちを確認したいと思う。日本文学文化史を概説したうえで、『古事記』から『萬葉集』へといたる事例にもとづいて上記の問題を論じ、総括として「古代日本文学文化から何が見えるのか」という問題を確認する。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	日本文学文化概説B	文学を広く文化の視点から捉え、その歴史を、貴族の時代(奈良～室町)・非貴族の時代(安土桃山～江戸)・個人の時代(近現代)とする。古代から現代に至るこの国の文学文化のあり方を、その原点にさかのぼって考察し、そのかたちを確認したいと思う。本講義においては奈良時代から平安時代へと至る和歌の系譜をたどり、更に源氏物語、枕草子へと至る。総括として管弦や舞をも含む「王朝貴族文化」の文化史的位置づけについて検討する。	
専門科目	選択科目	古文書学Ⅰ	古文書学は反古となった過去の文書（主に手紙）である古文書は日本の歴史を学ぶうえで、もっとも基本的な史料情報論である。本講義ではその読解に通じることで史料研究上の基礎を築くことを目指す。古文書学を概説した上で、古代～中世～織豊期へと歴史的にその特徴を講じ花押や印章についても触れる。また、料紙についても取り上げ、更には古文書の影写実習も実施して、受講者が古文書についての基礎的知識と扱い方を修得できるよう配慮する。	
専門科目	選択科目	キリスト教概論	キリスト教の基本的内容を宗教思想史的観点から理解することを目指す。イスラエルという一地方に起こった小さな宗教運動にすぎなかったキリスト教が、如何なる宗教的、思想的特徴を持つに至ったかという視点から学んでゆく。まずキリスト教の基礎となった古代ユダヤ教について学び、その思想をイエスの思想や彼の死後に成立したキリスト教がどのようにに継承し、また新しく解釈し直していったかに注目しつつ、キリスト教神学の確立までをたどってゆく。	
専門科目	選択科目	イスラーム概論	イスラームは、7世紀のアラビアの人ムハンマドの宗教活動からはじまり、世界化した。現在では10億人を超える信徒を持つイスラームを理解することは、現代世界を理解する上で必須のことである。しかし、われわれ日本人はイスラームについてあまりに無知である。本講義は、イスラームという宗教を見る目を養うことを目的とし、そのとらえ方を考える。到達目標としては、宗教としてのイスラームの性質、生活の規範としてのイスラーム、世界におけるイスラームの広まりを理解することである。	
専門科目	選択科目	インド現代思想	古代より最高原理、最高神、真理などを追求する傾向を持っていたインドの思想・宗教は、イギリス支配下の時代に多大な変容を余儀なくされた。それまではインド内部で通用すればよかった伝統的思考が、西洋の思想や文化に直面して、世界に通じる論理を持たざるを得なくなったのである。本講では、インドの近・現代の思想家・宗教者たちが、どのように伝統的思考を再検討し、統合・発展させていったかを、ヴィヴェーカーナンダやオロビンド・ゴーシュなど十名前後の宗教思想家の教説を取り上げ、思想史的、社会的な諸要因を分析しつつ概説する。	隔年開講
専門科目	選択科目	現代のインド	現在インドは爆発的な経済発展のさなかにある。インドは古代からの価値観を維持しつつ、世界の中で新しく生まれ変わろうとしている。本講ではそのような古くて新しい国インドが、どのようにして形成されてきたのかを、英国植民地からの独立運動、ガンディーやネルーらの国家の理念などを分析しつつ解説する。また、インドが直面する不可触民問題、ヒンドゥー教とイスラームの宗教間対立、移民問題をはじめ、政治・経済・社会の様々なトピックについて、その現状と問題点を受講生と一緒に考えてみたい。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教と社会福祉	この講義では仏教者および寺院・教団がおこなってきたいわゆる社会福祉事業について歴史的検証をおこない、その教義の根拠・役割・意義・限界を考察し、現代社会に意義ある今日的な仏教社会福祉のあり方を提言する。講義・ゲストスピーカーから仏教の社会福祉事業の歴史の変遷を理解し、現代社会の抱える諸問題に仏教の特性をいかしどのようににかかわるかを学ぶ。事例にもとづいて仏教の四聖諦の方法論で問題分析をおこない、その問題に対して仏教がどのように取り組むかを考え提言する。	隔年開講
専門科目	選択科目	現代に生きる仏教	この講義では現代社会における「Engaged Buddhism」の役割・必要性を考える。講義・映像・ゲストスピーカーから世界の危機的状況・社会問題の現状・原因を理解する。その問題に対する仏教者の活動の事例を検討し、何を実践し問題解決にどのように貢献しているかを探求する。その上で各自が関心のある社会問題を選択し、仏教の四聖諦の方法論で問題分析をおこない、その問題に対して仏教がどのように取り組むかを考え政策提言する。共に学び合い、自己の考え・意見を明確に表現することを目的とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国学研究法A	中国学、とくに中国哲学・中国文学をこれから学んでゆこうとする初学者に向けて、基礎的な知識と研究方法を伝授することを目的とする。中国学を研究するために必要となる工具書（辞書・事典・年表・年譜・索引・地図等）の取り扱いを覚えるとともに、研究文献や研究資料の収集整理方法について学習する。図書目録などの扱いについては、具体的な課題に基づいて、各人に調査を行わせて練習を積み上げてゆく。今後の専門科目授業において戸惑わなくて済むように、テクニカルタームやその概念も解説してゆくことになる。本講義では、導入教育を中心に基礎的知識と学習方法の伝授を行う。	
専門科目	選択科目	中国学研究法B	中国学、とくに中国哲学・中国文学をこれから学んでゆこうとする初学者に向けて、基礎的な知識と研究方法を伝授することを目的とする。中国学を研究するために必要となる工具書（辞書・事典・年表・年譜・索引・地図等）の取り扱いを覚えるとともに、研究文献や研究資料の収集整理方法について学習する。図書目録などの扱いについては、具体的な課題に基づいて、各人に調査を行わせて練習を積み上げてゆく。今後の専門科目授業において戸惑わなくて済むように、テクニカルタームやその概念も解説してゆくことになる。本講義では、基礎専門知識の伝授と具体的に工具書等の扱い方を覚える授業を行う。	
専門科目	選択科目	漢文訓読法	外国語である漢語で書かれた文献を、歴代の日本人が理解してこれたのは、訓読法をもっていったおかげである。本講義は、訓読法に習熟し、さらに、漢文法をも理解し、漢和辞典さえあれば簡単な白文が読めるようになることを目的とする。日本思想・日本文化・日本文学を学ぶ他学科の学生にも広く開放してゆく科目となる。	
専門科目	選択科目	哲学概論A	古代ギリシャから近代初頭の康德・ヘーゲルまでを中心に、西洋哲学史における主要な思想について、その内容をよく理解するとともに、国際問題を含む現代社会の諸問題について、学生各自が自分の頭で考え、主体的な発言ができるような基礎力を養成することを目指す。特に「主・客一致＝真理」（認識論の基礎）といったいわゆる西洋哲学の「真理観」や「理性」についての理解を深め、その上で、仏教との比較や仏教教理についても論ずる。授業は主に講義形式で行う。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	哲学概論B	マルクス以降の社会主義、実存主義、現象学を中心に、西洋哲学史における主要な思想について、その内容をよく理解するとともに、国際問題を含む現代社会の諸問題について、学生各自が自分の頭で考え、主体的な発言ができるような基礎力を養成することを旨とする。特に、近代という時代のテーマ「自由」は、現代の「理想／幸福」といったテーマとどのように結びつくかという問題に焦点を当て、「縁起」「空」などの仏教思想と比較することで、東洋と西洋の思想的特質を明らかにしてゆきたい。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	倫理学概論A	道徳や習俗といった人間の実践的営みについて、善悪の価値判断に関する根本要素を、思想的に探求すると同時に現代社会との関連で考察し、善く生きるための論点や諸問題を明らかにする。とりわけ教育や医療・福祉の現場で問題化される人間の尊厳や幸福論および死生観等に注目しつつ論及していく。	
専門科目	選択科目	倫理学概論B	近代社会の特質のひとつとされる非人間化や機械化などに抗する思想として、倫理学が掲げるのは生の哲学・対話の思想・実存主義などであり、こうした諸思想は、総じて人間の人格の深みを照らし出す。こうした人格の代替不可能性を様々な事例から検討して、教育・医療・福祉諸施設などにおいて、いかに人格の尊厳を守ることが可能か究明する。	
専門科目	選択科目	心理学概論A	本講義では、心理学の概説を行い、広範囲に及ぶ心理学の研究手法やその知見を学習するとともに、最新の研究知見から得られた心理学の日常生活への活かし方を紹介する。心理学の概論を通して、心理学的な物の見方や考え方を習得すること。それらを日常生活へと活かし、セルフ・マネジメントのスキルを習得することを到達目標とする。具体的な課題としては、感覚と知覚、ストレス、記憶、学習、動機づけ、知能、自己などである。	
専門科目	選択科目	心理学概論B	本講義では、心理学の概説を行い、広範囲に及ぶ心理学の研究手法やその知見を学習するとともに、最新の研究知見から得られた心理学の日常生活への活かし方を紹介する。心理学の概論を通して、心理学的な物の見方や考え方を習得すること。それらを日常生活へと活かし、セルフ・マネジメントのスキルを習得することを到達目標とする。具体的な課題としては、パーソナリティ、アサーション、健康とストレス、社会心理学、コミュニケーション、臨床心理学などである。	
専門科目	選択科目	写経	本講義では写経の歴史の変遷に触れた上で、大乘経典において写経が強調されることの意味、「行」としての写経について考察してみたい。特に平安時代の比叡山において写経が仏道修行として位置付けられるようになった教理的根拠について講義する。毎回墨を摺って実際に写経を体験してもらうことで、「教え」と「実践」の両面から仏教に親しんでもらいたいと考えている。写経として一般的な『般若心経』の内容も解説しつつ授業を進める予定である。	毎回、実習と講義を併用する。
専門科目	選択科目	ヨーガ	ハタ・ヨーガについて、「ガーヤトリーマントラ」のサンスクリット語による読誦法をまなび、ヨーガに関する実践的講義を行う。そして、それを踏まえて、ヨーガの基本的な実践を行うい、身心の変化を確認する。とりわけ呼吸法を重視して、ヨーガの基本体位を実践する。その際には身体と心の中心軸を意識することを強調し、瞑想法への導入としたい。人類の英知であるヨーガを実践し、社会に出ても通用する素晴らしい健康や人格を形成してほしい。	毎回、実習と講義を併用する。
専門科目	選択科目	坐禅	禅宗、特に臨済禅の正式な作法にしたがい、坐禅を体験し、禅の教え、禅のこころに触れる授業である。仏教史から見れば、禅宗は中国の唐代に完成した新しい教えであるが、釈迦が坐禅をして悟った、という観点からすれば、仏教の原点であるとも言える。まずは、実際に坐って「禅」を体験し、そして仏教の原点を知ること目標とし、その上で、日常生活において、癒しとともに自分のこころと向き合う手段として坐禅を応用できることを目指す。毎回、坐禅の実践と講義とを併用して授業を行う。	毎回、実習と講義を併用する。
専門科目	選択科目	仏教の芸能	本講座は、日本の伝統仏教において大事に伝承されてきた讃歌の音楽である聲明とは何かを、またインド・中国・日本への伝播の歴史を概観する。その後、専門家による聲明の音楽的構造や日本における歴史的発展などの講義と実演をして頂き、受講生は模倣による実修を試みる。さらに、和語による讃歌である和讃・御詠歌について、同じように行う。この講座によって、日本の古典的讃歌から伝統的な邦楽に、仏教の伝統的な聲明や和讃・御詠歌がいかに深い影響を与えているか再認識してもらい、日本の伝統文化の一端を理解してもらう。	毎回、実習と講義を併用する。
専門科目	選択科目	インド舞踊	本科目は、インド舞踊を通して身体トレーニングを行うとともに、思想、音楽、文学、美術等の精神文化と深く関わる総合芸術としての舞踊について理解を深めることを目的とする。その起源を古代インドまで遡り、南インドのタミルナドゥ地方を中心に広まる古典舞踊バラタナティヤムの実技とダンス理論を中心に授業を展開する。授業は実技形式で行うが、舞踊の感情表現においては神話や詩歌の理解が重要であるため、宗教や神話を含んだインド舞踊の歴史的展開についても解説を行う。	毎回、実習と講義を併用する。
専門科目	選択科目	日本の宗教を歩く	週末を利用して関東一円に点在する神社仏閣などの名勝を訪問・見学しながら、日本の歴史や風土、伝統文化を実際に見て感じることで、それらについてより具体的な知識を身につけ、理解を深めることを目標とする体験型の授業である。受講生にレポート課題を課すことを通して、日常の講義を通して学んだ東洋の思想や文化の理念が現代日本において実際にどのような具現化しているか、また、変わらずに残っている伝統とはっきりとした変容といった点に注意を向けるよう促す。	集中講義 講義：30時間
専門科目	選択科目	基礎中国語A	北京語（中国語の標準語）の発音表記（ピンイン）の読み方をマスターし、基礎的な文法や日常会話表現の習得をめざす。中国語の初学者を対象とした授業であるので、まずピンインの学習からはじめ、その後テキストを用いて発音練習や聴き取り練習を繰り返す。この過程をととしてテキスト本文の基本表現を暗誦し、その基礎の上に立って、自己紹介や簡単な中国語会話ができるところまで、中国語の運用力をつける。なお初学者が戸惑う中国語の漢字（簡体字）についても、見て分かり、書けるようにする。本講義では、発音とピンインを習得することに重点を置いた授業を行う。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	基礎中国語 B	北京語（中国語の標準語）の発音表記（ピンイン）の読み方をマスターし、基礎的な文法や日常会話表現の習得をめざす。中国語の初学者を対象とした授業であるので、まずピンインの学習からはじめ、その後テキストを用いて発音練習や聴き取り練習を繰り返す。この過程をととしてテキスト本文の基本表現を暗誦し、その基礎の上に立って、自己紹介や簡単な中国語会話ができてくるまで、中国語の運用力をつける。なお初学者が戸惑う中国語の漢字（簡体字）についても、見て分かり、書けるようにする。本講義では、簡体字を覚えたり、中国語の運用力をつける授業を行う。	
専門科目	選択科目	書道 I A	本講義では、書道の基本技法の習得を目指す。楷書・行書・かな・硬筆（ペン字を含む）を、対象に取り上げる。基礎知識を講義した後、実践練習を重ねてゆく。基本点画の把握に努め、線の調和・文字と文字の調和・変化と統一など基本表現の充実を図っていく。特に、技術の向上と定着を目指す。硬筆においては、正しいペンの持ち方を指導して確実に上達を図ってゆく。「かな」と「漢字かな交じりの書」については、流れの美しさに配慮する。本講義では、楷書、行書を中心に行う。	
専門科目	選択科目	書道 I B	本講義では、書道の基本技法の習得を目指す。楷書・行書・かな・硬筆（ペン字を含む）を、対象に取り上げる。基礎知識を講義した後、実践練習を重ねてゆく。基本点画の把握に努め、線の調和・文字と文字の調和・変化と統一など基本表現の充実を図っていく。特に、技術の向上と定着を目指す。硬筆においては、正しいペンの持ち方を指導して確実に上達を図ってゆく。「かな」と「漢字かな交じりの書」については、流れの美しさに配慮する。本講義では、臨書と表現、かなを中心に行う。	
専門科目	選択科目	書道史 A	殷・周・秦・漢・三国・西晋・南北朝・隋・唐に至るまでの書体の変遷を理解する。文字の変遷は、殷代の甲骨文字に始まり、西周時代の金文、先秦時代の大篆、秦始皇の小篆による文字の統一を経て、前漢の隸書やがて草書へと発展してゆく。書道史上最大の出来事は、前漢中期に紙が発明されたことである。その後の紙の普及は、三国時代以後の楷書・行書・草書の発展の引き金となる。南北朝時代になって楷書・行書・草書の書体はさらに発展し、唐代になって完成する。これらの発展史を概観してゆく。	
専門科目	選択科目	書道史 B	中国の宋代から清期末期までの書風の変遷とともに、日本書道史をテーマに取り上げる。楷書・行書・草書の登場以後、書体の変遷は止み、書風の変遷を繰り返しながら、宋・元・明・清を経て発展し、現在に至っている。宋代以降、各時代において多くの作家が名品を書き遺しているが、時代背景とともに、作家についての研究や作品への理解を深めてゆく。日本書道史では、奈良・平安時代の名筆への理解と、日本独自の書の発展を理解する。紙の製法や筆の製法の伝来時期、中国に書道を学んだ足跡、和様体の発展などを、追求してゆく。	
専門科目	選択科目	サンスクリット語 I A	インド古典学および仏教学を学ぶに際して、インド文化圏の共通言語と言うべき古典サンスクリット語(skt)の知識を欠くことはできない。本講義においてはsktの初歩的理解と読解能力を涵養することを目指している。音の分類から名詞、形容詞、代名詞の「性・数・格」におよぶ変化の概要を修得し、動詞を含まない文の読解にいたる。古典語の学習は目で見て学ぶことに終始しがちであるが、「耳から」の学習効果を発揮するために、受講者には音読に心掛けるように求めている。	
専門科目	選択科目	サンスクリット語 I B	「サンスクリット語IA」の知識を前提として、動詞と複合語の概要を学ぶ。古典サンスクリット語(skt)の動詞変化は多彩を極め、初学者の修得を困難ならしめるが、本講義ではなるべく基本的な形態に限定して、現在組織をじゅうぶん理解することに重点を置く。sktは印欧語であるから動詞の活用は英文法とも共通点がある。受講者の英語の知識を活かした《能動一受動》の書き換えなどを通じて、sktの形態に慣れるように努め、初級以上の階梯への導入とする。	
専門科目	選択科目	パーリ語 A	担当教員が文法書にそってパーリ語文法を概説し、実際にテキストの講読に入るための準備を行う。パーリ語の文法事項の概略を理解することを目指す。導入としてパーリ語概論（どのような言語か、いつどこで使用されていたか、習得するとどのようなテキストが読めるのか）を講義し、その後に音韻論、語形論（名詞・形容詞の曲用、代名詞・数詞の曲用、動詞の活用、連続体・不定体・分詞・不変語）、造語法、文章論と進める。授業は主に演習形式で行う。	
専門科目	選択科目	パーリ語 B	演習形式。実際にパーリ語で書かれたテキストを講読することを通して、辞書に慣れ親しみ、文法理解を深めながら、パーリ語の読解力を習得することを目指す。講読用テキストは受講生の興味を勘案してパーリ聖典から選択する。適宜、註釈書（アッタカター）を参照させ、内容解釈に註釈書が如何に有用であるかを知ってもらふ。受講生ひとりひとりに短文を読ませ、毎回受講者全員が辞書を引くことになるよう工夫し、講読への主体的参加を促す。	
専門科目	選択科目	ヒンディー語 A	インドの宗教文化を理解する一つ的手段として、ヒンドゥー教の知識階層の文章語であった古典サンスクリット語、および北インドにおいて10世紀以降に発展した近代インド・アーリヤ諸語のうちサンスクリット語の直系ともいうべきヒンディー語の知識が必要である。また、ヒンディー語を通して現代の文化事象を理解し、過去の諸事象の様態を観る方法も極めて有効である。この観点に立って、インド連邦の公用語であるヒンディー語の現代標準形の初等文法の学習を文字の段階から開始する。	
専門科目	選択科目	ヒンディー語 B	「ヒンディー語A」に続いて現代標準形の初等文法の学習を継続し、日本語文法や英語文法との比較を行って学習者の理解の深化に努めつつ、標準的な教科書に記述された基礎文法の学習事項を網羅的に教授し、その後、学年末頃には受講生が文法的に平易な文献を読める力を身に付けるようにする。	
専門科目	選択科目	チベット語 A	本科目は、仏教研究のために必要不可欠な古典チベット語の基礎文法の習得を通じて、サンスクリット語からの翻訳仏教文献を読解するために必要な知識を身に付けることを目的とする。授業においては、最初にチベット文字と発音について概説し、その後名詞・代名詞の種類、助辞の用法、動詞の種類と変化など、古典チベット語文法の基本について解説する。授業は講義形式で行うが、毎回練習問題を課し文法事項の復習を行う。最終的には簡単なチベット文の和訳ができるようになることを目指す。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	チベット語B	仏教研究において古典チベット語文献の読解は、難解な論書等のサンスクリット原典読解のため、またサンスクリット原典が散逸しチベット語翻訳でしか現存していない多くの仏教文献をするために必要不可欠である。本科目はそのようなチベット語文献の読解力を身につけることを目的とする。授業は講義形式で行い、チベット語で書かれた仏教経典を取り上げ、和訳・解説を行う。その際文法事項の把握と正しい翻訳のみでなく、仏教経典の内容把握ができるよう背景となる仏教の基礎知識についても解説する。	
専門科目	選択科目	仏教漢文A	日本で用いられる訓読という方法によって仏教漢文の基礎的な読解力をつけることをねらいとし、最終的には受講者自らが思想の内容を考え理解するということを目標におく。一般漢文の語法理解はまずもって基本であるが、仏教漢文の場合、思想的な術語など予備的な知識や了解事項がある程度前提となり、その上で文の内容に従いながら訓読を行う必要がある。授業は主に演習形式によって行う。春学期は、漢文の訓読法を確認した後、まずは簡単なテキストを出席者に輪読で読んでもらい、教員が解説を行いながら理解を深めてゆく。	
専門科目	選択科目	仏教漢文B	日本で用いられる訓読という方法によって仏教漢文の基礎的な読解力をつけることをねらいとし、最終的には受講者自らが思想の内容を考え理解するということを目標におく。一般漢文の語法理解はまずもって基本であるが、仏教漢文の場合、思想的な術語など予備的な知識や了解事項がある程度前提となり、その上で文の内容に従いながら訓読を行う必要がある。授業は主に演習形式によって行う。秋学期は、春学期の勉強を基礎に、仏教に関わる様々なテキストを取りあげ、輪読で読んでゆく予定である。	
専門科目	選択科目	中国語ⅣA	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「聴」（聴き取り）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、聴き取りの力をつける基礎的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「閲」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国語ⅣB	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「聴」（聴き取り）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、聴き取りの力をつける発展的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「閲」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国語ⅤA	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「写」（作文）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、作文の力をつける基礎的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「閲」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国語ⅤB	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「写」（作文）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、作文の力をつける発展的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「閲」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国語ⅥA	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「閲」（読解）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、読解の力をつける基礎的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「閲」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国語ⅥB	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「閲」（読解）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、読解の力をつける発展的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「閲」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国語ⅦA	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「口語」（会話）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを目指す。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、会話の力をつける基礎的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「閲」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	隔年開講

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	中国語ⅦB	初級中国語を学修した者を対象に、中級レベルの専門中国語の訓練を行う。初級中国語で習得した基礎知識を土台として、「口語」（会話）力の体得を主目的とし、この方面の学力向上に特化した学習を行う。最終目標として、中国語の検定試験（HSK＝漢語水平考試）の中級（3・4級）のレベルにまで到達することを旨とする。そのため、本講義ではHSKの過去問題集をおおいに活用し、常に受講生に目標（中国語検定合格）を提示しながら、授業を展開することになる。本講義では、会話の力をつける発展的訓練を行う。本科目を「聴」（聴き取り）・「写」（作文）・「閲」（読解）・「口語」（会話）の4本柱の一つを形成するものとしてとして、位置づけている。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国語学演習A	初級中国語の学習を終えた者を対象に、基礎力に磨きをかけることを目的とし、さらに中国語の持つ豊かさを理論的、実践的に理解することも併せ目的として一段深いレベルで学習する。本講義は検定試験とは距離を置き、中級レベルの中国語を学びながら、理論面に重点をおいて学んでゆくところに特徴がある。外国語を覚えるときの一番の壁は、ある程度実力がついてからの方が困難が生ずるという認識の下で、中国語の学習を継続しやすいように、中国の笑い話やなぞなぞから時事問題を扱った文章まで、幅広い分野の生きた中国語を教材として学んでゆく。本講義では、短文を中心に中国の笑い話や時事中国語を扱うことになる。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国語学演習B	初級中国語の学習を終えた者を対象に、基礎力に磨きをかけることを目的とし、さらに中国語の持つ豊かさを理論的、実践的に理解することも併せ目的として一段深いレベルで学習する。本講義は検定試験とは距離を置き、中級レベルの中国語を学びながら、理論面に重点をおいて学んでゆくところに特徴がある。外国語を覚えるときの一番の壁は、ある程度実力がついてからの方が困難が生ずるという認識の下で、中国語の学習を継続しやすいように、中国の笑い話やなぞなぞから時事問題を扱った文章まで、幅広い分野の生きた中国語を教材として学んでゆく。本講義では、長文を中心に中国の故事や時事中国語を扱うことになる。	隔年開講
専門科目	選択科目	韓国語A	はじめて韓国語を学ぶ人を対象として韓国語の基礎を教授する。内容と到達目標は、(1)韓国語の特徴、とくに日本語との同異点を理解すること、(2)韓国語の文字（ハングル）の読み方、書き方を理解すること、(3)ハムニダ体の体言語尾を用いた文章の読解、作文ができるようになること、(4)日常でよく用いられる基本表現を暗記すること、である。また、異文化理解のために、様々な映像教材を用いた韓国文化の紹介も行なう。	
専門科目	選択科目	韓国語B	韓国語Aをうけて、より高度な文法事項を教授する。内容と到達目標は、(1)ハムニダ体の用言語尾を用いた文章の読解、作文ができるようになること、(2)ヘヨ体の体言語尾、用言語尾を用いた文章の読解、作文ができるようになること、(3)数詞（固有語数詞、漢字語数詞）を理解し、それぞれ1から10まで言えて書けるようになること、(4)基本的な語尾表現ができるようになること、(5)自己紹介ができるようになること、である。また、異文化理解のために、様々な映像教材を用いた韓国文化の紹介も行なう。	
専門科目	選択科目	インド思想特講ⅠA	長いインドの歴史時代の中で、古代史についてはじゅうぶんな知識を得ることが困難である。これは資料の絶対量が不足していることに加えて、それらが宗教的、哲学的内容を中心とすることによってである。その中で、「ダルマ文献」は理念的ではあるが社会の姿を描き出そうとしている。これを分析することで、社会変動の実態をとらえることが本講義の目的である。ダルマ文献史上のエポックとも言うべき『マヌ法典』を中心として、その前後の時代との差異を抽出して示す。	隔年開講
専門科目	選択科目	インド思想特講ⅠB	インド人は古代から心身に対する関心を抱き、それらを伝統的行法ヨーガと伝承医学アーユルヴェーダの教説としてまとめていった。それらはインドに西洋文明の波が押し寄せても消滅するどころか、現代にいたってますます重視されるようになっていく。本講では、ヨーガの歴史、身体観、行法体系、心識論、およびアーユルヴェーダの歴史、身体観について、それらの教義を原典にもとづいて平易に解説する。また、伝統的行法や伝承医学が現代に生きる人々にどのように寄与するかを理解することを受講生の到達目標とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	インド思想特講ⅡA	本講義では、南アジア（インド世界）の宗教文化の成立と発展を歴史的に考察する。前期は、インダス文明の都市文化からはじめ、ヴェーダ時代のバラモン教の展開とそれに対抗する形で出現した仏教やジャイナ教の歴史的立場づけについて検討する。次いでマウリヤ朝期からクシャーナ朝期へと至る仏教文化の繁栄、グプタ朝時代に繁栄の極を迎えたサンスクリット古典文化の諸相をたどる。受講者が、各宗教文化の地域的展開に注目しながら、その社会的・経済的背景についての理解を深めることを目標とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	インド思想特講ⅡB	前期に続いてグプタ朝期以降の宗教文化の展開について検討する。まず、グプタ朝期を境として支配的な宗教が仏教からヒンドゥー教へと推移していく過程を考察する。13世紀へと至るこの時期に南部、東部、西部のインドで地域的独自性を持ったヒンドゥー教の文化が隆盛となった事情を検証する。さらに13世紀以降イスラーム教徒の政治的支配の拡大によって生まれた、イスラーム文化の伝播とその土着文化との融合の諸相について考察する。全体として、受講者が多様性を持つ南アジアの文化の歴史的特質を理解することを目的とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教思想特講ⅠA	インド仏教の根幹を貫くさとりの智慧（般若）に焦点を当て、その思想的特徴や、中道という立場からの実践的意義などを考察する。さらに、さとりの智慧（般若）が対象とする世界を「空」と喝破する大乘仏教思想のエッセンスを解説し、仏教の基盤となった空性の考え方の理解を促す。受講者には関連文献を読み、レポートを発表してもらい、それらを通じて日常の生き方の中で空の思想がどのように適用できるのかを考えてもらい、仏教思想の柔軟な理解の形成を到達目標とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教思想特講ⅠB	インドで生まれた密教がどのように展開し、チベット・中国・日本に伝えられていったのかを講義形式で説明する。特に空海が日本にもたらした真言密教の教義は、山岳宗教や民間信仰など、日本文化に多大な影響を及ぼしている。そこで前半では、密教の出現の意味、その後の密教思想の変化、『大日経』『金剛頂経』出現の意義、後期密教の思想等、インド密教について概略を説明した後、後半では空海の『即身成仏義』をテキストに密教の成仏論を理解し、また、その思想が日本文化に与えた影響について考えてゆきたい。	隔年開講
専門科目	選択科目	仏教思想特講ⅡA	禅宗は、あらゆる仏教のなかでも最も独創的なものの一つといえよう。それは、仏教思想と中国思想を総合して、全く新たな思想と修行法を生みだし、中国や日本の文化史に極めて大きな影響を残した。それのみでなく、その思想は今日においても色あせることなく、現実立ち向かううえで重要な示唆を与えてくれる。本講義では、このような特徴を持つ禅の思想や歴史等について総合的な知識を得させるために、1. 禅の現在、2. 禅の思想、禅の歴史という順序に沿って講義形式で授業を行う。	隔年開講

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	仏教思想特講Ⅱ B	本講義では、ブッダの「さとり」体験に始まる仏教の流れの中で、在家を中心とする仏教として成立した浄土教仏教を体系的に論じ、現在の浄土真宗への流れを明確化することを目的とする。浄土教は在家を中心とする仏教の中で展開したが、歴史の中で仏教の傍流・亜流として誤解されることもあり、社会に対する訴求力を失ってきた。本講は、現代の人間にも興味を持って受け入れられ、さらに大乘仏教の原点、そして親鸞の根本意趣に立ち返って、これからの世界、人類の諸問題に対応しうるような浄土教理解を示したい。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国哲学特講Ⅰ A	「命を食べる」をメイン・テーマとして、「動物を殺して食べる」ことについて、中国人を含む人類が、この問題にどのように向き合ってきたのかを、儒教・仏教・キリスト教そして現代人の立場を見ていながら、「人間とは何か?」、さらには自然や動物を含めた他者と向き合う人間の倫理、「共生」の倫理について考えてゆく。その中で中国古代・近世の思想家たちの人間観・世界観を批判的に検討してゆく。さらに性善説の現代的意義を吟味・理解し、「不忍人之心」を涵養する。本講義では、食を巡る講義とグループ討論を中心にして授業を行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国哲学特講Ⅰ B	「命を食べる」をメイン・テーマとして、「動物を殺して食べる」ことについて、中国人を含む人類が、この問題にどのように向き合ってきたのかを、儒教・仏教・キリスト教そして現代人の立場を見ていながら、「人間とは何か?」、さらには自然や動物を含めた他者と向き合う人間の倫理、「共生」の倫理について考えてゆく。その中で中国古代・近世の思想家たちの人間観・世界観を批判的に検討してゆく。さらに性善説の現代的意義を吟味・理解し、「不忍人之心」を涵養する。本講義では、生命を巡る講義とグループ討論を中心にして授業を行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国文学特講Ⅰ A	中国（大陸）の歴史や文学だけでなく、台湾の歴史や文学にも知識を持ち関心を深めることで、中国やアジアを見る視野を広げておきたい。本講義では台湾を対象として、台湾文学が内包する複雑さの背景を理解することを目的とする。そこで台湾を理解する前提として、台湾についての基礎知識（地理・歴史・歴史・言語等）を学び、そのうえで各時代で台湾文学がどのような変遷を経てきたのかを概観する。各時代の人々の生活や思考・感情を反映する文学作品のもつ複雑さの由来を、具体的に作品検討などを通して考察してゆく。本講義では、台湾の基礎知識をえるところに重点を置いた授業を行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国文学特講Ⅰ B	中国（大陸）の歴史や文学だけでなく、台湾の歴史や文学にも知識を持ち関心を深めることで、中国やアジアを見る視野を広げておきたい。本講義では台湾を対象として、台湾文学が内包する複雑さの背景を理解することを目的とする。そこで台湾を理解する前提として、台湾についての基礎知識（地理・歴史・歴史・言語等）を学び、そのうえで各時代で台湾文学がどのような変遷を経てきたのかを概観する。各時代の人々の生活や思考・感情を反映する文学作品のもつ複雑さの由来を、具体的に作品検討などを通して考察してゆく。本講義では、台湾の基礎知識を得たうえで、具体的に文学作品を読み分析を加えていく。	隔年開講
専門科目	選択科目	東洋芸術文化特講Ⅰ A	インドの建築論とは、ヒンドゥーだけではなく、ジャイナや仏教も含む言い方である。建築論はヒンドゥーの学問分類において、実利論に含まれる。世俗的には、王侯のための理論として、王宮や都市の造成から国土計画まで述べられる。また、宗教的には、建築儀礼から寺院建立までの一統に述べられる。インド以外の地域で、インドの建築論をもとに建てられたものにアンコールワットなどがあり、その影響は密教を通じて日本まで及んでいる。原典をもとに、インドの建築論の構成から建造物の各要素までを学習する。	隔年開講
専門科目	選択科目	東洋芸術文化特講Ⅰ B	映画を観賞するときには、ただ単にその作品自体の内容や表現の巧みさ・豊かさを楽しむだけではなく、その作品の作られた国や地域の歴史的・文化的背景を理解することによって、その映画をさらに深く味わうことができる。この授業では、東アジア（韓国や中国語圏）、東南アジア（マレーシアなど）、南アジア（インド）など、アジア各地の映画作品を紹介しながら、アジア映画とひとくくりにして考えることのできない多様性や、地域を越えたネットワークの広がりについて考察してみたい。	隔年開講
専門科目	選択科目	東洋芸術文化特講Ⅱ A	ヒンドゥー寺院音楽や地域の芸能音楽と密接な関係を保ち、中世においてはイスラーム神秘主義等の影響のもと宮廷音楽として発展をとげた北インド古典音楽は、ビートルズなどの西洋音楽にも影響を与えたことで知られる。本授業では、南アジア（特に北インド）における古典音楽と芸能文化について、音楽家の世界観や音楽家を取り巻く社会関係・文化環境の変化も視野に入れつつ、宗教社会的視点、民族音楽的視点、文化人類学的視点から多角的に検討を行う予定である。授業は主に講義形式で行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	東洋芸術文化特講Ⅱ B	本授業は講義形式で行い、バリの芸能について学ぶ。具体的には、ケチャやバロン劇、ワヤン・クリッなどの演劇・芝居、レゴンやトベン、パリスといった舞踊、ガムランに代表される器楽演奏などを扱う。こうした芸能は、バリの宗教や儀礼など、日常生活世界と密接にかかわっている一方、観光化や近代化の過程で新たに創造されてきたものでもある。本授業では、バリの芸能がもつ宗教性と日常性を理解するとともに、「伝統」が創造されてきた／いくプロセスを捉え、同時代における「文化」の動態を理解する視点を養うことを目的とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	東西交渉文化史 A	内陸アジアは、東西の文明の交錯の場であり、また遊牧民とオアシス都市定住民の生活の場でもあった複雑な地域である。本授業では、このような内陸アジアにおける人々の営みについて、歴史及び文化の面から解説する。本授業は講義形式を取り、内陸アジアの諸地域が清朝とロシア帝国の支配下に入るまでの歴史を、現地住民の活動と東西交渉という2つの要素から解説する。受講者が内陸アジアに関する基礎知識を身につけ、内陸アジアの重要性を理解することが、本授業の目標である。	隔年開講
専門科目	選択科目	東西交渉文化史 B	「民族の世紀」と呼ばれる20世紀、清朝とロシア帝国の支配を受ける内陸アジアでも、各民族が自立性を模索し始めた。一方、周辺の大国は、国際情勢を考慮しつつ、この地域における影響力の確保を試みた。本授業では、激動の近現代内陸アジアについて解説する。本授業は講義形式を取り、内陸アジア各民族の運動と国際関係に焦点を当て、20世紀の内陸アジアの実態について説明する。文化的変容から国際政治まで、幅広い内容を含む。受講者が今日の国際情勢における内陸アジアの重要性を理解することが、本講義の目標である。	隔年開講
専門科目	選択科目	インド文化概論 A	本科目は、歌謡、絵解き、人形操りなどインドにおける芸能の多様性を理解するとともに、芸能を通して見えてくる人々の生活世界や文化を理解することを目的とする。インド芸能は、インドの各地方の持つ様々な宗教的・儀礼的実践の形を反映させ、極めて多様な形態をとって今日まで連綿と受け継がれてきた。授業は講義形式で行い、正統的とされてきた古典的伝統と、そこから影響を受けながら大衆的なものとして成立していった民俗的伝統のダイナミックな関係性に注目し、芸能とそれを担う人々の社会・文化的な側面について解説する。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	インド文化概論 B	本科目は文学作品を通してインド文化を考察することを目的とする。インドには様々な言語、宗教、文化があり、多様なアプローチが可能であるが、講義では、ヴェーダ、叙事詩など毎回1つのテーマを設定して代表的作品を紹介するとともに、そこにインドのどのような文化が反映されているか等について解説する。従来インド文学は、サンスクリット語作品を中心として、ヒンドゥー教の視点から取り上げられることが多いが、インド独立やカースト制度など異なった視点からの考察も行う。	
専門科目	選択科目	インド・仏教の美術 A	インドで生まれた仏教美術、特に仏像をみる場合、礼拝の対象とするときはいうまでもなく、美術作品としてみる場合においても、その典拠となっている経典や儀軌、説話や信仰を知ることは重要である。すなわち、宗教美術である仏像は、単なる美的鑑賞の対象ではなく、その中には一定の思想や信仰なり教義なりの表現が含まれている。本授業は、仏教美術に含まれている思想や信仰および、作品に表されている造形表現とその意味について、その成立および地域的・歴史的にどのような変化を呈したのかを考察する。	
専門科目	選択科目	インド・仏教の美術 B	インドで生まれた仏教美術、特に仏像は、飛鳥時代に日本に受容され、各時代の名匠がそれぞれに命を打ち込んで造作した優れた仏像が日本各地に多く残されている。その際に、信仰や教義、造形的な伝統のみならず、各地における自然環境や気候、土着信仰、文化などによっても、仏像はその姿や性格を変えていく。本授業においては、インドや東南アジア、中国、韓国の作品も比較しながら、日本に流布された主な仏像の図像を尊像別に確認する。	
専門科目	選択科目	インド思想史 A	現象世界を生みだし、またその秩序だった運行を維持するものは何か。この問いに対して古代インドの哲人たちは、最高神あるいは根本原理についての様々な思索をめぐらせた。それらに通底するのは、マクロコスモスたる大自然とミクロコスモスたる人間の照応である。それは、万有に遍在する原理ブラフマン（梵）と万有に内在する原理アートマン（我）は同一であるとする梵我一如の思想にも多大な影響を与えた。本講では、それらの思想を説くヴェーダ聖典やウパニシャッド聖典を中心に、インド思想の形成時代の思潮を概説する。	
専門科目	選択科目	インド思想史 B	本講では、ヴェーダ、ウパニシャッド時代以降のインド思想の発展を解説する。西暦紀元前後から次第に形を整えていったサーンキヤ学派、ヨーガ学派、ニヤーヤ学派、ヴァイシェシカ学派、ミーマンサー学派、ヴェーダーンタ学派のいわゆる六派哲学、および文法学派について、それぞれの根本教典をもとに、目的、思想基盤、方法論などの特徴を概説する。学派間の共通点と相違点の検証を通じて、受講生が哲学的なアプローチの諸相を理解し、各自が様々な問題点を解決するための方法を習得することを到達目標とする。	
専門科目	選択科目	インド古典思想概論 A	3000年を超えるインド文化史の中から「インド古典哲学」すなわち、古代中世に展開した正統バラモン系統の哲学説を概説する。ヴェーダ、ウパニシャッドに哲学思想の源泉を見だし、その後の学派的体系へと至る。諸学派の所依のテキストから、原文および邦訳を抜粋して、それを解説しながら哲学的な特徴を明らかにし、それぞれに共通する構造のあることを示す。また、その発展、変容形態としての中世・近代思想にも言及する。	
専門科目	選択科目	インド古典思想概論 B	「インド古典哲学I」の知識を前提としつつ、インド人の扱った問題を哲学的な視点からとらえなおす。存在論、認識論、言語論、形而上学などの課題別にインド哲学の古典から素材を取り出し、西洋哲学との比較を視野に入れながら扱うことにする。その際に注意すべきこととしては、サンスクリットの術語を、できるだけ平易な日本語に置き換えることである。伝統的な訳語や漢文仏典の用語を用いたのでは誤解を生む可能性があるからである。	
専門科目	選択科目	ヒンドゥー教概論 A	現代インドの総人口11億余りのうち約81%の人々が信奉するヒンドゥー教は、近代以後のインド人の移民・海外進出に伴って、「インド世界」の枠を超えて今や世界宗教となっているといえる。現代ヒンドゥー教の基礎は中世に築かれたもので、その内実はさまざまな宗派や伝統があり、一概にヒンドゥー教とは何かと記述することは困難である。そこで本講義では、インド思想を単元的・通時的に扱う授業では扱いにくい側面に焦点を当てて、現代まで影響のある顕著な諸宗派や諸伝統の教説を概観する。はじめに比較宗教学的な視点でヒンドゥー教の地理的・歴史的・宗教的な一般的特徴を概観する。	
専門科目	選択科目	ヒンドゥー教概論 B	「ヒンドゥー教概論A」の授業内容を継承して、現代まで影響のある顕著な諸宗派や諸伝統の歴史的形成過程、それに伴う教説の特徴と変遷、その宗教文化などを中心に講義する。これによってシヴァ信仰・ヴィシュヌ信仰・女神信仰という大きな伝統の内実を受講生がかなりな程度専門的に理解でき、さらに大きな伝統と関連する地域的なあるいは時代的な小さい伝統や宗派について知識を増やすことができるものと思われる。	
専門科目	選択科目	インド仏教史 A	講義形式。インドにおける仏教の成立と大乘仏教の成立以前までの思想的発展の概略をおさえ、特に重要な事項について諸学説の差異とその根拠を知り、今までに組み立てられた思想史観が確定したものではないことを理解することを目標とする。まず資料論として初期仏教聖典の組織を紹介した後に、釈尊の登場する社会的・思想的背景を見て、釈尊の伝記、教団（サンガ）の組織、結集、部派分裂と進み、最後に部派仏教の様相について概説する。	
専門科目	選択科目	インド仏教史 B	講義形式。インドにおける大乘仏教興起からそれ以後のインドにおける仏教の思想的展開を理解することを目標とする。大乘仏教成立の下地となったとされる仏伝文学（アシュヴァゴーシャなど）やガンダーラ美術（仏像制作の開始の問題）の概説に始まり、大乘仏教の起源に関する諸学説の紹介と批判、般若経典群、法華経、浄土経典などの諸初期大乘経典、龍樹、中期大乘経典（如来蔵と仏性）、唯識（無着、世親）、中観派と瑜伽行派、仏教論理学、密教と進め、インドにおける仏教の滅亡で終わる。	
専門科目	選択科目	仏教思想概論 A	仏教はインドに生まれ、中央アジア・チベット・中国・朝鮮半島・日本に伝わって、その間さまざまな思想を形づくりながら、各地の文化にとけ込んで今日に至った。本講義はこれら仏教の教えの土台となったブッダのものの見方、考え方を追及しながら、ブッダの生涯とその教えの核心、さらにはブッダ当時の修行者の生活などを講義する。さらには、ブッダ以降の仏教の展開から現代仏教に至るまで、そこに貫かれる仏教の骨格について概説する。これによって、仏教についての基本的な知識を備え、偏りのない仏教思想・仏教観を持つことができる。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	仏教思想概論 B	本講義は仏教思想の骨格となったブッダの教えを追及する。そして、各地域に広がった仏教の展開を概説し、その地域独自で発達した仏教思想を解説する。講義の中心となるテーマは、仏教思想の核心である四諦説、無我説、縁起説を解説し、その基盤の上に展開した大乘仏教の概説、さらにはその大乘仏教思想の中心的な思想、すなわち菩薩思想、空の思想、如来蔵思想、密教の思想などを歴史的展開に沿って解説する。このように仏教についての基本的な知識を学び、偏りのない仏教思想・仏教観を持てるようになることが到達目標となる。	
専門科目	選択科目	中国仏教史 A	中国仏教の歴史は、インドの哲学的思惟を受けつつも、それを中国の風土や思想に根差すものに組み替えようとした中国人の絶えざる努力の軌跡であったといえる。仏教がいかなる時代背景の中で伝来し、また、中国の政治的・社会的変化の中で、独自の性格と意義を持つ中国仏教がいかにして形成され、また、歴史の中でいかに変化していったかを概観する。春学期では、初伝期から南北朝までを扱い、いかに仏教が受け入れられていったかを中心に講義形式で授業を行う。	
専門科目	選択科目	中国仏教史 B	中国仏教の歴史は、インドの哲学的思惟を受けつつも、それを中国の風土や思想に根差すものに組み替えようとした中国人の絶えざる努力の軌跡であったといえる。仏教がいかなる時代背景の中で伝来し、また、中国の政治的・社会的変化の中で、独自の性格と意義を持つ中国仏教がいかにして形成され、また、歴史の中でいかに変化していったかを概観する。秋学期では、隋唐から現代までを扱い、いかに中国独自の仏教が形成され、また、中国社会に同化していったかを中心に講義形式で授業を行う。	
専門科目	選択科目	日本仏教史 A	インド発祥の仏教は、中国に伝播して変化し、さらに朝鮮半島や日本に伝えられて独自の形で開花した。日本仏教史は仏教全体としてみれば周辺領域であるが、日本において、その歴史と文化を形成した原動力のひとつが仏教であり、私たち日本人にとってきわめて重要な価値をもつ。外来思想であった仏教が日本においてどのようにとりあげられ、理解され、実践されたか、また他思想・他宗教との交渉や社会との関連性などの問題も広く視野に入れながら考えていきたい。本講義は、その前半として、仏教の伝来期から平安時代までをとりあげる。	
専門科目	選択科目	日本仏教史 B	インド発祥の仏教は、中国に伝播して変化し、さらに朝鮮半島や日本に伝えられて独自の形で開花した。日本仏教史は仏教全体としてみれば周辺領域であるが、日本において、その歴史と文化を形成した原動力のひとつが仏教であり、私たち日本人にとってきわめて重要な価値をもつ。外来思想であった仏教が日本においてどのようにとりあげられ、理解され、実践されたか、また他思想・他宗教との交渉や社会との関連性などの問題も広く視野に入れながら考えていきたい。本講義は、その後半として、鎌倉時代から明治時代までをとりあげる。	
専門科目	選択科目	東南アジア仏教史	本科目は東南アジア仏教の基本的な流れを理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。授業においてはまず上座部仏教の根拠地とされるスリランカの仏教史を理解した上で、聖典語であるパーリ語で伝承されたタイの史書『ジナカーラマリー』（16世紀作）について解説をおこなう。12世紀にスリランカでマハーヴィハーラ派の受戒のみが承認されるようになった後に、このマハーヴィハーラ派の仏教が、東南アジア各国にどのように流布され、国教化されたのかを、ミャンマー、カンボジア、ラオス等の歴史に配慮しながら検討する。	隔年開講
専門科目	選択科目	チベット仏教史	本科目は、インド仏教の伝統を継承するチベット仏教の思想・文化の流れと特色を理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。授業においては、古代から近現代までのチベットにおける仏教受容の歴史と思想について、周辺地域との関わりを含んで概観する。その際チベットがインド仏教思想のどの部分に重点をおいて受容したか、またチベットにおける仏教の変容について、チベット社会との関わりを含んで解説する。また宗教行為や仏教思想を背景とした儀礼、美術などの文化についても概観する。	隔年開講
専門科目	選択科目	韓国仏教史	韓国の仏教は、紀元4世紀に伝来してから現在に至るまで、約1600年にわたる伝統を持ち、現在でも宗教人口の半数を占める、韓国人にとって重要な宗教です。本講義では、韓国の仏教の流れを、(1)三国時代、(2)新羅時代、(3)高麗時代、(4)朝鮮時代、(5)植民地時代、(6)解放後から現代まで、の順で解説します。なお、韓国の仏教を理解するためには、中国仏教の知識が必須であり、また韓国仏教は日本仏教との関係も深いので、これら両国の仏教との関係もあわせて講義します。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国学概論 A	「学ぶ」「戦争」「死刑」「法律と道徳」「家族」「豊かさ」「人間とは?」といった人類の普遍的な課題に関して、中国古代の思想家たちがどのように考え、取り組んできたかを、資料に即して読み解いていながら、同時に、我々が現代において直面している問題にどのように向き合っていけばよいのか、その解決の糸口が中国古代の哲学的資源の中に隠されていないか、を模索する。たんなる知識の伝達の場としてではなく、現代的な課題に対して、中国学はどのように向き合い、答えを出して行くことが可能なのかといった中国学の「可能性」について、考察・吟味・検討してゆく場とする。本講義では、戦争・死刑等の問題を中心に取り上げる。	
専門科目	選択科目	中国学概論 B	「学ぶ」「戦争」「死刑」「法律と道徳」「家族」「豊かさ」「人間とは?」といった人類の普遍的な課題に関して、中国古代の思想家たちがどのように考え、取り組んできたかを、資料に即して読み解いていながら、同時に、我々が現代において直面している問題にどのように向き合っていけばよいのか、その解決の糸口が中国古代の哲学的資源の中に隠されていないか、を模索する。たんなる知識の伝達の場としてではなく、現代的な課題に対して、中国学はどのように向き合い、答えを出して行くことが可能なのかといった中国学の「可能性」について、考察・吟味・検討してゆく場とする。本講義では、豊かさ、幸福感等の問題を中心に取り上げる。	
専門科目	選択科目	中国史概論 A	4千年におよぶ中国の歴史を、先秦時代から清朝末期にまでかけて概説する。伝統中国の図書分類では、歴史書は「経史子集」の「史」としては極めて重要視されてきた。もちろん現在においても、中国哲学・中国文学を学ぶ場合に、中国史は基礎的知識として欠かせない。「文史哲」と括られて、中国文学・中国史・中国哲学と三位一体のものとして位置づけられてもいる。各講義で必要に応じて該当時期の歴史を講じることはあっても、それらは断代史的なものにならざるを得ず、通史の必要性は常に意識されてきた。本講義は、中国史を通史として講ずるものである。本講義では、古代から唐代までを取り上げる。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国史概論 B	4千年におよぶ中国の歴史を、先秦時代から清朝末期にまでかけて概説する。伝統中国の図書分類では、歴史書は「経史子集」の「史」としては極めて重要視されてきた。もちろん現在においても、中国哲学・中国文学を学ぶ場合に、中国史は基礎的知識として欠かせない。「文史哲」と括られて、中国文学・中国史・中国哲学と三位一体のものとして位置づけられてもいる。各講義で必要に応じて該当時期の歴史を講じることはあっても、それらは断代史的なものにならざるを得ず、通史の必要性は常に意識されてきた。本講義は、中国史を通史として講ずるものである。本講義では、宋代から清代までを取り上げる。	隔年開講

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	中国文献学A	中国悠久の歴史の中に存在する数多くの古典文献を対象として、「研究・整理」してゆく過程で形成された「中国文献学」という分野に目を向け、その内容を解説してゆく。それによって中国古典文献を取り扱う上で必要とされる基礎知識を身につける。具体的には工具書についての解説を行った後、中国文献の歴史を講述し、各時代における中国文献目録について、さらに「四庫全書」についての解説を行い、叢書や類書について話を進めてゆく。本講義では、工具書の説明と、中国の文献の歴史解説を中心に行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国文献学B	中国悠久の歴史の中に存在する数多くの古典文献を対象として、「研究・整理」してゆく過程で形成された「中国文献学」という分野に目を向け、その内容を解説してゆく。それによって中国古典文献を取り扱う上で必要とされる基礎知識を身につける。具体的には工具書についての解説を行った後、中国文献の歴史を講述し、各時代における中国文献目録について、さらに「四庫全書」についての解説を行い、叢書や類書について話を進めてゆく。本講義では、中国の文献目録についての解説と、叢書や類書についての説明を中心に行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国文字学A	本講義は、「字」そのものについての知識を深めることを目的とする。中国学を学ぶ以上、漢語で書かれた資料を扱うのは避けて通れないし、そもそも日本人は漢字を基盤とした文化圏のなかに生活しているという現実がある。その漢字についての知識を深く持つことで、現在我々が日常接している文字への認識を深めることができるし、ひいては研究を行う上で資料操作等を容易にすることができるようになる。そこで本講義では、まず漢字の歴史についての知識や漢字の成り立ちについての知識を伝え、そのうえで漢字を研究する文字学の分野へと深化させてゆく。本講義では、甲骨文字から文字の統一までを中心に説明を行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国文字学B	本講義は、「字」そのものについての知識を深めることを目的とする。中国学を学ぶ以上、漢語で書かれた資料を扱うのは避けて通れないし、そもそも日本人は漢字を基盤とした文化圏のなかに生活しているという現実がある。その漢字についての知識を深く持つことで、現在我々が日常接している文字への認識を深めることができるし、ひいては研究を行う上で資料操作等を容易にすることができるようになる。そこで本講義では、まず漢字の歴史についての知識や漢字の成り立ちについての知識を伝え、そのうえで漢字を研究する文字学の分野へと深化させてゆく。本講義では、『説文解字』と説文学の解説を中心に行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国文化史A	21世紀、「革命中国」は「伝統中国」に回帰し、新しい「華夷秩序」への模索が始まろうとしている。中国が回帰しようとしている伝統的な中華の世界とは何か。伝統中国の再登場は、世界秩序にどのような影響を与えるのか。日本の将来にどのような影響を与えるのか。このような問題意識のもと、「民主」「自由」「自立」「統一」「日中関係」について、伝統中国がはらむ問題点を考察し、近現代中国をどのような視点で理解する必要があるのかを考察する。本講義では、孫文の三民主義の概念を中心に解説を行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国文化史B	21世紀、「革命中国」は「伝統中国」に回帰し、新しい「華夷秩序」への模索が始まろうとしている。中国が回帰しようとしている伝統的な中華の世界とは何か。伝統中国の再登場は、世界秩序にどのような影響を与えるのか。日本の将来にどのような影響を与えるのか。このような問題意識のもと、「民主」「自由」「自立」「統一」「日中関係」について、伝統中国がはらむ問題点を考察し、近現代中国をどのような視点で理解する必要があるのかを考察する。本講義では、伝統意識と「統一」、および日中関係などを中心に説明を行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国の美術A	仏教はインドで成立し、中央アジアを経て、中国へと伝わったが、その伝播の過程において仏像は重要な役割を果たした。見たことのない異教の世界観を具体的に理解することのできる仏像やそれにまつわる荘厳は、元来その土地に根差した様々な思想や文化と混交し、独自の発展を遂げていった。本科目は、このような異文化としての仏教美術の中国における成立と発展について理解することを目的とする。授業は講義形式で行い、主に南北朝時代から初唐時代ごろの中国における比較的早期の仏教美術史を概観したい。	
専門科目	選択科目	中国の美術B	中国において道教は固有の宗教として、また儒教・仏教と並ぶ三大宗教として親しまれるが、日本ではあまり知られていない。古代の神仙思想などをベースに、宗教教団として、また民間宗教として現在まで信仰されてきた道教の文化について、その発展の歴史と、特に仏教との関係、日本にもたらされた影響などを、美術を通じて理解することを目的とする。なお授業は講義形式で行う。授業においては映像資料を用いて道教美術と仏教美術の比較・検討を行い、個々の美術が持つ特色と、相互の影響関係等を考察する。	
専門科目	選択科目	中国哲学史A	中国の哲学者は政治哲学、自然哲学、死生観、歴史哲学など、思索をこらした関心範囲はさまざまである。その大要を紹介するとともに、日本に生きる我々にとって中国哲学を学ぶことの意義とは何かという問題関心を大事にしながら講義を行う。講義内容に即して、その都度それが日本においてどのように受容されたのかを、特徴的な話をまじえて講述する。たんに知識として覚えるのではなくして、提示された思考類型を参考にして自前で考える訓練も行う。本講義では、諸子百家から儒仏道の諸相までを解説する。	
専門科目	選択科目	中国哲学史B	中国の哲学者は政治哲学、自然哲学、死生観、歴史哲学など、思索をこらした関心範囲はさまざまである。その大要を紹介するとともに、日本に生きる我々にとって中国哲学を学ぶことの意義とは何かという問題関心を大事にしながら講義を行う。講義内容に即して、その都度それが日本においてどのように受容されたのかを、特徴的な話をまじえて講述する。たんに知識として覚えるのではなくして、提示された思考類型を参考にして自前で考える訓練も行う。本講義では、新儒教の躍進から近代初期の哲学の諸相までを扱う。	
専門科目	選択科目	中国文学史A	中国文学の発展の様相を、通史的に講義する。先秦から清末に至るまで、各時代における文学事象・文学者（詩人・作家）・作品等の基礎的知識を伝授するとともに、各時代ごとの特徴に踏み入り、それらの特徴が生じた背景や要因を考察する。また各時代の代表的な作品にも具体的に接しながら、時代状況のなかに作品を置いて分析する訓練も、併せ行なってゆく。本講義のねらいは、中国文学の発展の諸相について基礎的知識を得ることによって、中国文学が携えている独特の価値観や特徴を把握するところにある。本講義では、『詩経』から唐代文学までを扱う。	
専門科目	選択科目	中国文学史B	中国文学の発展の様相を、通史的に講義する。先秦から清末に至るまで、各時代における文学事象・文学者（詩人・作家）・作品等の基礎的知識を伝授するとともに、各時代ごとの特徴に踏み入り、それらの特徴が生じた背景や要因を考察する。また各時代の代表的な作品にも具体的に接しながら、時代状況のなかに作品を置いて分析する訓練も、併せ行なってゆく。本講義のねらいは、中国文学の発展の諸相について基礎的知識を得ることによって、中国文学が携えている独特の価値観や特徴を把握するところにある。本講義では、宋代の文学から清代の文学までを扱う。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	中国現代文学史 A	中国の近現代文学の発展の諸相を、通史的に講義する。清末から新時期文学の時期を取り上げるので、おもに20世紀の中国文学を概観することになる。各期における文学事象・作家・作品等について基礎的知識を伝授するとともに、各時期の文学が見せる特徴を指摘するとともに、それらの特徴が生じた背景や要因を考察する。また近現代文学を代表する作品を読み、討論形式でテーマ分析等を行うことで、理解を深めてゆくことにする。本講義は清朝末期から30年代の文学までを、講義の対象とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国現代文学史 B	中国の近現代文学の発展の諸相を、通史的に講義する。清末から新時期文学の時期を取り上げるので、おもに20世紀の中国文学を概観することになる。各期における文学事象・作家・作品等について基礎的知識を伝授するとともに、各時期の文学が見せる特徴を指摘するとともに、それらの特徴が生じた背景や要因を考察する。また近現代文学を代表する作品を読み、討論形式でテーマ分析等を行うことで、理解を深めてゆくことにする。本講義は40年代から文革終結後の新時期文学までを、講義の対象とする。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国哲学講読 A	異文化理解の基本は、言語の修得にある。とくに中国の研究には漢語文献の読解力が不可欠である。本講義では、日本の伝統的な漢語文献の読解法である訓読法によって、古典文献を理解する力を涵養することを目的とする。訓読法の基礎的知識を再確認するところからはじめ、最終的には白文を読む訓練の段階まで到達する。哲学文献を対象として、読む力をつけることを主目的にしながら、併せて中国古典研究の基礎知識をも講義する。本講義では、『論語』の基礎知識と読み方の基礎を伝授する。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国哲学講読 B	異文化理解の基本は、言語の修得にある。とくに中国の研究には漢語文献の読解力が不可欠である。本講義では、日本の伝統的な漢語文献の読解法である訓読法によって、古典文献を理解する力を涵養することを目的とする。訓読法の基礎的知識を再確認するところからはじめ、最終的には白文を読む訓練の段階まで到達する。哲学文献を対象として、読む力をつけることを主目的にしながら、併せて中国古典研究の基礎知識をも講義する。本講義では、テキストに沿って、漢文読解の訓練を行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国文学講読 A	中国文学の文献を対象として、原典を正確に読み、文章内容を正しく理解する訓練を行う。本講義は、初級段階の演習を終えてきた者を対象とするが、基礎的知識の復習からはじめ、徐々に高度な読解力を要する文章まで読み進め、読む力を涵養してゆく。中国の文献は、読んだ量に比例して読解力がついてゆくの、ひたすら読む訓練を繰り返してゆく。読む訓練のなかには、予習に際して工具書をいかに効率よく利用しているか、類書をはじめさまざまな文献をいかに調査してくるのかということも含まれる。本講義では、工具書の効果的な使い方や、漢文読解の基礎を伝授する。	隔年開講
専門科目	選択科目	中国文学講読 B	中国文学の文献を対象として、原典を正確に読み、文章内容を正しく理解する訓練を行う。本講義は、初級段階の演習を終えてきた者を対象とするが、基礎的知識の復習からはじめ、徐々に高度な読解力を要する文章まで読み進め、読む力を涵養してゆく。中国の文献は、読んだ量に比例して読解力がついてゆくの、ひたすら読む訓練を繰り返してゆく。読む訓練のなかには、予習に際して工具書をいかに効率よく利用しているか、類書をはじめさまざまな文献をいかに調査してくるのかということも含まれる。本講義では、テキストに沿って、漢文読解の訓練を行う。	隔年開講
専門科目	選択科目	日本漢学 A	日本が歴史時代に入ったのは、漢民族が古典古代の文化を完成させた時期である。日本の精神文化は最初から漢字文化圏の中で形成された。日本文化史は漢文学として出発したのである。だから日本漢学は日本学理解の主座を占めることになる。いきおい日本漢学という講義は、漢民族の学問・文学が日本においていかに受容されて、その理解を基礎にして、いかに独自の文学思想を樹立したのかを考える。外来文学である漢文学が日本の中で自文化創造の豊かな滋養になったこと、西欧・キリスト教文化を受容するときにそれが大きな役割を果たしたこと、その際に漢文学が自己革新を模索したことなどを講義する。本講義では、漢字文化圏における日本文化の出発から、江戸時代の漢学文化の諸相までを取り上げる。	隔年開講
専門科目	選択科目	日本漢学 B	日本が歴史時代に入ったのは、漢民族が古典古代の文化を完成させた時期である。日本の精神文化は最初から漢字文化圏の中で形成された。日本文化史は漢文学として出発したのである。だから日本漢学は日本学理解の主座を占めることになる。いきおい日本漢学という講義は、漢民族の学問・文学が日本においていかに受容されて、その理解を基礎にして、いかに独自の文学思想を樹立したのかを考える。外来文学である漢文学が日本の中で自文化創造の豊かな滋養になったこと、西欧・キリスト教文化を受容するときにそれが大きな役割を果たしたこと、その際に漢文学が自己革新を模索したことなどを講義する。本講義では、漢文の発展を追いかけつつ、近代文学における影響力に至るまでを解説する。	隔年開講
専門科目	選択科目	日本の美術 A	本科目は毎時間、絵画、工芸、染織（衣装）など、様々な日本の造形文化史上の名品を鑑賞し、幅広い知識を得ると同時に「暮らしの中の美術文化史」という視点から、日本美術の本質を理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。授業では原始から近世までの日本の造形文化とその美意識について学ぶ。例えば王朝絵巻などに見られる物語と絵画の関わりや現代のアニメーションなどとの関連性について解説し、また工芸、彫刻、衣装、建築作品の鑑賞と解説を通じてそれを育んだ豊かな文化背景を考察する。	
専門科目	選択科目	日本の美術 B	本科目は、日本の造形文化史上の名品の解説と鑑賞を通じて日本美術の基本的知識を身につけ、また日本の美術や文化がもたらした国際交流の軌跡について理解を得ることを目的とする。授業は講義形式で行う。授業では近世から現代までの日本の造形文化と、海外の美術館や個人が所蔵する日本美術コレクションの現状や歴代の里帰り展について解説するとともに、日本の美術、文化が欧米に与えた影響「ジャポニスム」にも言及し、現代の日本の作家達が発信するイメージの中に息づく、伝統の手技や感性についても考察する。	
専門科目	選択科目	神道史 A	現在みられる〈神道〉の姿は、明治維新の神仏分離・廃仏毀釈を経て、近代に再編されたものである。それ以前は千年以上の間、土着的な〈カミ〉信仰が仏教を中心とする外来宗教の影響を受けた〈神仏習合〉の時代が続いたのであって、〈神道〉とは、そのなかで形成された信仰と思想と儀礼の総体なのである。かかる観点から本授業は、「神道史 A」では、主に古代を扱い、〈カミ〉信仰の原初形態から仏教伝来と、それに伴う神仏習合・本地垂説の展開を概観する。	隔年開講
専門科目	選択科目	神道史 B	「神道史 A」を受け継ぎ、中世における神道史を概観する。本地垂説説に基づく〈神道〉の教理形成（中世神道説）、神祇信仰の諸相、中世独得の神話記述（中世神話、中世日本紀）等を論じ、併せて中世社会の変貌のなかで、〈神道〉が仏教から独立した存在になっていく経緯を辿る。講義を通して、〈神道〉或いは〈神道的なるもの〉が、仏教渡来以前より連綿と受け継がれてきたのだという固有性の呪縛を解き、東アジア社会の思想・宗教の交流・融合・変容の産物として〈神道〉をとらえなおすことを企図する。	隔年開講

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	近世日本思想A	本講義は、天下統一から幕藩体制の成立のなか（16世紀から17世紀）で起こった思想的変容を概観するものである。近世社会の到来は、中世までの仏教中心とした思想・宗教の状況を大きく変化した。仏教が主として担っていた来世の宗教観が衰退して、世俗主義の風潮が強まる。また、神道が仏教より独立した存在となるという、儒学が幕府の公的学問としての地歩を固めていった。本講義は、これら儒・仏・神三教に加え、一六世紀に入ってきたキリスト教も含め、近世社会前期における思想的・宗教的営みを辿ることで、今日に通ずる「日本人」の考え方の土台がいかに作られたかを考える。	隔年開講
専門科目	選択科目	近世日本思想B	「近世日本思想A」を受け継ぎ、18世紀中葉から19世紀にかけての、日本における思想状況を概観する。江戸中期以降になると、儒教が社会的に定着するいっぽう、蘭学を学ぶ傾向が起り、従来までの中国的学問の体系が批判されるようになった。また、日本の古典研究（和学）と神道研究の融合のなかから国学が起り、仏教・儒教など外来思想を批判する。これが近代以降の国家主義のイデオロギーの土台を築いていくのである。講義を通じて、近世から近代への変化の過程において、何が受け継がれ、何が失われたかを考えていきたい。併せて民間信仰の諸相や幕末の宗教運動についても触れる。	隔年開講
専門科目	選択科目	比較宗教A	宗教とは何かを考察する学問が宗教学であるが、宗教学の始まりは「たった一つの宗教しか知らないものは、宗教を知らないものである」という比較宗教学であった。本講義では、宗教学が何を問題にしてきたのかを紹介し、学問・研究の基礎である「理論化」というスキルの習得を目指す。次に具体的に諸宗教の比較を行う。存在論や倫理観など、いくつかの観点から諸宗教の違いを明確化し、諸宗教の特質を理解する。特に、西洋と東洋という視点だけでなく、神道と仏教の違いなど日本における諸宗教の違いにも目を向ける。	
専門科目	選択科目	比較宗教B	宗教間の対話に焦点をあてる。宗教が多くの紛争と関わりを持ってきたことは事実である。宗教間対話とは、国際社会がグローバル化する中で諸宗教がどうあるべきかを模索することである。本講義では、宗教における対立や紛争の歴史を学び、宗教間対話が注目されてきた時代背景を理解する。次に、各国における宗教教科書を確認し、諸宗教にとって「宗教」や他宗教がどのように認識されているのかを学ぶ。これらを踏まえ、宗教間対話における理論研究の考察をする。また、宗教間対話における諸宗教の活動に目を向ける。	
専門科目	選択科目	宗教社会学A	現代では、宗教は個人の心の問題で、現実社会とは関係のないものとする傾向が強い。しかし歴史や世界の情勢を見れば、宗教が社会の方向性を指し示し歴史を牽引する役割を果たしてきたことがわかる。宗教の違いが様々な摩擦や衝突を起こしている例も多い。宗教とはいったいどのようなもので、今どこに向かっているのか。授業では宗教なるものの理解のために形成されてきた学問である「宗教学」の視点を利用し、かつその問題点を考えながら、世界の宗教に関する知見を挙げ、認識を深めていくことを目指す。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	宗教社会学B	社会と宗教には深い関わりがあるが、その関係は複雑・多様で、一般化して論じるのが難しいものである。そもそも我々が気軽に使っている「宗教」という語彙自体、実は西洋の宗教や学問の歴史的文脈から切り離し難いものであり、これをもって世界の多様な現象を語ることは、実は様々な困難がある。本授業ではインドを主要なテーマとして、宗教間対立の問題、伝統とされるものの意外な近代性などを学ぶと共に、特に文化の壁を超えて社会と宗教の関わりを理解することの可能性と困難を考えることとする。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	日本民俗学A	日本民俗学について、柳田国男の著作から目的と研究方法を学んで、資料のバラエティや収集方法の実際を学ぶ。人々の身近に多く存在する「あたりまえ」の事象が存在する（した）現代の意味を考察するために、民俗学と歴史学、民俗学と物語との関連に言及する。講義では、プリントで伝承文化と史料の事例を紹介してゆく。具体的な課題としては、民俗学の入門から、ムラ・マチの社会、人生儀礼、フィールドワーク、民俗調査の方法などである。	
専門科目	選択科目	日本民俗学B	日本民俗学について、柳田国男の著作から目的と研究方法を学んで、資料のバラエティや収集方法の実際を学ぶ。人々の身近に多く存在する「あたりまえ」の事象が存在する（した）現代の意味を考察するために、民俗学と歴史学、民俗学と物語との関連に言及する。講義では、プリントで伝承文化と史料の事例を紹介してゆく。具体的な課題としては、第生活具・民具の発見と記録法、民俗芸能、絵解きの絵・文字・語り、稲作と文化、職人と技芸の継承などである。	
専門科目	選択科目	書道ⅡA	楷書・行書・草書・隸書・かな等の古典学習のなかから、文字の構造美を探ってゆく。また文字の発生から、篆書・隸書・楷書・行書・草書・仮名に至るまでの各時代の書体の変化と書風の変遷の理解を深める。書道における基本知識と、楷書・行書・草書の基本知識を習得し、筆で上手に書ける技術を訓練する。硬筆では、ノートの文字や板書の技量が高まることを目指す。以上の訓練を通して、書道科教員免許取得のための基本的な知識と技法の充実を図ってゆく。本講義では、楷書、行書を中心に行う。	
専門科目	選択科目	書道ⅡB	楷書・行書・草書・隸書・かな等の古典学習のなかから、文字の構造美を探ってゆく。また文字の発生から、篆書・隸書・楷書・行書・草書・仮名に至るまでの各時代の書体の変化と書風の変遷の理解を深める。書道における基本知識と、楷書・行書・草書の基本知識を習得し、筆で上手に書ける技術を訓練する。硬筆では、ノートの文字や板書の技量が高まることを目指す。以上の訓練を通して、書道科教員免許取得のための基本的な知識と技法の充実を図ってゆく。本講義では、篆書、隸書、篆刻等を中心に行う。	
専門科目	選択科目	書道ⅢA	書道Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎をさらに固め、高度な表現技法を習得することを目的とする。漢字・かな・硬筆・篆刻などを対象として取り上げる。特に楷書・行書・草書・篆書・隸書の名筆を臨書の課題として取り上げ、さらに細字についても訓練を行う。篆刻では、自用印の制作を行い、篆刻における造形美についても理解を深めてゆくことにする。以上の訓練を通して、書道科教員免許取得のための基本的な知識と技法の充実を図ってゆく。本講義では、楷書、行書、草書、篆書等を中心に行う。	
専門科目	選択科目	書道ⅢB	書道Ⅰ・Ⅱで学んだ基礎をさらに固め、高度な表現技法を習得することを目的とする。漢字・かな・硬筆・篆刻などを対象として取り上げる。特に楷書・行書・草書・篆書・隸書の名筆を臨書の課題として取り上げ、さらに細字についても訓練を行う。篆刻では、自用印の制作を行い、篆刻における造形美についても理解を深めてゆくことにする。以上の訓練を通して、書道科教員免許取得のための基本的な知識と技法の充実を図ってゆく。本講義では、隸書、篆刻、細字等を中心に行う。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	海外文化研修Ⅰ	授業で学んだインドおよびその文化圏諸国の地理・歴史・文化・風土などの知識を、歴史的遺蹟や建造物、生きた聖地など現地を訪問して、教員スタッフや現地ガイドからレクチャーを受けながら肌身をもって試し、広くアジアを中心とする国際感覚を涵養することを主目的とする。研修時期は、およそ夏季休暇などの長期休暇時期を利用し、行う予定である。事情が許せば当該大学の学生との交流も行いたい。研修実施以前に数回の講義を行う。	集中講義 講義：18時間 実習：72時間
専門科目	選択科目	海外文化研修Ⅱ	現地を直接訪れ、海外の文化や風土に直接触れることで学んだ知識を深めるとともに国際感覚を養うことを目的とする。海外文化研修Ⅰが南アジアを対象とするのに対して、海外文化研修Ⅱは東アジアを対象とする。具体的には、各地の寺院や遺跡等の文化遺産を訪問し、また、博物館で文化財を鑑賞するとともに、提携大学を訪れて国際交流を行なう予定である。研修は夏季休暇中に行うが、事前にガイダンスを開いて訪問先についての十分な知識を養った上で現地を訪れ、帰国後に長文のレポートを課す予定である。	集中講義 講義：18時間 実習：72時間
専門科目	選択科目	サンスクリット語Ⅱ A	インドの基本的文献はサンスクリット語で書かれている。したがってインド思想や仏教を学ぶためには、原典を通して読むことが望ましい。本講は初年度で初級サンスクリット語を履修した学生に対し、さらに解説を中心とする実践的な講義を通して、サンスクリット文献の読解能力の向上をめざす。ナーガリー文字に慣れることも必要なので、教材にはC.R.Lanmanの文法書(SanskritReader)などを用いながら、実践的な訓練を行い、それによって各自の研究分野に対応できる語学力を強化する養成することを目標とする。	
専門科目	選択科目	サンスクリット語Ⅱ B	インドの基本的文献はサンスクリット語で書かれている。したがってインド思想や仏教を学ぶためには、原典を通して読むことが望ましい。本講は春学期に引き続いて履修する学生を想定し、さらに解説を中心とする実践的な訓練を積み重ねて、サンスクリット文献の読解能力の向上をめざす。ナーガリー文字に慣れることも必要なので、教材にはC.R.Lanmanの文法書(SanskritReader)に加え、『般若心経』の解説などを予定している。それによってインド学、仏教学にまたがる研究分野に対応できる語学力を強化することを目標とする。	
専門科目	選択科目	書論 A	「書論」とは、書作品がもつ美の概念を分析し、評論を加えたものをいう。文字を書くという行為が造形芸術となり、理論が展開されてきた歴史を学ぶことは、書の本質的な価値を深めるうえで重要なことである。現存する中国最古の書論の文献は、後漢の趙壹による『非草書』である。この書より始め、南朝・唐・五代・北宋・南宋・元・明・清・民国の各時代に書かれてきた書論の特徴を探る。書論の内容および思想や精神を学ぶことで、書法の原典を探り、自らの書法の向上と充実を図ることに努めたい。	
専門科目	選択科目	書論 B	「書論」とは、書作品がもつ美の概念を分析し、評論を加えたものをいう。文字を書くという行為が造形芸術となり、理論が展開されてきた歴史を学ぶことは、書の本質的な価値を深めるうえで重要なことである。現存する中国最古の書論の文献は、後漢の趙壹による『非草書』である。この書より始め、南朝・唐・五代・北宋・南宋・元・明・清・民国の各時代に書かれてきた書論の特徴を探る。さらに本講義では、中国の各時代の書論とともに、日本の書論についても学び、日本の書論の特徴と問題点を考えていく。	
専門科目	選択科目	書道Ⅳ A	書道における原理・原則を理解するとともに、かなの古典学習を通して日本文化と書道との関連性を考える。書道は実技科目であるので書くことに重点をおくことになるが、臨書学習にとどまらず、古典鑑賞を行ったりすることで創作方法への理解を深めてゆきたい。漢字仮名交じりの書や、手本の書き方についても研究し、筆墨硯紙を変えての作品制作にも取り組んでゆく。さらに硬筆(ペン字を含む)の訓練も行っており、自らの筆法の完成を追求してゆくことにする。本講義では、楷書、行書、草書、篆書、隸書等を中心に行う。	
専門科目	選択科目	書道Ⅳ B	書道における原理・原則を理解するとともに、かなの古典学習を通して日本文化と書道との関連性を考える。書道は実技科目であるので書くことに重点をおくことになるが、臨書学習にとどまらず、古典鑑賞を行ったりすることで創作方法への理解を深めてゆきたい。漢字仮名交じりの書や、手本の書き方についても研究し、筆墨硯紙を変えての作品制作にも取り組んでゆく。さらに硬筆(ペン字を含む)の訓練も行っており、自らの筆法の完成を追求してゆくことにする。本講義では、臨書、篆刻、細字を中心に行う。	
専門科目	選択科目	創作書道 A	漢字の各書体・かな・漢字かな交じりの書のなかから、自らテーマを決めて創作作品を書くことで、実技面における最終目標である創作性の養成を行う。創作の対象は、漢字・かな・漢字かな交じりの書・篆刻とする。これらのうち何種類もの書体を創作してよい。創作内容は、好みの漢詩・和歌・語句・自作の歌などとする。創作に当たっては、走行を制作した後で、大きな紙に清書する手順をとる。書き上げた作品に対しては、批評を与えて完成度を高めてゆくことにする。本講義では、古典の臨書学習と創作方針の模索を行う。	
専門科目	選択科目	創作書道 B	漢字の各書体・かな・漢字かな交じりの書のなかから、自らテーマを決めて創作作品を書くことで、実技面における最終目標である創作性の養成を行う。創作の対象は、漢字・かな・漢字かな交じりの書・篆刻とする。これらのうち何種類もの書体を創作してよい。創作内容は、好みの漢詩・和歌・語句・自作の歌などとする。創作に当たっては、走行を制作した後で、大きな紙に清書する手順をとる。書き上げた作品に対しては、批評を与えて完成度を高めてゆくことにする。本講義では、創作実践を行う。	
専門科目	選択科目	日本史 A	地理歴史科教師に必要な日本史の基礎的知識を習得し、あわせて歴史学の基本的な研究方法を理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。まず歴史研究の方法について解説した後、日本の古代史と中世史の主要な事件や出来事に関して、その歴史的な背景、具体的な経過、後代への影響などを、核となる史料をいくつか提示し、その講読・解釈を通じて概説していく。具体的には、大和朝廷の成立、律令国家の成立と発展から始めて、織豊政権、桃山文化に及ぶ。	
専門科目	選択科目	日本史 B	地理歴史科教師に必要な日本史の基礎的知識を習得し、あわせて歴史学の基本的な研究方法を理解することを目的とする。授業は講義形式で行う。江戸時代以降、現在までの主要な事件や出来事に関して、その歴史的な背景、具体的な経過、後代への影響などについて諸史料の講読・解釈を通じて概説していく。具体的には、「幕藩体制の成立」から始めて、「近代国家の成立」「太平洋戦争と日本の敗戦」「高度経済成長と公害」等を経て、「21世紀の世界と日本」にまで及ぶ。	
専門科目	選択科目	外国史 A	中学校社会歴史的な分野および高校世界史の授業において生徒を指導するに足る世界史の基礎知識を修得させ、また、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることで歴史的思考力を培うことを目指す。世界史全体を(1)諸地域世界の形成、(2)諸地域世界の交流と再編、(3)諸地域世界の結合と変容、(4)地球世界の形成に区分し、それぞれの時期に最も重要な役割を果たした地域世界の動向に着目して同時代の世界の全体像を動的に理解する。この授業では(1)諸地域世界の形成、(2)諸地域世界の交流と再編を扱う。主に講義形式で行う。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	外国史 B	中学校社会歴史的分野および高校世界史の授業において生徒を指導するに足る世界史の基礎知識を修得させ、また、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることで歴史的思考力を培うことを目指す。世界史全体を(1)諸地域世界の形成、(2)諸地域世界の交流と再編、(3)諸地域世界の結合と変容、(4)地球世界の形成に区分し、それぞれの時期に最も重要な役割を果たした地域世界の動向に着目して同時代の世界の全体像を動的に理解する。この授業では(3)諸地域世界の結合と変容、(4)地球世界の形成を扱う。主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	地誌学 A	地誌の考え方・方法を理解すると共に、地誌学的視点を身につけることを目標とする。「日本地誌を考える」をテーマに、地誌学の考え方・方法・意義を検討し、世界の諸地域を比較対象として取り上げながら、日本の諸地域を具体的な考察対象として、地誌学を考察する。扱う内容は、「地理学と地誌学、世界地誌と対比した日本地誌」「地域と地域区分」「地誌をめぐる近年の議論と地誌の存在理由」「日本とその地域区分」「大都市圏」「大都市圏の回廊地帯」「地方圏」等であり、講義形式で授業を進める。	
専門科目	選択科目	地誌学 B	地誌の考え方・方法を理解すると共に、地誌学的視点を身につけることを目標とする。「世界地誌を考える」をテーマに、地誌学の考え方・方法・意義を検討し、日本の諸地域を比較対象として取り上げながら、世界の諸地域を具体的な考察対象として、地誌学を考察する。扱う内容は、「地理学と地誌学、日本地誌と対比した世界地誌」「地域と地域区分」「地誌をめぐる近年の議論と地誌の存在理由」「世界とその地域区分」「世界の諸地域」等であり、講義形式で授業を進める。	
専門科目	選択科目	自然地理学 A	自然地理の現象面のみの理解にとどまらず、その原因についても論理的に考察できるようにするとともに、中学社会、高校地理の授業において生徒を指導するに足る基礎的知識を修得することを目指す。具体的には、我々が生活の場としている地球表層部の成立を詳しく解説するとともに、宇宙の中での地球、地球の構造と歴史、地球表層における日本の特徴、といった順番に日本列島の特徴を述べてゆく。また、日本では何故地震が多いか、地震被害を軽減するにはどうしたらよいか、などに関しても言及する。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	自然地理学 B	自然地理について作図等を通じて理解を深めることで、中学社会、高校地理の授業において生徒を指導するに足る基礎的知識を修得することを目指す。具体的には、日本列島にお地形成について、地殻変動・気候変化の観点から解説する。そして、自然災害は普遍的な現象であることを明らかにした後、その予測についても紹介する。気候変化に関しては、過去から現在までの環境変遷の様子を土地にプリントされていること、環境変遷が人間の歴史に大きな影響を与えてきたことなどを解説する。授業は講義を中心に行う。	
専門科目	選択科目	人文地理学 A	「武陵野台地」や「北海道」「燕市」「バングラデシュ」「タイの農村」など、日本と外国の具体的な事象を扱うことで、人文地理学の特徴である、各地の事例を相互に比較対照させて論理を検討する帰納法的な手法と、環境論ならびに地域分業（関係）論という視点を得させ、それを応用して現実の地域社会を分析できる能力や、グローバルな地域関係を象徴される現代世界の人の生き様・課題の理解を得させることで、中学社会、高校地理の授業において生徒を指導するに足る基礎的知識を修得することを目指す。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	人文地理学 B	1. 人文地理学のマルチ・スケールな視点から現代社会における地域開発を考える、2. 地図・統計分析・フィールドワークなどの環境をとらえる地理学の技法を身につける、3. 地域を作り社会を変える人間の能動性に注目した人文地理学の方向性を知るという三つを目標に、地域を作るという営みと、主体となる人々の環境認識や未来図構築との関連について、各地の事例を比較対照しつつ考察を重ねることで、中学社会、高校地理の授業において生徒を指導するに足る基礎的知識を修得することを目指す。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	日本語概説 A	日本語の様々な現象や問題点を取り上げ、日本語の構造について把握し、日本語学全般にわたる基礎的な知識の習得をめざす。大きく、音声・音韻、文字・表現に分類し、具体的な事例を多く取り上げながら授業を進める。「音声・音韻」では、すべての人が同じように発音しているわけではないのに、なぜことが通ずるのかを考える。また「音韻」という概念を理解し、「音声」との違いを把握する。「文字・表現」では、文字とその使い方の概要を学び、漢字、仮名（ひらがな・カタカナ）、ローマ字に触れる。	
専門科目	選択科目	日本語概説 B	日本語の様々な現象や問題点を取り上げ、日本語の構造について把握し、日本語学全般にわたる基礎的な知識の習得をめざす。大きく、語彙と文法に分類し、具体的な事例を多く取り上げながら授業を進める。「語彙」では、単語の発音と意味の結びつき、また単語と語彙の違い、語彙の類別・量、語構成、語彙史などの面から学習を進める。「文法」では、文法と文法論の異なりについて考える。さらに語についての研究と文についての研究を取り上げる。また文章というものはどのようなものか、文体とは何が異なるのかについて理解を深めてゆく。	
専門科目	選択科目	古代日本文学史 A	本講義では、平安朝の文学の生成と展開を跡付ける。大きな柱を示すと、次のようになる。 (1) 王朝漢文学の隆盛と終息 (2) 万葉集から王朝和歌へ (3) 仮名散文の始発、以上のような枠組みの中で、まずは個別に問題を掘り下げてゆくと、最終的にはそれぞれの柱が独立しているのではなく、互いに深くかかわりながら、王朝文学の豊かな世界を切り開いていったことを理解するところに重点を置く。こうした理解を深めるなかで、王朝文学固有のダイナミズムを明らかにすることを目的とする。	
専門科目	選択科目	古代日本文学史 B	本講義では、平安朝の文学の生成と展開を跡付ける。大きな柱を示すと、次のようになる。 (1) 仮名散文の始発 (2) 女流日記の世界 (3) 物語の登場、以上のような枠組みの中で、まずは個別に問題を掘り下げてゆくと、最終的にはそれぞれの柱が独立しているのではなく、互いに深くかかわりながら、王朝文学の豊かな世界を切り開いていったことを理解するところに重点を置く。こうした理解を深めるなかで、王朝文学固有のダイナミズムを明らかにすることを目的とする。	
専門科目	選択科目	中世日本文学史 A	中世とは、平安時代末期から江戸時代の始まる前までの約400年間を指すが、前代の思想・伝統を引き継いでゆくとともに、新しい時代の変化に応じた文学作品も次々と作り出されたのだである。本講義では、中世文学というものの発生と展開の諸相を概観し、歴史的社会的な時代の動向に目を配り、中世文学の特徴やその文芸思潮について講述してゆく。あわせて、和歌・連歌・日記・紀行・軍記・説話・演劇その他にわたって、できるだけ多くの作品を取り上げ、それらの内容を具体的に読み解き、個々の作品の文学史的位置づけについて概説・考究する。本講義では、上記内容の和歌・連歌を中心に行う。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	中世日本文学史 B	中世とは、平安時代末期から江戸時代の始まる前までの約400年間を指すが、前代の思想・伝統を引き継いでゆくとともに、新しい時代の変化に応じた文学作品も次々と作り出されたじだいである。本講義では、中世文学というものの発生と展開の諸相を概観し、歴史的社会的な時代の動向に目を配り、中世文学の特質やその文芸思潮について講述してゆく。あわせて、和歌・連歌・日記・紀行・軍記・説話・演劇その他にわたって、できるだけ多くの作品を取り上げ、それらの内容を具体的に読み解き、個々の作品の文学史的な位置づけについて概説・考究する。本講義では、上記内容の日記・紀行を中心に行う。	
専門科目	選択科目	近世日本文学史 A	日本の近世の特質のひとつに、印刷技術の発展がある。近世とはさまざまな文学作品を多くの人が享受することができるようになった時代である。それは中世以前の書写による作品享受という状況とは、桁違いの大きな変化であった。ふたつめに、上方と江戸という二つの文化圏の出現である。前代までの文化の中心地であった京、そして新たな商業都市大坂。近世前期の文化はここからはじまることとなる。それに対し、將軍のお膝元として発展する都市江戸。この二つの文化圏によってさまざまな文学が生み出された時代、それが日本の近世である。以上の上方と江戸という二つの文化圏を視座として、日本近世文学史を理解することを目的とする。本講義では、俳諧・上方小説等を中心として行う。	
専門科目	選択科目	近世日本文学史 B	日本の近世の特質のひとつに、印刷技術の発展がある。近世とはさまざまな文学作品を多くの人が享受することができるようになった時代である。それは中世以前の書写による作品享受という状況とは、桁違いの大きな変化であった。ふたつめに、上方と江戸という二つの文化圏の出現である。前代までの文化の中心地であった京、そして新たな商業都市大坂。近世前期の文化はここからはじまることとなる。それに対し、將軍のお膝元として発展する都市江戸。この二つの文化圏によってさまざまな文学が生み出された時代、それが日本の近世である。以上の上方と江戸という二つの文化圏を視座として、日本近世文学史を理解することを目的とする。本講義では、浄瑠璃・歌舞伎・後期江戸小説等を中心として行う。	
専門科目	選択科目	近現代日本文学史 A	明治、大正、昭和、現代の文芸思潮の流れを中心に解説する。それぞれの時代の代表的な作品、その文章、言葉の表情をじかに味わいながら、個々の作品の生まれた時代、文化的背景や、作家の文学史上の位置について考える。また史的な関連を考慮していく。この国の近代化にともなって生まれた、或いは孕まれる文化的、文明的な諸問題について、時系列を踏み抜いた比較往還的視点から、個々の作品の関連的な解説を試みる。本講義では、近代文学の黎明・試行・成立・展開を扱う。	
専門科目	選択科目	近現代日本文学史 B	明治、大正、昭和、現代の文芸思潮の流れを中心に解説する。それぞれの時代の代表的な作品、その文章、言葉の表情をじかに味わいながら、個々の作品の生まれた時代、その文章、言葉の表情をじかに味わいながら、個々の作品の生まれた時代、文化的背景や、作家の文学史上の位置について考える。また史的な関連を考慮していく。この国の近代化にともなって生まれた、或いは孕まれる文化的、文明的な諸問題について、時系列を踏み抜いた比較往還的視点から、個々の作品の関連的な解説を試みる。本講義では、昭和文学の諸相・戦中戦後の文学・現代の文学状況を扱う。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（上代） A	上代の文学は奈良以前を対象とする。この時期に形成された古典には、韻文では『万葉集』『懷風藻』、散文では『古事記』『日本書紀』『風土記』などがある。これらの古典に収められた歌や説話を読み、その作品世界に親しむこと、またその読み解きを通して古代の文学や文化の特色について、理解を深めることを目的とする。韻文については、『万葉集』を対象に万葉の時代全体を視野に収めて代表的な作品を取り上げ、万葉の歌や歌人の特色、古代の歌が含みもつ問題について整理する。また散文については、『古事記』が伝える国土の誕生や形成・平定・統治の伝承に注目し、『古事記』の特色を理解するとともに、個々の説話の意義やそれらの説話が成立した背景について整理する。本講義では韻文を中心として扱う。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（上代） B	上代の文学は奈良以前を対象とする。この時期に形成された古典には、韻文では『万葉集』『懷風藻』、散文では『古事記』『日本書紀』『風土記』などがある。これらの古典に収められた歌や説話を読み、その作品世界に親しむこと、またその読み解きを通して古代の文学や文化の特色について、理解を深めることを目的とする。韻文については、『万葉集』を対象に万葉の時代全体を視野に収めて代表的な作品を取り上げ、万葉の歌や歌人の特色、古代の歌が含みもつ問題について整理する。また散文については、『古事記』が伝える国土の誕生や形成・平定・統治の伝承に注目し、『古事記』の特色を理解するとともに、個々の説話の意義やそれらの説話が成立した背景について整理する。本講義では散文を中心として扱う。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（中古） A	大和物語は、伊勢物語や平中物語とともに、歌物語のひとつに数えられるものの、伊勢物語ほど研究もされず、文学的に劣るともひょうかされる。それは一に、実話的性格の濃さに起因する。そのため、週刊誌的な面白さやゴシップ的な側面が強調されやすい。しかしその内実、文学化されていない実人生だからこそ垣間見られる真実の人間の姿がある。これを一話一話丁寧に読んでいくためには、当時の社会を知ること、一人一人の人物の調査を必要とする。そのような作業過程も含めて、登場する一人一人にこだわって歌語を読み進めることで、文学調査を進め理解を深めてゆく。本講義では、宇多天皇期の歌語を中心に行う。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（中古） B	大和物語は、伊勢物語や平中物語とともに、歌物語のひとつに数えられるものの、伊勢物語ほど研究もされず、文学的に劣るともひょうかされる。それは一に、実話的性格の濃さに起因する。そのため、週刊誌的な面白さやゴシップ的な側面が強調されやすい。しかしその内実、文学化されていない実人生だからこそ垣間見られる真実の人間の姿がある。これを一話一話丁寧に読んでいくためには、当時の社会を知ること、一人一人の人物の調査を必要とする。そのような作業過程も含めて、登場する一人一人にこだわって歌語を読み進めることで、文学調査を進め理解を深めてゆく。本講義では、大和物語前半の解釈を中心に行う。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（中世） A	室町時代物語の作品に親しみ、その作品がどんな作品であるかを理解してもらうことを目的とし、まずは丁寧な原文講読、次に作品の周辺領域や背景についての説明を主な内容とする。作品の内容を正確に理解するだけではなく、文学的・歴史的位置や特質などについても理解し、説明できるようになることを、到達目標とする。本講義では、「小町草紙」を取り上げる。最初に室町時代の物語について解説し、その「小町草紙」の解説を経て「小町草紙」の講読に入る。その後「小町草紙」の周辺説明として、中世の小町伝説を追う。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（中世） B	室町時代物語の作品に親しみ、その作品がどんな作品であるかを理解してもらうことを目的とし、まずは丁寧な原文講読、次に作品の周辺領域や背景についての説明を主な内容とする。作品の内容を正確に理解するだけではなく、文学的・歴史的位置や特質などについても理解し、説明できるようになることを、到達目標とする。本講義では、「橋立の本地」を取り上げる。最初に「橋立の本地」について解説し、「橋立の本地」の講読に入る。その後「橋立の本地」の周辺説明を行う。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	作家作品研究（近世）A	『おくのほそ道』の全編を視野に入れて、その主たる章段を読む。そして松尾芭蕉のたどり着いた人生観や芸術観を考える。芭蕉は元禄二年（1689）、旧暦の三月末に同行曾良を伴い、江東の深川から隅田川を舟で出立し、千住で舟をあがった。以降、約五カ月間に及ぶ行脚の成果を文学史に照らして読めば、『おくのほそ道』とは芭蕉の心の中で、毀れゆくモノと、あらたに生まれ出ずるモノを明らかにする作品であることがわかる。それを不易流行という理念の醸成と位置付けて、議論の土台を提供する。本講義では、「発端」から「松島」までを輪読する。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（近世）B	『おくのほそ道』の全編を視野に入れて、その主たる章段を読む。そして松尾芭蕉のたどり着いた人生観や芸術観を考える。芭蕉は元禄二年（1689）、旧暦の三月末に同行曾良を伴い、江東の深川から隅田川を舟で出立し、千住で舟をあがった。以降、約五カ月間に及ぶ行脚の成果を文学史に照らして読めば、『おくのほそ道』とは芭蕉の心の中で、毀れゆくモノと、あらたに生まれ出ずるモノを明らかにする作品であることがわかる。それを不易流行という理念の醸成と位置付けて、議論の土台を提供する。本講義では、「瑞巖寺」から「大垣」までを輪読する。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（近現代）A	文学が生まれるのには人間が関わっている。また現在我々の目の前にインクの染みついた紙の塊として存在する「本」を誰かが開いて読むという行為によって作品は文学として新たな存在を始める。作品を自然科学の対象のごとく扱って切り刻んだり、あやふやな読む主体をごまかすため、外部の作品分析方法、今はやりの研究方法を導入せず、作品そのものの読みを深めることに徹し、作家・作品と時代の運命的な関わりを見つめ、「文学とは何か」という大きなテーマをも追求してゆきたいと考える。本講義では、川端康成の作品「骨拾い」「母」「日向」「伊豆の踊子」等を取り上げるとともに、川端が作家として出発するまでの人生を把握する。	
専門科目	選択科目	作家作品研究（近現代）B	文学が生まれるのには人間が関わっている。また現在我々の目の前にインクの染みついた紙の塊として存在する「本」を誰かが開いて読むという行為によって作品は文学として新たな存在を始める。作品を自然科学の対象のごとく扱って切り刻んだり、あやふやな読む主体をごまかすため、外部の作品分析方法、今はやりの研究方法を導入せず、作品そのものの読みを深めることに徹し、作家・作品と時代の運命的な関わりを見つめ、「文学とは何か」という大きなテーマをも追求してゆきたいと考える。本講義では、川端康成の作品「雪国」「古都」等を取り上げるとともに、川端が作家として出発して以降の人生を把握する。	
専門科目	選択科目	教職国語（古典）A	教職国語科目として、古代日本文学史を学修する。本講義では、平安朝の文学の生成と展開を跡付ける。大きな柱を示すと、次のようになる。（1）王朝漢文学の隆盛と終息（2）万葉集から王朝和歌へ（3）仮名散文の始発、以上のような枠組みの中で、まずは個別に問題を掘り下げてゆくと、最終的にはそれぞれの柱が独立しているのではなく、互いに深くかかわりながら、王朝文学の豊饒な世界を切り開いていったことを理解するところに重点を置く。こうした理解を深めるなかで、王朝文学固有のダイナミズムを明らかにすることを目的とする。	
専門科目	選択科目	教職国語（古典）B	教職国語科目として、古代日本文学史を学修する。本講義では、平安朝の文学の生成と展開を跡付ける。大きな柱を示すと、次のようになる。（1）仮名散文の始発（2）女流日記の世界（3）物語の登場、以上のような枠組みの中で、まずは個別に問題を掘り下げてゆくと、最終的にはそれぞれの柱が独立しているのではなく、互いに深くかかわりながら、王朝文学の豊饒な世界を切り開いていったことを理解するところに重点を置く。こうした理解を深めるなかで、王朝文学固有のダイナミズムを明らかにすることを目的とする。	
専門科目	選択科目	教職国語（現代文）A	教職国語科目として、近現代日本文学史を学修する。明治、大正、昭和、現代の文芸思潮の流れを中心に解説する。それぞれの時期の代表的な作品、その文章、言葉の表情をじかに味わいながら、個々の作品の生まれた時代、その文章、言葉の表情をじかに味わいながら、個々の作品の生まれた時代、文化的背景や、作家の文学史上の位置について考える。また史的な関連を考慮していく。この国の近代化にともなって孕まれた、或いは孕まれる文化的、文明的な諸問題について、時系列を踏み抜いた比較往還的視点から、個々の作品の関連的な解説を試みる。本講義では、近代文学の黎明・試行・成立・展開を扱う。	
専門科目	選択科目	教職国語（現代文）B	教職国語科目として、近現代日本文学史を学修する。文学が生まれるのには人間が関わっている。また現在我々の目の前にインクの染みついた紙の塊として存在する「本」を誰かが開いて読むという行為によって作品は文学として新たな存在を始める。作品を自然科学の対象のごとく扱って切り刻んだり、あやふやな読む主体をごまかすため、外部の作品分析方法、今はやりの研究方法を導入せず、作品そのものの読みを深めることに徹し、作家・作品と時代の運命的な関わりを見つめ、「文学とは何か」という大きなテーマをも追求してゆきたいと考える。本講義では、川端康成の作品「雪国」「古都」等を取り上げるとともに、川端が作家として出発して以降の人生を把握する。	
専門科目	選択科目	日本語史A	ことばは生きている。生きていることばを理解するためには、変化する日本語の姿を正しく把握し、日本語の歴史に対する正しい認識が必要である。ことばには、音韻や語彙のように比較的变化しやすい面と、文法のように変化のゆるやかな面との二面性が認められる。このことばの二面性に着目しながら、移りゆく日本語の姿を、発生の原初から現代語の確立まで、音韻・文法（語法）・語彙などを中心に据えて、日本語の様相を講ずる。本講義では、日本語史等の基礎知識を講述したあと、奈良時代から平安時代までの音韻や語法などを講ずる。	
専門科目	選択科目	日本語史B	ことばは生きている。生きていることばを理解するためには、変化する日本語の姿を正しく把握し、日本語の歴史に対する正しい認識が必要である。ことばには、音韻や語彙のように比較的变化しやすい面と、文法のように変化のゆるやかな面との二面性が認められる。このことばの二面性に着目しながら、移りゆく日本語の姿を、発生の原初から現代語の確立まで、音韻・文法（語法）・語彙などを中心に据えて、日本語の様相を講ずる。本講義では、鎌倉・室町時代から江戸時代を経て明治までの音韻や語法などを講ずる。	
専門科目	選択科目	古典文法A	古典作品を読解する際に必要となる文法を、的確に身につけることを目標とする。代表的な作品を通じて、今まで学習してきた基本的な事項を確認しながら進めてゆく。さらに既存の見解にはどのような問題がひそみ、いかに解決してゆくべきであるのかを考察する。古典文法について概要を説明できること、さらに個々の文学作品に対して、文法面から説明できることを到達目標とする。本講義では、歴史的仮名遣い、五十音図、文・文節、単語、品詞、動詞、形容詞、形容動詞を扱う。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	選択科目	古典文法B	古典作品を読解する際に必要となる文法を、的確に身につけることを目標とする。代表的な作品を通じて、今まで学習してきた基本的な事項を確認しながら進めてゆく。さらに既存の見解にはどのような問題がひそみ、いかに解決してゆくべきであるのかを考察する。古典文法について概要を説明できること、さらに個々の文学作品に対して、文法面から説明できることを到達目標とする。本講義では、付属語、助動詞、助詞、名詞、副詞・連体詞、接続詞・感動詞、敬語を扱う。	
専門科目	選択科目	現代語文法A	本講義では、考えるための文法、ことばの面白さを知るための文法、自分のことばを再発見するための文法をめざす。具体的には、これまでの学校文法を復習しつつ、そこで説明されにくかったこと、取り上げられなかったことなどを考え、より明確な文法理解に到達する。到達目標として、日本語文法の基本的な概念が理解できること、文法は覚えるものではなく考えて規則性を見つけるものであることを理解すること、ことばは変化を続けていることを実感することなどを掲げる。本講義では、上記内容の前半部を行う。	
専門科目	選択科目	現代語文法B	本講義では、考えるための文法、ことばの面白さを知るための文法、自分のことばを再発見するための文法をめざす。具体的には、これまでの学校文法を復習しつつ、そこで説明されにくかったこと、取り上げられなかったことなどを考え、より明確な文法理解に到達する。到達目標として、日本語文法の基本的な概念が理解できること、文法は覚えるものではなく考えて規則性を見つけるものであることを理解すること、ことばは変化を続けていることを実感することなどを掲げる。本講義では、上記内容の後半部を行う。	
専門科目	選択科目	国際法A	先ず、国際法に必要な法学の概説を行った後、国際法の基礎理論について詳細な説明を行う。具体的には、国際法の全体像と歴史、戦争観念の変遷、国家主権観念の変遷、承認論、国際主体論、外交関係と領事関係、条約法と慣習法、国際法と国内法との関係等について、主として講義形式で知識の教授を行う。これによって、国際法の各分野の基礎を習得し、それに基づいて具体例を考察でき、国際法を用いた結論を提示することができるようになることが期待される。	
専門科目	選択科目	国際法B	春学期に続いて、地的管轄権概説（空間秩序）、海洋法①（内水）、海洋法②（領海・無害通航権）、海洋法③（接続水域・継続追跡権）、海洋法④（EEZと大陸棚）、領域主権観念の変遷、人的管轄権①（国籍の取得と外国人の人権）、人的管轄権②（帰化と外交的保護権）、人的管轄権③（犯罪人引渡）、紛争の解決①と国家責任、紛争の解決②等について講義形式で授業を行う。これによって、国際法の各分野の基礎を習得し、それに基づいて具体例を考察でき、国際法を用いた結論を提示することができるようになることが期待される。	
専門科目	選択科目	政治学原論A	現代日本政治全般にわたって概説することで、日本の政治のしくみについて基礎的な理解を得、また、それを通じて政治学の基礎的な概念を修得することを目指す。取り扱う具体的なテーマとしては、「衆議院と参議院」「国会のルール」「国会と立法」「国会の実態」「内閣と与党」「内閣の構成」「政府と予算」「選挙の制度」「衆議院と参議院の選挙制度」「政党」「政党政治の問題点」「日本政治の課題」などである。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	政治学原論B	政治学の全般について概説することで、専門分野に対応できるようにすることを目標とする。取り扱う具体的なテーマとしては、「政治権力」「政治的リーダーシップ」「政治思想とイデオロギー」「デモクラシーの理論」「近代国家と議会制民主主義」「政党と政党制」「圧力団体と住民運動」「選挙制度」「政治意識と投票行動」「官僚制」「大衆社会の政治」「現代社会における国家」「日本の政治」「国際政治」「政治学の理論」「比較政治学の理論」などである。授業は主に講義形式で行う。	
専門科目	選択科目	国語科教育論	国語科教育に関する基礎的な知識・技能及び基本的な事柄を論理的に検証し、国語科教育に対する問題意識・認識をはぐくむこと、国語科教育の楽しさを実践できる能力を身に付けることを目的に、新学習指導要領の国語科の目指す意義・内容に基づき、国語教育の可能性、日本語としての国語という視点を中心に、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」にわたって総合的な学習を行う。また、それらの学習を通して国語科教育への意欲を養う。	
専門科目	選択科目	社会科教育論	社会科教育は、民主主義を担う主権者としての基礎を培うことが目的である。その社会科の成り立ちと戦後の社会科の変遷を通して、今日的課題を考える。また、戦後社会科の60年で生みだされた実践を学び、地理・歴史・公民の各分野について社会科の授業づくりにも取り組み、教師としての実践的な力量を身につける。さらに、社会科の学力や評価、社会科教師としてのあり方についても考える。講義が中心となるが、必要に応じてグループごとに発表を行ってもらい、参加型の授業とする予定である。	
専門科目	選択科目	国語科指導法Ⅰ	国語科教育の目標と構造を理解し、中学・高等学校における学習指導を展開する上での基本的な能力を身に付けることを目的に、「国語科教育論」で理論的に学習した基礎の上に立ち、教材研究の意義と方法の理解、学習指導案の作成、受講生の模擬授業と研究協議、国語科カリキュラムの作成方法を中心に講義する。国語科教育の原理及び学習指導要領について理解すること、教材研究を深め適切な学習指導案が作成できるようになることを目標とする。	
専門科目	選択科目	国語科指導法Ⅱ	国語科教育の目標と構造を理解し、中学・高等学校における学習指導を展開する上での基本的な能力を身に付けることを目的に、「国語科教育論」で理論的に学習した基礎の上に立ち、教材研究の意義と方法の理解、学習指導案の作成、受講生の模擬授業と研究協議、国語科カリキュラムの作成方法を中心に講義する。国語科教育の原理をふまえ、教材研究ができること、適切な学習指導案を作成し、模擬授業が適切な形でできるようになることを目標とする。	
専門科目	選択科目	書道科指導法Ⅰ	小中学校国語科で行う「書写」を中心とした内容を扱う。書写では、国語をつかさどる言語としての文字を正しく書くことが必須となる。そのために、漢字・平仮名・カタカナを対象に、正確な点画のあり方と筆順の指導を第一とし、字形を整えて書けるように導いていく。また、中学から始まる行書では、漢字を効率よく書けるように指導し、それに対応する仮名も含め、書き慣れることによって、より速く書けるように訓練していく。これらの内容を毛筆と硬筆の両方について学習する。	
専門科目	選択科目	書道科指導法Ⅱ	高等学校芸術科「書道」に対応した内容を中心に扱う。書道は文字による表現活動である。そこには、古典と呼ばれる名筆を書き残し、書を芸術の領域まで高めた書人たちの知恵と工夫があった。それらを古典の中に探り、様々な字形や構成法、多彩な筆使いの技法などから文字の造形美、書の表現美を求め、それらの原理原則をどのように指導していくのか学習する。また、学習指導要領で必修とされている「漢字仮名交じりの書」についても指導のあり方を考え、書に関係する用具用材、篆刻、拓本、表具などについても基礎事項を学習する。	

区 科 分 目		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	選 択 科 目	社会・地歴指導法Ⅰ	中学校社会・高校地理歴史科の目標・内容・指導方法を理解し、国際化・情報化が進む現代社会に対応した社会科指導ができる実践的指導力を培うことを目標とする。経済のグローバル化・少子化・高齢化が進行して大学全入時代が始まった。大学入試を意識した「暗記社会科」は、その維持が困難になっている。こうした状況を踏まえて、学校・地域・家庭の相互信頼を醸成しつつ子どもの目が輝く社会科教育を、20世紀の授業諸実践を整理継承しつつ、21世紀の社会科を考えていきたい。授業は主に講義形式で行う。	
専 門 科 目	選 択 科 目	社会・地歴指導法Ⅱ	中学校社会科・高等学校地理歴史科の授業を構想し、適切な指導案と教材を作成することができるようになることを目指すとともに、模擬授業を通して実践的な指導力を培います。教材をひとつ取り入れるだけで授業は変わり、生徒の目が輝いてくる。それはなぜなのだろうか。またどういう教材を使えばたのしくわかる授業になるのだろうか。またその教材はどのように入手するのだろうか。そうした問題を検討した上で、1時間分の教案を作成し、模擬授業を行い、教育を追体験してみる。講義を中心に授業を行う。	
専 門 科 目	選 択 科 目	社会・公民指導法Ⅰ	中学校社会科公民的分野、および高等学校公民科の目標、内容、教育課程の編成、授業の方法等について理解し実践的指導力を習得することを目標とする。我が国の教育課程における公民教育の位置づけ、公民教育の歴史、学習指導要領の変遷、新しい学習指導要領の特徴、公民的分野および公民科の内容の研究、すぐれた社会科・公民科授業の分析（政治的分野・経済的分野・倫理社会的分野）、指導計画と指導案の作成等について説明を行う。授業は主に講義形式で行う。	
専 門 科 目	選 択 科 目	社会・公民指導法Ⅱ	社会科および公民科の教材研究、指導案の作成、模擬授業の実施を通して実践的指導力を習得し、授業の展開の工夫、授業の技術の訓練を行うことを目標とする。この目標を達成するために、社会科・公民科の指導計画、指導案の作成、社会科・公民科の教材研究の意義と方法、公民科におけるさまざまな授業の方法、模擬授業の実施等について詳しく説明を行い、実践に役立ててもらおう。授業は講義を中心に行うが、ディスカッションや模擬授業など実践の機会も設けるよう配慮する。	
専 門 科 目	選 択 科 目	教職実践演習（中・高）	教育実習は、将来教師になろうとする者が、教育現場における教育の実習を観察し、経験や体験を積むことにより、教育の意義についての体験的認識と理解を深め、教師としてのありかたを学ぶことを目的とする。大学における学問研究の成果（理論と技術）を、教育の実践的体験を通じて主体的に再構成し、教育現場に適用させることを目的として実習に参加する。大学の授業では経験することが困難な教育の実際を生徒とのふれあいの中で理解するとともに、経験豊かな教育実習指導教諭による指導を通じて、実践的指導力の初歩を修得する。またこれらの活動を通して、教職への意欲や情熱を再確認する機会としても位置付ける。	

（注）

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

設置の趣旨等を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

(a) 設置の趣旨及び必要性

東洋大学は、私立哲学館として明治 20 年に創設されて以来、創立者井上円了博士による「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」を建学の精神として、一貫して哲学教育を基軸に据えた教育研究活動を行ってきた。井上円了博士は、東洋の思想や文化の中に、永遠に価値を失わない普遍的な意義があること見出し、それに基づいて思考し、行動できる人間を養成することが、日本と世界のために最も重要なことであると考え、以来、東洋大学では、昭和 24 年に仏教学科（現インド哲学科）及び中国文学哲学科を設置し、「東洋」の学問に対する教育・研究の歴史を積み上げてきた。

しかし、グローバル化とアジア諸国の台頭の時代である現代において、教育研究組織がインド哲学科と中国哲学文学科とに分かれている本学の現状では、それぞれの学科で学問分野が限定されてしまい、東洋の思想と文化を広く教授し、広くアジア全域で活躍できる人材を養成することが困難になっている。

このことから、本学では、現在の第 1 部インド哲学科と第 1 部中国哲学文学科を、第 1 部東洋思想文化学科として発展的に改組するとともに、第 2 部インド哲学科を第 2 部東洋思想文化学科に改組することとした。東洋思想文化学科は、「インド思想」「仏教思想」「中国哲学」「中国文学」「東洋芸術文化」の 5 分野を中心に学問分野を形成し、東洋の思想・文化全般を学ぶ学科とすることで、本学の創立以来の伝統を受け継ぎ、さらに発展させていくこととする。

(b) どのような人材を養成するのか

東洋思想文化学科では、「東洋の思想と文化を広く教授することで、異文化や東洋的価値観、人間存在に対する深い理解を持ち、世界の人々と協調して未来を切り開こうとする姿勢に富む有為な人材の育成」を目的とし、学生に対して、

1. 東洋の思想と文化、並びにそれを理解するのに役立つ語学、宗教学等に関する豊富な知識。
2. 東洋に特有の価値観や思考法への理解。
3. 自らが直面する様々な問題に対して、独自の視点から分析と考察を行い、自分の見解を論理的に表現し、また、それに基づいて実践することのできる能力。

を修得させることを目標とする。

(c) 学生確保の見通しと卒業後の進路

第 1 部東洋思想文化学科の入学定員 100 名の設定については、従来の第 1 部インド哲学科の入学定員が 50 名、第 1 部中国哲学文学科の入学定員が 40 名であり、これに東洋文化等の新しい分野が加わるとともに、それが従来の分野と有機的に結合することによる相乗効果も発生するため、「東洋思想文化学科」の入学定員 100 名は充足が可能である。また、第 2 部東洋思想文化学科の入学定員 30 名についても、従来の第 2 部インド哲学科の入学定員が 30 名であるため、第 1 部と同様の理由から、学生確保は

可能である。

さらにこの改組により、学生が、学科選択時からインド・中国のどちらか一カ国に自分の学問分野を限定するのではなく、入学後の学習により学問分野を選択していくことができるようになり、志願者の拡大や学生の選択肢の拡充という利点が見込まれる。

卒業後の進路については、グローバル化とアジア諸国の台頭の中で、日本人がアジアで活躍する機会はいよいよ増えてきているが、アジア諸国はそれぞれに独自の文化をもった地域であり、現地の人との交流にはその文化の理解を欠かすことができない。本学科では、充実した語学教育が提供され、また「実技講義科目」「実技科目」「海外文化研修」等の特色ある科目によって異文化理解の涵養が図られるため、卒業生は国際感覚に富み、アジア展開を考える企業や旅行業界、アジアに展開するNGOやNPOなどに人材を提供することができる。また、一方で、文献に基づく思想文化そのものの研究も大きな柱となるため、教員、出版業や大学院進学も進路の一つとなる。

イ 学部、学科の特色

東洋思想文化学科は、東洋思想を中心に幅広い教養を持ち、多様な伝統や価値観を持つアジアの各国で現地の人々と一つになって活動できる人材を養成することを目指している。このことから、学科の特色としては、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な昨日と個性・特徴の明確化」でいうところの「幅広い職業人養成」及び「総合的教養教育」の機能を中心的に担っていくこととなる。

他大学において、思想や文化を主たる教授対象とする学科は、欧米を中心とするものが多く、東洋に特化した学科は必ずしも多くはない。しかも、東洋の思想や文化を中心に置く学科の多くは、仏教系、漢学系のいずれかに属し、学問分野が限定されているとともに、古典が偏重される場合が多い。本学科のように、インド、チベット、中国、韓国、日本に及ぶ広大な地域の種々の思想潮流を通時代的に網羅し、しかも、思想と不可分の関係にある芸術文化も大きな柱の一つとするような学科は他には皆無といってよい。

また、広大な地域と領域をカバーするという点は、他にない本学科の特色であるが、一方で、学問としての専門性を維持するため、「インド思想」「仏教思想」「中国語・中国哲学文学」「東洋芸術文化」という4つの履修コースを設ける。各履修コースでは、学生の希望する分野について体系的に勉学ができるようにカリキュラムが組まれているが、他の履修コースの科目も必ず履修するよう設定されており、広い視野と高い専門性の両立こそが、本学科の第一の特色といえる。

さらに、教育目標を実現するために、「講義科目」「語学科目」「演習科目」「卒業論文」「実技講義科目」「実技科目」「海外文化研修」等の様々な形態の科目を設けているのも本学科の大きな特色である。我々とは全く異なる価値観が前提となっている外国の思想や文化を理解するのは必ずしも容易なことではない。本学科では、この問題を解決するには、まず身体で異文化に触れることが大切であると考え、「実技講義」「実技」「海外文化研修」といった体験系の科目を多く設けている。これも他の哲学・思想系の学科にない本学科の大きな特色となっている。

ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

本学科は、日本語の学科名を「東洋思想文化学科」（英語名：Department of Eastern Philosophy and Culture）とし、広く東洋の思想と文化を研究と教授の対象とする。また、社会学的な方法を主流とするのではなく、あくまでも文献資料を基礎とし、その読解を通して思想や文化の開明を目指すことから、文学部に所属し、授与する学位を「学士（文学）」（英語名：Bachelor of Literature）とする。

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

（a）教育課程の編成の考え方

東洋思想文化学科の教育課程は、「共通総合科目」「文学部共通科目」「専門科目」の三種類の科目群によって構成される。本学科は履修コース制を採り、「インド思想」「仏教思想」「中国語・中国哲学文学」「東洋芸術文化」の4履修コースを設けるが、「共通総合科目」「文学部共通科目」については、開講科目、履修方法は共通であり、履修コースによる相違はない。「専門科目」についても、「東洋思想文化への誘いA」などの導入科目、並びに「東洋思想文化演習Ⅰ」「卒論指導」「卒業論文」などは、学士としての基礎的学力を養成する科目として全ての履修コースに共通の必修科目となっている。これに対して、履修コースごとに専門知識を養うために配置されているのが「選択科目」であり、学生のニーズに応えるために、多彩な科目を設けている。

「共通総合科目」は、大学生としての常識を養う最も基礎となる科目群であり、「教養科目」「社会人基礎力科目」「留学支援科目」の3種に区分され、それぞれ多数の科目が開講されている。このうち、「教養科目」は「哲学・思想」「自然・環境・生命」「歴史・文化」「現代・社会」「スポーツ・健康」「情報教育」「総合」の7つの分野に別れ、「留学生支援科目」は、英語圏への留学を目指す学生向けの「英語特別教育科目」と、英語圏から来た留学生向けの「日本語科目」に分かれている。本学科では、「共通総合科目」全体から16単位以上の修得を卒業の要件として課している。

「文学部共通科目」は、文学部の学生として当然知っているべき知識やスキルを身につけさせる科目群であり、「文学部教育」「文学部基礎専門科目」「国際コミュニケーション科目」「諸資格関連科目」「キャリア教育」の5種に区分され、それぞれ多数の科目が開講されているが、「国際コミュニケーション科目」としては、「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「（留学生用）日本語」の5箇国語が開講されている。本学科では、「文学部共通科目」の中から16単位以上の修得を卒業の要件として課しており、そのうち、「国際コミュニケーション科目」として「英語」4単位を含む8単位の修得を義務づけている。

「専門科目」は、東洋思想文化学科の学生が学ぶべき専門的な科目である。先述のごとく、学科に属する全ての学生に共通に求められる能力を養成する科目が「必修科目」、履修コースごとの専門知識を養う科目が「選択科目」となっているが、「選択科目」についても、履修コースごとに科目の重要度に関数付けを行い、主要科目を必ず履修するよう履修指導を行っている。主要科目に指定される科目は履修コースごとに異なるが、履修コース間でその単位数にばらつきがないように配慮している。

本学科の開講科目は、上に述べた「必修科目」「選択科目」の区分とは別に、その授業形態によって「講義科目」「語学科目」「演習科目」「実技講義科目」「実技科目」「海外文化研修」「卒業論文」「卒論指導」等に分けられており、各開講科目をこの2つの区分に沿って第1学年から第4学年まで体系的・有機的に配置する形で本学科の教育課程は編成されている。以下、学年進行に沿って、その概略を述べ

る。

第1学年は、「共通総合科目」と「文学部共通科目」を中心に履修させ、まず、社会人としての常識を身につけさせることに主眼を置く。「専門科目」では、2年次の履修コース選択のために各履修コースで学ぶ基礎的な知識を与える「東洋思想文化への誘いA」や、文章の書き方を具体的に指導する「レポート・論文制作の技法」などの導入授業を「必修科目」として設置するとともに、「宗教学概論A」等のように各履修コースに関わる縦断的な講義科目や、必ずしも専門知識を必要としない「ヨーガ」や「坐禅」等の実技講義科目や実技科目等を「選択科目」として設置することで次年度以降の専門的な学習の基礎を養う。

第2学年以降は「専門科目」の履修が中心となるが、学生は各履修コースに分かれるため、履修コースごとに定められた卒業必要単位数に応じて「必修科目」「選択科目」の各科目を履修することになる。

「必修科目」としては、ゼミナール形式の「東洋思想文化演習Ⅰ（第2学年）」「東洋思想文化演習Ⅱ（第3学年）」が開講される。これらの科目は全履修コースで必修となっており、学生の自発的な学習を促す役割を担っている。

「選択科目」は、その重要度によって大きく2つに分けることができる。第一は、その履修コースに特有の専門知識を養う役割を担う科目群で、「サンスクリット語A」や「中国語ⅣA」等の各履修コースを学ぶに必要な語学や、その履修コースに関連するテーマを扱う「講義科目」である「特講」（具体的には「インド思想特講Ⅰ」「仏教思想特講Ⅱ」など）等である。第二は、学生に幅広い知識を身につけてもらうことを目指す科目群であり、東洋の思想や文化に関する多様な科目が配置されている。その中には、「講義科目」「語学科目」「実技講義科目」「実技科目」「海外文化研修」等の様々な形態の科目が含まれている。これら2種類の「選択科目」群からバランスよく履修科目を選ぶよう指導することで、広い視野と高い専門性の両立という目標の達成を図る。

第4学年では、以上に掲げたような種々の科目を履修した後に、全ての履修コースの学生を対象に、これまでの学習を踏まえて「必修科目」として「卒業論文」と「卒論指導」の履修を義務づける。これによって、具体的な問題に即する形で、資料の調査能力、思考能力、文章の構成力や表現力を養ってもらい、社会で活躍できる有為な人材の育成の総仕上げとする。

(b) 教育課程の編成の特色

本学科の教育課程について、編成上の特色を列挙すれば、以下のとおりである。

1. 東洋の思想と文化の全般にわたる広汎な領域を教育・研究の対象とし、多彩な科目を開講することで学生に広い視野を得させる。
2. 一方で、「インド思想」「仏教思想」「中国語・中国哲学文学」「東洋芸術文化」という4履修コースを設け、それぞれの履修コースごとに「必修科目」と「選択必修科目」を指定することで学生の勉学に方向性を与え、高度に専門的な知識を身につけさせる。
3. 「講義科目」「語学科目」「演習科目」「実技講義科目」「実技科目」「海外文化研修」「卒業論文・卒論指導」といった様々な形態の科目を設けることで学習の効率を高める。
4. 特に「実技講義科目」「実技科目」「海外文化研修」等によって、学生の専門分野への関心を養い、異文化を身体で理解する機会を与えることに配慮する。
5. また、「語学科目」にサンスクリット語やパーリ語等を設け、それに取り組ませることで、異文化理

解やアジア諸国の文化的伝統を尊重する態度を養成する。

6. 卒業論文を「必修科目」とすることで、社会で役立つ情報を処理し独自に再構成し表現する力を養う。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

教員組織の編成においては、学科の「教育研究上の目的を達成するため、教育研究組織の規模並びに授与する学位の種類及び分野に応じ、必要な教員を置く」ことを原則にしている（大学設置基準第7条第1項）。

東洋思想文化学科の教員組織は、従来のインド哲学科から異動する6名と、中国哲学文学科から異動する5名の計11名の専任教員によって構成される。この専任教員数は、大学設置基準第13条の別表1に定める専任教員数（第1部：6名、第2部：2名）を充足するとともに、同別表第2の専任教員数についても、大学全体で充足している。

さらに、「教育研究の実施に当たり、教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在が明確になるよう」（大学設置基準第7条第2項）、第1部と第2部のそれぞれに学科主任を置くとともに、文学部内及び学科内に必要に応じ各種委員会等を整備する。

東洋思想文化学科では、「インド思想」「仏教思想」「中国哲学」「中国文学」「東洋芸術文化」の5分野を研究の中心としており、「インド思想コース」「仏教思想コース」「中国語・中国哲学文学コース」「東洋芸術文化コース」の4履修コースを展開する。そのため、専任教員の構成は、

- ・インド思想（2名）：教授（60代）・准教授（50代）
- ・仏教思想（3名）：教授（60代）・教授（50代）・准教授（40代）
- ・中国哲学（2名）：教授（60代）・教授（50代）
- ・中国文学（3名）：教授（60代）・准教授（60代）・准教授（40代）
- ・東洋芸術文化（1名）：教授（50代）

とバランスよく配置されており、教育上主要な授業科目については、すべて教授または准教授が担当することができる。また、年齢構成を見ると、

60代：5名（45.5%） 50代：4名（36.4%） 40代：2名（18.2%）

と平均年齢が若干高くなっているが、これについては今後、定年退職を迎える専任教員の後任人事において調整を図っていくこととする。

なお、この11名は、9名が第1部に所属し、2名が第2部に所属する形になるが、実際には11名全員が第1部と第2部の教育を担当することになる。また、学科全体として開講科目が非常に多く、かつ専任教員が、第1部と第2部との両方を担当していくこととなるが、文学部内の他7学科との連携や、同一キャンパス内の他5学部との連携を強化することや、隔年開講科目の設置などにより、専任教員の負担軽減や研究時間の確保についても配慮している。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(a) 教育方法

東洋思想文化学科では、教育効果を考えて様々な形態の科目を設置している。そのため、科目の形態によって教育方法は様々である。以下にその概要を記載する。

1. 「講義科目」：講義形式で専門知識の教授を行う。
2. 「語学科目」：ある言語について学生に文法や語彙、読解能力、会話能力を獲得させることを目指す。
3. 「演習科目」：学生に実際に調査、発表させることで、情報収集力、思考力、表現力等を養わせる。
4. 「実技講義科目」：ある技芸について実習を行うとともに、その背後にある思想について講義を行うことで、異文化に対する関心や理解を深める。
5. 「実技科目」：ある技芸を実習形式で身につけさせることで異文化理解を深める。
6. 「海外文化研修」：実際に東洋の諸国を訪れ、その国の風俗や文化、伝統に触れることで異文化への理解を深める。
7. 「卒業論文」「卒論指導」：論文を制作することで、情報収集力、思考力、表現力を高める。

これらの科目の受講生の上限については、概ね、「講義科目」では 80 人、その他の形態の科目では 30 人を上限とし、教育効果に支障のない適正規模の授業を展開する。

(b) 履修指導方法

本学科は非常に多様かつ多数の開講科目を擁している。そのため、学生への履修指導の徹底が必要であり、可能な限り多くの機会を設けて履修指導を行う。

まず、全学的に従来から行ってきた新入生教育時における履修ガイダンス、キャリアガイダンス、資格ガイダンスを本学科も実施し、大学における学習が高校までといかに違うかを十分に理解させた上で、大学での学習と将来設計とを結びつけて間違いのないように履修するよう指導を行う。

この際には、別紙資料に示すような各履修コースごとの履修モデルを提示するなどの工夫をすることで、自分が卒業するまでにどのような科目を履修し、いかなる能力を身につけていくかを、学生が具体的に頭に思い浮かべられるよう配慮する（資料 1 履修モデル）。

さらに、第 1 学年の秋学期には、次年度以降の履修コース選択とゼミナール（演習）選択で失敗しないように、全学生を対象に説明会を開催し、また、事前にゼミナール（演習）見学の機会も設ける。

また、これら行事としての履修指導とは別に、各教員にオフィス・アワーを設けるとともに、東洋思想文化学科の共同研究室に常に T A を配置することで、学生の履修相談にいつでも答えられる体制を整える（資料 2 各専任教員の主要担当科目のシラバス）。

なお、履修単位数については、1 単位あたりの学修時間の確保と、学生が 4 年間に渡ってバランスよく学修していくことを目的として、各学期の履修の上限を「24 単位」と定めている。

(c) 卒業要件

「東洋思想文化学科」の卒業要件としては、大学設置基準に従い、以下の単位数の修得を義務づける。

共通総合科目	16 単位以上
文学部共通科目	16 単位以上（国際コミュニケーション科目 4 単位を含む）

専門科目	74 単位以上（必修科目 18 単位を含む）
総計	124 単位以上

キ 施設、設備等の整備計画

(a) 校地、運動場の整備計画

東洋思想文化学科が設置される白山キャンパスは、東京都文京区白山にある校地面積 34,892.43 m²の都市型キャンパスである。面積は決して広いとはいえないが、キャンパスのメインエントランスであり、中央に泉が流れ沿道が樹木に彩られた「雨水の森」や、解放感のある憩いの空間である「キャンパスプラザ」、4 号館のアリーナや多目的スペース、3 号館の地下食堂に加えて、6 号館の 1,300 席のフードコートなど、学生の休息その他の利用のための空間も用意されている。

また、平成 23 年 4 月からは、白山キャンパスから約 20 分で移動が可能な板橋区清水町に「東洋大学総合スポーツセンター」が完成した。7,416.00 m²の人工芝のグラウンドに加え、アリーナや 50m プール、トレーニング室を用意しており、体育実技及び部活動等に利用している。

(b) 校舎等施設の整備計画

白山キャンパスの校舎については、本学の教育・研究の進展とともに、1 号館～7 号館を順次整備を進めてきた。現在は、文学部、経済学部、経営学部、法学部、社会学部の 5 学部と、国際地域学部の一部の教育・研究を行っている。これらの教育・研究に必要な講義室、演習室、PC 教室、教員研究室、講師控室等はすでに整備されており、今回の改組に伴い、第 1 部の入学定員が 10 名増加することになるが、新たな施設・設備等の教育環境の設備を要しない。

また、東洋思想文化学科の開講科目の中には、講義科目の他に、「書道」や「写経」、「ヨーガ」や「インド舞踊」「座禅」等の実技を行う科目が設置されているが、従前の書道教室やアリーナ等を使用するため、施設・設備等が不足するということはない（資料 3 授業時間割）。

なお、平成 24 年度内には、学部教室、大学院教室、研究室等を備えた創立 125 周年記念棟（仮称）も新たに整備されるため、東洋思想文化学科を含む 6 学部の教育課程を展開するに十分であるといえる。

(c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

東洋思想文化学科の教育研究分野は非常に広範であり、哲学、歴史、社会科学、自然科学、芸術、語学、文学の多岐に渡っているうえ、本学の他学部他学科の教育研究分野と密接に関わっている。そのため、厳密な意味で東洋思想文化学科のみで使用する図書の冊数は少なくなるが、これまで、文学部を含めた文系 6 学部の教育研究のために整備してきた蔵書数は、白山キャンパスのみで 80 万冊を超えており、また、大学全体で 130 万冊を有する蔵書を、各キャンパス間を毎日巡回しているシャトル便によって、希望した翌日に簡単に取り寄せることが可能な体制を整備している。

さらに国立情報学研究所（NII）がサービスしている NACSIS-CAT を通じ、NACSIS Webcat により総合目録データベースの情報検索が可能であり、全国の図書館の所蔵物を調べ、取り寄せることができる。また、世界中の図書館の蔵書目録を横断的に検索することができ、さらに他大学図書館との相互貸借のサービスも行っている。

オンライン形式のデータベース整備も進んでおり、これらのデータベースは図書館内はもちろん、各

教員の研究室、PC実習室からも利用することができる。

以上、白山キャンパスの施設・設備の現状と、東洋思想文化学科を設置するにあたっての整備計画は、大学設置基準第34～38条を十分に満たすものである。

ク 入学者選抜の概要

本学に入学することのできる者は、高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者若しくは通常の課程による十二年の学校教育を修了した者、又は文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた者とする。(学校教育法第56条) また、入学者の選抜では、公正かつ妥当な方法により、適当な体制を整えて行うものとする。(大学設置基準第2条の2)

東洋思想文化学科では、異文化や東洋的価値観、人間存在に対する深い理解を持ち、世界の人々と協調して未来を切り開こうとする姿勢に富む有為な人材の育成を目指している。従って、本学科に入学する学生として次のような人材を求めている。

1. 本学科の教育課程を履修かつ修得することができるだけの基礎的学力を有する人。
2. 外国語の学習や国際交流に意欲を持つ人。
3. 東洋の思想や文化に対して強い関心を持つ人。

このような人材を集めるために、本学科では、

1. 本学独自の入学試験
2. 大学センター試験を利用した入学試験
3. 自己推薦
4. 学校推薦
5. 指定校推薦
6. 附属高校推薦

などによる多様な選抜を行い、受験生の適性や意欲を見極め、本学科にふさわしい人材の確保を目指す予定である。

なお、学力試験による選抜と推薦入試による選抜の割合については、概ね前者を7割、後者を3割とするのが適正と考えている。

また、社会人特別選抜入学試験や社会人編入・転入学試験、編入・転入学試験、海外帰国生入学試験、外国人学生入学試験も行うが、いずれもその受入数は若干名とし、高校卒業者の入学試験に影響が及ばない範囲で実施する予定である。

正規の学生以外に、科目等履修生、聴講生等も受け入れるが、この場合も正規の学生の教育に影響を与えないよう、受入数は若干名とし、面接を行うなどしてその目的、意欲をよく確かめた上で受講を認める予定である。

ケ 企業実習や海外語学研修など学外実習を実施する場合は、その具体的計画

東洋思想文化学科では、学外実習として、すでに全学で実施している「海外語学研修」の外に、本学科の正規の科目として「実技講義科目」の「日本の宗教を歩く」、「海外文化研修」の「海外文化研修Ⅰ」「海外文化研修Ⅱ」の開講を予定している。

「海外語学研修」は、休暇期間に英語圏と中国語圏に滞在し、提携先の大学で英語、あるいは中国語を学ぶもので、本学科でも語学の単位として認定する予定である。

これに対して「海外文化研修Ⅰ」「海外文化研修Ⅱ」は、同じく休暇期間中に行うものであるが、アジア各国の風俗、文化、伝統に直接触れることを目的とする研修であり、当該地域を研究対象とする教員が学生を引率して現地を訪れ、文化遺産や宗教儀礼を見学したり、社会状況を調査することを目的としている。また、当地の大学を訪問して教員や学生と交流を持ち、学生に海外の大学の状況を理解させることで、将来の留学への足がかりともなることを期待している。一方、「日本の宗教を歩く」は、週末を利用して関東一円に点在する文化財を訪れ、関東の歴史や風土、日本の風俗や伝統文化、それに対して仏教や儒教が及ぼした影響等について理解を深めることを目的としている。これらの科目では、事前に十分な時間を取って講義を行い、理解を深めた後に現地を訪れ、また、終了後には、長文のレポートを課して、その教育効果を計り、その体験を学業に十分に生かしたと認められる場合に限り単位を認める予定である。

ケ 管理運営

文学部に、文学部の関係事項を審議するために文学部教授会を設置する。文学部教授会は、文学部の専任の教授、准教授、講師を構成員とし、原則月1回の定例教授会の他、必要に応じ臨時教授会を開催する。

学部長は、教授会を招集しその議長となる。教授会を開催するには構成員の3分の2以上の出席が必要であり、また決議は、教員人事を除き出席構成員の過半数の同意によって成立する。

教授会の主な議題は、学部長や学科主任、名誉教授の推薦に関する事項、学部所属の専任教員(教授、准教授、講師)の選考並びに進退に関する事項、各種委員会の設置に関する事その他、学生の入学、退学、転学、休学、及び卒業に関する事項、学生の試験に関する事項、学則・規程等の制定・改廃に関する事項などとする。

コ 自己点検・評価

本学では、学校教育法第109条に対応して、東洋大学学則第3条に「本学は、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする」と定めている。

平成7年度に「東洋大学自己点検・評価基本構想委員会」のもと、全学的な自己点検・評価活動を実施し、その結果をもって大学基準協会の第1回の相互評価を受審して、認定評価を受けることができた。その後、同委員会を「東洋大学自己点検・評価委員会」に改編するとともに、各学部・研究科にも自己点検・評価委員会を設置することで、全学的な自己点検・評価のみではなく、各学部・研究科のレベルにおいても自己点検・評価活動が定着している。

平成 19 年度には、大学基準協会による認証評価を受審した。受審に際しては、「大学評価統括本部」を設置して全学的な自己点検・評価を推し進め、平成 20 年 3 月には「大学基準に適合していると認定する」との評価を受けた。なお、この際に指摘された助言 12 項目と、受審の際に完成年度を迎えていなかった学部・研究科の状況については、平成 22 年度から平成 23 年度にかけて改善状況・完成状況の自己点検・評価を行い、「改善報告書」「完成報告書」として平成 23 年 7 月に大学基準協会に提出した。これらの自己点検・評価の結果等については、学外に向けて公表されている。

さらに平成 23 年度からは、従来の「東洋大学自己点検・評価委員会」を発展的に解消し、新たに「東洋大学自己点検・評価活動推進委員会」を設置した。同委員会は、副学長を委員長として、各学部・各研究科の自己点検・評価に係る委員会の委員長、教務部長、学生部長により構成され、本学全体及び各部署の自己点検・評価活動を支援するための方策、指針の決定や、本学各部署の自己点検・評価活動の検証を行うこととしている。

この体制のもとで、平成 23 年度からは、「学科・専攻等における自己点検・評価の実施ガイドライン」を定め、全学科全専攻において、毎年度、統一フォーマットによる自己点検・評価を行っていることとした。評価項目については、大学基準協会の新評価システムに対応したものとし、各学科・各専攻が実施した自己点検・評価結果については、同委員会において結果の集約・検証を行った上で、学長に報告を行っている。また、各学科・各専攻の自己点検・評価結果において、目標への達成度が低かった項目については、自己点検・評価の実施後に、改善方策と改善時期の提出を各学科・専攻に求め、そのことを通じて内部質保証システムの構築を図っている。

上記のことから、本学では、学校教育法第 109 条に則して、本学の教育研究水準の向上に資するために、自己点検・評価に取り組んでいるといえる。

サ 情報の公表

本学では、平成 23 年 4 月に改正された学校教育法第 113 条及び学校教育法性向規則第 172 条の 2 に対応して、東洋大学学則第 2 条の 2 に「本学は、学校教育法施行規則第 172 条の 2 に定める教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする」、また、同第 2 項に「前項に規定するもののほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するよう努めるものとする」と定め、教育研究活動等の状況についての情報の公表に取り組んでいる。

学校教育法施行規則第 172 条の 2 に定める教育研究活動等の状況に関する情報については、大学ホームページの「トップ>大学紹介>情報公開>教育情報公開」のページを中心に、すべて公表している。公表している情報は以下のとおりである。

(http://www.toyo.ac.jp/data/educationinfo_j.html)

- ①大学の教育研究上の目的に関すること
 - ・各学部学科、各研究科専攻の教育目的・教育目標
- ②教育研究上の基本組織に関すること
 - ・組織図 (http://www.toyo.ac.jp/oc/oc00_j.html)
- ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
 - ・教員数（職名・性別別、年齢別）

- ・役職一覧（教員）
- ・東洋大学研究者情報データベース
- ・教員一人当たりの学生数
- ・専任教員と非常勤教員の比率
- ④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
 - ・アドミッション・ポリシー
(各学科のページ、例 http://www.toyo.ac.jp/lit/policy_j.html)
 - ・入学者数（学部・学科別（1部／2部）、大学院、通信・附属高校）
 - ・定員数（学部・学科別（1部／2部）、大学院、通信・附属高校）
 - ・学生数（学部・学科別（1部／2部）、大学院研究科・専攻別、通信・附属高校・キャンパス別）
 - ・収容定員充足率 学部・学科別（1部／2部）
 - ・卒業者数・修了者数（学部（1部／2部）、大学院、法科大学院、通信）
 - ・就職データ・就職状況
- ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
 - ・カリキュラム・シラバス紹介
- ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
 - ・各学部・研究科・専門職大学院の履修要覧（抜粋）
- ⑦校地・校舎等の施設及び設備その他学生の教育研究環境に関すること
 - ・各キャンパスの校地・校舎等 学生の教育研究環境
- ⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
 - ・納付金（学費等）
- ⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
 - ・学生生活、キャリア形成支援
 - ・留学生支援
 - ・障がい学生支援

また本学では、教育活動の情報提供について、ステークホルダーにより方法、媒体に工夫を加えており、特に、父母等に対しては、上記の公表のみではなく、年5回発行される上記の「東洋大学報」を毎号発送したり、全国にある父母会（東洋大学甫水会）の支部総会において、学長、学部長、学科主任等が教育活動を中心に大学の活動を報告するなど、積極的に情報の提供を行っている。

シ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

本学では、大学設置基準第25条の3に対応して、東洋大学学則第3条の3に「本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」と定め、教育活動の継続的な改善の推進と支援を目的とした「東洋大学FD推進センター」「FD推進委員会」を設置している。「東洋大学FD推進センター」では、以下の6点を中心に事業を行っている。

- ①教育内容・方法改善のための調査、研究及び支援

- ② F D の研究会、研修会及び講演会等の企画・実施・支援
- ③ F D の啓発活動及び情報収集・提供
- ④ 教育活動改善のための教育環境の整備の検討
- ⑤ 各学部、研究科での F D 活動の情報交換及び調整・支援
- ⑥ F D 推進センターの P D C A サイクルの確立

また、F D 推進委員会では委員会全体での活動の他に、5 つの部会（研修部会、大学院部会、授業改善対策部会、編集部会、授業評価手法検討部会）を設け、部会単位でも活動を行っている。各部会の活動概要は以下のとおりである。

1) 研修部会

- ① 新任教員の研修会の立案、実施
- ② 一般教員の研修会の立案、実施
- ③ T A 研修会の立案、実施
- ④ F D 関連研修会、講演会の立案、実施

2) 大学院部会

- ① 大学院の F D の概念構築
- ② F D の実施内容の検討及び実施計画の立案
- ③ 大学院各研究科の F D 活動状況報告会の立案、実施

3) 授業改善対策部会

- ① 授業改善のための情報や機会の提供
- ② 各学部の F D 活動状況報告会の立案、実施
- ③ 授業改善事例シンポジウムの立案、実施と教員優秀教員の評価法の検討、確立
- ④ 成績評価及び教育業績評価の検討

4) 授業評価手法検討部会

- ① 全学的な授業アンケートの構築と運用
- ② 授業アンケートのフィードバックシステムの構築

5) 編集部会

- ① 事業計画書及び事業報告書の編集
- ② 出版物の企画・編集
- ③ F D 関連研修会等の報告書のデータベース化

これらの「東洋大学 F D 推進センター」、「F D 推進委員会」及び各部会での活動に加えて、各学部・研究科での F D 活動がある。各学部・研究科は学部内に F D 委員会を設けたり、また自己点検・評価委員会と連携したりしながら F D 活動を進めており、全学で年に 1 回、「F D 活動状況報告会」を開催して、各学部の状況の共有化も進めている。

上記のことから、本学では、大学設置基準第 25 条の 3 に則して、「当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」を実施しているといえる。

ス 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

社会的・職業的自立に関する指導等の教育課程内での取組については、全学的に1年次から受講できる「社会人基礎力」を高めるための科目群を各学科の教育課程の中に配置することで、将来的に職場や地域社会で活躍するために必要となる基礎的能力の養成を重視したカリキュラム編成を実現している。

その中でも「キャリアデベロップメント論」「社会人基礎力入門講義」等の科目では、社会が求める人材について考え、求められる素養、働く上で必要とされる能力等を指導することで、学部の専門教育を活かしつつ、大学設置基準第42条の2「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」の修得機会を、入学直後から担保しているといえる。

また、教育課程外でのキャリア及び就職支援を担当する、職員を中心とした組織である「キャリア形成支援センター」を、平成24年度より「就職・キャリア支援部」に改称し、併せて、教育課程内外のキャリア教育を担当するための、教員を中心とした組織である「キャリア形成支援委員会」を発展的に解消して、新たに、キャリア教育及び就職支援の充実と推進を図るとともに、本学が目指す国際化に対応した社会人基礎力を備えた人材を養成することを目的とした「グローバル・キャリア教育センター」を設置した。同センターは副学長をセンター長とし、副センター長にキャリア教育を専門とする教員を配置し、同センターの事業であるキャリア教育及び就職支援等に関する事項について協議するために、各学部から選出された教員各1名、教務部長、国際センター所長、全学カリキュラム委員長の他、関連事務局の部長を構成員とした「グローバル・キャリア教育センター運営委員会」を設置したことにより、教職員が相互に連携し、一体となって教育課程内外でのキャリア教育及び就職支援等をサポートする体制がより一層整備された。

「グローバル・キャリア教育センター」では教育課程内外における全学的なキャリア教育の立案・実行及び就職支援に関する事項の他、国内・海外インターンシップ等の企画・実行に関する事項等を強力に推進することで、産業界や各種団体等の社会との連携・協力を図る。「就職・キャリア支援部」では、入学直後から、卒業後の進路選択を見据えた支援プログラムを数多く用意している。また、3年次には業界・企業研究セミナーや各種ガイダンス、就職活動対策講座等を運営、4年次には最終的に進路が決定するまで就職活動を支援するためのバックアップセミナー等を実践していく。特に、個別相談体制の強化を図り、学生一人ひとりの状況に添った支援を実施している。

なお、文部科学省の平成21年度「平成21年度大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）」に採択された「人的資源を活用したリアルな就職活動支援」における「学内OB・OG訪問」や、4年生内定者がアドバイザーとなり、後輩を指導する等については、今後も引き続き実践していく。

以 上